



ARTURA

オーナーズハンドブック

アシスタンス

代理店ネットワーク

ズームインおよびズームアウトには、マクラーレン正規代理店 ネットワークは定期的に拡充されており、連絡先を含む全店一覧は次の URL にてご確認いただけます。

<https://retailers.mclaren.com>

緊急時には、お客様の地域の緊急通報用電話番号までご連絡ください。

緊急でないサポートは、最寄りのマクラーレン正規代理店。

マクラーレン顧客サービス部門の連絡先詳細は以下をご覧ください。

<https://cars.mclaren.com/contact-us>



目次

- 1.01 運転の前に
- 2.01 運転操作装置
- 3.01 インstrument
- 4.01 センターディスプレイ
- 5.01 快適機能と便利機能
- 6.01 メンテナンス
- 7.01 車両データおよび用語集
- 8.01 適合性に関する情報

はじめに

はじめに

運転する前に本書をよく読み、マクラーレンとその機能についてご理解ください。本書には、お客様にマクラーレンが提供する利点や喜びを最大限にお届けするために必要な情報が記載されています。

本書では、マクラーレン車両でご利用いただけるすべてのオプションおよび機能について説明しています。一部の記述（ディスプレイおよびメニュー機能に関する説明を含む）は、モデル、国別仕様、オプション装備またはマクラーレン認定アクセサリーの有無によって、お客様の車両には該当しない場合があります。

i 注意: 本書に掲載されている画像は、お客様の車両の状態とは完全には一致しない場合があります。

お客様のマクラーレンに付属されている書類は、車両の一部を構成するうえで不可欠なものであります。車両を売却される場合には、必ず付属書類も同時に引き渡してください。

本書の内容は、必要な情報をすぐに見つけられるよう、章に分かれています。

運転の前に

運転席に着いた後に運転の準備を整え、すべての操作装置への安全かつ容易なアクセスを確保するために行う必要がある設定を詳しく説明します。

運転操作装置

この章は、お客様のマクラーレンの装備と運転操作装置、および運転中にそれらの操作装置を最も効果的に使用するための方法を詳しく説明します。

インストルメント

この章では、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）の機能の操作方法を含め、ドライバーディスプレイについて説明します。

センターディスプレイ

この章は、車両の各種設定の表示、変更手順を含め、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）について説明します。

快適機能と便利機能

快適な運転環境を得るためのシステムや機能について説明します。

メンテナンス

ここでは、お客様のマクラーレンのメンテナンスについて説明します。冬季にマクラーレンを運転する際のアドバイスや、海外で運転する際に不具合が発生した場合の対応策、その結果生じる可能性がある問題への対応方法についても説明します。ヒューズやランプに関する情報、およびパンク時の対処方法もこのセクションで説明します。

車両データおよび用語集

お客様のマクラーレンの様々なシステムに必要なフルードの仕様やその分量については、この章を参照してください。また、お客様のマクラーレンや車両の性能に関する具体的なデータが必要な場合もこの章を参照してください。

技術用語集では、マクラーレンに搭載されているいくつかのより複雑なシステムについても簡単に説明しています。より詳しい情報を求めの場合は、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

索引

目次と索引は、必要な情報を素早く見つけるために役立ちます。

はじめに

本書についての情報

McLarenは最新の技術を採用し、つねに先を行く技術を搭載するため車両仕様を更新し続けています。したがって、McLarenは隨時設計、装備および技術的機能を変更する権利を留保します。

© McLaren Automotive Limited.

McLaren Automotive Limited の書面による許可なく本書の一部または全部を複製、翻訳もしくは再版することを禁じます。

お客様のマクラーレンに搭載されている装備は、車両や市場仕様により本書の画像とは異なる場合があります。

当社のアプリケーションに含まれるすべての情報、図および仕様は、利用可能なデータに基づいており、発行の時点では正確です。地域の制限や規制により、ご利用いただけるオプションは市場によって異なる場合があります。このアプリケーション内の図は、必ずしもお客様の地域の市場でご利用いただける仕様またはオプションを反映しているとは限らず、オプション装備を示している場合があります。

これらのアプリケーションに記載されている仕様は、情報目的専用であり、マクラーレンオートモーティブは、事前の通知なしで、または義務を負うことなく、いつでも製品の仕様を変更する権利を留保しています。仕様の詳細情報および標準装備とオプション装備に関する情報については、担当のマクラーレン代理店までお問い合わせください。

本書に記載されている情報は、発行時点での最新情報です。今後の車両仕様の変更により、更新情報がリリースされる可能性があります。お客様の車両の最新情報は、以下の Web サイトでも参照できます。

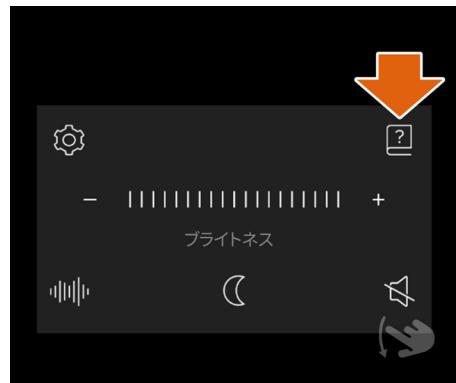
cars.mclaren.com/en/ownership/service-and-maintenance/owners-handbook

本車両は、特許により保護されています。
cars.mclaren.com/patents を参照してください。

Printed in United Kingdom, 16QB239CP.

電子ユーザーマニュアル

お使いの車両に電子ユーザーマニュアルが装備されている場合、オーナーズハンドブックはセンターインフォテイメントタッチスクリーンでご覧になります。電子ユーザーマニュアルの内容は印刷版と同じですが、新しいバージョンが利用可能になった場合は更新できます。



マニュアルにアクセスするには、マクラーレン インフォテイメントシステム (MIS) 画面上部のステータスバーを下にスワイプし、オーナーズハンドブックのアイコンをタッチします。

はじめに

 注意: この機能は、車両が動いているときには利用できません。運転者の注意が散漫にならないよう、電子ユーザーマニュアルは車両が停車しているときのみ利用できます。

 「ホーム」アイコンは、各ページの上部と下部に表示されます。「ホーム」ボタンを選択すると、メイン目次ページに戻ります。

 必要に応じて、これらのアイコンを使用して前または次のトピックに移動できます。

「Related Topics (関連トピック)」を選択すると、現在のセクション内のその他の情報にすばやくアクセスできます。

 このアイコンは、ウェブブラウザの戻るボタンと同様に、前のビューに戻るのに使用できます。

電子ユーザーマニュアルは、App Store または Google Play から入手できるモバイルアプリケーションでも表示できます。

記号

本書では以下の記号を使用しています。これらの記号は、記載されている情報の種類が一目で分かる、視覚的なメッセージを提供します。

警告	
	怪我や死亡事故につながるおそれのある行為への注意事項を示します。
メモ	
	車両を損傷する可能性のある行為への注意事項を示します。また、お客様にとって役立つ情報や特定事項に関する追加情報を提供します。
環境保護上の注意	
	お客様およびお客様の車両が環境に及ぼす影響を最小限にするためのヒントを説明します。

運転上の安全

 警告: お客様のマクラーレンに搭載されている電子システムは相互に作用しています。これらのシステムをみだりに改造すると、相互接続されている他のシステムの故障の原因となるおそれがあります。これらの不具合は、McLaren の運転安全上およびお客様自身の安全に重大な危険を生じるおそれがあります。
車両に間違った方法で装備を追加もしくは修正した場合も、運転安全に悪影響が生じる可能性があります。

車両の使用

車両を使用する際は以下の事項を遵守してください。

- 本書に記載されている安全上の注意のすべて
- 道路交通法および規則

 警告: お客様のマクラーレンには、様々な警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルはお客様と乗員に、様々な危険を知らせるためのものです。車両の警告ラベルは決して剥がさないでください。警告ラベルを剥がすと、お客様や乗員が危険に気付くことができず、怪我などを負うおそれがあります。

はじめに

最低地上高

 **警告: 急な上り坂または下り坂への進入の際、車両の下側を損傷する可能性があります。**

以下の場合には注意して運転してください。

- 縁石への進入
- 急な上り坂への進入
- 急な下り坂から平坦な道への進入
- 悪路での走行
- 交通静穏化策が実施されているエリアでの走行
- その他、駐車場など、路面の高さの急激な変化や上昇が起こる環境での走行

「車体寸法」(7.06 ページ)を参照してください。

サーキット走行

車両の性能と信頼性を最大限に発揮するために、サーキットでの走行の前に、以下の前提条件を満たしていることが重要です。

- エンジンオイルが標準動作温度である
- エンジンオイルレベルが適正である。「エンジンオイルの点検」(6.04 ページ)を参照してください
- エンジンクーラントが標準動作温度である
- タイヤが安全な動作温度を超えていない

 **注意: サーキット走行を行う場合は、事前にマクラーレン代理店にご相談ください。McLaren はサーキット走行の前後に車両を点検に出すよう推奨しています。**

 **注意: ご自分で完全にコントロールできる範囲内で、また車両性能の限度を超えない範囲で走行してください。**

 **注意: サーキットおよび競技での使用上の注意については、サービスおよび保証ガイドを参照してください。**

クールダウン

サーキット走行時は、ブレーキやトランスマッシュョンが高温になりパフォーマンスに影響が出る可能性があるので、マクラーレンではクールダウンする時間を取ります。急ブレーキや必要以上のギアチェンジをせずに比較的低速で走行すると、空気の流れで車両を冷却できます。

マクラーレンでは、サーキットを出る前に車両を標準動作温度に下げる時間を取ることを推奨します。

 **注意: パフォーマンス走行の直後に停車する場合、マクラーレンでは、すぐにはイグニッションスイッチをオフにせずにパーキングブレーキをかけることを推奨します。マクラーレンでは、エンジンをアイドリングさせてからイグニッションスイッチをオフにすることを推奨します。**

保存データ

お客様の車両にはデータを収集し、一時的または永続的に保存する多くのコンポーネントがあります。この技術データには、車両の状態、発生したすべての事象、お客様の車両に発生している可能性がある、または過去に発生した誤動作などに関する情報があります。

これらには、例えば次のものがあります。

- システムコンポーネントの作動状況 (フルードレベルなど)
- 車両および個々のコンポーネントのステータスマッセージ (「ガラスウォッシャー液が少なくなっています」など)
- 重要なシステムコンポーネントの誤動作および欠陥 (「ライトスイッチの故障」など)
- 特殊な運転状況での車両反応および作動状況 (エアバックの展開など)
- 環境条件 (外気温など)

このデータは、もっぱら技術的な性質のものであり、次の目的に使用できます。

- 不具合や欠陥の認識および修正の支援
- 車両機能の分析 (事故後など)
- 車両機能の最適化

データは車両の動きを追跡するために使用することができません。

はじめに

お客様の車両が点検を受ける際には、次の技術情報を車両から読み取ることができます。

- 修理サービス履歴
- 保証事象
- 品質保証

この情報は特殊な診断テスターを使用して、サービスネットワーク（メーカーを含む）の従業員によって読み取ることができます。必要に応じて、より詳細な情報を得ることができます。

不具合が修正された後、この情報は不具合メモリーから削除されるか、または連続的に上書きされます。

車両を運転する場合、他の情報に関する技術データを他者が追跡する状況が発生する可能性があります。

例えば、次のものがあります。

- 事故報告書
- 車両の損傷
- 目撃証言

マクラーレンは、衝突事故の際のお客様の行動に関する情報にはアクセスしません。あるいは、次の場合を除いて他者との情報を共有しません。

- お客様の同意、またはリース車両の借主の同意を得た場合

- 警察また類似する官庁の正式な要求に応じる場合
- 法的手続に備えてメーカーの防衛の一環とする場合
- 法律の定めるところによる場合

さらに、マクラーレンは収集または取得した診断データを次の場合に使用することがあります。

- マクラーレンの研究に必要な場合
- 研究で必要な場合に使用できるよう適切な機密性を維持し、必要性が示されている場合
- 研究のため、特定の車両への関連付けがない要約データを他の組織と共有する場合

運転の前に

開閉.....	1.02	運転位置.....	1.27
一般.....	1.02	概要.....	1.27
ドアの開放.....	1.04		
ドアを閉じる.....	1.04		
ドアをロックする.....	1.05	乗員の安全.....	1.29
ミスロック.....	1.06	シートベルト.....	1.29
個人用設定.....	1.06	補助拘束装置 (SRS)	1.31
車内からロック/ロック解除する.....	1.06	チャイルドパッセンジャー.....	1.34
車内からドアを開ける.....	1.07		
ラゲッジルーム.....	1.07	ミラー.....	1.36
サービスカバー - Coupe.....	1.09	安全性.....	1.36
自動ロック.....	1.10	インテリアミラー.....	1.36
リトラクタブル・ルーフ - Spider.....	1.10	外部ミラー.....	1.36
バックライト - Spider.....	1.15		
トノーカバー - Spider.....	1.16	照明.....	1.38
盗難防止システム.....	1.18	外部照明.....	1.38
アラームシステム.....	1.18	ランプスイッチ.....	1.39
イモビライザー.....	1.18	ハイビームヘッドライト.....	1.40
けん引防止.....	1.19	ヘッドライト.....	1.41
インテリアモーションセンサー.....	1.19	デイタイムランニングランプ.....	1.42
パニックアラーム.....	1.20	リアフォグランプ.....	1.42
シート.....	1.21	方向指示器.....	1.43
安全性.....	1.21	ハザード警告灯.....	1.43
マニュアルシート.....	1.21	パーキングランプ.....	1.44
電動シート.....	1.22		
ステアリングホイールとステアリングコラム.....	1.25	ウォッシャーとワイパー.....	1.45
ステアリングコラムの調整.....	1.25	フロントウインドウワイパー.....	1.45
ホーン.....	1.26		
		ノーズリフト.....	1.47
		ノーズリフト.....	1.47

運転の前に 開閉

一般

キーレスエントリー機能を使用するリモコンキーの適切なボタンを押すことで、車両をロックおよびロック解除することができます。

キーレスエントリー機能は、リモコンキーがドアから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) 以内にある必要があります。

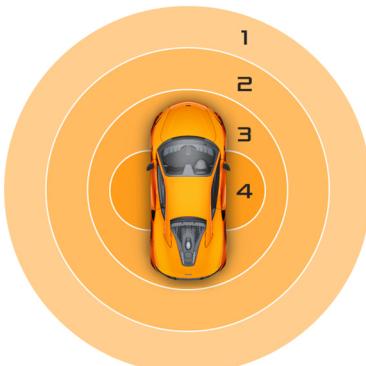
エンジンが停止している場合、電気的な状態に関わらず車両をロックすることができます。「車両の電気的な状態」(2.04 ページ)を参照してください。

キーレスエントリー

キーレス・エントリーを使用すると、車両に近づくだけで車両のロックを解除し、アラーム・システムを解除できます。使用者がリモコンキーを身に着ける、あるいはバッグなど非金属製のものに入れて携帯していれば、ほかに必要なものはありません。キーを外に出す必要も操作する必要もありません。リモコン・キーがドアから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) 以内にある場合、車両のロックは解除され、アラーム・システムも解除されます。

リモコン・キーがロック解除ゾーンで検出され、フラップが押されると、給油口と HV 充電ポート・フラップもロック解除されます。「燃料の給油」(2.59 ページ) および「高電圧 (HV) バッテリーの充電」(6.20 ページ) を参照してください。

セキュリティ設定でキーレスエントリーとキーレスエグジットを有効にする必要があります。「セキュリティ」(4.12 ページ)を参照してください。



センサーは、以下のゾーンで車両のリモコンキーの位置を検出します。

- 離れた場所からのリモコンキーによるロックおよびロック解除範囲。

以下の範囲内であればどこからでもリモコンキーのボタンを使用して、車両をロックおよびロック解除できます。「リモコンキーエントリー」(1.02 ページ) および「ドアをロックする」(1.05 ページ) を参照してください。

- 10 m (32 フィート 10 インチ) - キー検出可能ゾーン。

キーレス・エントリー機能を使用して車両に近づくと、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) とドライバーディスプレイが起動します。

- 5 m (16 フィート 5 インチ) - キーレスロックゾーン。

キーレス・エグジット機能を使用して車両から離れると、自動的にドアがロックし、アラームが設定され、方向指示器が点滅します。「ドアをロックする」(1.05 ページ) を参照してください。

- 1.2 m (3 フィート 11 インチ) - キーレスドアロック解除ゾーン。

キーレス・エントリー機能を使用してこれらのゾーンに入ってドア・ハンドルを押すと、ドアが自動的にロック解除され、アラーム・システムが解除され、方向指示器が点滅します。ドアを開けることができます。「ドアの開放」(1.04 ページ) を参照してください。

リモコンキーエントリー

お客様の McLaren には 2 つのリモコンキーが付属しています。これらのリモコンキーを使って、離れた場所から車両をロックおよびロック解除することができます。

運転の前に 開閉

i 注意: 盗難防止のため、リモコンキーの操作は車両のすぐ近くで行ってください。

リモコンキーを使って、ロックおよびロック解除できるものは以下の通りです。

- ドア
- ラゲッジルーム
- フューエルフィラーカバー
- HV充電ポートカバー



リモコンキーを使用して車両のロックを解除するには、ロック解除ボタンを押します。フロント、リアおよびサイドの方向指示器（市場により異なります）が2回点滅し、盗難防止アラームシステムが解除されます。

車両設定で「運転席側」と「両側」のどちらが選択されているかで、「ロック解除」ボタンの作動が変わります。「セキュリティ」(4.12ページ)を参照してください。

「両側」を選択した場合、ボタンを1回押すと両側のロックが解除されます。

「運転席側」を選択した場合、ボタンを1回押すと運転席側のロックが解除されます。

! **警告:** リモコンキーは車両を始動可能にする他、車両のその他の機能を有効にする場合にも使用できます。

車両から離れる際には必ずリモコンキーを携帯してください。

i 注意: リモコンキーは、高レベルの電磁放射にさらさないでください。キーの誤作動の原因となることがあります。例えば、ノートパソコン、タブレット、パーソナルメディアプレイヤー、携帯電話などの近くには置かないでください。

リモコンキーの収納

セキュリティのために、車両の運転中はリモコンキーを身につけておくことをお勧めします。リモコンキーを車内に置きたい場合は、人目につく場所には決して収納しないでください。

リモコンキーは、運転席シートの前端にあるポケットに収納できます。

消耗した電池

電池が完全に放電してしまった場合でも、機械式キーを使用して車両を動かすことができます。「ロック解除-放電したバッテリー」(6.30ページ)を参照してください。

運転の前に 開閉

ドアの開放



1. ハンドル（1）をしっかりと押すと、ドアのラッチが外れます。

警告: ドアを開ける際には必ずドアの後方に立ってください。横に立つと開いたドアによって怪我を負うおそれがあります。ドアが開く速度は気温により左右されます。

i 注意: ドアはまず外側に開き、次に上方向に開くので、ドアを開ける前に横方向と上方向に十分なスペースがあることを確認してください。「車体寸法」(7.06 ページ) を参照してください。

2. ドアラッチが外れ、ミラーが折りたたまれていた場合は展開され、ドアが少し持ち上がり、さらに自動的に外側および上方にスイングします。

i 注意: ドアを開けると、ウィンドウが少し下がります。ドアを閉じると、ウィンドウは完全に閉じた位置まで上がります。バッテリーの放電や氷点下の気温などによりウィンドウが下がらない場合は、ドアの開閉に注意してください。ドアを開閉する際に無理な力をかけないでください。無理な力を加えると、ドアシールやウィンドウを損傷するおそれがあります。

i 注意: リモコンキーを使用して車両をロック解除した後にドアやラゲッジルームを開かなかった場合、車両は 55 秒後に再びロックされます。

i 注意: 車両のバッテリーが放電したり、リモコンキーの電池が放電したことによって車両をロック解除またはドアを開けることができなくなった場合は、機械式キーを使用してください。「ロック解除-放電したバッテリー」(6.30 ページ) を参照してください。

ドアを閉じる

ドアを下方向に押し引きし、確実にラッチしたことを確認してください。

警告: ドアを閉じる際は、手や他の物体がドアエッジにかかるないようにしてください。特に、ソフトクローズラッチ装着車の場合は、1つ目のラッチがかかるたびでドアが自動的に全閉状態までロックされるため、注意が必要です。挟み込み防止機能は搭載されていないため、ドアとドア開口部の間に物体や身体の一部があってもドアの全閉動作は中止されません。重傷や車両の損傷が発生する可能性があります。

i 注意: ドアを無理に閉じないでください。ドア開口部またはドアシールが損傷するおそれがあります。

ウィンドウが閉じない場合は、挟み込み防止機能が作動していることが考えられます。以下の方法のうち 1 つを試してください。

- ドアを再度開けて閉じる

運転の前に 開閉

ドアをロックする



挟み込み防止機能が解除されない場合は、ロックボタンを数秒間押し続けます。ロックボタンから指を離すまでウィンドウが上昇を続けます。この方法は、上記の方法では問題を解決できない場合にのみ試してください。

注意: ドアを無理に閉じないでください。
ドアシールまたはウィンドウを損傷するお
それがあります。

- 方向指示器が点滅して、盗難防止アラームシステムが有効になったことを示します。

注意: ドアを開けると、車両の他の部品との接触を避けるためにドアガラスが少し下がります。ドアを閉じると、ドアガラスが閉位置まで自動的に上昇します。何らかの理由でドアガラスが上昇しない場合、「挟み込み」が検出された可能性があります。ガラスの溝に挟まつた異物やガラスの位置決めのずれが原因と考えられます。ガラスの溝に異物が挟まつてないか確認し、ロックボタンを押し続けます。ドアが確実に閉まつていて、上昇を妨げる障害物がなければ、ガラスは上昇します。ガラスが閉まらない場合やガラスが自動的に上昇しない現象が繰り返し発生する場合は、マクラン代理店にお問い合わせください。

- ドアを閉じます。「ドアを閉じる」(1.04ページ) を参照してください。
- リモコンキーを使用して車両をロックするには、ロックボタンを押します。フロント、リア、サイドの方向指示器（市場固有）が2秒間点灯します。これで、盗難防止アラームシステムが作動しました。
- キーレスエグジット機能を使用している場合、車両から 5 m (16 フィート 5 インチ) 以上離れると、車両は自動的にロックされます。「キーレスエントリー」(1.02ページ) を参照してください。

運転の前に 開閉

ミスロック



ドアまたはラゲッジ・ルーム・リッドが開いている場合、またはリモコン・キーを車内に置いたまま車両をロックしようとした場合、ミスロックを示す警告音が鳴ります。

ドアとラゲッジ・ルームをすべて閉じたことを確認した後に、車両をロックし直してください。

個人用設定

同乗者を乗せずに運転することが多いお客様は、運転席ドアのみをロック解除するようにロックシステムを変更することができます。「セキュリティ」(4.12 ページ)を参照してください。

運転席ドアのみをロック解除する設定にしている場合、助手席ドアをロック解除するには、ドアの内側のハンドルを引くか、ダッシュボードにある「セントラル・ロック」ボタンを押す必要があります。

車内からロック/ロック解除する



1. 車両をロックするには、「セントラルロック」ボタンを押します。ボタンのランプが点灯し、車両がロックされたことを示します。ドアは車内から開けることができます。
2. 車両をロック解除するには、再度セントラルロックボタンを押します。すると、ボタンのランプが消えます。

運転の前に 開閉

車内からドアを開ける

⚠ 警告: 車両のバッテリーが放電したためにドアを開けることができなくなった場合は、手動ドアリリースストラップを使用してください。「車内からドアを開ける-放電したバッテリー」(6.32 ページ) を参照してください。

ドアはロックされているときでも隨時車内から開けることができます。車両が停止しており、道路や交通の状況が安全なとき以外はドアを開けないでください。

i 注意: ドアはまず外側に開き、次に上方向に開くので、ドアを開ける前に横方向と上方向に十分なスペースがあることを確認してください。



ドアハンドルを矢印で示すように上方向に引き、ドアオーブナーが作動するまでドアを外側に押します。すると、ドアは自動的に外側、次いで上方向にスイングします。

i 注意: 車両がロックされているときに、室内ドアハンドルを操作すると、盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ります。

ラゲッジルーム

⚠ 警告: ラゲッジルームの最大荷物積載量を超えないようにしてください。「車両重量」(7.07 ページ) を参照してください。

⚠ 警告: ラゲッジルームが開いていたりラッチが外れている場合は、運転者の視界が制限されるため、車両は低速で移動する必要があります。

i 注意: ラゲッジルームは、車両が停止していて、かつニュートラルが選択されていない限り開きません。

発車したときにラゲッジ・ルームが開いている場合、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。

i 注意: ラゲッジルームのラッチが外れていたり開いていたりする場合は、ギアを選択できません。車両を移動する必要がある場合は、D または R を 5 秒間押し続けて、これをオーバーライドし、ギアを選択します。

運転の前に 開閉

開放



リモコン・キーのラゲッジ・リリース・ボタンを2回押します。ラゲッジ・ルームが完全にロック解除され、少し開きます。



または、「ダッシュボード」ボタンを長押ししてラゲッジルームのロックを完全に解除して少し開きます。

ラゲッジルームリッドの前面を持ち上げると、ガスストラットにより完全に開いた位置で支持されます。

閉鎖

ラゲッジルームリッドをしっかりと下ろし、確実にラッチしたことを確認してください。

i 注意: ラゲッジルームにリモコンキーを置き忘れないでください。置き忘れた場合、車両がロックされて車外に締め出されてしまうおそれがあります。

i 注意: 車両が以前にロックされていた場合は、引き続きロックされ、ラゲッジ・ルーム・リッドを閉じるとアラーム・システムが再作動します。

i 注意: 車両がロックされている場合、リモコン・キーのボタンを使用してラゲッジ・ルームを開くことができます。これにより、車両の他の部分はロックしたまま12Vバッテリーを充電できます。

運転の前に 開閉

サービスカバー - Coupe

開放

- ⚠️ 警告:** サービスカバーは非常に高温になるため、重度の火傷を負うおそれがあります。サービスカバーは、必ず冷却された後に開いてください。
- ⚠️ 警告:** エキゾーストテールパイプは非常に高温になるため、重度の火傷を負うおそれがあります。サービスカバーは必ず車両の横に立って開けてください。
- ⚠️ 警告:** サービスカバーが開いていると、エンジンが停止していても怪我を負う危険性があります。
エンジンコンポーネントは非常に高温になり、重度の火傷を引き起こすおそれがあります。
エンジニアリングニッションシステムには高圧電流が流れます。イグニッションシステムコンポーネント、イグニッションコイル（スパークプラグコネクター）には決して手を触れないでください。
- 1. サービスカバー取り外しツールをツールキットから取り出します。「サービスカバーアクセサリ」(6.13 ページ)を参照してください。



2. サービスカバーリリースツールをラッチに挿入し、図のように押し下げると、ラッチが解除されます。

3. 車両の横に立って、サービスカバーを持ち上げます。ヒンジが持ち上げられた位置でカバーを支持します。

「エンジンオイル」(6.04 ページ)を参照してください。

「クーラント」(6.06 ページ)を参照してください。

閉鎖

- ⚠️ 警告:** エキゾーストテールパイプは非常に高温になるため、重度の火傷を負うおそれがあります。サービスカバーは必ず車両の横に立って閉じてください。

運転の前に 開閉



1. 図に示すようにサービスカバーを閉じて圧力をかけると、ラッチが締結して明確なクリック音が聞こえます。
2. サービスカバーを閉めた後は、しっかりと固定されているか確認してください。

自動ロック

ドアおよびラゲッジルームは車両が走行を開始すると自動的にロックされます。

注意: 事故発生時に衝撃力が既定のレベルを超えると、ドアのロックは自動的に解除されます。

自動ロック機能は、センターインフォディメンタタッチスクリーンのセキュリティ設定セクションで選択できます。「自動ドアロック」(4.13ページ)を参照してください。

自動ロックがオンの場合、車両が発進してロックされると、「インテリア・セントラル・ロック」ボタンが点灯します。「車内からロック/ロック解除する」(1.06ページ)を参照してください。

リトラクタブル・ルーフ - Spider

リトラクタブルルーフは単一軽量パネルで構成されており、作動させるとコックピットの背後にあるトノーパネルの下にすばやく折りたたまれます。

ルーフは、センターコンソールのスイッチまたはリモコンキーを使用して操作できます。

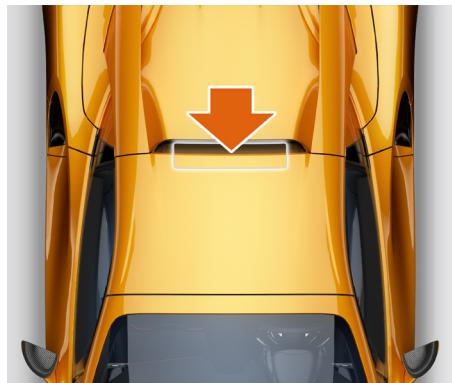
ルーフを操作できるのは50 km/h (31 mph) までです。

警告: 荒れた路面を走行中はルーフを操作しないでください。ルーフシステムが損傷することがあります。

警告: 可動部品とルーフの間に物を置かないでください。操作中は、乗員または周囲の人がルーフの近くにいないことを確認してください。ルーフの操作により、人身事故やコンポーネントの損傷を引き起こす恐れがあります。

警告: 操作メカニズムと車内のインテリアへの損傷を防ぐため、ルーフの操作前には丁寧に表面の水分、氷、雪を除去してください。

運転の前に 開閉



ルーフの動作温度

最低動作気温	-20°C (-4°F)
最高動作気温	85 °C (185 °F)

i 注意: 最低動作気温以下ではルーフの開操作はできません。

i 注意: バックライトのインテリアトリムパネルに座ったり、立ったり、物を置いたりしないでください。

i 注意: ルーフが開いた状態でエンジンを停止させると、安全のため、車両がスリープ状態になる前にルーフを閉じることができます。

i 注意: ルーフに問題がある場合は、すぐにマクラーレン代理店に連絡してください。

開放

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。

i 注意: エンジンのクランクイン中はルーフの動作が停止します。



2. スイッチを長押ししてルーフを開けます。スイッチを放すと、スイッチが再度押されるまでルーフは停止します。

i 注意: ルーフが閉まっている状態でトノーカバーを操作すると、「トノーが空か確認してください」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

運転の前に 開閉

- トノーエリアが空であることを確認してください。確認できたら、メニュー レバーで「OK」を押します。



- ルーフが完全に開く（収納される）までスイッチを長押しします。

i 注意: ルーフが動き出すと、トノーカバーが開き、バックライトのガラスがわずかに下がります。「ルーフ作動中」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

- ルーフが完全に開いたら（収納されたら）、トノーカバーが閉じてバックライトのガラスがエアロポジションに戻り、コックピット内のバフェティングを軽減します。「ルーフ開」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。ルーフサイクルが完了したことを確認する音が聞こえます。

- 操作完了後もスイッチを押したままになると、ウィンドウとバックライトが完全に開きます。スイッチを放すと、スイッチを再度押すまでウィンドウとバックライトは停止します。

- ルーフの動作中に車速が50 km/h (31 mph) を超えると、ルーフの動作が一時停止します。ドライバーディスプレイに、「ルーフを操作できません。車速が速すぎます」というメッセージが表示されます。

- 車速を50 km/h (31 mph) 以下まで下げ、スイッチを放します。ドライバーディスプレイに、「ルーフ操作が不完全です」というメッセージが表示されます。必要なルーフ・サイクルを継続するには、再度スイッチを押します。

閉鎖

- イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。

i 注意: エンジンのクランクイン中はルーフの動作が停止します。



- ルーフが完全な上昇（閉）位置に達するまでスイッチを長押しします。スイッチを放すと、スイッチが再度引かれるまでルーフは停止します。
- ルーフの動作中に車速が50 km/h (31 mph) を超えると、ルーフの動作が一時停止します。ドライバーディスプレイに、「ルーフを操作できません。車速が速すぎます」というメッセージが表示されます。
- 車速を31 mph (50 kph) 以下まで下げ、スイッチを放します。ドライバーディスプレイに、「ルーフ操作が不完全です」というメッセージが表示されます。

運転の前に 開閉

- ルーフヒトナーが完全に閉じてロックするまでスイッチを引きます。ウィンドウおよびバックライトガラスが全閉位置まで上昇します。ルーフサイクルが完了したことを確認する音が聞こえます。
- ルーフサイクルが完了した後もスイッチを押し続けると、ウィンドウとバックライトガラスが上昇します。スイッチを放すと、スイッチを再度押すまでウィンドウとバックライトは停止します。

リモコンキーによるリモートオープン

⚠️ 警告: 可動部品とルーフの間に物を置かないでください。操作中は乗員や周囲の人がルーフから離れていることを確認し、リモートオープン機能を使用するときは視界が確保されていることを確認してください。ルーフの操作により、人身事故やコンポーネントの損傷を引き起こす恐れがあります。



車両がロックまたはロック解除状態にあるときは、リモコンキーを使用してルーフを遠隔操作で開けることができます。



- ロック解除ボタンを長押ししてルーフを開けます。ボタンを放すと、ボタンを再度押すまでルーフは停止します。

ℹ️ 注意: 車両がロックされている場合、フロント、リヤ、およびサイドの方向指示灯（市場によって異なる）が2回点滅しますが、車両はロックされたままです。

- ルーフが完全に開く（収納される）までボタンを長押しします。
- ルーフが完全に開いたら（収納されたら）、トノーカバーが閉じてバックライトのガラスがエアロポジションに戻り、コックピット内のバフェティングを軽減します。ルーフサイクルが完了したことを確認する音が聞こえます。

ℹ️ 注意: 車両がロックされている場合、フロント、リヤ、およびサイドの方向指示灯（市場によって異なる）が2回点滅しますが、車両はロックされたままです。

運転の前に 開閉

- 操作完了後もボタンを押したままにすると、ウィンドウとバックライトは完全に開きます。ボタンを放すと、ボタンを再度押すまでウィンドウとバックライトは停止します。

リモコンキーによるリモートクローズ

- !** **警告: 可動部品とルーフの間に物を置かないでください。**操作中は乗員や周囲の人がルーフから離れていることを確認し、リモートクローズ機能を使用するときは視界が確保されていることを確認してください。ルーフの操作により、人身事故やコンポーネントの損傷を引き起こす恐れがあります。



- 車両がロックまたはロック解除状態にあるときは、リモコンキーを使用してルーフを遠隔操作で閉めることができます。
- ルーフとトノーが完全に閉まってロックされるまで閉め続けるには、ロックボタンを長押しします。ウィンドウおよびバックライトガラスが全閉位置まで上昇します。ルーフサイクルが完了したことを確認する音が聞こえます。

i 注意: 車両がロックされている場合、フロント、リヤ、およびサイドの方向指示灯（市場によって異なる）が2回点滅しますが、車両はロックされたままです。

- ルーフサイクルが完了した後もロックボタンを押し続けると、ウィンドウとバックライトガラスが上昇します。ボタンを放すと、ボタンを再度押すまでウィンドウとバックライトは停止します。

運転の前に 開閉

バックライト - Spider

コックピット内のエアフローを増加させるには、ルーフを開けた状態でバックライトを下げます。バックライトをエアロポジションまで上げ、コックピットのバフェティングを軽減します。

i 注意: バックライトを操作するには、車両がアウエイク状態で、キーが挿入されている必要があります。

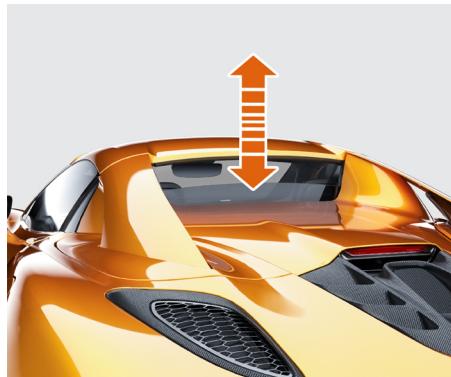


バックライトスイッチはセンターコンソール上にあります。

i 注意: バックライトに問題がある場合は、すぐにマクラーレン代理店に連絡してください。

開放

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。



2. バックライトスイッチを長押しして、バックライトを希望する位置まで下げます。

i 注意: 雨や雪が降っている場合は、バックライトを全開にしないでください。水分がキャビンエリアに浸入し、電気コンポーネントに影響を与えるおそれがあります。

閉鎖

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。



2. 希望の位置に達するまで、バックライトスイッチを長押ししてバックライトを上昇させます。

i 注意: バックライトが開いた状態で停車すると、安全のため、車両がスリープ状態になる前にバックライトを閉じることができます。

運転の前に 開閉

トナー・カバー - Spider

トノーカバーとはコックピット背後にあるパネルのことです。トノーカバーは開閉でき、以下のエリアへアクセスすることができます。

リトラクタブルルーフは、ルーフが下がると、トノーカバーの下のエリアに収納されます。その後、トナーカバーが閉まります。

i 注意: トノーカバーに問題がある場合は、すぐにマクラーレン代理店に連絡してください。

開放

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。

⚠ 警告: トナーの稼動部品の間に物を置かないでください。操作中は、乗員または周囲の人がトナーの近くにいないことを確認してください。トナーの操作により、人身事故やコンポーネントの損傷を引き起こすことがあります。

i 注意: トナーが開いている間は、車両は最大 15 分間アウェイク状態を保持します。

i 注意: トナー・サービス・エリアへのアクセスは、運転席ドアのスイッチ・パネルにある開/閉ボタンでのみ行えます。

i 注意: トナー・コントロールを作動させるには、イグニッションがオンになっていて、キーが運転席ドアの検知範囲内にある必要があります。



2. トノーカバーが完全に開くまで、運転席ドア後端のボタンを長押しします。

i 注意: ルーフが開いていると、トノーカバーを開けることはできません。

3. トナー・エリアが空であることを確認してください。確認できたら、メニュー・レバーで「OK」を押します。



4. トナー・カバーが開いた状態で車両を運転すると、「トナー・カバーが開いています」というメッセージがドライバーディスプレイに表示され、警告音が鳴ります。

閉鎖

⚠ 警告: トノーカバーを閉じる際は、手などを挟まないように注意してください。

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。

運転の前に 開閉



2. トノーカバーが完全に閉じるまで、運転席ドア後端のボタンを長押しします。

i 注意: トノーカバーが開いている状態でイグニッションをオフにした場合、15分以内なら閉じることができます。この時間を過ぎた場合は、イグニッションを再度オンにしてトノーカバーを閉じてください。

i 注意: 「トノー作動中」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: 車両をロックすると、トノーエリアのアラームが有効になります。

運転の前に 盗難防止システム

アラームシステム

アラームシステムが有効になっているときに以下のいずれかが開けられると、警告が表示され警告音が鳴ります。

- ドア
- ラゲッジルームリッド
- トノーカバー（Spider のみ）

i 注意: 開けられた開口部を閉じてもアラームは停止しません。アラームを止めるには車両のロックを解除します。

アラームシステムはまた、以下の機能を備えています。

- けん引防止
- インテリアモーション検知センサー

アラームシステムの有効化

車両をロックします（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。約 15 秒後に盗難防止アラームシステムが有効になります。



イモビライザー

イモビライザーはお客様のマクラーレンが不正に始動されるのを防ぎます。

車両が車内にリモコンキーがないことを感知すると、イモビライザーが自動的に起動します。

車内にリモコンキーがあることが感知されると、イモビライザーは解除されます。

i 注意: イモビライザーは、車両が始動していない場合にのみ発生します。

車両がロックされると、「セントラル・ロック」ボタンが 30 秒ごとに点滅します。

アラームシステムの解除

車両のロックを解除します（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。アラームが解除され、「セントラルロッキング」ボタンのランプが点滅を停止します。

運転の前に 盗難防止システム

けん引防止

けん引防止は、吊り上げけん引やトレーラー積載による車両の盗難を防止するように設計されています。

どのような方法でも、車両が持ち上げられたり傾けられたりするとアラームが作動します。

けん引防止は車両がロックされてから約 15 秒後に起動し、車両のロックが解除されると停止します。

けん引防止を無効にする



- けん引防止を無効にするには、イグニッションスイッチをオフにして運転席ドアを開け、運転席ドア後端のボタンを押します。スイッチのランプが点滅し、けん引防止が無効になったことを示します。
- 運転席ドアを閉め、車両をロックしてください（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。けん引防止は車両のロックを解除するまで無効になります。

インテリアモーションセンサー

車両がロックされているときに、例えば何者がウィンドウを破ったり開いた窓から車内に侵入するなどして車内で動作が感知されるとアラームが作動します。

インテリアモーションセンサーは車両がロックされてから約 15 秒後に起動し、車両のロックが解除されると停止します。

- i** 注意: アラームの誤作動を防止するため、車両を離れる際にはルーフ (Spider のみ) およびウィンドウを閉じ、インテリア・ミラーには、ものなどをぶら下げしないでください。

運転の前に 盗難防止システム

インテリアモーションセンサーを無効にする



1. インテリアモーションセンサーを無効にするには、イグニッションスイッチをオフにして運転席ドアを開け、運転席ドア後端のボタンを押します。スイッチのランプが点灯し、インテリアモーションセンサーが無効になったことを示します。

i 注意: イグニッションスイッチをオンにしたままでは、インテリアモーションセンサーを無効にすることはできません。

2. 運転席側のドアを閉め、車両をロックします。インテリアモーションセンサーは車両のロックが解除されるまで無効になります。

パニックアラーム

パニックアラーム機能は、ホーンの鳴動と方向指示器ランプの点滅を繰り返すことによって注意を引くように設計されています。

パニックアラームはハザード警告灯ボタンを3秒以上押し続けることによって作動させることができます。

ホーンはパニックアラームが60秒間作動し続けると停止しますが、方向指示器ランプは点滅を続けます。ホーンはハザード警告灯ボタンを3秒以上押し続けることによって再び作動させることができます。

パニックアラームをオフにするには、「ハザード警告灯」ボタンを短く押します。

i 注意: パニックアラームは、ハイブリッドシステムの異常が発生すると、車両から出て車両から離れるよう警報を発します。

運転の前に シート

安全性

- ⚠️ 警告: お子様だけを車内に残さないでください。偶然シートが動いた場合にお子様が怪我を負うおそれがあります。**
- ⚠️ 警告: シートの動作によって手などを挟まないように注意してください。**
万一の事故の際に負傷する危険性を低減するため、以下の事項をお守りください。
 - 乗員全員がシートベルトを正しく装着できるように、また同時にフロントエアバッグからできる限り遠い位置となるようにシートの位置を設定してください。運転席シートの位置は、ドライバーが車両を安全に運転できる位置でなければなりません。運転席シートからペダルまでの距離は、ドライバーがペダルを完全に踏み込むことができる距離でなければなりません。ドライバーの胸からエアバッグカバーの中心までの距離は 25 cm (10 インチ) 以上でなければなりません。ステアリングホイールを握ったときに、ドライバーの肘が軽く曲がるようになります。
 - 乗員は常にシートベルトを正しく装着していなければなりません。
 - 助手席シートは、無理な姿勢とならない範囲内でできる限り後方に設定してください。



警告: マクラーレンは、この車両にチャイルドシートを装着することはお奨めしませんが、もし使用する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- 身長 1.5 m (4 フィート 11 インチ) 未満、または 12 歳未満のお子様は、適切なチャイルドシートにより保護しなければなりません。現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。
- 助手席シートにチャイルドシートを装着する場合は、シートを最後端の位置に設定してください。

マニュアルシート

マニュアルシートの前後位置調整



レバーを引き上げて好みの位置までシートを移動し、レバーを離してシートをロックします。

- ⚠️ 警告: 運転する前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。**

- ℹ️ 注意:** フットウェル、シートの背後、下あるいは横に物や荷物などがないことを確認してください。物が置かれているとシートを損傷するおそれがあります。

運転の前に シート

マニュアルでのシートの高さおよびバックレストのリクライニング調整



スイッチを上に押して (1) シートの高さを上げ、バックレストを前方に移動します。

スイッチを下に押して (2) シートの高さを上げ、バックレストを後ろに倒します。

マニュアルでのシートのランバー調整



ランバーコントロールスイッチを上に動かして (1) 、上下に動かし (2) ランバーサポートの位置を下げます。

ランバーコントロールスイッチを前方に動かして (3) ランバーサポートに空気を入れ、後方に動かして (4) ランバーサポートから空気を抜きます。

電動シート

電動シート調整

シート調整スイッチはシートベースの側面にあり、車両がアウエイクモードにある場合に使用可能です。「車両の電気的状態」(2.04 ページ)を参照してください。

i 注意: フットウェルまたはシートの背後、下あるいは横に物や荷物などがないことを確認してください。物が置かれているとシートを損傷するおそれがあります。

前後位置調整



シートが目的の位置になるまでスイッチ (1) を前方または後方に押します。

運転の前に シート

電動シートの背もたれリクライニング調整

⚠ 警告: 怪我を負う危険性を最小限にするため、背もたれはできる限り垂直に近い角度に設定してください。

i 注意: 背もたれをリクライニングした場合、シートベースはリアバルクヘッドとの相対位置に応じて自動的に前方に移動します。シートベースを後方に移動した場合、背もたれをいっぱい今までリクライニングすると背もたれが自動的に上がり、リアバルクヘッドとの接触を防止します。



バックレストが目的の位置になるまでスイッチ (2) を前方または後方に押します。

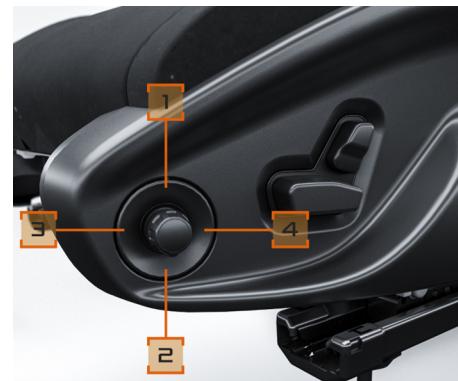
⚠ 警告: 助手席シートの下に物などがないことを確認してください。物が置かれていると乗員分類システムが正常に機能しないことがあります。

電動シートの高さ調整



シートが目的の高さになるまでスイッチ (1) を上または下に押します。

電動シートのランバーサポート調整



ランバーサポートの位置は、(1) を押すと上がり、(2) を押すと下がります。

(3) を押してランバーサポートを膨張させるか、(4) を押して収縮させます。

シート位置の保存と呼び出し

運転席シート、外部ミラー、およびステアリングホイールの位置は、ドライバー5人分まで保存することができます。

「運転位置」(1.27 ページ)を参照してください。

運転の前に シート

コンフォートイグジット

 **警告: シートの動作によって手などを挟ま
れないように注意してください。**

イグニッションをOFFにして運転席側のドアを開けると、運転席が最後部および最低位置まで移動し、ステアリング・ホイールが内側および最高位置まで移動します。

これによって車両から簡単に降りることが可能になります。

この機能を有効または無効にするには、「コンフォートエントリー/イグジット」(4.09ページ)の設定を参照してください。

コンフォートエントリー

乗車後、ステアリング・コラムの左側にあるコントロール・レバーを使用して、運転席シートとステアリング・ホイールを直前の位置に戻すことができます。車両は停車している必要があります。

ドライバーディスプレイのようこそ画面には、最後に保存した運転位置に戻すよう求めるメッセージが表示されます。これに同意するには、左コントロール・レバーを引きます。運転席シート、ステアリングコラム、外部ミラーが自動的に調整されます。

コンフォートエントリーは、以下のいずれかを実行することで中止できます。

- 左コントロールレバーを押す

- 運転席ドアを開ける
- シートまたはステアリングコラム調整コントロールを操作する

この機能を有効または無効にするには、「コンフォートエントリー/イグジット」(4.09ページ)の設定を参照してください。

オートヒートシート

オートヒート・シート機能には、センターインフォテイメントタッチスクリーンの温度調節画面を使用してアクセスできます。「オートヒートシート」(5.09ページ)を参照してください。

運転の前に ステアリングホイールとステアリングコラム

ステアリングコラムの調整

⚠ 警告: ステアリングホイールの位置調整は必ず停車して行ってください。道路や交通状況への注意がおろそかになるおそれがあります。結果として、運転操作を誤り、事故につながるおそれがあります。

ステアリングホイール位置は、車両がアウェイクモードの場合に、コラムコントロールスイッチを使用して高さと前後位置を調整することができます。「車両の電気的状態」(2.04 ページ)を参照してください。

コラムコントロールスイッチはステアリングコラムの左側にあります。



1. 高さ:上昇

2. 高さ:下降
3. リーチ:遠
4. リーチ:近

コラム・コントロール・スイッチを(1)と(2)の方向に動かすと、ステアリング・ホイールの高さを上下に調整できます。

コラム・コントロール・スイッチを(3)と(4)の方向に動かすと、ステアリング・ホイールの位置を前後に調整できます。

i 注意: 「コラムコントロール」スイッチでは、ステアリングホイールの位置を一度に一方向にしか調整できません。

コラムコントロールスイッチを使用して、次の状態になるようにステアリングホイールを調整します。

- ステアリングホイールを握ったときに、腕が若干曲がった状態になること。
- 両足を自由に動かすことができること。
- ドライバーディスプレイ上の情報がすべてはっきりと見えること。

ステアリング・コラムのキャリブレーション

ステアリング・コラムの動きが制限されている場合、「ステアリング・コラムのキャリブレーションが必要です。ステアリング・コラムを上および前方向に動かしてください」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

ステアリング・コラムを手動で再調整するには、コラム・コントロール・スイッチを使用して、ステアリング・コラムを(1)方向に動かし切ったのち、(3)方向に動かします。

ドライバーが車両から降りると、ステアリング・コラムも自動的に位置を再調整します。

乗車/降車快適機能

コンフォート・エントリー/エグジットが有効なときには、エンジンをオフにして運転席ドアを開くと、ステアリング・ホイールとコラムが最も内側へ（ドライバーから遠ざかる方向へ）移動し、一番上まで上がった状態になります。

ステアリング・ホイールとコラムは、ステアリング・コラムの左側にあるコントロール・レバーを使用して直前の位置に戻すことができます。「コンフォートエントリー」(1.24 ページ)を参照してください。

⚠ 警告: ステアリングホイールの移動中はホイールやコラムに手を触れないようにしてください。

運転の前に ステアリングホイールとステアリングコラム

i 注意: 「コラムコントロール」スイッチを操作することで、あらゆる自動調整動作をキャンセルできます。

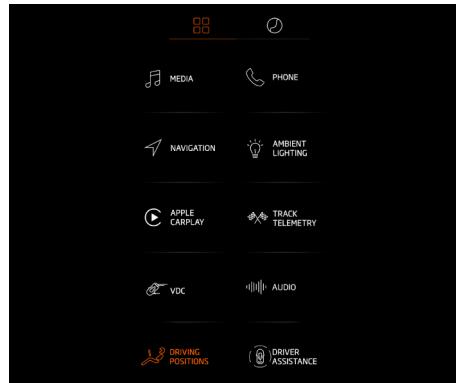
ホーン

ホーンを操作するには、ステアリングホイールの中央を押します。

i 注意: ホーンはイグニッションスイッチをオフにすると作動できなくなりますが、アウエイクモードでは作動できます。「車両の電気的状態」(2.04 ページ) を参照してください。

運転の前に 運転位置

概要



マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のホーム画面の「運転位置」アイコンにタッチします。



運転位置の保存

運転位置は 5 つまで保存できます。

- 必要に応じて運転席シートの位置を設定します。「電動シート」(1.22 ページ)を参照してください。
- 必要に応じてステアリングコラムの位置を設定します。「ステアリングコラムの調整」(1.25 ページ)を参照してください。
- 必要に応じて外部ミラーの位置を設定します。「外部ミラー」(1.36 ページ)を参照してください。
- 運転位置スロットを長押しして、現在の位置を保存します。

5.  アイコンにタッチして、オンスクリーンキーボードで運転位置の名前を編集します。

 注意: すべての運転位置ラベルを消去するには、工場出荷時の状態にリセットします。「すべてのデータと設定の消去」(4.18 ページ)を参照してください。

運転位置の呼び出し

保存されている運転位置のいずれかにタッチすると、運転席シート、ステアリングコラム、外部ミラーの位置を呼び出すことができます。選択した運転位置が強調表示され、位置が調整されたことを示します。



運転の前に 運転位置

起動中、コンフォート・エントリー/エグジットが有効になっている場合、ドライバーディスプレイのようこそ画面には、最後に保存した運転位置に戻すよう求めるメッセージが表示されます。左側のコントロール・レバーを引いてこのメッセージに同意すると、運転席、ステアリング・コラムおよび外部ミラーが自動的に調整されます。この機能を有効または無効にするには、「コンフォートエントリー/イグジット」(4.09 ページ)の設定を参照してください。

運転の前に 乗員の安全

シートベルト

シートベルトとチャイルドシートは衝突時の衝撃に対し乗員を拘束し、それによって車内衝突による負傷やむち打ち症の危険を最小限に抑制するための最も有効な手段です。

 **警告:** シートベルトは着用していないときや誤った着用をしたとき、あるいはシートベルトバックルに完全に締結されていないときは本来の機能を果たすことができません。怪我を防止するために、乗員全員が常に各々のシートベルトを正しく着用するようしてください。

ベルトは以下の条件を満たすように装着してください。

- 骨盤のできる限り低い位置、すなわち腹部ではなく股関節部にかける。
- 体に密着させる。
- ねじれをなくす。
- 肩の中央部を通る位置にかける。
- ベルトが首と肩の間の鎖骨の中心を通るようかける。
- 肩ベルトを上方向に引き、ベルトを骨盤部に密着させる。

乗員が使用しているシートベルトで他の物体を固定しないでください。
あまり厚手の衣類を着用するのは避けてください。

鋭い縁や壊れやすい物、特にそれらの物が乗員の衣類に付いていたりポケットに入っていたりする場合、その部分にはシートベルトをかけないでください。シートベルトが損傷したり、乗員が負傷したりするおそれがあります。

各シートベルトは一度に1人の乗員しか使用することはできません。
決してお子様を他の乗員の膝に座らせないでください。

身長1.5m（4フィート11インチ）未満、または12歳未満のお子様は、適切なチャイルドシートにより保護しなければなりません。チャイルドシートはメーカーの取扱説明書に従って装着してください。現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。

 **警告:** 妊娠中の女性は、母親と胎児の最大限の安全のためにシートベルトを着用する必要があります。腰ベルトは腹部の下の腰の部分に、肩ベルトは胸部中央から腹部側面を通るようにかけます。ベルトが緩んだりねじれたりしていないことを確認してください。

 **警告:** シートベルトが本来の保護水準を發揮するのは、シートバックレストを垂直に近い位置に設定し、乗員が真っ直ぐに座っている場合のみです。

 **警告:** シートベルトやバックルが極端に汚れたり損傷したりしていると、シートベルトは正常に機能しません。ベルトラッチがバックルと完全に締結できることを確認してください。

シートベルトに損傷がないか、鋭い縁に当たっていたり引っかかっていたりしないかを定期的に点検してください。事故の際にベルトが裂け、乗員が怪我を負うおそれがあります。

ベルトに損傷がある場合や、重い負荷がかかる場合はシートベルトの点検を依頼してください。シートベルトの修理や交換は必ずマクラーレン代理店に依頼してください。

運転の前に 乗員の安全

シートベルトの着用



1. 無理のない姿勢で、操作装置類に容易に手が届くようにシートを調整します。
2. シートベルトラッチを持ち、体の前を通します。その際、ベルトが首と肩の間の鎖骨の中心を通り、胸部から骨盤に至るようにかけます。
3. ベルトを正しい位置に配置してラッチをバックルに差し込み、カチッと音がして締結したことが確認できるまで押し込みます。バックルからラッチを引き、確実にラッチがはまり込んでいるか確認してください。

シートベルトテンショナー

シートベルトにはベルトテンショナーが組み込まれています。ベルトテンショナーは事故の際にシートベルトに張力をかけ、乗員を強く引っ張ります。

警告: 助手席に乗員がない場合は、ベルトラッチを助手席のシートベルトバックルに差し込まないでください。事故の際にベルトテンショナーが作動する可能性があります。

警告: ベルトテンショナーは誤った着座位置や間違った装着を補正することはできません。

ベルトテンショナーは乗員をバックレストの方向に引き戻しません。

ベルトテンショナーは正面衝突または追突が発生し、車両が急減速または急加速した場合に、ベルトラッチがシートベルトバックルに締結されていることを条件としてベルトごとに作動します。

ベルトテンショナーが作動するとパンという音がし、場合によっては少量の煤塵が放出され、補助拘束装置警告灯が点灯します。

警告: ベルトテンショナーが作動したら（または、作動したかどうか分からぬ場合は）、絶対に車両を運転しないでください。直ちに最寄りのマクラーレン代理店にご相談ください。

ベルトフォースリミッター

シートベルトにはベルトフォースリミッターが組み込まれています。ベルトフォースリミッターはフロントエアバッグに同調し、衝撃を受けた際にベルトにかけられた張力を徐々に解放し、乗員が受けける力を低減します。

シートベルト警告灯

 ドライバーディスプレイのシートベルト警告灯と警告音が、車両の乗員に対し各シートベルトを着用するように促します。ドライバーと乗員がシートベルトを着用するとシートベルト警告灯が消灯し、警告音が止まります。

運転の前に 乗員の安全

補助拘束装置 (SRS)

エアバッグシステム

お客様の McLaren には以下のエアバッグが装備されています。

- 運転席フロントエアバッグ（ステアリングホイール内）
- 助手席フロントエアバッグ（ダッシュボード上部内）
- サイドヘッドエアバッグ（ドア内）

⚠️ 警告: エアバッグが正常に作動するのは、ステアリングホイール、助手席エアバッグカバー、ドアトリムが覆われていない場合のみです。

⚠️ 警告: エアバッグは正しく着用したシートベルトの代用となるものではなく、シートベルトが提供する乗員保護の水準を高めるものです。

⚠️ 警告: 万一の事故の際に怪我を負う危険性を低減するため、以下の事項を遵守してください。

- ドライバーの胸部からエアバッグカバーまで、少なくとも 25 cm (10 インチ) 以上の距離を確保してください。
- 車両が走行中はダッシュボード上にかがみ込まないでください。
- ダッシュボードに足を乗せないでください。

- ステアリングホイールはリムの外側を握ってください。ステアリングホイールの内側を握っていると、エアバッグが展開したときに怪我を負うおそれがあります。
- 乗員、特に子様は、車内からドアに寄りかからないでください。
- 乗員とエアバッグの展開空間の間に他の物体がないことを確認してください。
- エアバッグは高速で展開するため、エアバッグの膨張によって怪我を負う危険性があります。

エアバッグの交換

⚠️ 警告: マクラーレンでは部品の動作寿命によってエアバッグが不作動となることがないよう、15年ごとにエアバッグを交換することをお奨めしています。

エアバッグシステムの修正

障害のある方が車両を使用できるようにエアバッグシステムを修正する必要がある場合は、最寄りのマクラーレン代理店にご相談ください。マクラーレン代理店に関する詳しい情報は、サービス保証ガイドを参照してください。

フロントエアバッグ



運転席フロントエアバッグ（1）はステアリングホイールの正面に展開し、助手席フロントエアバッグ（2）はダッシュボードの正面上方に展開します。

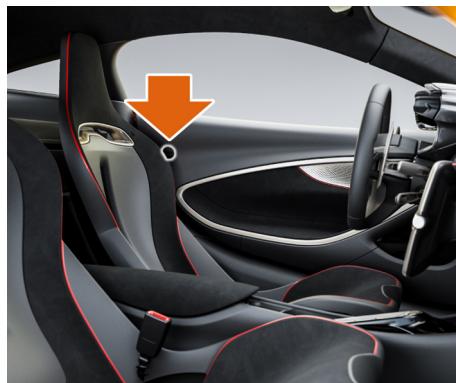
フロントエアバッグは、乗員が頭部および胸部に怪我を負う危険性をより低減できるとシステムが判断したときに展開します。

i 注意: 助手席フロントエアバッグは、オーバーヘッドコンソールの「PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF)」警告灯が点灯していないときだけ展開します。「乗員分類システム - 助手席」 (1.32 ページ)を参照してください。

運転の前に 乗員の安全

サイドヘッドエアバッグ

- ⚠ 警告: サイドヘッドエアバッグの展開時に乗員が怪我を負う危険性を低減するためには、必ず次の事項をお守りください。**
- 乗員とエアバッグの展開空間の間には物を置かない。
 - ドアにアクセサリー等を取り付けない。
 - 衣服のポケットに重い物や鋭い物体を入れておかない。
 - 乗員、特に子様は、車内からドアに寄りかからいでください。



サイドヘッドエアバッグは各ドアパネルの上部に組み込まれており、車両の衝撃が発生する側の乗員が頭部に怪我を負う危険性をより低減できるとシステムが判断したときに展開します。

- i 注意: 助手席側ヘッドエアバッグは、助手席に乗員がいなければ展開しません。**

乗員分類システム - 助手席

このシステムはシートベースに内蔵された容量性重量マットを使用し、同時に助手席シートベルトのシートベルトバックルが締まっているかを確認することで、助手席の乗員の有無を判定します。このシステムは、エアバッグが必ず大人用に展開するようにするために、助手席にチャイルドシートの幼児がいる場合や助手席に誰もいない場合は、助手席フロントエアバッグをオフにします。



エアバッグの状態はオーバーヘッドコンソールの「PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF)」警告灯により表示されます。

「PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF)」警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、5秒後に消灯します。

この警告灯は、助手席に乗員がいないときやチャイルドシートが装着されているときは継続点灯します。

- i 注意: 「PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF)」警告灯は、助手席に大人の乗員がいない限り常時点灯します。**

運転の前に 乗員の安全

「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯しているときは、助手席フロントエアバッグは非アクティブになります。助手席側サイドヘッドエアバッグおよびペルトテンションナーは、「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯していても常にアクティブです。

警告: チャイルドシートを装着しているのに「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯していない場合は、フロントエアバッグは非アクティブにはなっていません。助手席エアバッグが展開した場合、お子様が重大な怪我を負うおそれがあります。

警告: 乗員分類システムが正しく機能するように、マクラーレンは座席の下に物を置かないことをお奨めしています。また、マクラーレンは毛布、クッション、あるいはシートカバー、ヒーター、マッサージ器などのアフターマーケット機器などを追加装備しないことをお奨めしています。これらのアイテムは、乗員分類システムの性能に著しく影響します。マクラーレンは、シートカバー、ヒーター、マッサージ器などのアフターマーケット機器の取り付けはしないことを推奨しています。

警告: 作動中の電子部品または12Vのアクセサリーソケットに接続されている電子部品は、絶対に助手席に置かないでください。乗員分類システムの動作に影響することがあります。

警告: 乗員分類システムに何らかの液体（雨水を含む）がかかるた場合、性能に影響することがあります。シートに乗員がいる場合でも「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯していないときは、チャイルドシートを取り付けたり乗員をシートに座らせたりしないでください。速やかに最寄りのマクラーレン代理店にご相談ください。

警告: 先の尖ったものを助手席に置かないでください。シートクッションが破裂すると、乗員分類システムが損傷する恐れがあります。

警告: 乗員分類システムが正しく機能するように、チャイルドシートシステムの下には決して物（クッションなど）を置かないでください。チャイルドシートのベース全体が常にシートに接していなければなりません。チャイルドシートを正しく取り付けていない場合、万一の事故の際に本来の保護水準を提供できず怪我の原因になります。

エアバッグの展開

衝突が発生すると、補助拘束装置がエアバッグを展開して乗員を保護します。このシステムは乗員に可能な限り最高の保護を提供するために、展開するエアバッグの数や、各エアバッグを衝突の激しさに応じてどの程度膨張させるかを制御します。

このシステムはセンサーを使用して、迅速に衝突の重大度と車両乗員数を評価します。これらすべての要素がわかると、システムは必要なエアバッグを展開し、インパクトゾーンの膨張圧を調整して乗員の安全を確保します。

事故後、エアバッグは膨張プロセスの後ほぼ即座に減圧を開始します。エアバッグを膨張させるために使われたガスはエアバッグの通気口から排出され、それによって乗員が衝撃によって重大な怪我を負う危険性を低減します。

エアバッグは乗員の動きを減速し、制限することによって、身体への負荷を低減します。ただし、エアバッグは正しく装着したシートベルトに取って代わるものではありません。

警告: エアバッグが展開するとパンという音がし、少量の微粒子が放出されることがあります。この騒音はお客様の聴覚に害を与えることはありません。また、微粒子は健康上危険なものではなく、火災の発生を示すものではありません。この微粒子は、喘息やその他の呼吸器系の問題がある方の場合、一時的に呼吸困難を引き起こす可能性があります。呼吸困難を防止するには速やかに車外に出るか、ウィンドウを開けてください。

警告: エアバッグの展開後は、エアバッグの部品が高温になっていますので触れないでください。エアバッグの交換は、マクラーレン代理店に依頼してください。

運転の前に 乗員の安全

正規外着座 (OOP)

お客様のマクラーレンのエアバッグシステムは、正規外着座 (OOP) 状態の小さいお子様に対し的確に動作することを試験で確認済みです。OOP状態は衝突によってエアバッグが展開した際に、小さいお子様がパッセンジャーシートの不適切な位置に座っていた場合に発生します。

補助拘束装置 (SRS) 警告灯

 補助拘束装置は、イグニッションスイッチがオンでエンジンが動作中のとき、定期的にセルフテストを実行します。

ドライバーディスプレイの警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、エンジンが始動してから5秒後に消灯します。

 **警告:** 以下のいずれかの事項が発生した場合は、直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。

- イグニッションスイッチをオンにしても警告灯が点灯しない
- エンジン始動後5秒が経過しても警告灯が消灯しない
- エンジン始動後に警告灯が再び点灯する

安全機能

万一事故に巻き込まれた場合、お客様や救急隊員を支援するために以下の事象が発生します。

- ドアロックの解除
- ハザード警告灯の点灯
- 室内照明の点灯

場合により、燃料システムのスイッチがオフになります。

チャイルドパッセンジャー

 **警告:** お子様をチャイルドシートで安全に固定している場合でも、お子様だけを車内に残さないでください。お子様が車両の一部で思わぬ怪我をしたり、ドアを開け、暑さや寒さに長時間さらされて重傷を負ったり、命にかかる傷害を受けるおそれがあります。

お子様がドアを開けた場合、それによって他人に怪我をさせたり、車両から抜け出して思わぬ怪我をしたり、通過する車両によって怪我をするおそれがあります。

チャイルドシートシステムを直射日光にさらしてはなりません。チャイルドシートシステムの金属部品でお子様が火傷をするおそれがあります。

重い物体や堅い物体をしっかりと固定せずに車内に置かないでください。積荷を固定しなかったり、不適切な場所に置いたりすると、急ブレーキや急激な方向変更あるいは事故の際にお子様が怪我をする危険が増大します。

チャイルドシートシステム

マクラーレンは、この車両にチャイルドシートを装着することはお奨めしませんが、もし使用する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

運転の前に 乗員の安全

身長が1.5 m (4フィート11インチ) 未満または12才未満のお子様を同乗させるときは、その体重に合った適切なチャイルドシートにしっかりと固定してください。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。
現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。



警告: 助手席エアバッグが作動している場合は、チャイルドシートシステムを後ろ向きに固定しないでください。状態は「PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグOFF)」警告灯に表示されます。

⚠ 警告: 「PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF)」警告灯が点灯していない場合、助手席ではチャイルドシートシステムを後ろ向きに使用してはなりません。助手席では、チャイルドシートシステムを前向きに使用してください。助手席側の警告ラベルで確認することができます。

⚠ 警告: 助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合は、助手席を完全に後方に移動し、高さを最も低い位置にする必要があります。手動の助手席は高さの調整ができません。

⚠ 警告: チャイルドシートシステムを正しく取り付けていない場合、事故や急ブレーキの際にお子様が固定されず、怪我をするおそれがあります。チャイルドシートシステムを取り付けるときは、チャイルドシートの正しい使用に関するメーカーの指示に従ってください。

KISI チャイルドシート機能

お客様のマクラーレンには、シートベルトを一時的にロックしてチャイルドシートを助手席にしっかりと固定するように設計された、助手席側のオートマチックロックシートベルト、KISIシステムが装着されています。

1. 助手席側シートベルトを完全に引き出します。KISIシステムは、シートベルトを完全に引き出さない限り作動しません。

ℹ 注意: 車両を坂道に駐車させている場合、慣性ロックによりシートベルトが引き出せない場合があります。この状態が生じた場合は、シートベルトを少し緩めてから、慣性ロックにかかるないように慎重にシートベルトを引き出します。

2. チャイルドシートメーカーの説明に従ってシートベルトをチャイルドシートに渡して、ベルトラッチをバックルにかみ合わせます。

3. 下部セクションが固定装置にしっかりと締め付けされ、上部セクションが収縮できるようにベルトを調整します。ベルトが収縮し、KISIシステムはカチッと音をたてて固定されます。

4. シートベルトを可能な限り収縮したら、上部セクションを引っ張ってシートベルトがロックされていることを確認します。

ℹ 注意: シートベルトが完全に収縮するとKISIシステムは解除され、通常のシートベルトとして装着できます。KISIシステムは一度ロックを解除すると、次にチャイルドシートを使用するときにシートベルトを完全に引き出した状態からあらためてKISIシステムを作動させる必要があります。

運転の前に ミラー

安全性

⚠ 警告: 運転の前に、道路や交通の状況を最も良く視認できるようにすべてのミラーを調整してください。

インテリアミラー



インテリアミラーの自動調光機能は自動的に作動し、手動で解除することはできません。

有効な場合、ライトセンサーが明るい光を検出すると内部ミラーが自動的に暗くなります。

リバースギアが選択された場合または周囲の光レベルが高い場合、自動調光機能は無効になります。

外部ミラー

⚠ 警告: 一部の市場では、外部ミラーに凸面鏡を採用しています。こうしたミラーは視野が広くになりますが、鏡に映った像の大きさが小さくなります。これは、対象物が見かけよりも実際には近くにあることを意味します。

後続車までの距離を誤認して事故の原因となることを防止するために、停車中に距離感をつかんでおいてください。

ステアリングホイールとセンターコンソール間のダッシュボードに外部ミラーの調整つまみがあります。

ミラーの調整



運転の前に ミラー

1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. 左側ミラーを調整する場合は調整つまみを左(1)に、右側ミラーを調整する場合は右(2)に回します。
3. 調整つまみを上下左右に動かし、ミラーを好みの位置に調整します。

外部ミラーを折りたたむ

1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. ミラーを折りたたむには、調整つまみを(3)の位置に回します。
3. ミラーを展開するには、調整つまみを(3)以外の位置に回します。

i 注意: スイッチが(3)の位置にあるときは、スイッチを動かすまでミラーは折りたたまれています。

外部ミラーの自動折りたたみ

外部ミラーは、車両がロックされると自動的に折りたたまれます。ミラーは車両のロックを解除したときではなく、ドアを開けたときに展開されます。この機能は、設定で有効または無効にできます。「自動折りたたみミラー」(4.09ページ)を参照してください。

リバース時のミラーディップ

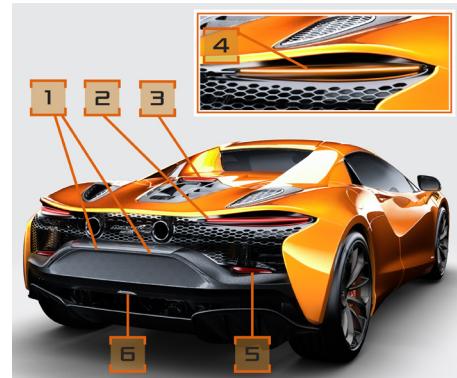
ギアをリバースにシフトしたときに、外部ミラーが下向きになるように設定することができます。これによって、車両後方の地面を確認できます。「駐車場」(4.10ページ)を参照してください。この機能は、設定で有効または無効にできます。「リバースミラーディップ」(4.10ページ)を参照してください。

熱線入りミラー

リアウインドウの熱線をオンにすると、外部ミラーの熱線もオンになります。気温が5°C(41°F)以下になったときも、これらの熱線がオンになります。「熱線入りリアウインドウ」(5.09ページ)を参照してください。

運転の前に 照明

外部照明



1. ヘッドランプハイビーム
2. ヘッドランブロービーム
3. サイド方向指示器
4. 方向指示器/デイタイムランニングランプ/
サイドランプ

- クーペ
1. ナンバープレートランプ
 2. ストップランプ/テールランプ
 3. センターハイマウントストップランプ
 4. 方向指示器
 5. リフレクター
 6. リバースランプとリアフォグランプ

- Spider
1. ナンバープレートランプ
 2. ストップランプ/テールランプ
 3. センターハイマウントストップランプ
 4. 方向指示器
 5. リフレクター
 6. リバースランプとリアフォグランプ

運転の前に 照明

ランプスイッチ

⚠️ 警告: ランプは霧が発生しても自動的に点灯することはありません。
オートマチックランプコントロールはあくまで補助機能であり、車両のランプを点灯する責任は常にドライバーが負います。

ランプスイッチはステアリングホイールと運転席ドアの間にあり、以下のポジションがあります。



(0) の位置で、デイタイムランニングランプとテールランプは消灯します。

つまみを (A) の位置に回すと、オートマチックランプコントロールがオンになります。

つまみを (1) の位置に回すとサイドランプが、(2) の位置に回すとヘッドライトが点灯します。サイドランプ警告灯がドライバーディスプレイに点灯します。

オートマチックランプコントロール

周辺光が所定のレベルより下がると、サイドランプとロービームヘッドライトが自動的に点灯します。

オートマチックランプコントロールをオンにするには、ランプスイッチを (A) の位置に回します。

ℹ️ 注意: ランプスイッチが (A) 位置に設定されているときに車両が雨を検知した場合、現在の外部ランプの照明レベルに関わらず、ロービームヘッドライトが自動的に点灯します。

ℹ️ 注意: ランプスイッチが位置 (A) のときにリアフォグランプを点灯すると、周囲の光レベルに関わらず、ロービームヘッドライトも点灯します。リアフォグランプを消灯すると、周囲の光の条件に応じて、ロービームヘッドライトも消灯します。

サイドランプ

サイドランプおよびデイタイムランニングランプは、ヘッドライトの下側に配された一連の発光ダイオードの組み合わせです。サイドランプはデイタイムランニングランプよりも低輝度で点灯します。「デイタイムランニングランプ」(1.42 ページ) を参照してください。

サイドランプ、テールランプ、ナンバープレートランプは、ランプスイッチを (1) の位置に回すと点灯します。

 ドライバーディスプレイのサイドランプ通知灯が点灯します。

ℹ️ 注意: 周辺光が所定のレベルより下がると、ロービームヘッドライトも自動的に点灯します。

ロービームヘッドライト

ヘッドライトをオンにするには、ランプスイッチを (2) の位置に回します。

 ドライバーディスプレイのロービーム通知灯が点灯します。

ℹ️ 注意: お客様のマクラーレンは、道路の左側または右側のどちらを走行しても同一のロービームヘッドライト設定が適用されます。

運転の前に 照明

ハイビームヘッドライト



ハイビームに切り替えるには、レバーを奥に押します。

 ハイビーム・ヘッドライト通知灯がドライバーディスプレイに点灯します。

ロービームに戻すには、ハイビームレバーを手前に引きます。

パッシングランプ

ハイビームレバーを手前いっぱいに引きます。

レバーを引いている間だけハイビームヘッドライトが点灯します。

 ハイビーム・ヘッドライト通知灯がドライバーディスプレイに点灯します。

オートハイビームアシスト

オートハイビームアシスト機能が有効なときは、環境条件に応じて、また、他の道路利用者に対する眩惑を防止するために、必要なときにハイビーム・ヘッドライトが自動的に解除されます。ハイビーム・ヘッドライトは、条件が満たされると自動的に再作動します。

 **警告: オートハイビームアシストの使用中も、相当の配慮や注意を払って安全運転に努める必要があります。この機能を使うことによって、ドライバーの責任が軽減されることはありません。**

この機能は、アドバンストドライバーアシスタンスシステム (ADAS) アプリで有効または無効にできます。「運転支援」(2.34 ページ)を参照してください。



この機能が有効なとき、ライト・スイッチ (A) の位置に回し、レバーを押すと、有効になります。レバーを手前に引くと、この機能が無効になります。

 **注意: オートハイビームアシスト機能は、レバーが一番手前の点滅位置にあるときは作動しません。**

 オートハイビームアシスト通知ライトがドライバーディスプレイが点灯するのは、オートハイビームアシストが有効であるが、ハイビームもロービーム・ヘッドライトも点灯していない場合です。

運転の前に 照明

 ハイビーム・ヘッドランプ通知灯がドライバー・ディスプレイに点灯するのは、オートハイビームアシストが有効で、ハイビーム・ヘッドランプが点灯しているときです。

 ロービーム通知灯は、オートハイビームアシストによってハイビームが自動的にオフになり、ロービーム・ヘッドランプがオンになったときに点灯します。

レバーを使用して、ハイビーム・ヘッドランプを手動で無効化できます。

次の要素は、オートハイビームアシストの動作に影響を与えることがあります。

- 霧、豪雨、濃霧、雪、凍結などをもたらす悪天候
- 対向車線との間に中央分離帯がある道路
- 自転車走行者など、車両からは視認しづらい道路利用者
- 起伏のある道路や曲がりくねった道路
- 暗い場所、市街地、高反射道路標識のあるエリア
- カメラの視界がステッカーで遮られている状況や、フロントガラスが汚れている、曇っているまたは凍っている状況
- 濃霧による、カメラの視界を奪う眩しい反射光

 注意: オートハイビームアシスト機能は、車速が 57 km/h (35 mph) を超えると作動し、27 km/h (16 mph) になると自動的に解除されます。

ヘッドランプ

ダイナミックベンディングライト



ヘッドランプを点灯しているときに旋回すると、ダイナミックベンディングライトはビームを調整して、進行方向をより明るく照らします。

高速道路ファンクションライティング

高速道路ファンクションライティングは、車速が事前設定したしきい値を超える場合に、ヘッドランプ照明を強くします。

運転の前に 照明

デイタイムランニングランプ

お客様のマクラーレンには、すべてのランプのスイッチがオフであっても、イグニッションスイッチをオンにすると自動的に点灯するデイタイムランニングランプがテールランプとともに装備されています。サイドランプおよびデイタイムランニングランプは、ヘッドランプの下側に配された一連の発光ダイオードの組み合わせです。デイタイムランニングランプはサイドランプよりも高輝度で点灯します。

リアフォグランプ

⚠ 警告: ランプは霧が発生しても自動的に点灯することはできません。

● 注意: リアフォグランプが作動するのは、ランプスイッチが (A) または (2) の位置にある場合のみです。



ランプスイッチの中央にあるリアフォグランプボタンを押します。

💡 ドライバーディスプレイにあるリアフォグランプ通知灯およびスイッチ内のランプが両方とも点灯します。

● 注意: ランプスイッチが位置 (A) のときにリアフォグランプを点灯すると、周囲の光レベルに関わらず、ロービームヘッドランプも点灯します。リアフォグランプを消灯すると、周囲の光の条件に応じて、ロービームヘッドランプも消灯します。

運転の前に 照明

方向指示器



左方向指示器をオンにするには、方向指示器/ハイビームレバーを下（1）に押します。

右方向指示器をオンにするには、方向指示器/ハイビームレバーを上（2）に押します。

➡ ドライバーディスプレイにある対応する通知灯が点滅します。

レバーはステアリングホイールを直進位置に戻すと、元の位置に戻ります。

左または右方向指示器をオンになると、操作中はその方向の車線逸脱警告が無効になります。
「車線ガイド」（2.36 ページ）を参照してください。

方向指示器 - 車線変更

高速道路で車線変更する際には方向指示器/ハイビームレバーを抵抗が感じられる位置まで動かします。該当する方向指示器が3回点滅します。

照明に関する詳細については「ランプスイッチ」（1.39 ページ）を参照してください。

ハザード警告灯

ハザード警告灯はイグニッションスイッチがオフの場合も作動します。ハザード警告灯はエアバッグが展開したときには安全機能として自動的に点灯します。

ハザード警告灯の操作



1. 「ハザード警告灯」ボタンを押します。
2. すべての方向指示器ランプとドライバーディスプレイの両方の方向指示器警告灯が点滅します。
3. ハザード警告灯をオフにするには、再度ハザード警告灯ボタンを押します。

運転の前に 照明

i 注意: ハザード警告灯が自動的にオンになった場合は、「ハザード警告灯」ボタンを1回押してハザード警告灯をオフにしてください。

パーキングランプ



i 注意: 両側のパーキングランプを作動させるには、左側レバーを押し下げるから押し上げます。無効にするには、左側レバーを再び押し下げるから押し上げます。

i 注意: パーキングランプはイグニッションスイッチがオフのときにのみ作動します。

1. パーキングランプをオンにするには、左側の場合は左側レバーを下に、右側の場合は上に、抵抗が感じられる位置まで押します。車両にロックがかかると、選択したパーキングランプが点灯します。
2. パーキングランプをオフにするには、左側の場合は左側レバーを下に、右側の場合は上に、抵抗が感じられる位置まで押します。すると、選択したパーキングランプがオフになります。

運転の前に ウォッシャーとワイパー

フロントウィンドウワイパー



1. フロントウィンドウワイパー停止
2. 自動ワイパー
3. 低速ワイパー
4. 高速ワイパー

i 注意: 雨天時以外はフロントウィンドウワイパーを作動させないでください。ワイパーを作動させると、ほこりなどによりワイパープレードやフロントウィンドウに思ひがけない傷が付くことがあります。

フロントウィンドウワイパーの操作

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。
2. ワイパーレバーを必要な位置に移動します。

自動ワイパー

インテリアミラーの裏側のフロントウィンドウに設置されているレインセンサーがフロントウィンドウの水滴量を計測し、最適な速度でワイパーを作動させます。

自動ワイパーを選択するには、フロントウィンドウワイパーレバーを自動ワイパー位置(2)に設定します。

ワイパーが拭き取り動作を1回行います。それ以降の拭き取り頻度は、フロントウィンドウの濡れ具合によって変わります。

自動ワイパー位置は、雨模様もしくは降雨時以外は選択しないでください。

レインセンサーの感度の調整方法については「ワイパー感度」(4.09 ページ)を参照してください。

低速ワイパー

ワイパーを低速で動作させるには、ワイパーレバーを(3)の位置に設定します。

スイッチを切るには、レバーを(1)の位置に設定します。

高速ワイパー

ワイパーを高速で動作させるには、ワイパーレバーを(4)の位置に設定します。

スイッチを切るには、レバーを(1)の位置に設定します。

シングルワイパー



1回のみの拭き取りを行うには、ワイパーレバーを短く押し下げて離します。ワイパーが1回低速動作します。ウォッシャーは作動しません。

運転の前に ウォッシャーとワイパー

フロントウィンドウウォッシャー/ワイパー



ワイパーレバーを手前に引きます。

フロントウィンドウウォッシャー/ワイパーは、レバーを引いている間低速動作します。

レバーを離すと、ワイパーはその時点の動作サイクルを完了して収納位置に戻ります。一定時間後に、ワイパーはもう1回動作してフロントウィンドウに残ったウォッシャー液を拭き取ります。車両が高速で走行している場合、ワイパーはフロントウィンドウの視界を良好にするためにさらに拭き取り動作をします。

i 注意: ウォッシャージェットの位置は車両製造時に設定されており、調整の必要はありません。不具合が発生した場合は、マクラン代理店にご相談ください。

ワイパー停止位置:

通常の停止位置に加えて、別の位置が2つあります。

車両をアウェイクモードにします。

ワイパーコントロールレバーを手前に引くと、ワイパーはレバーを引いたびに次の停止位置に移動します。

冬季用停止

ワイパーを垂直に停止させて、豪雪時期のワイパーーム損傷のリスクを減らし、積もった雪を簡単に取り除けるようにします。

サービス停止

ワイパーを斜めに停止させて、ワイパープレードを交換しやすくなります。「ワイパープレードの交換」(6.35 ページ)を参照してください。

通常停止

ワイパーをフロントウィンドウの下端に沿って水平に停止させます。

運転の前に ノーズリフト

ノーズリフト

⚠️ 警告: ドライバーディスプレイのノーズリフトアイコンがアンバー色になっている場合、またはドライバーディスプレイにノーズリフト故障メッセージが表示された場合、システムは使用できません。その場合は車両を高速では運転せず、速やかにマクラーレン代理店にご連絡ください。

ノーズリフト機能には、次のオプションがあります。

- 「ノーズリフト - 上昇」 (1.47 ページ)
- 「ノーズリフト - 下降」 (1.48 ページ)

ノーズリフトを使用すると、現在の車高に応じて車両のノーズを昇降させることができます。

ノーズの高さを上昇させることができるのは、走行速度が 50 km/h (31 mph) 未満のときだけです。60 km/h (37 mph) を超えると、ノーズは自動的に下降します。

i 注意: サスペンションは長時間上げた状態を保つことができますが、時間が経つと緩んで下がる可能性があります。

ノーズを長時間上昇したままの位置にしておくと、次にエンジンまたは eMotor を始動したときにシステムがリセットされ、ノーズが通常の車高に戻る場合があります。

走行中にノーズリフトを使用した場合、ステアリングの感覚がわずかに変化する場合があります。これは異常ではなく、車両の動作に影響を与えるものではありません。

i 注意: ノーズリフトは、エンジンまたは eMotor がオンの場合にのみ使用できます。

i 注意: 発進モードがアクティブの場合、ノーズリフトは使用できません。

ノーズリフト - 上昇

⚠️ 警告: ノーズリフトをジャッキシステムとして使用しないでください。ノーズリフトを使用して車両の底部に入ると、重傷を負う可能性があります。

⚠️ 警告: 車両を運転する前に、必ずドライバーディスプレイのノーズリフトアイコンを確認してください。

i 注意: 車両が通常の車高の場合、車両ノーズの上昇オプションのみ使用できます。

i 注意: ステアリングホイールを過度に回すと、ノーズリフトの開始が遅れます。



車両のノーズを上昇させるには、ダッシュボードのボタンを押します。



ノーズ高の変更を確認する上昇音が聞こえ、ドライバーディスプレイのノーズリフトアイコンが点滅します。

ノーズの上昇中にエンジンまたは eMotor をオフにすると、システムは停止し、エンジンまたは eMotor を再びオンにしたときにのみ上昇を継続します。

上昇から下降に切り替えるには、ダッシュボードのボタンを押します。ノーズは下降を始め、ドライバーディスプレイに変更を確認するアイコンが表示されます。

運転の前に ノーズリフト

ノーズが完全に上昇すると、確認音が鳴り、ノーズが上昇位置を維持している間は、ドライバーディスプレイのノーズリフトアイコンが点灯します。

ノーズリフト - 下降

! **警告:** 車両を運転する前に、必ずドライバーディスプレイのノーズリフトアイコンを確認してください。

i **注意:** 停車中にノーズを下げるには、エンジンまたはeMotorがオンになっている必要があります。

i **注意:** ノーズが上昇状態のときは、車両のノーズを下降させるオプションのみ使用できます。

i **注意:** ノーズの下降中は、車両を高速で運転しないでください。ノーズが自動下降を開始すると、下降音が鳴ります。



車両のノーズを下降させるには、ダッシュボードのボタンを押します。

 ノーズ高の変更を確認する下降音が聞こえ、ドライバーディスプレイのノーズ下降アイコンが点滅します。

下降から上昇に切り替えるには、ダッシュボードのボタンを押します。ノーズは上昇を開始し、ドライバーディスプレイに変更を確認するアイコンが表示されます。

ノーズが下降すると、確認音が鳴り、ドライバーディスプレイの車両下降アイコンが消灯します。

McLaren 

運転操作装置

始動および走行	2.04
車両の電気的状態.....	2.04
イグニッションのスイッチをオンにする.....	2.05
インストルメントと警告灯.....	2.05
シームレスシフトギアボックスのギア位置.....	2.07
パーキングブレーキ.....	2.07
ブレーキペダル.....	2.09
エンジンの始動/停止.....	2.09
走行.....	2.12
排気ガス温度監視.....	2.13
パーキングセンサー.....	2.14
リアビューカメラ (RVC)	2.15
360 パーキングアシスト.....	2.16
シームレスシフトギアボックス	2.18
概要.....	2.18
ギア位置.....	2.18
アクセルペダル位置.....	2.19
マニュアル/オートマチックモード.....	2.20
ハンドリングとパワートレインコントロール	2.22
ハンドリングコントロール.....	2.22
パワートレインコントロール.....	2.23
モード復元.....	2.25
走行安全システム	2.26
概要.....	2.26
アンチロックブレーキシステム (ABS)	2.26
ブレーキアシストシステム.....	2.27
ブレーキディスクワイピング.....	2.27
ヒルホールドコントロール.....	2.28
E デフ.....	2.28
電子制御ブレーキ予備充填.....	2.28
エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)	2.29
タイヤ空気圧監視システム (TPMS)	2.31
運転支援.....	2.34
発進コントロール	2.41
概要.....	2.41
発進コントロールの使用.....	2.42
ホイール・スピンドル発進	2.45
概要.....	2.45
ホイール・スピンドル発進の使用.....	2.45
クルーズコントロール	2.46
概要.....	2.46
クルーズコントロールの使用.....	2.46
クルーズコントロールの取り消し.....	2.47
クルーズコントロールの速度を上げる.....	2.48
クルーズコントロールの速度を下げる.....	2.48
保存した速度の呼び出し.....	2.49
アダプティブクルーズコントロール (ACC)	2.50
概要.....	2.50
アダプティブクルーズコントロール (ACC) の使用.....	2.50
アクティブスピードリミッター (ASL)	2.55
速度上限の設定.....	2.55
アクティブスピードリミッター (ASL) のキャンセル.....	2.56
慣らし運転	2.57
慣らし運転.....	2.57
標準/道路での使用.....	2.57
サーキットでの使用.....	2.58
給油	2.59
燃料の給油.....	2.59

運転操作装置

推進燃料.....	2.61
冬季の走行.....	2.62
冬季の走行.....	2.62

運転操作装置 始動および走行

車両の電気的状態

車両には、次のいずれかのステータスが装備されます。

i 注意: ロック状態を除き、以下のどの状態からでもエンジンを始動することができます。車両がスリープモードにあるときは、「START/STOP (始動/停止)」ボタンを2秒以上押す必要があります。

i 注意: 車両はバッテリーの残量が少なくなっていることを検知すると、エネルギーを節約するためにアウェイクモードになります。イグニッションの使用は停止されますが、クランкиングは行うことができます。これは、エンジンを始動して高電圧 (HV) バッテリーの充電を開始できるようにするためです。

ロック

ローパワーモードにロックされます。

スリープ

ローパワーモードになりますが、ロックはされません。

アウェイク

スリープモードの状態でドアを開けるか「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押すと、この状態になります。



イグニッション

アウェイクモードのときに「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押すとこの状態になります。

ウインドウヒーター/エアコン調節ダイヤルが操作できるようになります。ドライバーディスプレイのメニューとマクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) が使用可能です。

i 注意: イグニッションオンの状態にはタイマーアウトはありません。バッテリーが上がり可能があるので注意してください。

エンジン始動

「エンジンの始動/停止」 (2.09 ページ) を参照してください。

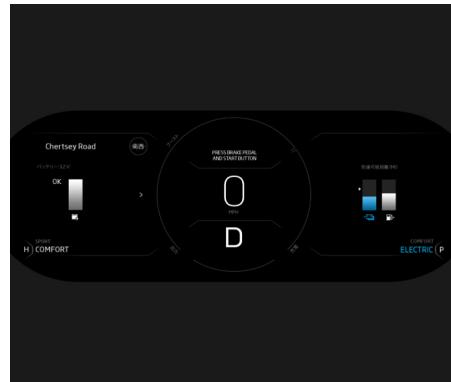
運転操作装置 始動および走行

イグニッションのスイッチをオンにする



1. リモコンキーが車内にあることを確認してください。
2. 車両を始動せずにイグニッションスイッチをオンにするには、ブレーキペダルを踏まずに「始動/停止」ボタンを押します。

i 注意: 車両がアウェイクモードのときは、ブレーキペダルを解放して「START/STOP (始動/停止)」ボタンを2回押します。



3. イグニッションスイッチがオンになり、油温計、水温計、燃料計が作動し、セルフテストのためにいくつかの警告灯が点灯します。ドライバーディスプレイが完全に点灯します。

インストルメントと警告灯

警告灯は点灯時の色によって分類されます。

- 赤またはアンバー色の警告灯-故障が検知されたことを示します。赤ランプによって表示された故障は、アンバー色による表示よりも重要度の高い故障です。
- 青または緑色の通知灯-システムや機能の電源がオンになり動作中であることを示します。

警告灯

	「タイヤ空気圧監視システム (TPMS)」 (2.31 ページ)
	「シートベルト」 (1.29 ページ)
	「リアフォグランプ」 (1.42 ページ)
	「補助拘束装置 (SRS)」 (1.31 ページ)
	「エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)」 (2.29 ページ)
	「車線ガイダンス」 (2.36 ページ)

運転操作装置

始動および走行

	「エンジン警告灯」 (2.12 ページ)
	「アンチロックブレーキシステム (ABS) 」 (2.26 ページ)
	「ブレーキペダル」 (2.09 ページ) 「パーキングブレーキ」 (2.07 ページ)
	オイル圧低下警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。
	エンジンクーラント過熱警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。
	バッテリー充電切れ警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。
	エレクトロニックスタビリティコントロールシステム故障警告灯。点灯した場合は、故障の状態に合わせた運転を行ってください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

	燃料残量低下警告灯。この警告灯が点灯した場合は、燃料は 10% しか残っていません。できるだけ早く燃料を補給してください。「燃料の給油」 (2.59 ページ) を参照してください。
	燃料残量低下警告灯。この警告灯が点灯した場合は、燃料は 5% しか残っていません。できるだけ早く燃料を補給してください。「燃料の給油」 (2.59 ページ) を参照してください。
	一般障害警告灯。これが点灯すると、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。安全にすみやかに車両を停止し、直ちにマクラーレン正規販売店にご連絡ください。
	一般障害注意灯。これが点灯すると、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。安全にすみやかに車両を停止し、直ちにマクラーレン正規販売店にご連絡ください。

通知灯	
	「方向指示器」 (1.43 ページ)
	「オートハイビームアシスト」 (1.40 ページ)
	「ハイビームヘッドライト」 (1.40 ページ)
	「オートハイビームアシスト」 (1.40 ページ)
	「ランプスイッチ」 (1.39 ページ)
	「オートハイビームアシスト」 (1.40 ページ)
	「ランプスイッチ」 (1.39 ページ)
	「方向指示器」 (1.43 ページ)

運転操作装置 始動および走行

ドライバーディスプレイの概要

ドライバーディスプレイは設定を変更可能で、さまざまな情報と機能を表示するように設定できます。左側カルーセルメニューは、左側コントロールレバーを使用して設定します。「カルーセルメニュー」(3.05 ページ)を参照してください。

ドライバーディスプレイには、選択したハンドリング・モードおよびパワートレイン・モードに対応するように設計されたさまざまなレイアウトがあります。「ディスプレイウインドウ」(3.21 ページ)を参照してください。不要なコンテンツは、左側コントロールレバーを奥に押したままにしてステルスマードを有効にすることで非表示にできます。

ドライバーディスプレイの詳細については、「インストルメント」(3.01 ページ)を参照してください。

シームレスシフトギアボックスのギア位置

ギアボックスはフルオートマチックまたはマニュアルモードで動作します。ドライバーがマニュアルモードを選択しない限りオートマチックモードが選択されます。「ギア位置」(2.18 ページ)および「マニュアル/オートマチックモード」(2.20 ページ)を参照してください。マニュアルモードがアクティブのときは、ギアチェンジはギアシフトパドルを用いて行います。「ギアシフトパドル」(2.21 ページ)を参照してください。

パーキングブレーキ

i 注意:急な下り坂の斜面に駐車する場合は、フロントホイールを縁石の方向に向けます。急な上り坂の斜面に駐車する場合は、フロントホイールを縁石の反対方向に向けます。

パーキングブレーキの状態

(P) パーキングブレーキ作動表示灯が点滅しているときは、パーキングブレーキの作動/解除がされなかったことを意味します。この問題を解決するには、再度パーキングブレーキの作動/解除操作を行ってください。「パーキングブレーキの操作」(2.08 ページ)を参照してください。

運転操作装置 始動および走行

パーキングブレーキの操作



パーキングブレーキを作動させるには、スイッチを外側に引きます。これで、ドライバーディスプレイの赤色パーキングブレーキ作動ステータスランプが点灯します。

注意: 車両のパーキングブレーキは電子式であり、パーキングブレーキをかけたり外したりするときはスイッチを軽い力で切り替えるだけです。



パーキングブレーキを解除するには、ブレーキペダルを踏み込んだままパーキングブレーキスイッチを内側に押し込みます。これで、ドライバーディスプレイの赤色パーキングブレーキ作動ステータスランプが消灯します。

警告: **パーキングブレーキを手動で解除した場合、車両が動き出すことがあります。**

注意: パーキングブレーキが手動で解除されない場合、前進および後退ギアを入れて車両を走行させると、以下の条件が満たされた場合に限り、自動的に解除されます。

- 運転席ドアが閉じられている
- 運転席シートベルトが締結されている

注意: パーキングブレーキを手動でかけなかった場合、エンジンを切れば自動的に作動します。

注意: パーキングブレーキはイグニッションがオンになっていないと解除できません。パーキングブレーキは、車両がスリープモードのときを含め、イグニッションの状態にかかわらず作動させることができます。

注意: 車両走行中にフットブレーキが完全に故障した場合でも、パーキングブレーキをかけることにより減速することができます。

注意: 電気系統の故障またはバッテリーの放電によりパーキングブレーキを解除できない場合は、「12VバッテリーまたはHVバッテリーが放電した車両を回収する方法」(6.16 ページ)を参照して、マクラン代理店にお問い合わせください。

注意: 電気系統の故障またはバッテリーの放電によりパーキングブレーキが作動しない場合は、付属の輪止めを使用して車両を停車させてください。「輪止め」(6.15 ページ)および「12VバッテリーまたはHVバッテリーが放電した車両を回収する方法」(6.16 ページ)を参照して、マクラン代理店にお問い合わせください。

運転操作装置 始動および走行

ブレーキペダル

! **警告:** 運転席のフットウェルには物を置かないでください。フロアマットやカーペットが適切に固定されており、ペダル操作の妨げにならないことを確認してください。ペダルの間に物が挟まった場合、ブレーキやアクセルの操作ができず事故につながるおそれがあります。

! **警告:** ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください。足を乗せているとブレーキがオーバーヒートして制動力が低下し、事故につながるおそれがあります。

! **警告:** 走行中にブレーキ警告灯が点灯した場合は、安全に速やかに停車し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

ブレーキディスクおよびパッド

! **警告:** ブレーキパッドを新品に交換した場合は、なじむまで一定の時間がかかります。交換後 1,000 km (625 マイル) までは急ブレーキが必要になるような走行は避けてください。

ブレーキディスクおよびパッドの摩耗は、運転スタイルや走行条件によって変わります。

ブレーキ警告灯

(P) ブレーキ警告灯はイグニッションスイッチをオンにするとシステムテストとして点灯します。それ以外のときにブレーキ警告灯が点灯した場合は故障を示します。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

エンジンの始動/停止

! **警告:** 閉ざされた空間に車両があるときは、決してエンジンをかけないでください。排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと意識を失い死に至るおそれがあります。

i **注意:** エンジンの始動時にアクセルペダルを踏み込まないでください。

車両の始動

1. リモコンキーが車内にあることを確認します。



2. ブレーキペダルを踏み、「始動/停止」ボタンを押して放すと車両が始動します。

運転操作装置 始動および走行

電動モードでの始動

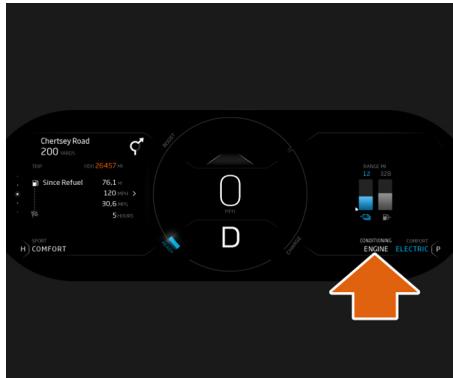
車両は、始動時にデフォルトで電動パワートレインモードおよびコンフォートハンドリングモードになります。

ブレーキペダルを踏み込み、「始動/停止」ボタンを押します。ドライバーディスプレイの「準備完了」インジケーターは、電力が使用可能であることを示します。



- 車両が急勾配を上っている。
- トランスマッision障害が発生している。
- HVバッテリーの充電状態が低下している。
- HVバッテリーの温度が低すぎるか高すぎる。
- エンジンを効率的に使用するように触媒を加熱する。
- エンジン・クーラント温度が低すぎるか高すぎる。
- エンジンが 22 日以上作動していない。
- 最初の始動後、エンジンが十分な時間作動していない。
- 給油後の燃料蒸気除去が必要である。

エンジンが触媒を暖め始めると、エンジンのコンディショニングがドライバーディスプレイに表示されます。



低温時にエンジンを始動した場合、触媒が暖まれば、エンジンはホイールに駆動力を供給します。ただし、トルクはeMotorによって発生するトルクに制限され、HVバッテリーレベルは維持されます。パワートレイン・モードの変更を推奨するメッセージが表示されます。

別のパワートレインモードに変更すると、車両の複合ハイブリッド電源に接続でき、HVバッテリーが充電されます。

ハイブリッドモードでの始動

車両は、スロットル入力、高電圧 (HV) バッテリーの充電状態、触媒温度など、さまざまな条件に応じて、次のハイブリッド・モードのいずれかで作動します。

i 注意: 車両が電動モードになっている場合に、次の特定の条件下でエンジンが始動する場合があります。

- 車速が約120km/h (75 mph) を超えている。
- トランスマッision・オイルの温度が高すぎる。

運転操作装置 始動および走行

シリーズ・ハイブリッド	車両はeMotorによって駆動し、エンジン出力は発電に使用します。
パラレル・ハイブリッド	車両はエンジンとeMotorの両方で駆動します。

ハイブリッドモードで車両を始動するには:

- ブレーキペダルを踏まずに「始動/停止」ボタンを押します。
- パワートレインコントロールを使用して、使用するパワートレインモードを選択します。「パワートレインコントロール」(2.23ページ)を参照してください。
- ブレーキペダルを踏み込み、「始動/停止」ボタンを押します。

- i 注意:** エンジンが始動し、触媒が加熱されます。この期間中:
- eMotorによってのみ駆動されます。エンジンは出力を供給しないか、スロットル入力に応答しません。
 - トランスマッisionは自動のままでです。
 - タコメーターはアイドル状態のままでです。

この状態の間は、進捗バーがパワートレイン・モード・インジケーター上に表示され、エンジンのコンディショニングがドライバーディスプレイに表示されます。



車両の停止

- ブレーキペダルを踏みます。
- ニュートラルを選択します。



- 「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押します。エンジンが停止し、車両はアウェイクモードになります。「車両の電気的状態」(2.04ページ)を参照してください。イモビライザーがアクティブになります。

- i 注意:** エンジンが停止すると、パーキングブレーキは自動的にかかります。自動パーキングブレーキは、運転席ドアを開けたままパーキングブレーキスイッチをオフの位置で押し続けると無効にすることができます。

運転操作装置 始動および走行

走行

発進

 **警告: 運転中は決して車両をオフにしないでください。**ステアリングやフット・ブレーキのアシスト機能が働かなくなります。ステアリングやブレーキの操作に大きな力が必要になるため、車両がコントロール不能になり事故につながるおそれがあります。

 **警告: 強めの力で発進する場合は、最大限の安全が確保され、交通規則に違反しない状況でのみ行ってください。**

 **注意:** エンジンが標準運転温度になるまではエンジン回転数をあまり上げないように走行してください。

 **注意:** 車速が約 15 km/h (9 mph) に達するとドアがロックされます。オートロックはセンターディスプレイで設定できます。「自動ドアロック」(4.13 ページ)を参照してください。

 **注意:** 駐車の際に切り返し操作が多い場合、ステアリングアシストは少し硬めに感じるかもしれません。これは正常であって、オーバーヒートからステアリングシステムを保護するためです。

 **注意:** 冷機状態から始動した場合、エンジンアイドリングの回転数が上昇し、ギアエンジンが行われる回転数が暖機時よりも高くなる可能性があります。触媒コンバーターが短時間で作動温度に達し、エンジン排出ガスを低減します。

1. エンジンが動作中または eMotor がオンの状態で、ブレーキペダルを踏み続けます。
2. ドライブギアまたはリバースギアを選択するか、ギアシフトパドルを用いてシフトアップを行います。詳しい説明は「ギアシフトパドル」(2.21 ページ)および「ギア位置」(2.18 ページ)を参照してください。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチを解除します。ドライバーディスプレイの赤色ステータス・ランプが消灯します。
4. アクセルペダルを慎重に踏み込みます。

 **警告: パーキングブレーキを手動で解除した場合、車両が動き出すことがあります。**

 **注意:** パーキングブレーキが手動で解除されない場合、前進および後退ギアを入れて車両を走行させると、以下の条件が満たされた場合に限り、自動的に解除されます。

- すべてのドアを閉めている
- 運転席シートベルトが締結されている

エンジン警告灯

 エンジン警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、故障がなければエンジンを始動するとすぐに消灯します。

走行中にこの警告灯が点灯し、「エンジン・システムの故障」がドライバーディスプレイに表示された場合は、エンジン・マネージメントの故障が検出されて、エンジン性能が低下する可能性があります。安全に速やかに車両を停止し、マクラーレン代理店にご連絡ください。

エンジン警告灯が点滅している場合は、エンジン不着火が発生したことを示しており、触媒コンバーターが損傷するおそれがあります。警告灯の点滅が止まるまでエンジン回転数と負荷を下げ、中速度で走行を続けてください。速やかにマクラーレン代理店にご連絡ください。

フェイルセーフモード

車両またはシステム性能を制限しないと車両にそれ以上の損傷が生じる可能性のある不具合を車両システムが検知すると、フェイルセーフモードが自動的に作動します。このモードで運転する場合は注意が必要です。直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。

経済走行

燃費を改善するには、以下のことに気をつけてください。

- 停止した状態から走行を開始するときはゆっくりと、滑らかに加速してください。

運転操作装置 始動および走行

- マニュアルモードではできる限り早めにシフトアップし、エンジンが高回転になるのを避けてください。



シフトアップで最大限の省燃費性能を維持できるときは、ギアシフトインジケーター (GSI) が点灯します。

i 注意: 市場によっては利用可能でない場合があるので、マクラーレン代理店にご相談ください。

- エンジンに高い負荷をかけたり極端に高回転にするのを避けてください。
- 不要時はエアコンのスイッチを切ってください。
- 渋滞しやすい場所の走行は避けてください。
- 全体的な道路や交通状況に合った運転スタイルを身につけてください。アクセルやブレーキをゆっくりと、滑らかに操作できるように時間に余裕を持たせてください。

排気ガス温度監視

車両は常時、排気ガス温度を監視し、触媒コンバーターに過熱により生じる損傷が起こらないようにしています。

過剰な排気ガス温度が検出されると、ドライバーディスプレイに警告が表示されます。

このメッセージを確認したら、直ちに車両の速度を落としてください。高いエンジン回転数と高いエンジン負荷（フルスロットル）を伴う車両操作を中断し、排気ガスの温度が下がるのを待ってください。このメッセージは温度が下がるまで点灯を続けます。

排気ガス温度が過剰なレベルのまま下がらないと、別の警告が表示され、フェイルセーフモードが起動します。車両を再度始動するまで、エンジン性能が制限されます。

i 注意: 触媒コンバーターの過熱警告は、通常の走行中に表示されるることはほとんどなく、極端な運転条件の結果起こります。高い排気ガス温度は例えば、長時間のサーキット走行、長時間高回転を維持し続けること、スロットル操作を急激に何度も変化させることなどによって引き起こされることがあります。

i 注意: 高い排気ガス温度は触媒コンバーターに損傷を引き起こす可能性があるので、慎重な運転を行うことで避けなければなりません。

警告が引き続き表示される場合はマクラーレン代理店にご連絡ください。

運転操作装置 始動および走行

パーキングセンサー



パーキングセンサーは、低速での運転操作時に障害物があるとドライバーに警告します。このシステムはフロントバンパー内の4個の超音波センサー、リアバンパー内の4個の超音波センサーで構成されています。

マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）スピーカーからは、障害物がある場所を示すために、音が局所的に鳴ります。複数の物体が検出されると、複数のスピーカーが作動してその位置を示します。

エンジン作動中にドライブが選択されている場合、フロントパーキングセンサーは自動的にオンになります。リアパーキングセンサーは、リバースギアを選択すると自動的に作動します。パーキングセンサーボタンの周囲のランプがアンバー色で点灯する場合、パーキングセンサーが作動していることを示します。

フロントパーキングセンサーは、車両のギアがニュートラルに入っており、システムを手動でオンにした場合に、有効にできます。

フロントバンパーの中央のセンサーの検知範囲は、約1m（3フィート）です。リアバンパーの中央のセンサーの検知範囲は、約1.5m（5フィート）です。

検知範囲内に障害物があると、断続的なトーンが鳴ります。車両が障害物に近づくと、トーンの周期が短くなります。センサーから障害物までの距離が約40cm（1フィート6インチ）以下になると、トーンが連続音になります。

警告: パーキングセンサーは、子供や動物などの動く物は至近距離まで近づかないと検知することができません。常に警戒を怠らず、必ずミラーを使用し、振り向いて後方を確認しながら操作を行ってください。

i 注意: パーキングセンサーはあくまでも目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。駐車センサーは細い柱などの障害物や、縁石など、地面に近い小さな障害物を検出できない場合があります。常に周囲を認識し、注意して運転してください。

リアパーキングセンサーはリバースギア以外にシフトすると自動的にスイッチがオフになります。車速が26km/h（16mph）を超えてドライブが選択されている場合、フロントパーキングセンサーは自動的にオフになります。ボタンの中央を押して、パーキングセンサーを手動で起動している場合、車速が20km/h（12mph）に減速されると、フロントパーキングセンサーが再び起動されます。

パーキングセンサーは、ボタンの中央を長押しすると手動でオフにできます。センターインフォティメントタッチスクリーンからパーキングセンサーの近接表示を解除するには、ドライブまたはニュートラルの状態でボタンの中央を押します。リバースギアが選択されている場合、パーキングセンサーを手動でオフにすることはできません。手動でオフにすると、ボタンの周りのライトが消灯します。

システムを手動でオフにしても、リバースギアを選択するとフロントとリアのセンサーがオンになり、もう一度ドライブまたはニュートラルを選択するまで解除されません。

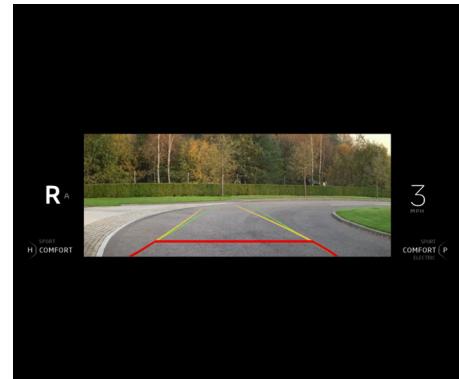
運転操作装置 始動および走行

故障が見つかると、システムが無効になり、ドライバーディスプレイにメッセージが表示され、パーキングセンサーボタンのランプが点滅します。センサーに泥や氷、雪などが付着している場合は取り除いてください。問題が解決しない場合はマクラーレン代理店にご連絡ください。

リアビューカメラ (RVC)



リアビューカメラ (RVC) は、リアバンパーの中央に取り付けられています。



機能をアクティブにすると、ライブ映像がドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: ビデオ画像がぼやけたり不鮮明な場合は、水で湿らせた柔らかい布でレンズを慎重に清掃してください。

ライブビデオ画像には、ガイドラインが表示されます。このガイドラインは車両後部と障害物の距離を測るためのガイドとして使用できます。これらのガイドラインは、「アシスト」設定メニューでオンまたはオフにできます。「駐車場」(4.10 ページ)を参照してください。

運転操作装置 始動および走行

i 注意: リアビューカメラはあくまでも目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。リアビューカメラは、周辺光や気象条件によっては一部の障害物を表示しない場合があります。

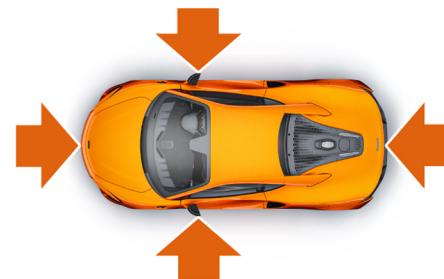
RVCは、リバースギアを選択すると自動的にオンになり、前進ギアを選択してから10秒後に自動的にオフになります。また、前進車速が10 km/h (6 mph) を超えるか車両が10 m (3 フィート 3 インチ) 走行した後に直ちにオフになります。



Rear Cross Traffic Alert (RCTA)が有効になっている場合、ドライバーディスプレイのRearView Camera (RVC)ライブ映像に赤色のインジケーターが表示されます。これは、車両の左側(1)と(2)の一方または両方から危険が迫っていることを示します。

詳しくは、「リア・クロス・トラフィック・アラート」(2.39 ページ)を参照してください。

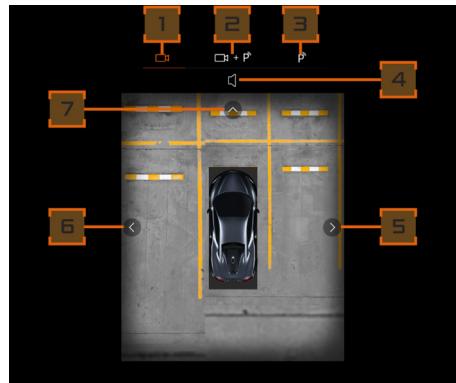
360 パーキングアシスト



360 パーキングアシストカメラは各外部ミラーの下側、フロント・バンパーおよびリア・バンパーの中央に取り付けられています。

360 パーキングアシストは、車両の周囲360度ビューのライブ映像をセンターインフォディメントタッチスクリーンに表示します。

運転操作装置 始動および走行



1. 360度ビデオのみのビュー。
2. 360度ビデオとパーキングセンサーを組み合わせたビュー。
3. パーキングセンサーのみのビュー。
4. パーキングセンサーの音を有効または無効にします。
5. メインビュー（1）または（2）に加えて表示される右側カメラの詳細ビュー。
6. メインビュー（1）または（2）に加えて表示される左側カメラの詳細ビュー。
7. メインビュー（1）または（2）に加えて表示されるフロントカメラの詳細ビュー。

i 注意: ビデオ画像がぼやけていたり不鮮明な場合は、水で湿らせた柔らかい布でカメラのレンズを慎重に清掃してください。

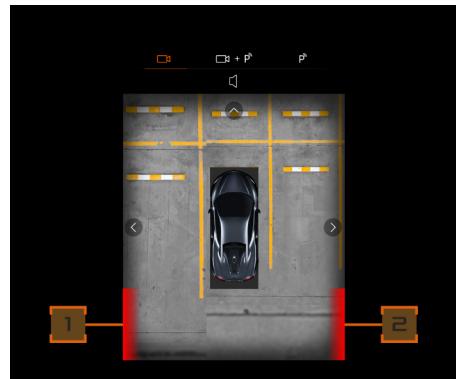
360パーキングアシストは、リバース・ギアを選択すると作動します。パーキング・センサー・ボタンの周囲のランプがアンバー色で点灯する場合、360パーキングアシストとパーキング・センサーが作動していることを示します。

360パーキングアシストのビジュアル・ディスプレイでは、パーキング・センサー・ボタンを短く押すと、オンとオフを手動で切り替えることができます。ボタンを長押しすると、システムと4つのフロントパーキングセンサーがオフになります。オフにすると、ボタンの周りのライトが消灯します。

i 注意: 外部ミラーが格納されている場合、またはドアが開いている場合、360パーキングアシストは有効にならず、センターランプがオフになります。センターランプがオフの場合は、タッチスクリーンのオプションはグレー表示されます。

i 注意: 360パーキングアシストはあくまで目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。

360パーキングアシストを手動で無効にすると、リバース・ギアを選択したときに再びオンになり、ドライブまたはニュートラルを再度選択するまでオンのまになります。また、パーキングセンサー・ボタンを短く押しても再びオンにすることができます。



Rear Cross Traffic Alert (RCTA) が有効になっている場合、360パーキングアシストライブ映像に赤色のインジケーターが表示されます。これは、車両の左側（1）と右側（2）の一方または両方から危険が迫っていることを示します。

車両を後退しているときにRCTAシステムが危険の兆候を検知した場合、警告音と一緒に赤色のインジケーターが表示されます。

詳しくは、「リア・クロス・トラフィック・アラート」（2.39ページ）を参照してください。

運転操作装置

シームレスシフトギアボックス

概要

ギアボックスは8速デュアルクラッチシームレスシフトギアボックスを採用し、オートマチックまたはマニュアルモードで動作します。

ドライバーがマニュアルモードを選択しない限りオートマチックモードが選択されます。「マニュアル/オートマチックモード」(2.20ページ)を参照してください。

オートマチックモードでは、ギアボックスは次の条件に基づき最も適切なギアを選択し、ドライバーの運転スタイルに合わせてシフトポイントを自動的に最適化します。

- パワートレイン・コントロール・モード。
「パワートレインコントロール」(2.23ページ)を参照してください。
- 「アクセルペダル位置」(2.19ページ)。
- 車速。
- ブレーキ踏力。

i 注意: エンジンやギアボックスが暖まるまでは、高回転走行や高負荷走行は行わないでください。

滑りやすい路面を走行する際にリアホイールを長時間スピンさせないでください。ドライブトレーンが損傷するおそれがあります。

ギア位置



ギア位置ボタンのいずれかを押してください。

i 注意: ドライブ、ニュートラル、リバースのうちどれが選択されているかを示すため、ボタンの文字が赤く点灯します。

ドライブ

D 8速前進ギアをすべて利用できます。マニュアルモードが選択されていない限り、ギアチェンジはオートマチックになります。

ドライブを選択してブレーキを放すと、車両はアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き始めます。これにより、駐車時や渋滞時の運転操作が楽になります。

ニュートラル

N ギアはかみ合っていません。ブレーキを放すと、車両を押したり、けん引したり自由に動かすことができます。ニュートラルの詳しい使用法は「回収のためのけん引」(6.47ページ)を参照してください。

ニュートラルはどの速度でも「N」ボタンを押すことで選択できます。「D」ボタンを押すか、ギアシフトパドルを用いてシフトを開始し、車速に適切なギアを選択します。

リバース

R 通常は、車両が静止している状態でリバースギアを選択します。駐車操作時にドライブからリバースにすればやく変更し、再びドライブに戻すといった操作を繰り返し行う必要がある場合、10 km/h (6 mph) 以下の速度であれば走行したままリバースまたはドライブにギアチェンジすることができます。

i 注意: 速度が10 km/h (6 mph) 以上のときにリバースまたはドライブにチェンジした場合、トランスミッションはセルフプロテクション機能によりニュートラルに入ります。

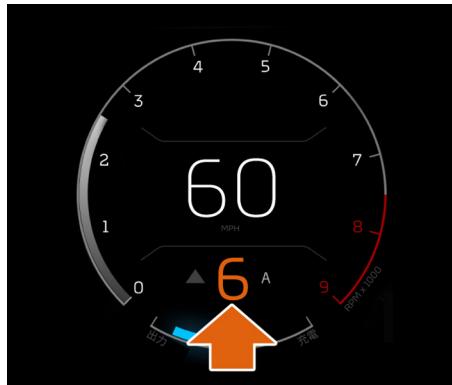
10 km/h (6 mph) 以下の速度で走行中は、「N」ボタンを押すことによってニュートラルを選択できます。

運転操作装置

シームレスシフトギアボックス

リバースを選択してブレーキを放すと、車両はアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き始めます。これにより、駐車時の運転操作を楽に行うことができます。

リバースが選択されている場合、eMotorによってのみ駆動されます。エンジンはアイドリング状態でのみオンのままになることがあります。



選択したギア（マニュアルモード）またはギア位置（オートマチックモード）がドライバーディスプレイに表示されます。



警告: 障害を通知するために、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。障害発生時には、状況に合わせた運転を行い、常に車速に気を配ってください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。



注意: システムに通信障害が発生した場合は、ギア位置は表示されません。障害を通知するために、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。障害発生時には、状況に合わせた運転を行い、常に車速に気を配ってください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

アクセルペダル位置

ドライバーの運転スタイルに応じ、シームレスシフトギアボックスのギアチェンジのパターンが変わります。

アクセルペダルを軽く踏むドライバーの場合は、低めのエンジン回転数でシフトアップが行われます。アクセルペダルを強く踏むドライバーの場合は、高いエンジン回転数でシフトアップが行われます。

キックダウン

キックダウンは自動モードの場合、迅速な加速を達成するよう設計されています。

抵抗が感じられる点からさらにアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、ペダルがカチッとなるのが感じられます。ギアボックスが即座に選択可能な最低ギアにシフトダウンし、最大加速が行われます。ペダルから力を抜くとキックダウンが終了し、通常のギアチェンジパターンに戻ります。



注意: ペダルを緩く踏んだ場合でも、車速によってはギアボックスがシフトダウンすることがあります。

運転操作装置 シームレスシフトギアボックス

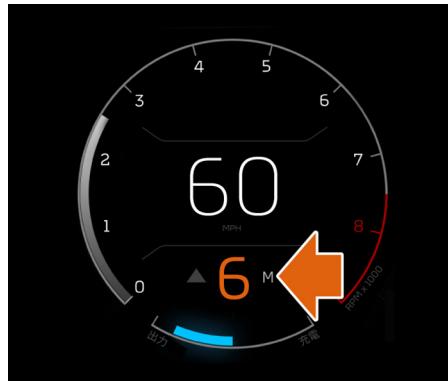
マニュアル/オートマチックモード



i 注意: 電動モードまたはコンフォートパワートレインモードでeMotorのみ駆動されている場合、マニュアルモードは利用できません。マニュアルモードは、車両がハイブリッドモードにあり、触媒が加熱されているときにも利用できません。

マニュアルモードを選択するには、「マニュアル」ボタンを押します。

2.20

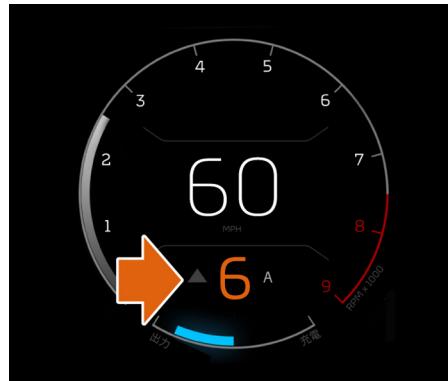


ギアボックスモードインジケーターには、Mと現在選択されているギアが表示されます。すべての前進ギアチェンジは、ギアシフトパドルを使用して行います。「ギアシフトパドル」(2.21ページ)を参照してください。

ギアシフトモード (PSC) はインジケーターで、最適な性能を維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

設定オプションについては「パフォーマンス」(4.10ページ)を参照してください。

トラックパワートレインモードまたはハンドリングモードを選択すると、シフトライトが表示されます。「シフトライト」(3.02ページ)を参照してください。



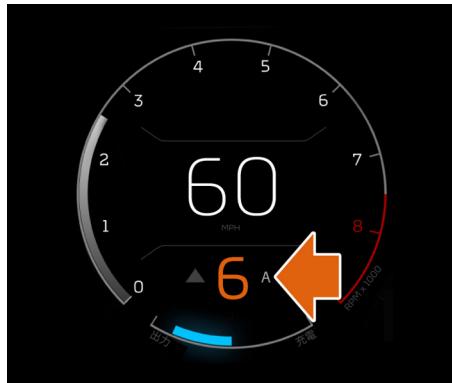
マニュアルモードで省燃費走行時には、シフトアップを行うことで最適な省燃費性能が維持できる場合にギアシフトインジケーター (GSI) が点灯します。要求される加速または原則がより高いギアに合わない場合は、GSIは点灯しません。「経済走行」(2.12ページ)を参照してください。

i 注意: 市場によっては利用可能でない場合があるので、マクラーレン代理店にご相談ください。

再度「MANUAL (マニュアル)」ボタンを押すとオートマチックモードに戻ります。

運転操作装置

シームレスシフトギアボックス



ギアボックスモードインジケーターにAと表示されます。ギアチェンジはすべて自動的に行われますが、ギアシフトパドルを操作するとギアボックスは一時的にマニュアルモードになります。このモードは、ドライバーが8秒以内にマニュアルギアチェンジを続けている間アクティブになります。ギアボックスモードインジケーターにA/Mと表示されます。「ギア位置インジケーター」(3.22ページ)を参照してください。

i 注意: マニュアルギアチェンジを行わずに8秒間が経過すると、ギアボックスはオートマチックモードに戻ります。

ギアシフトパドル



シフトアップするには、右パドルを手前に引きます。シフトダウンするには、左パドルを手前に引きます。現在のギア位置がギア位置ディスプレイに表示されます。「ギア位置インジケーター」(3.22ページ)を参照してください。

i 注意: 一体型パドルとセンターピボット構造により、どちらのパドルを使用してもシフトアップ、シフトダウンができます。上述の方法以外にも、左パドルを押すことによってシフトアップ、右パドルを押すことによってシフトダウンすることができます。

ギアシフトパドルは選択したハンドリングおよびパワートレインモードに関係なく動作します。また、ギアチェンジの際にアクセルペダルを離す必要もありません。

⚠ 警告: マニュアル・モードでは、車両はエンジン回転数をモニターし、必要に応じてオートマチック・ギアチェンジを行うことがあります。

⚠ 警告: 滑りやすい路面では、シフトダウンしてエンジンブレーキを作動させないでください。

i 注意: オートマチックモードでパドルを操作した場合、ギアチェンジをしないまま8秒間が経過するとギアボックスはオートマチックモードに戻ります。

ブレーキをかけているときに選択可能な最低ギアにすぐにシフトするには、パドルでダウンシフトを選択して押し続けます。そうすると、最適なギアに達するかパドルを離すまで、低いギアへ順番にシフトしていきます。

車速が10 km/h (6 mph) 以下の場合、またはギアを選択したまま停車した場合、パドルをシフトダウン方向に押し続けるとニュートラルになります。

ニュートラルはどの速度でも「N」ボタンを押すことで選択できます。「D」ボタンを押すか、ギアシフトパドルを用いてシフトを開始し、車速に適切なギアを選択します。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

ハンドリングコントロール

ハンドリングコントロールスイッチは、Proactive Damping Controlシステムに影響を与えます。

モードの選択

i 注意: 車両をオンにすると、コンフォートモードで始動します。



1. ハンドリングパドルを押し上げると、スポーツモードまたはトラックモードに切り替わります。



2. スポーツモードまたはコンフォートモードに戻すには、ハンドリングパドルを押し下げます。

モード

ドライバーディスプレイに表示される情報は、選択したハンドリングモードに応じて変化します。「ディスプレイウインドウ」(3.21 ページ)を参照してください。

選択を変更するか、あるいはイグニッションスイッチをオフにするまで、選択したモードはアクティブとなります。

次回イグニッションスイッチをオンにすると、ハンドリングモードはコンフォートモードに戻ります。

以前に使用したハンドリングモードとパワートレインモードをすばやく復元するには、イグニッションをオンにしたときに、ダウンハンドリングパドルとパワートレインパドルの両方を押し続けます。「モード復元」(2.25 ページ)を参照してください。

i 注意: 選択時に以下の条件がすべて満たされていないと、条件が満たされるまでそのモードになりません。

- 不具合条件が存在していないこと
- エレクトロニックスタビリティコントロールなど、車両のダイナミクス機能またはスタビリティ機能がアクティブになっていない

i 注意: トラックハンドリングモードでも、エレクトロニックスタビリティコントロールシステムは動作しています。詳しい説明は「エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)」(2.29 ページ)を参照してください。

コンフォート

最も柔らかいサスペンション設定となり、コーナリング時の優れたボディコントロールを保ちながらソフトな乗り心地を実現します。

スポーツ

固めのサスペンションとなり、安定感のある乗り心地と強化されたハンドリング特性を実現します。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

トラック

最も固いサスペンションとなり、レーシングカー並みのハンドリングと走行特性を実現します。

パワートレインコントロール

モードの選択

i 注意: 車両をオンにすると、電動モードで始動します。



1. パワートレインパドルを押し上げると、コンフォートモード、スポーツモード、またはトラックモードに切り替わります。



2. スポーツモード、コンフォートモード、または電動モードに戻すには、パワートレインパドルを押し下げます。

ドライブサイクル中に初めて電動モードから別のパワートレインモードに切り替えると、複合ハイブリッド電源が使用可能になるまで遅延が発生します。この遅延は触媒が加熱されている間、ペダルマップが調整されて使用可能な電力の増加に対応するため、遅延が発生します。

これを示すために、進捗バーがパワートレインモードインジケーターに表示され、エンジンのコンディショニングがドライバーディスプレイに表示されます。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール



この遅延の間:

- eMotor によってのみ駆動されます。エンジンは出力を供給しないか、スロットル入力に応答しません。
- トランスミッションは自動のままで。
- タコメーターはアイドル状態のままで。

電動モードに戻ると、ペダルマップが調整されて使用可能な電力の減少に対応するため、わずかな遅延が発生します。これは、パワートレインモードインジケーターのプログレスバーによって示されます。

モード

ドライバーディスプレイに表示される情報は、選択したパワートレインモードに応じて変化します。「ディスプレイウィンドウ」(3.21 ページ) を参照してください。

選択を変更するか、あるいはイグニッションスイッチをオフにするまで、選択したモードはアクティブとなります。

次回イグニッションスイッチをオンにすると、パワートレインモードは電動モードに戻ります。

以前に使用したハンドリングモードとパワートレインモードをすばやく復元するには、イグニッションをオンにしたときに、ダウンハンドリングパドルとパワートレインパドルの両方を押し続けます。「モード復元」(2.25 ページ) を参照してください。



注意: 公道でトラックモードを使用することは推奨できません。常に制限内で運転し、他の道路利用者に配慮してください。

オートマチックモード

電気

ギアチェンジは、経済性と効率性を最大限に高めるように設定されています。

高電圧 (HV) バッテリーが消耗していない場合、eMotor は駆動力を供給します。これにより、電気駆動にラッチをかけた状態であらゆる種類のスロットル入力が可能になります。

電動モードで HV バッテリーが消耗すると、触媒が加熱されるとエンジンはホイールに駆動力を供給します。ただし、トルクは eMotor によって発生されるトルクに制限され、HV バッテリーレベルは維持されます。パワートレインモードの変更を推奨するメッセージが表示されます。

コンフォート

ギアチェンジは車両の本来のパフォーマンスを損なうことなしに、経済的に最適な方法で行われます。

システム最大トルクが使用可能です。低速時エンジンがオフになり、eMotor が駆動力を供給する場合があります。これにより、快適性が向上し、渋滞時の排出ガスが削減されます。

スポーツ

ギアチェンジは高めのエンジン回転数で、シフトにかかる時間は短縮され、さらにシリンダーカットで向上されています。「シリンダーカット」(7.14 ページ) を参照してください。

システム最大トルクが使用可能です。排出ガスを削減するため、エンジンは車が停車しているときにのみオフになる場合があります。

トラック

ギアチェンジはスロットルレスポンスに応じて瞬時に行われ、シリンダーカットによりさらに向上します。「シリンダーカット」(7.14 ページ) を参照してください。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

システム最大トルクが使用可能です。エンジンは常時オンのままでです。

マニュアルモード

電気

マニュアルモードは電動モードでは利用できません。

コンフォート

ギアチェンジは最も快適な方法で行われ、シリンダーカットにより向上します。「シリンダーカット」(7.14 ページ)を参照してください。

スポーツ

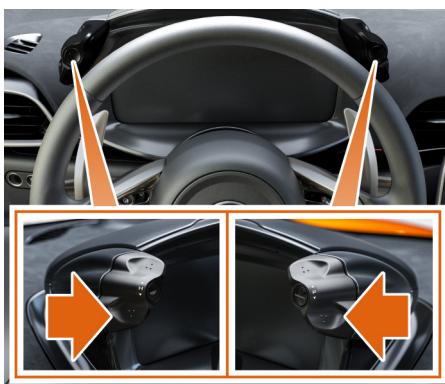
ギアチェンジ時のシフト時間が短くなります。

トラック

ギアチェンジパターンは最も鋭敏になります。ギアチェンジは瞬時に行われ、慣性プッシュによりさらに向上します。「慣性プッシュ」(7.15 ページ)を参照してください。

モード復元

車両のスイッチを入れると、コンフォートハンドリングモードと電動パワートレインモードで始動します。「ハンドリングコントロール」(2.22 ページ)と「パワートレインコントロール」(2.23 ページ)を参照してください。



ハンドリングとパワートレインのダウントグルの両方を押し続けると、以前に使用したモードにすばやく復元できます。

運転操作装置

走行安全システム

概要

本章では以下の安全システムについて説明します。

- 「アンチロックブレーキシステム（ABS）」 (2.26 ページ)
- 「ブレーキアシストシステム」 (2.27 ページ)
- 「ブレーキディスクワイピング」 (2.27 ページ)
- 「ヒルホールドコントロール」 (2.28 ページ)
- 「電子制御ブレーキ予備充填」 (2.28 ページ)
- 「エレクトロニクスタビリティコントロール（ESC）」 (2.29 ページ)
- 「タイヤ空気圧監視システム（TPMS）」 (2.31 ページ)
- 「運転支援」 (2.34 ページ)

 **警告:** スピードを出し過ぎると、特にカーブや、濡れた、または凍結した路面の走行時に事故が発生する危険性が高くなります。先行車両との間には常に安全な車間距離を保ってください。

必ず、道路の状況や天候条件に合わせた運転を行ってください。また、通行者や路上の物体から十分な距離を保ってください。



注意: 冬季の条件下でアンチロックブレーキシステム、ブレーキアシストシステム、エレクトロニクスタビリティコントロールの効果を最大限に発揮させるためには、ウィンタータイヤやスノーソックの使用が必要となることがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

アンチロックブレーキシステムは、ブレーキングによるホイールのロックを防止します。これによって、ブレーキをかけながら車両を操舵することが可能になります。

アンチロックブレーキシステムは、路面の状況にかかわらず、車速が約8km/h (5 mph) 以上のときに作動します。滑りやすい路面ではブレーキを穏やかに踏んだときにも効果を発揮します。



警告: ポンピングブレーキは行わないでください。ブレーキペダルをしっかりと、一定の力で踏んでください。ブレーキペダルをポンピングするとブレーキ効果が低下し、ペダルを踏んだときの停止距離が長くなる可能性があります。

ブレーキをかけた際にアンチロックブレーキシステムが作動すると、警告灯が点滅し、ブレーキペダルから波動が伝わります。

アンチロックブレーキシステムが作動した場合は、ブレーキが必要なくなるまでブレーキペダルを踏み続けてください。



警告: 必ず、周囲の道路状況や天候条件に合わせた運転を行ってください。通行者や路上の物体から十分な距離を保ってください。

運転操作装置 走行安全システム

アンチロックブレーキシステム（ABS）状態表示灯

 システムが故障した場合は状態表示灯が点灯します。車両を運転しないでください。速やかにマクラーレン代理店にご連絡ください。

警告: アンチロックブレーキシステムが故障した場合は、ブレーキアシストシステムやエレクトロニックスタビリティコントロールも非アクティブになります。

アンチロックブレーキシステムが故障した場合は、ブレーキをかけた際にホイールがロックするおそれがあります。これによって停止距離が長くなり、またハンドル操作が利かなくなる可能性があります。

ブレーキアシストシステム

ブレーキアシストシステムは急ブレーキを踏んだ状況で作動します。急ブレーキを踏むと、ブレーキアシストシステムによりブレーキの踏力が自動的に増大し、停止距離が短縮されます。

非常ブレーキが必要なくなるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。アンチロックブレーキシステムがホイールのロックを防止します。

ブレーキペダルを離すとブレーキは通常どおり作動します。ブレーキアシストシステムは非アクティブになります。

警告: ブレーキアシストシステムが故障した場合でもブレーキは作動します。ただし、制動力が自動的に増大されることはないため、停止距離が長くなる可能性があります。

ブレーキディスクワイピング

ブレーキディスクワイピングは、フロントウインドウワイパーのスイッチをオンになると自動的に作動します。この機能は強雨時にブレーキディスクに水分が付着するのを防止し、ブレーキ性能を改善します。

運転操作装置 走行安全システム

ヒルホールドコントロール

坂道で車両を停止するためにブレーキペダルが踏まれた場合、この機能はペダルを離した後も2秒間ブレーキをかけ続け、スムーズな発進をアシストします。

E デフ

E デフでは、車両のパフォーマンスを向上させるために、あらゆる走行条件でディファレンシャルロックングトルクを最適化することができます。

これにより、高速走行時のリフトオフ状況での車両の走行安定性が向上する一方で、低速走行時の俊敏性が損なわれるということはありません。

コーナーの出口状況では、内側リアホイール速度が上昇すると、ディファレンシャルはトルクを外側ホイールに伝達してトラクションとパフォーマンスを向上させます。これにより、誘導された場合のドリフトの制御性も向上します。

電子制御ブレーキ予備充填

アクセルペダルが急に離された場合、電子ブレーキ予備充填機能が即座にブレーキパッドをディスクに触れさせ、素早いブレーキングを可能にします。

運転操作装置

走行安全システム

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) は、走行安定性およびタイヤと路面間のトラクションを監視します。

エレクトロニックスタビリティコントロールは、ホイールがスピンを始めるか車両が滑り始めるとこれを検知し、個々のホイールにブレーキをかけるとともにエンジン出力を制限して車両を安定させます。また、濡れた路面や滑りやすい路面での発進の際にもアシストを行い、ブレーキング時の車両の安定性を向上させます。

i 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールは推奨指定タイヤの使用時に限り正常に作動します。

エレクトロニックスタビリティコントロールはエンジンを始動するとすぐ自動的にアクティブになります。

⚠ 警告: エレクトロニックスタビリティコントロール警告が点灯した場合、エレクトロニックスタビリティコントロールを解除しないでください。道路や交通状況に合わせた運転を行ってください。

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムはエレクトロニックスタビリティコントロールに欠かせない部分です。

トラクションコントロールシステムはホイールのスピンを防止するためにトルクを低減します。ホイールのスピンを止めるためにさらに介入が必要な場合はリアホイールに個別にブレーキがかかります。トラクションコントロールシステムは個々の駆動輪にブレーキをかけてスピンを防止します。これにより、滑りやすい路面でも加速が可能になります。

⚠ 警告: スピードを出し過ぎている場合、トラクションコントロールシステムが事故の危険性を低減することはできません。

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) を非アクティブにする

⚠ 警告: エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにすると、車両がスリップする危険性が高まります。道路や交通状況に合わせた運転を行ってください。

⚠ 警告: サーキット走行時、周囲の状況が適切である場合をのぞいて、エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにしないでください。

i 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにすると、以下の状態が発生します。

- 「ESC OFF」警告灯の点灯
- エレクトロニックスタビリティコントロールによる走行安定性の改善が行われません

- エンジンのトルク制限解除および駆動輪のスピン
- アンチロックブレーキシステムはアクティブのままで

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) のダイナミックモード

エレクトロニックスタビリティコントロールのダイナミックモードは車速に関わらず選択できます。



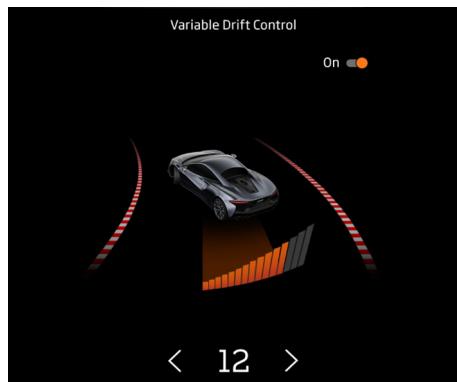
- エレクトロニックスタビリティコントロールはデフォルトでオンになっています。

運転操作装置

走行安全システム

- 「ESC OFF」ボタンを短く押してダイナミックモードをアクティブにします。このモードでは、デフォルトの ESC オンモードに比べてよりダイナミックな自由度が得られます。
ESC DYN とドライバーディスプレイに表示され、ESC OFF 警告灯が点灯します。

可変ドリフトコントロール (VDC)



- i** 注意: 可変ドリフトコントロール (VDC) は以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。
- ESC ダイナミックモードがアクティブ
 - 車速が 100 km/h (62 mph) 未満

- 車両が直進走行している

ダイナミックモードで ESC が許容するドリフトの量を調整できます。

可変ドリフトコントロール (VDC) には、センターディスプレイからアクセスできます。これにより、ドライバーは、エレクトロニクス タビリティ コントロールの正確なサポートレベルを選択できるようになります。

「ホーム」メニューから「可変ドリフトコントロール」を選択し、スライダーを「オン」に切り替えて機能を有効にします。

「<」または「>」を選択して、お好みに合わせてドリフトの量を増減します。

ESC オフ

- ESC ダイナミックモードになっていない場合、「ESC OFF」ボタンを軽く押して、ESC ダイナミックモードをアクティブにします。
- 「ESC OFF」ボタンを 2 秒間押し続け、その後 5 秒以内にもう一度押すと、エレクトロニクス タビリティ コントロールが非アクティブになります。

ESC OFF とドライバーディスプレイに表示され、ESC OFF 警告灯が点灯します。

エレクトロニクス タビリティ コントロール (ESC) の再開

エレクトロニクス タビリティ コントロールが再び有効になると、ドライバーディスプレイの ESC OFF 警告灯が消灯します。

i 注意: エレクトロニクス タビリティ コントロールはイグニッションスイッチをオフにし、次にオンにすると再び自動的にアクティブになります。

再アクティブ手順



運転操作装置

走行安全システム

エレクトロニクスタビリティコントロールを再びアクティブにするには、以下のいずれかを実行します。

- ESCOFFボタンを短く押すと、ドライバーディスプレイの警告灯が消灯します。
- イグニッションスイッチをオフにし、再びオンにします。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS)

タイヤはすべて、冷えている間に毎週点検し、タイヤ空気圧ラベルに記載の推奨空気圧になるように調整する必要があります。（車両のタイヤのサイズがタイヤ空気圧ラベルに記載されたサイズと異なる場合は、ご自分で適切な空気圧を判断する必要があります。）

特定の状況では、空気漏れではない場合でも、タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の圧力警告が表示される可能性があります。これは、タイヤ空気圧を設定した場所と車両を走行させる場所との温度差に原因がある場合があります。たとえば、エアコンが作動している場所または暑い車庫で空気圧を設定してから外を走行すると、走行開始からしばらくしてタイヤ空気圧警告が表示されることがあります。外気温が極度に変動した場合、または季節的な温度変化によって、警告が表示されることもあります。

⚠️ 警告: タイヤ空気圧の警告を無視しないでください。すぐにタイヤ空気圧を点検し、必要な場合は McLaren 代理店にお問い合わせください。

i 注意: マクラーレンに搭載されているタイヤ空気圧監視システム (TPMS) は、専用の Pirelli タイヤでのみ機能します。「ホイールおよびタイヤサイズ」(7.08 ページ) を参照してください。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の概要



TPMS は、1 つまたは複数のタイヤの空気圧が低下あるいは上昇したとき、または温度が許容水準を超えたときに警告します。

このシステムは、各タイヤに組み込まれたセンサーと車内に配置されたレシーバーを使用して、各タイヤの空気圧と温度を監視します。

i 注意: TPMS は、エラーや警告などの、起動時に最後に認識された値を表示します。このシステムは、遅延なくタイヤとの通信を開始し、ドライバーディスプレイの値を更新します。システムがタイヤと通信するために、車両を動かす必要はありません。

運転操作装置

走行安全システム

i 注意: センサー付きの新しいタイヤを装着した場合は、マクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) の「タイヤ」画面に移動し、「リセット」アイコンにタッチして、新しいタイヤを車両に検出させます。「タイヤ」(4.11 ページ) を参照してください。

安全かつ適法な場所で、車両を 40 km/h ～ 100 km/h (25 mph ～ 60 mph) の速度で数分間運転すると、更新された圧力、温度およびサイズが表示されます。リセット手順を実行しなくても車両は新しいタイヤを自動的に検出しますが、表示が更新されるまでにはさらに数分かかる場合があります。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の操作

(!) タイヤ空気圧の低下/上昇やタイヤ温度の上昇が検出されると、タイヤ空気圧監視システムの警告灯が点灯し、該当する警告メッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

この場合はすみやかに車両を停止して、すべてのタイヤを点検し、タイヤの温度が下がるまで待ち、推奨空気圧まで空気を入れます。「タイヤ空気圧」(6.38 ページ) を参照してください。この警告灯は、タイヤの空気圧を適正な空気圧にすると消灯します。

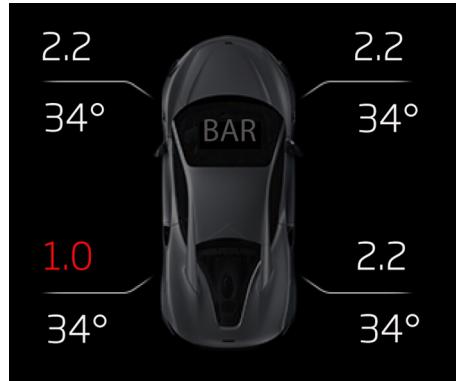
⚠ **警告:** 極端に空気圧が不足したタイヤで走行を続けるとタイヤがオーバーヒートし、タイヤの破損につながります。空気圧不足は燃費を悪くし、タイヤトレッドの寿命を短縮させ、車両のハンドリングや停止性能に悪影響を及ぼす可能性があります。

⚠ **警告:** 過膨張が生じると、タイヤと路面の接触面積が減少します。空気を入れすぎたタイヤで運転すると、偶発的な衝撃による損傷や中央トレッド領域の急速な摩耗の可能性が高まり、車両の操舵/停止能力に影響を及ぼす恐れがあります。

⚠ **警告:** TPMS はタイヤの適切なメンテナンスに取って代わるものではありません。空気圧不足が TPMS 空気圧不足警告灯を点灯させるほどではない場合であっても、適正な空気圧を維持するのはドライバーの責任です。

タイヤはすべて、冷えている間に毎週点検し、タイヤ空気圧ラベルに記載の推奨空気圧になるように調整する必要があります。

ドライバーディスプレイの「車両ステータス」画面に移動して、現在のタイヤ空気圧を表示します。「車両ステータス」(3.09 ページ) を参照してください。



このディスプレイには、4 本のタイヤそれぞれの空気圧が表示されます。空気圧の値が白色で表示されている場合、何もする必要はありません。

⚠ **警告:** 圧力値が赤色またはアンバー色で表示されている場合は、該当するタイヤの空気圧をできるだけ早く、正しい圧力に調整してください。

タイヤを点検し、減圧または昇圧の原因を確認します。

運転操作装置

走行安全システム

 TPMSがトラックモードに設定されている場合、タイヤ空気圧警告レベルはサーキット走行での使用に合わせて調整できます。これが有効になると、チェックカーフラッグアイコンがTPMSディスプレイに表示されます。「トラックモード」(2.33ページ)を参照してください。

 **警告: ドライバーディスプレイに表示されるタイヤの空気圧は、圧力計で計測するよりも正確です。**タイヤ空気圧監視システムは、タイヤ空気圧の手動による点検や、摩耗や損傷の点検の代わりとなるものではありません。このシステムは空気圧の過不足を警告するためのものであり、タイヤに空気を入れるためのものではありません。タイヤ空気圧監視システムにはタイヤの損傷を警告する機能はありません。タイヤの状態を定期的に点検してください。

 **警告: 頻繁に空気圧警告が発生する場合は、マクラーレン正規販売店にタイヤの点検をご依頼ください。**不適切に膨らんだタイヤで運転すると、タイヤのトレッド寿命が短くなり、タイヤの損傷や不具合の原因につながるほか、車両の操舵/停止能力に影響を及ぼす恐れがあります。

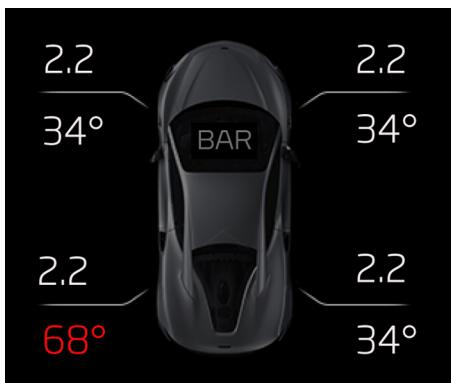
 **環境:**空気不足のタイヤは、燃料効率やタイヤのトレッド寿命を低下させます。

 **環境:**少なくとも週に1回はタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤ温度監視システムの動作

タイヤ温度の上昇が検出されると、タイヤ温度監視システムによってドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ドライバーディスプレイの「車両ステータス」画面に移動して、現在のタイヤ温度を表示します。「車両ステータス」(3.09ページ)を参照してください。

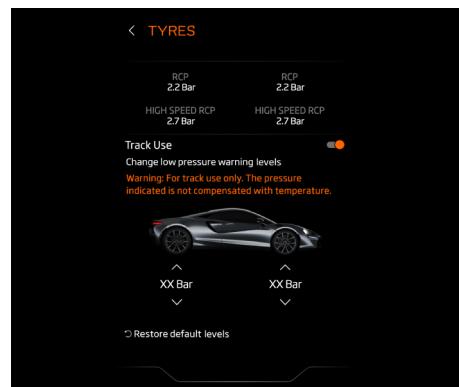


このディスプレイには、4本のタイヤそれぞれの現在の温度が表示されます。温度が青色で表示された場合、タイヤはまだ最適な動作温度に達していません。温度が白色で表示された場合、何もする必要はありません。

 **警告: 温度が赤色で表示されている場合、タイヤの安全動作温度を超えています。安全な温度になるまで、すなわち温度が白色で表示されるようになるまで減速するか車両を停止してください。**タイヤの温度の上昇の考えられる原因に関してタイヤを点検してください。

 TPMSがトラックモードに設定されている場合、タイヤ空気圧警告レベルはサーキット走行での使用に合わせて調整できます。これが有効になると、チェックカーフラッグアイコンがTPMSディスプレイに表示されます。「トラックモード」(2.33ページ)を参照してください。

トラックモード



運転操作装置

走行安全システム

⚠️ 警告: トラックモードはサーキット走行でのみ使用し、公道での使用には適していません。タイヤ空気圧警告レベルは、温度変化に応じて補正されません。タイヤ空気圧警告レベルは、トラックで車両を使用しているときに不必要的タイヤ空気圧警告が表示されるのを避けるために調整する必要があります。

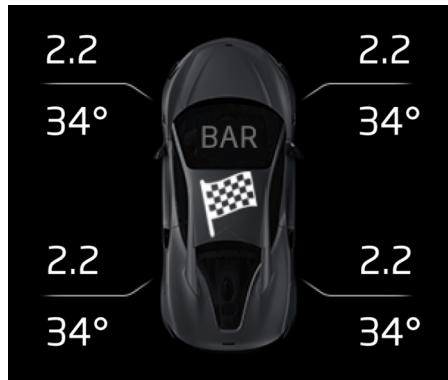
ℹ️ 注意: サーキット走行を行う場合は、事前にマクラーレン代理店にご相談ください。McLaren はサーキット走行の前後に車両を点検に出すよう推奨しています。

サーキット走行の使用の詳細については、「サーキット走行」(5 ページ)を参照してください。

車両をサーキットで使用する場合は、タイヤ空気圧をサーキット走行での使用に適したレベルに調整する必要があります。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の圧力警告レベルは、調整された圧力に合わせて変更できます。

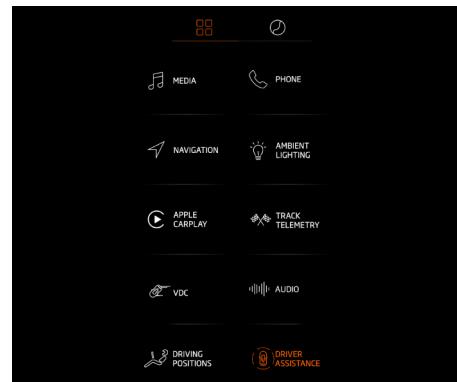
マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) の「タイヤ」画面に移動し、「トラックでの使用」にタッチして、この機能を有効にし、必要に応じて空気圧を調整します。「タイヤ」(4.11 ページ) を参照してください。



TPMS がトラック・モードに設定されている場合、ドライバーディスプレイの「車両ステータス」画面にチェックマーク・フラグ・アイコンが表示されます。

トラック走行セッション後に公道を走行する場合は、トラック・モードを無効にして、タイヤを点検し、必要に応じてタイヤを交換します。タイヤの空気圧を確認し、必要に応じて調整します。「タイヤ空気圧」(7.10 ページ)を参照してください。

運転支援



⚠️ 警告: マクラーレンに搭載されているドライバー・アシスタンス機能の使用中も、相手の配慮や注意を払って安全運転に努める必要があります。この機能を使うことによって、ドライバーの責任が軽減されることはありません。

マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のホーム画面の「運転支援」アイコンにタッチします。

利用できる運転支援機能は、次のとおりです。

- 「道路標識の認識」(2.35 ページ)
- 「車線ガイダンス」(2.36 ページ)

運転操作装置 走行安全システム

- 「衝突回避」 (2.39 ページ)
- 「その他のアシスタンス」 (2.40 ページ)

i 注意: 車両の仕様に応じて利用可能な設定が異なる場合があります。

運転支援コンポーネントに障害物または覆いがあるとシステムの効果が低下し、ドライバーディスプレイにエラー・メッセージが表示されることがあります。霜、氷、雪、汚れ、傷などによって障害となっていないことを確認してください。



運転支援カメラまたはレーダー・センサーが「ブラインド」であるとのメッセージがドライバーディスプレイに表示された場合、フロントウインドウまたはフロント・バンパー下部、あるいはその両方の領域が遮られている可能性があります。



ドライバーディスプレイに「死角監視センサーに障害物があります」と表示された場合、リア・バンパー内のレーダー・センサーが障害物となっている可能性があります。

メッセージが消えない場合は、マクラーレン正規販売店にご連絡ください。

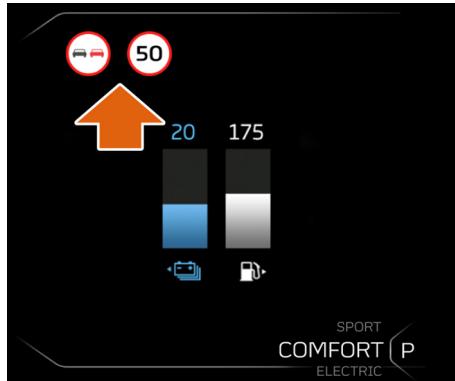
道路標識の認識



この機能を有効または無効にするには、「Enable Road Sign Recognition (道路標識の認識を有効にする)」にタッチします。

運転操作装置

走行安全システム



有効になると、速度制限標識および追い越し禁止標識が検出されると、ドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: ドライバーディスプレイには、カメラによって検出されたとおりの道路標識が表示されます。ドライバーディスプレイに表示される単位が表示される標識と一致するようにするには、車両の速度と距離の単位が、車両が走行している国の単位と一致するように設定されていることを確認します。「時間と単位」(4.14 ページ)を参照してください。

インテリジェントアダプティブクルーズコントロール (IACC) が自動的に車速を新しい速度制限に調整するには、この機能を有効にする必要があります。「インテリジェントアダプティブクルーズコントロール (IACC)」(2.53 ページ) を参照してください。

「速度警告を表示」にタッチすると、速度警告が表示されます。有効になると、ドライバーディスプレイに表示される制限速度標識の数字が赤色に変わり、その速度を超えると点滅します。

検知された速度制限を超えたときに警告チャイムが鳴るようにするには、「オーディオ警告を再生」にタッチします。

i 注意: 道路標識認識システムは、カメラの視界が遮られている場合、標識を検出できないか、誤検出する可能性があります。これらは、フロントウィンドウの汚れや凍結、または霧、豪雨、積雪といった悪天候が原因で生じる可能性があります。

i 注意: 道路標識認識システムは、大型車後部の制限速度ステッカーから誤って検出された標識を表示する場合があります。

車線ガイダンス

車線逸脱警告



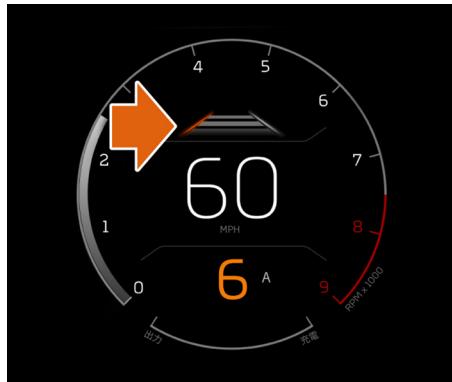
有効な場合、システムが車両の車線逸脱と左右どちらの車線から逸脱しているのかが検出された場合、視覚的な警告がドライバーディスプレイに表示されます。

⚠ 警告: Lane Departure Warning (LDW) の使用中も、相当の配慮や注意を払って安全運転に努める必要があります。この機能を使うことによって、ドライバーの責任が軽減されることはありません。

Lane Departure Warning (LDW) は、65 km/h～180 km/h (40 mph～112 mph) の速度で動作できます。

運転操作装置 走行安全システム

「低」または「ノーマル」にタッチして、優先感度レベルを選択します。デフォルトは「ノーマル」です。



この機能を有効にすると、車両が走行している車線の検出された端を示す白い線が表示されます。路面標示が検出されない場合、車線の端を識別するために、グレーの線がドライバーディスプレイに表示されます。車両が車線を逸脱していることを示す警告として、線がオレンジ色で強調表示されます。左または右方向指示器をオンにすると、操作中はその方向LDWの車線逸脱警告が無効になります。



路面標示が検出されない。



車両の両側に路面標示が検出された。



車両が車線を左に逸脱している。



車両が車線を右に逸脱している。



システムに障害がある場合、ドライバーディスプレイの通知灯が点灯し、警告メッセージが表示されます。通知灯と警告メッセージは、警告音を伴うこともあります。

次の要素は、LDWの動作に影響を与えることがあります。

- カメラの視界がステッカーで遮られている状況、またはフロントウィンドウが汚れている、曇っている、または凍っている状況、または霧、豪雨、濃霧、雪などをもたらす悪天候
- カメラの視界を奪う、低角度からの眩しい太陽光
- 狹すぎるか広すぎる車線
- 非常にきつい曲がり角のある道路
- 車線標示がない、幅が広すぎる、路面状況が悪い、または水、雪、泥で覆われている道路

LDWデフォルトでは有効になっていません。この機能は、ダッシュボードのボタンを使用して有効にしたり無効にしたりすることができ、イグニッション・スイッチをオフにしてから再びオンにしても同じ状態に維持されます。

運転操作装置 走行安全システム

死角監視機能



有効にすると、Blind Spot Monitoring (BSM) 機能は時速8マイル(12 km/h)を超える車速で動作します。

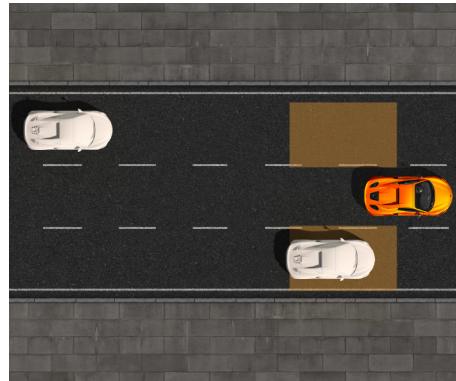
「警告を有効にする」をタッチすると、BSM視覚的な警告が有効になります。

「オーディオ警告を再生」をタッチすると、BSMの警告音が有効になります。



有効にすると、死角領域で車両が検知されると、ドア・ミラーの警告アイコンが点灯します。アイコンは、車両が死角領域から出るまで点灯したままになります。

検出した車両と衝突する可能性のある方向に車線変更する方向に方向指示器を使用した場合、死角警告アイコンが点滅します。有効にすると、警告アイコンが点滅し、警告音が鳴ります。



BSMシステムは、ドライバーの死角となる車線と、車両の後方5m (16 フィート5インチ) までの領域を監視します。

運転操作装置 走行安全システム



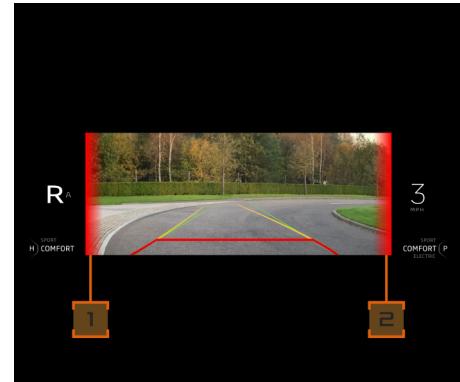
車線変更支援機能は、車両後方 70 m (230 フィート 8 インチ) までの隣接車線を監視し、高速で接近する車両の存在を確認します。



Rear Cross Traffic Alert (RCTA) 機能は、後退中に車両の側面から接近する交通を視覚と聴覚を使って警告します。RCTA 機能は、リバース・ギアが選択されると作動します。

[警告を有効にする] をタップして、RCTA 視覚的な警告を有効にします。

「オーディオ警告を再生」をタッチすると、RCTA の警告音が有効になります。



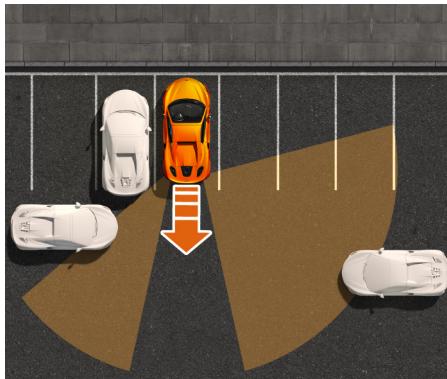
ドライバーディスプレイの Rear View Camera (RVC) ライブ映像に赤色のインジケーターが表示されている場合、車両の左側(1)と右側(2)の一方または両方から危険が迫っていることを示します。

運転操作装置 走行安全システム



また、360°パーキングアシストライブ映像に赤色のインジケーターが表示されている場合、車両の左側(1)と右側(2)の一方または両方から危険が迫っていることを示します。

車両を後退しているときにRCTAシステムが危険の兆候を検知した場合、警告音と一緒に赤色のインジケーターが表示されます。



駐車中の車両や他の物体などによってセンサーが遮られると、RCTAシステムがカバーするエリアが減少します。

その他のアシスタンス



「ハイビームアシスト」にタッチしてこの機能を有効になると、対向車に対してハイビームヘッドライトが自動的に下向きになります。「オートハイビームアシスト」(1.40 ページ)を参照してください。

「内側車線からの追い越し防止」にタッチすると、この機能が有効になり、アダブティブクルーズコントロール(ACC)が作動しているときに他の車両に対する内側車線からの追い越しを防止します。「アダブティブクルーズコントロール(ACC)」(2.50 ページ)を参照してください。

運転操作装置

発進コントロール

概要

発進コントロールは、停止状態から発進する際に最大の加速力が得られるように設計されています。

警告: 発進コントロールシステムは、公道での使用には適しておらず、トラックなどの安全な環境でのみ使用する必要があります。発進コントロールを起動する前に、すべてのドア、ラゲッジルーム、サービスカバーが閉じられていること、周囲の状況が最大加速運転を行うために支障がないことを確認してください。

i 注意: 発進コントロールはオートマチックモード、マニュアルモードのいずれでも、またハンドリングモードやパワートレインモードにかかわらず動作できます。

i 注意: 発進手順はどの時点でも以下のいずれかの操作によって中止できます。

- 左コントロールレバーを押して離す

i 注意: 発進手順は、以下の事項が発生した場合、自動的に中止されます。

- 発進のためにブースト準備をしてから3秒以上待った場合
- 正常に発進したが、10秒以内に車速が97 km/h (60 mph) に達しない場合
- ドライバーディスプレイにエラーまたは警告メッセージが表示された場合

- マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) に接続されている電話機で着信通話が検出された場合
- エンジンクーラントが標準動作温度である

i 注意: 発進手順が中断されると、車両は安全モードになり、エンジン性能が制限されます。ブレーキペダルとアクセルペダルの両方を放して、安全モードをリセットし、フルパフォーマンスを復元します。

i 注意: 不具合があった場合や、発進手順が正しく実行されなかった場合には、「発進モード使用不可 - オーナーズマニュアルをご覧ください」という警告メッセージがドライバーディスプレイに表示されます。発進手順を繰り返し、正しく行われていることを確認してください。警告メッセージが消えない場合は、マクラーレン代理店にご連絡ください。

i 注意: 発進モードは以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。

- 両方のドアが閉まっている
- パーキングブレーキが解除されている
- ドライブ (D) が選択されている
- コンフォート、スポーツまたはトラックパワートレインモードが選択されている
- 通常車高およびノーズリフト機能非アクティブ
- 大気高度がエンジンパフォーマンスに悪影響を及ぼさない

運転操作装置

発進コントロール

発進コントロールの使用

⚠ 警告: サーキット以外では発進コントロールを起動しないでください。発進コントロールを起動する前に、すべてのドア、ラゲッジルーム、サービスカバーが閉じられていること、周囲の状況が最大加速運転を行うために支障がないことを確認してください。

1. ステアリングホイールが直進位置になっていることを確認します。

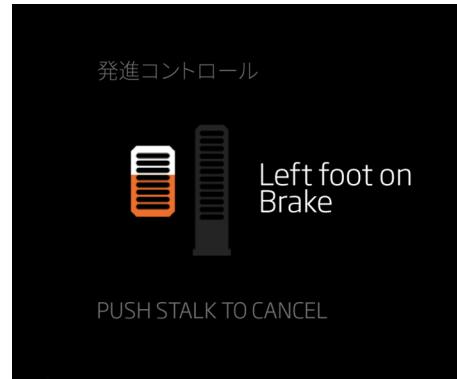


2. 左側のコントロールレバーを使用して、発進コントロール機能に移動します。



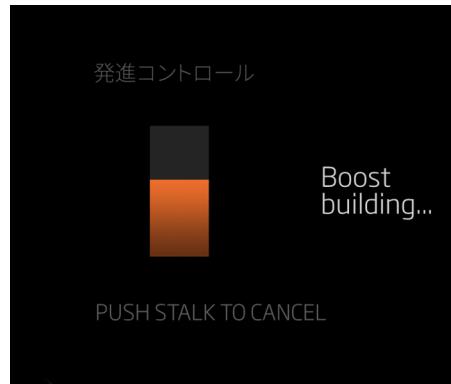
3. 左側のコントロールレバーを引いて、発進コントロールプロセスを開始します。ドライバーディスプレイに表示されている手順に従います。

i 注意: ドライバーディスプレイ上のギアボックス・モード・インジケーターの「L」が点滅します。「マニュアル/オートマチックモード」(2.20 ページ)を参照してください。



4. ブレーキペダルを左足でしっかりと踏み込みます。

運転操作装置 発進コントロール



5. 左足でブレーキペダルを踏みながら、右足でアクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。エンジン回転数が3,200rpmまで上昇します。
6. 「ブースト準備中」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。
7. ブーストが十分な水準に達すると、「準備完了」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

ブレーキペダルから左足を離すと、最大加速が得られるように発進コントロールシステムが発進コントロールを実行します。



注意: 白い線がブーストゲージを下に移動し、発進できなくなるまでカウントダウンとして機能します。ブレーキペダルを放す前にカウント・ダウンが終了すると、発進の手順は中止され、「発進モード使用不可」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

運転操作装置 発進コントロール

i 注意: 発進コントロールを中止するにはアクセルペダルを離すか、発進コントロールが非アクティブになるまで約 5~10 秒間待ってください。発進が中止されたらアクセルペダルを離し、再度アクセルを踏んで走行を開始します。

8. 発進コントロールは中止するまで手順を正しく実行することで動作します。

i 注意: 発進コントロール時にはオートマチックでギアシフトが行われ、トラクションが最適化されます。この操作は発進コントロールが中止されるまで続行されます。発進コントロールを中止するにはアクセルペダルを離すか、ブレーキをかけるか、ギアシフトパドルのいずれかを操作します。

運転操作装置

ホイール・スピンド進

概要

最高にドラマチックなスタートを演出したいドライバー向けの機能です。

警告: サーキット以外ではホイールスピンド進を起動しないでください。ホイールスピンド進を起動する前に、すべてのドアおよびサービスカバーが閉じられていることと、周囲の状況がドラマチックな加速運動を行うのに支障がないことを確認してください。

警告: ホイールスピンド進中は、エレクトロニックスタビリティコントロールが非アクティブになります。その結果、トラクションが失われ、リアホイールがスピンドします。

i 注意: ホイールスピンド進はオートマチックモード、マニュアルモードのいずれでも、またパワートレインモードに関わらず動作しますが、スポーツシャーシモードまたはトラックシャーシモードでないと使用できません。

i 注意: ホイールスピンド進はどの時点でも以下のいずれかの操作によって中止できます。

- ブレーキをかける
- アクセルペダルを離す

i 注意: ホイールスピンド進は以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。

- エンジンクーラントが標準動作温度である
- 大気圧が通常のエンジン性能に影響のない範囲内である
- 車両は水平な場所に停車している
- エレクトロニックスタビリティコントロールがオフになっている
「エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) を非アクティブにする」(2.29 ページ) を参照してください。
- 可変ドリフトコントロールがオフになっている
「可変ドリフトコントロール (VDC)」(2.30 ページ) を参照してください。
- 発進コントロールが無効になっている
- 1速が選択されている
- パーキングブレーキが解除されている
- 発進時のコントロール性を高めるため、ステアリングホイールは直進位置になっている必要があります。

警告: ステアリングホイールが直進位置にない場合、車両がスピンドする可能性が高まるため、発進時には細心の注意が必要になります。

ホイール・スピンド進の使用

- ブレーキペダルを踏み、車両が停止した状態を維持します。
- ブレーキペダルを離し、キックダウン位置を超えるまでアクセルペダルをしばらく踏み込みます。車両はリアホイールをスピンドさせながらドラマチックに加速します。

i 注意: ホイールスピンド進を中止するには、アクセルペダルを放すか、またはブレーキペダルを踏んでください。

i 注意: オートマチックモードでのホイールスピンド進時には、オートマチックギアシフトが行われ、プロセスが中止されるか、またはホイールスピンドができないほどグリップが高まるまでリアホイールのスピンドが続きます。

手動でギアシフトを行った場合も、最適なエンジン回転数が維持されグリップが高すぎない状態であれば、ホイールのスピンドは続きます。

運転操作装置

クルーズコントロール

概要

i 注意: クルーズコントロールが装備されている車両には、アダプティブクルーズコントロール (ACC) は装備されません。

! 警告: クルーズコントロールをアクティブにしたときは道路や交通状況に特に注意し、常に周囲の状況に対し安全な速度で走行してください。

ワインディングロードや滑りやすい路面、あるいは霧や強雨、降雪時など視界が悪い状況では決してクルーズコントロールを使用しないでください。

! 警告: ドライバーは、十分な注意を払って運転する責任があり、車両、乗員、および他の道路利用者に対して常に安全運転を心がける必要があります。

クルーズコントロールを使用すると、ドライバーはアクセルペダルを使用せずに一定の速度を維持することができます。これは、一定の速度を長時間維持できる高速道路走行時に便利な機能です。



クルーズコントロール機能はすべて、ステアリングコラムの右側にあるクルーズコントロールレバーで操作します。

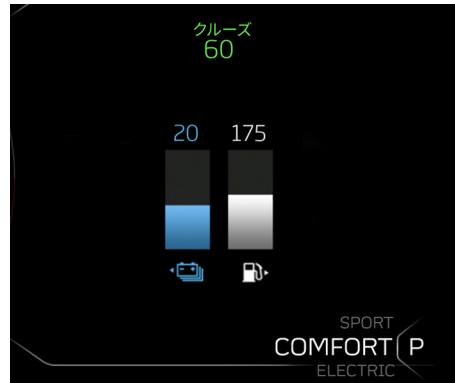
クルーズコントロールの使用



クルーズコントロールをアクティブにするには、設定したい速度まで加速してレバーを短く上に押します。

運転操作装置

クルーズコントロール



設定された速度がドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: クルーズコントロールは車速が 30 km/h (20 mph) を超えないとき作動しません。

アクセルペダルを踏むことにより、随時速度を上げることができます。アクセルペダルを離すと、車両はクルーズコントロール速度に戻ります。

! **警告: クルーズコントロールを使用することを常に意識し、長時間クルーズコントロールを超えた速度で走行しないでください。この状況でアクセルペダルを離した場合、予想したペースで車両が減速しないことがあります。**

クルーズコントロールの取り消し



クルーズコントロールレバーを短く奥に押します。

クルーズコントロールがキャンセルされます。ドライバーディスプレイのインジケーターは消灯しますが、直前に設定していた速度が保存されます。

i 注意: 保存されている前回の速度は、エンジンスイッチをオフにするとクリアされます。

また、フットブレーキを踏んだ場合やニュートラルを選択した場合にも、クルーズコントロールがキャンセルされます。



注意: エレクトロニックスタビリティコントロールがホイールスピンまたは車両のスリップを検知した場合、またはエレクトロニックスタビリティコントロールをオフにした場合、クルーズコントロールは自動的にキャンセルされます。

運転操作装置

クルーズコントロール

クルーズコントロールの速度を上げる



クルーズコントロールの速度を下げる



ギアチェンジパドルを使用してシフトダウンした場合は、クルーズコントロールは停止しません。

- レバーを短く上に押すと、車速が1km/h (1mph) 刻みで上がります（選択した単位によります。「速度と距離」(4.15ページ)を参照してください）。
- または、レバーを上に押し続けると、車速が1km/h (1 mph) 刻みで上がり、目的の速度に達したらレバーを放します。
- または、新たに設定したい速度まで加速し、レバーを上に押します。

- レバーを短く下に押すと、車速が1km/h (1mph) 刻みで下がります（選択した単位によります。「速度と距離」(4.15ページ)を参照してください）。
- または、レバーを下に押し続けると、車速が1km/h (1 mph) 刻みで下がり、目的の速度に達したらレバーを放します。

i 注意: クルーズコントロールレバーを使用して減速した場合、減速を早めるためにギアボックスがシフトダウンする場合があります。

運転操作装置

クルーズコントロール

保存した速度の呼び出し

⚠ 警告: 保存した速度は、周囲の道路や交通状況に合わない限り呼び出さないでください。急加速は危険です。



クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます。

クルーズコントロールは保存した前回の速度に車速を調整します。

運転操作装置

アダプティブクルーズコントロール (ACC)

概要

警告: アダプティブクルーズコントロール (ACC) が有効なときには、道路や交通状況に特に注意し、常に周囲の状況に対し安全な速度で走行してください。

曲がりくねった道や滑りやすい路面、または、霧、豪雨、降雪時など、視界が悪い状況では ACC を使用しないでください。

警告: ドライバーは、十分な注意を払って運転する責任があり、車両、乗員、および他の道路利用者に対して常に安全運転を心がける必要があります。

警告: ACC は、対向車、他車両からの突出積荷、歩行者、静止車両または障害物を検出できないことがあります。衝突を避けるため、ドライバーは常にブレーキペダルを踏む準備をし、常に十分な注意を払って運転していることが重要です。

i 注意: ACC は以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。

- 両方のドアが閉まっている
- シートベルトを締めている
- パーキングブレーキが解除されている
- ドライブ (D) が選択されている
- ESC がオンである

ACCでは、ドライバーがクルーズ速度を設定できます。前方の車線で低速走行車両が検知されると、車速は自動的に減速し、車線が空くと自動的に再び加速します。



ACC機能はすべて、ステアリングコラムの右側にあるコントロールレバーで操作します。

アダプティブクルーズコントロール (ACC) の使用



ACCをアクティブにするには、設定したい速度まで加速してレバーを短く上に押します。

運転操作装置

アダプティブクルーズコントロール (ACC)



設定した速度は、ドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: ACC は 0 km/h～160 km/h (0 mph～100 mph) で使用できますが、20 km/h (15 mph) を超える速度でのみ設定できます。

アクセルペダルを踏むことにより、随時速度を上げることができます。アクセルペダルを離すと、車両は ACC 設定速度に戻ります。

⚠ 警告: クルーズコントロールを使用することを常に意識し、長時間クルーズコントロールを超えた速度で走行しないでください。この状況でアクセルペダルを離した場合、予想したペースで車両が減速しないことがあります。

アダプティブクルーズコントロール (ACC) の 加速



アダプティブクルーズコントロール (ACC) の 減速



- レバーを短く上に押すと、車速が 1 km/h (1 mph) 刻みで上がりります (選択した単位によります。「速度と距離」 (4.15 ページ) を参照してください)。
- または、レバーを上に押し続けると、車速が 10 km/h (5 mph) 刻みで上がり、目的の速度に達したらレバーを放します。
- または、新たに設定したい速度まで加速し、レバーを上に押します。

- レバーを短く下に押すと、車速が 1 km/h (1 mph) 刻みで下がります (選択した単位によります。「速度と距離」 (4.15 ページ) を参照してください)。
- または、レバーを下に押し続けると、車速が 10 km/h (5 mph) 刻みで下がり、目的の速度に達したらレバーを放します。

i 注意: クルーズコントロールレバーを使用して減速した場合、減速を早めるためにギアボックスがシフトダウンする場合があります。

運転操作装置

アダプティブクルーズコントロール (ACC)

ギアチェンジパドルを使用してシフトダウンした場合は、クルーズコントロールは停止しません。

アダプティブクルーズコントロール (ACC) のキャンセル



ACC レバーを短く奥に押します。

ACC がキャンセルされます。ドライバーディスプレイのインジケーターは消灯しますが、最後に設定した速度が保存されます。

i 注意: 保存されている前回の速度は、エンジンスイッチをオフにするとクリアされます。

また、フットブレーキを踏んだ場合やニュートラルを選択した場合にも、ACCがキャンセルされます。

i 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールがホイールスピンまたは車両のスリップを検知した場合、またはエレクトロニックスタビリティコントロールのスイッチをオフにした場合、ACC は自動的にキャンセルされます。

保存した速度の呼び出し

⚠ 警告: 保存した速度は、周囲の道路や交通状況に合わない限り呼び出さないでください。急加速は危険です。



ACC レバーを手前に軽く引きます。

ACC は保存した前回の速度に車速を調整します。

追従モード



ACCが車線の前方に車両を検出すると、その車両がドライバーディスプレイに表示されます。ACCは前方車両との一定の車間距離を維持し、ディスプレイ上のラインで表示されます。

運転操作装置

アダプティブクルーズコントロール (ACC)



初期設定の車間距離設定は3ですが、コントロールレバー先端のボタンを押すと調整でき、ボタンで各車間距離設定を切り替えます。

車線の前方で検知した車両が減速すると、ACCシステムは設定された車間距離を維持して減速します。前方車両が加速するか、車線の前方が空くと、ACCは以前に設定されたクルーズ速度まで加速します。

コントロールレバー先端のスイッチを2秒間押すと、車間距離を無効にできます。これによりACCが実質的に解除され、システムは標準クルーズ・コントロールと同様に動作します。「クルーズコントロール」(2.46ページ)を参照してください。

i 注意: ACCが標準のクルーズ・コントロールと同様に作動している場合、最高設定速度は160 km/h (100 mph)に制限されたままとなります。

i 注意: 次にイグニッションスイッチをオフにしてから再度オンになると、ACCが再び有効になり、車間距離設定が3に設定されます。

! 警告: ACCが無効になっている場合、車線の前方に遅い車両が存在しても減速しません。

停止/始動

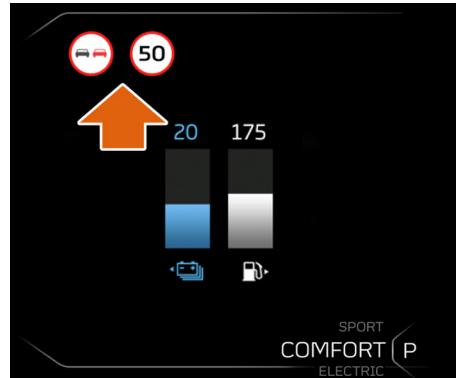
前方車両がブレーキをかけて完全に停止してから、数秒以内に再び発進すると、ACCは自動的に車両を発進させ、設定された車間距離を維持するために加速します。

前方車両が数秒以上停止している場合、ACCはキャンセルされ、ドライバーは右コントロールレバーを引いて再開するか、アクセルペダルを短く踏んでシステムを再作動させる必要があります。

車両は、道路が空くとすぐに以前設定したクルーズ速度まで加速します。

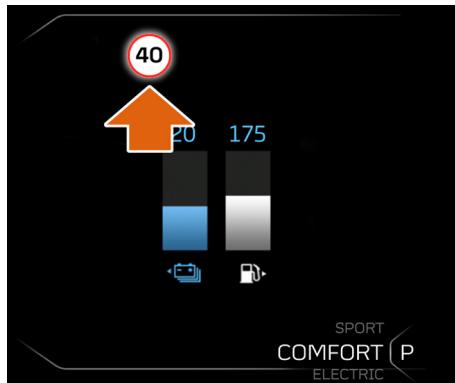
インテリジェントアダプティブクルーズコントロール (IACC)

IACC機能を使用するには、道路標識の認識を有効にする必要があります。「運転支援」(2.34ページ)を参照してください。



道路標識の認識が有効になっている場合、速度制限標識および追い越し禁止標識が検出されると、ドライバーディスプレイに表示されます。

運転操作装置 アダプティブクルーズコントロール (ACC)



内側車線からの追い越し防止

内側車線からの追い越し防止を有効にするには、「運転支援」(2.34 ページ)を参照してください。

この機能を有効にすると、ACCが作動しているときに他の車両に対する内側車線からの追い越しを防止します。

新しい速度制限が検出されると、ドライバーディスプレイで点灯します。ドライバー右側コントロールレバーを引くと、IACCシステムを新しい目標クルーズ速度で自動的に更新できます。

追い越し支援

ACCが作動していてインジケーターがオンになっている場合、ACCは車両を一時的に車線の前方にある車両との車間距離を縮めて、加速して素早く追い越しできるようにします。

追い越し操作が完了すると、車間距離は前の設定に戻ります。

運転操作装置 アクティブスピードリミッター (ASL)

速度上限の設定

- ⚠ 警告: 速度制限を適切に遵守することはドライバーの責務です。**
- ⚠ 警告: アクティブスピードリミッター (ASL) 機能は急な下り坂など、一定の状況下においては車両が速度上限を超えることを許容することがあります。**
- ℹ 注意: 車両が停止しているときでも ASL をアクティブにすることができます。速度上限はデフォルトの速度である 30 km/h (20 mph) に設定されます。**
ドライバーは ASL コントロールから速度上限を設定することができます。

速度の選択



- 車両を最大許容速度まで加速または減速し、レバーを短く下に押して、アクティブスピードリミッター (ASL) をアクティブにします。
- レバーを短く上に押すと、設定速度が 1 km/h (1 mph) 刻みで上がり、下に押すと下がります (選択した単位によります。 「速度と距離」 (4.15 ページ) を参照してください)。
- レバーを上に押し続けると、設定速度が 1 km/h (1 mph) 刻みで上がり、下に押し続けると下がり、目的の設定速度に達したらレバーを放します。

- 速度上限がドライバーディスプレイに表示されます。
- ℹ 注意:** スロットルペダルを所定の位置以上に踏み込むことで、ASL をオーバーライドできます。

運転操作装置

アクティブスピードリミッター (ASL)

アクティブスピードリミッター (ASL) の キャンセル



アクティブスピードリミッター (ASL) をキャンセルするには、レバーを短く奥に押します。
ドライバーディスプレイのインジケーターが消灯します。

運転操作装置

慣らし運転

慣らし運転

新車時、または以下のいずれかの部品を交換したときは、以下の説明に従って慣らし運転を行ってください。

エンジンおよびギアボックス

1,000 km (625 マイル) 走行まで:

- 様々な道路とエンジン回転数で走行してください。
- 道路の制限速度の範囲内で、もしくは240 km/h (150 mph) 以下で走行してください。
- サーキットでの走行は行わないでください。
- エンジンに過剰な負荷をかけないでください (フルスロットルでの走行)。
- 2,000 rpm 未満のエンジン回転数での走行は避けてください。
- 一定の速度や負荷で長時間走行することは避けてください。
- キックダウンは使用しないでください。
- シフトダウンによって強いエンジンブレーキをかけないでください。
- 高速走行や高負荷走行後は2分以上経過するまでエンジンを停止しないでください。
- 10 分以上エンジンをアイドリングしないでください。

1,000 km (625 マイル) の慣らし運転期間が終了したら、徐々にフルパフォーマンスで使用できるようになります。

i 注意: 慣らし運転中にエンジンやギアボックスの使用制限を守らない場合、早期摩耗や損傷が発生する可能性があります。

i 注意: 慣らし運転に関する説明は、エンジンまたはトランスミッションの交換後の最初の 1,000 km (625 マイル) にも適用されます。

¶ 環境: この助言は燃費の向上にも役立つものであり、慣らし運転後の通常の運転スタイルにも取り入れることをお勧めします。

ブレーキ

新しいブレーキには、初期のなじみ期間が必要です。最初の 1,000 km (625 マイル) までは急ブレーキを避けてください。

標準/道路での使用

- 高回転および高負荷走行を行う前にエンジンを暖機してください。エンジンが完全に動作温度に達するまではエンジン回転数が 5,000 rpm を超えないようにしてください。
- 高回転/高負荷走行後は、2 分以上経過するまでエンジンを停止しないでください。
- 10 分以上エンジンをアイドリングしないでください。

運転操作装置

慣らし運転

サーキットでの使用

i 注意: 慣らし運転中にサーキット走行は行わないでください。

サーキット走行を行う場合は、事前にマクラーレン代理店にご相談ください。マクラーレンでは、サーキット走行の前後に車両を点検に出すよう推奨しています。

運転操作装置 給油

燃料の給油

高電圧 (HV) バッテリーの充電の詳細については、以下を参照してください。

「高電圧 (HV) バッテリー充電の安全性」 (6.18 ページ)

「高電圧 (HV) バッテリーの充電」 (6.20 ページ)

給油時の安全

! **警告:** 燃料は高い引火性があります。燃料を取り扱う際には火気、裸火、喫煙および携帯電話の使用は禁止されています。給油の前にエンジンを停止してください。

! **警告:** 燃料および気化した燃料は、健康を害するおそれがあります。気化した燃料を吸い込んだり、燃料が皮膚や衣服に付着したりしないように注意してください。

! **警告:** 非標準の給油ノズルを使用する場合は、必ず燃料フィラー・パイプをお使いください。「燃料フィラーパイプを使用した給油」 (2.60 ページ) を参照してください。

! **警告:** ねじ回しや金属工具で給油口フラップを開けようとしないでください。火花が発生し、燃料蒸気に引火する可能性があります。

フューエルフィラーフラップは右側リアにあります。車両のロック、ロック解除に連動して自動的にロックまたはロック解除されます。

i **注意:** キーレス・エントリーが有効になっている場合、リモコン・キーがロック解除ゾーンで検出され、フラップが押されると、給油口フラップがロック解除されます。キーがロック・ゾーンで検出されると、給油口フラップが自動的にロックされます。「キーレスエントリー」 (1.02 ページ) を参照してください。

i **注意:** 車両がロックされているときに給油口フラップを無理に開けようとしないでください。フラップやロックメカニズムが損傷するおそれがあります。

i **注意:** フューエルフィラーフラップはエンジンを停止しないとロック解除されません。

i **注意:** すべてのパワートレイン・モードで、給油後、燃料蒸気を除去するためにエンジンが始動します。

ガソリンスタンドの給油機による給油

1. エンジンを停止します。



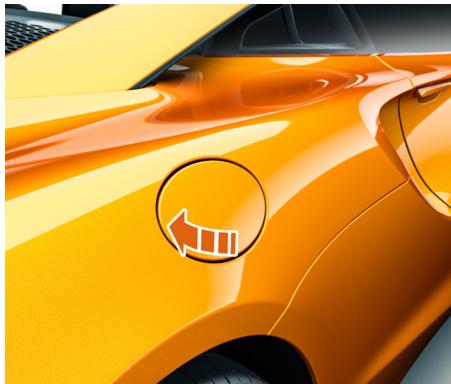
2. 給油口フラップの後端を押します。ラッチが解除されます。
3. フラップを開けます。
- i** **注意:** この車には給油口キャップはありません。
4. 給油口にノズルを挿入して給油します。推奨燃料については「推奨燃料」 (2.61 ページ) を参照してください。
5. ポンプのノズルがオフになった後は、タンクへの給油を続けないでください。
6. ノズルを取り外します。
7. 給油口フラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。

運転操作装置

給油

燃料フィラーパイプを使用した給油

- エンジンを停止します。



- 給油口フラップの後端を押します。ラッチが解除されます。

- フラップを開けます。

i 注意: この車には給油口キャップはありません。



- ラゲッジルームから燃料フィラーパイプを取り出します。「燃料フィラーパイプ」(6.14 ページ)を参照してください。
- フィラーネックに燃料フィラーパイプを挿入します。
- 燃料フィラーパイプにノズルを挿入して給油します。推奨燃料については「推奨燃料」(2.61 ページ)を参照してください。
- 燃料を入れ過ぎないでください。
- ノズルを取り外します。

⚠ 警告: 燃料がこぼれたり溢れたりしないように注意してください。こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。

- 燃料フィラーパイプを取り外し、よく拭いてフロントラゲッジルームに収納します。
- 給油口フラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。

運転操作装置

給油

推奨燃料

エンジンの性能を最大に引き出すためには、EN 228 規格に適合した 98 RON/88 MON 無鉛ガソリンを使用してください。

98 RON/88 MON が入手できない地域では、EN 228 規格に適合したオクタン価が 95 RON/85 MON 以上の無縫プレミアムガソリンを使用してください。

i 注意: 給油する燃料の品質に関する情報は給油機に表示されています。

i 注意: 給油機燃料が無鉛ガソリンに関する EN 228 の要件を満たしていない場合や燃料添加剤を使用した場合、エンジンが摩耗・損傷する可能性が高くなります。誤った燃料の使用によって生じた損傷は車両保証の対象外となります。

i 注意: この車両は、E10 燃料（10 % エタノール含有量）での使用に適しています。この車両は 10 % を超えるエタノールを含有する燃料の使用には適しません。この車両は 10 % を超えるエタノールを含有する燃料の使用が必要な装置を装備していません。

E85 燃料（85 % エタノール含有）は使用しないでください。E85 燃料を使用すると、エンジンと燃料システムに深刻な損傷が発生します。

i 注意: フューエルタンクに誤った種類の燃料を間違って給油した場合は、エンジンを始動せずに、マクラーレン正規代理店にご連絡ください。

運転操作装置

冬季の走行

冬季の走行

冬のはじめに、マクラーレン代理店で車両を点検することを推奨します。この点検には以下の項目が含まれています。

- 不凍液/防錆剤濃度の点検
- フロントウィンドウウォッシャーシステムへの高濃度ウォッシャーフルードの補充
- バッテリーの点検
- タイヤ交換

ウィンタータイヤ

警告: トレッドの深さが4 mm未満になつたウィンタータイヤは直ちに交換してください。そのようなタイヤは十分なグリップが得られないため冬季使用には不適切であり、使用した場合事故につながるおそれがあります。

i 注意: マクラーレン指定のウィンタータイヤのみを使用してください。

i 注意: センサー付きタイヤは自動的に検出されます。

i 注意: 国によっては、年間の特定時期にまたは特定の運転環境下で冬用タイヤを装着することが義務化されています。

i 注意: ホイールの交換は、必ずマクラーレン代理店で行ってください。ジャッキを不適切に使用した場合、車両を損傷するおそれがあります。

i 注意: センサー付きの新しいタイヤを装着した場合は、マクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) の「タイヤ」画面に移動し、「リセット」アイコンにタッチして、新しいタイヤを車両に検出させます。「タイヤ」(4.11 ページ) を参照してください。

安全かつ適法な場所で、車両を 40 km/h ~ 100 km/h (25 mph ~ 60 mph) の速度で数分間運転すると、更新された圧力、温度およびサイズが表示されます。リセット手順を実行しなくとも車両は新しいタイヤを自動的に検出しますが、表示が更新されるまでにはさらに数分かかる場合があります。

気温が 7°C (45°F) 以下のときや、雪道または凍結路の走行時はウィンタータイヤを使用してください。アンチロックブレーキシステムとエレクトロニックスタビリティコントロールの効果を最大限に発揮させるためには、ウィンタータイヤを装着する必要があります。

安全なハンドリング特性を維持するために 4 輪とも同一メーカーおよびトレッドのウィンタータイヤを使用してください。

センサー付きの冬用タイヤは車両が自動的に検出し、該当タイヤで安全に走行できる速度を超えないよう警告する速度警告が自動的に設定されます。

装着したウィンタータイヤに指定されている最高速度に関する助言や情報はマクラーレン代理店にお問い合わせください。ASL システムを使用して車両の最大速度を制限できます。「速度上限の設定」(2.55 ページ)を参照してください。

スノーソックス

マクラーレンは、マクラーレン車用として認定されたスノーソックスのみの使用を推奨します。スノーソックスを装着する場合は、以下の点に注意してください。

- スノーソックスは必ずリアホイールにのみ、かつ左右両方に装着してください。
- メーカーの取付説明書に従います。

スノーソックスのパッケージに記載された最大許容速度を超えないようにしてください。雪道での走行が終わったら速やかにスノーソックスを取り外してください。

McLaren 

インストルメント

概要	3.02
概要.....	3.02
タコメーター.....	3.02
スピードメーター.....	3.03
電力計および充電メーター.....	3.03
ドライバーディスプレイ	3.05
概要.....	3.05
トリップ.....	3.06
ナビゲーション.....	3.07
メディア.....	3.08
電話.....	3.09
車両ステータス.....	3.09
ハイブリッドバッテリーの充電.....	3.11
マクラーレントラックテレメトリ (MTT)	3.12
メッセージ.....	3.13
ディスプレイウィンドウ.....	3.21
ギア位置インジケーター.....	3.22
ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ.....	3.23
エレクトロニクス・タビリティ・コントロール (ESC) モードの表示.....	3.23
クーラント温度.....	3.24
オイル温度.....	3.24
HV バッテリー充電レベルおよび到達可能距離.....	3.25
燃料残量および範囲.....	3.26

インストルメント

概要

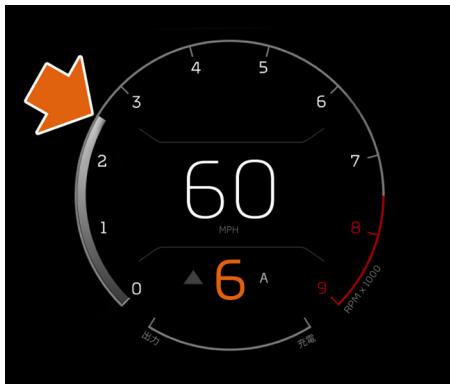
概要

ドライバーディスプレイはイグニッションをオンにするとアクティブになります。「イグニッションのスイッチをオンにする」(2.05 ページ)を参照してください。

警告: ディスプレイまたは車両の電気系統が故障している場合、ドライバーディスプレイにメッセージは表示されません。直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。このような状況での車両の使用は危険です。

警告: 車両の走行中にドライバーディスプレイがオフになった場合は、運転スタイルを調整し、できるだけ早く安全に停車してください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

タコメーター



タコメーターディスプレイは、パワートレインおよびハンドリングモードがコンフォートまたはスポーツのときにドライバーディスプレイの中央に表示されます。ディスプレイの赤色の数字はエンジンの最高 RPM を表しています。

パワートレインまたはハンドリングモードでトラックを選択すると、タコメーターのスタイルが選択したモードに合わせて変更されます。「ディスプレイウィンドウ」(3.21 ページ)を参照してください。

i 注意: 最高 RPM は動的であり、特定の条件下で低下します。例えば、エンジンオイルが通常の動作温度未満である場合、またはニュートラルギアが選択されている場合です。

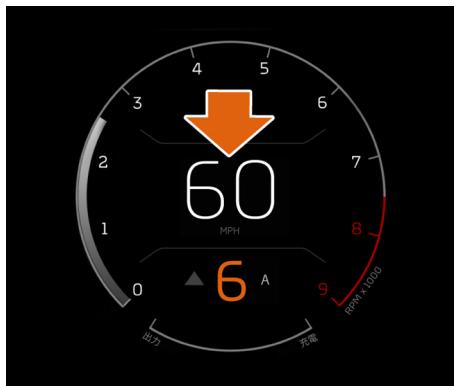
i 注意: エンジンを長時間最高回転数もしくはそれに近い回転数で動作させないでください。最高 RPM に達するとエンジンを保護するために燃料供給が遮断されます。

シフトライト

パワートレインまたはハンドリングモードでトラックを選択すると、ドライバーディスプレイの上端にシフトライトが表示されます。シフトライトは、最高のパフォーマンスを発揮するためにギアを変更する最適な時間を示します。シフトライトは、緑色ブロック、赤色ブロックおよび青色ブロックの3つのブロックで構成されています。各ブロックはエンジン回転数が増加すると点灯します。青色ブロックが点灯するポイントを超えてエンジン回転数が増加すると、急加速できません。

インストルメント 概要

スピードメーター



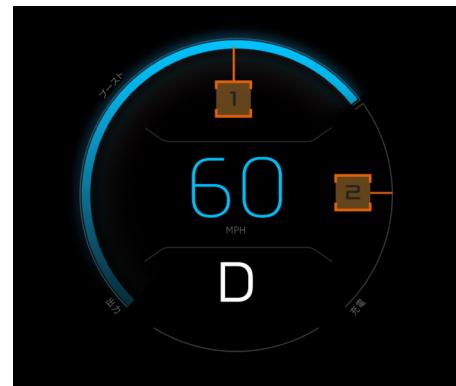
スピードメーターは、パワートレインモードが電動およびコンフォートになっていて、ハンドリングモードがコンフォートになっているときは、ドライバーディスプレイの中央に表示されます。

スポーツ、トラックパワートレインまたはハンドリングモードが選択されている場合、スピードメーターのスタイルは選択したモードを合わせ変更されます。「ディスプレイウィンドウ」(3.21 ページ) を参照してください。

i 注意: スピードメーターは、単位をマイルからキロメートルに変更すると、mph から km/h に切り替わります。「速度と距離」(4.15 ページ) を参照してください。

i 注意: システムに通信障害がある場合は、車速は常に「0」と表示されます。障害を通知するために、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。障害発生時には、状況に合わせた運転を行い、常に車速に気を配ってください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

電力計および充電メーター



電動パワートレインモードのとき、ドライバーディスプレイの中央に電力計と充電メーターが表示されます。

縮小版の電力計および充電メーターは、パワートレインハイブリッドモードがコンフォート、スポーツ、トラックの場合でも表示されます。「ディスプレイウィンドウ」(3.21 ページ) を参照してください。

電力計の青色のバー (1) は、車両の走行中に現在使用されている eMotor からの瞬間電力出力を表します。

インストルメント 概要

充電メーター (2) は、車両走行中にeMotorによって現在回収されている可能性のあるエネルギーの割合を示します。

i 注意: 特定の条件下では、バッテリーの充電量が低下した場合など、電動パワートレインモードを選択した状態でエンジンがホイールに駆動力を供給することがあります。このような場合、電力計がスロットル入力に応答しないことがあります。

インストルメント ドライバーディスプレイ

概要

⚠️ 警告: 車両が走行中にメニューを操作・閲覧しようとすると、道路や交通状況に対する注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

警告は、ドライバーディスプレイのポップアップ・ウィンドウに表示されます。

保存されているメッセージは、イグニッションがオンのときは随時見ることができます。「メッセージ」(3.13 ページ)を参照してください。



- ドライバーディスプレイの左側に表示される内容は、左コントロール・レバーを使用して設定します。「カルーセルメニュー」(3.05 ページ)を参照してください。

- ドライバーディスプレイの中央部分に表示される情報は、選択したハンドリング・モードおよびパワートレイン・モードによって異なります。「ディスプレイウィンドウ」(3.21 ページ)を参照してください。
- ドライバーディスプレイの右側のセクションに表示される内容は、選択したパワートレイン・モードによって異なります。「パワートレインコントロール」(2.23 ページ)を参照してください。
- 現在選択されているパワートレイン・モードは、ドライバーディスプレイの右下部分に表示されます。「パワートレインコントロール」(2.23 ページ)を参照してください。
- 「時計」(3.05 ページ)
- 「温度」(3.05 ページ)
- 現在選択されているハンドリング・モードは、ドライバーディスプレイの左下部分に表示されます。「ハンドリングコントロール」(2.22 ページ)を参照してください。

時計

現在の時刻が表示されます。詳細については、「時間と単位」(4.14 ページ)を参照してください。

温度

⚠️ 警告: 表示された温度が氷点よりも高い場合であっても、路面が凍結している可能性があります。常に運転スタイルと速度を天候状況に合わせる必要があります。

温度は現在の外気温です。外気温の変化が表示されるまでに若干の時差があります。

外気温が 5°C (41°F) より下がると低温警告アイコン表示され、温度の表示色が青色になります。

外気温が 5°C (41°F) より上昇すると低温警告アイコンが非表示になり、温度の表示色が白色になります。

カルーセルメニュー



インストルメント ドライバーディスプレイ

ステアリングコラムの左側にあるコントロールレバーを使用することにより、メニュー構造を操作することができます。

以下のカテゴリーが利用可能です。

- ・「トリップ」 (3.06 ページ)
- ・「ナビゲーション」 (3.07 ページ)
- ・「メディア」 (3.08 ページ)
- ・「電話」 (3.09 ページ)
- ・「車両ステータス」 (3.09 ページ)
- ・「ハイブリッドバッテリーの充電」 (3.11 ページ)
- ・「発進コントロール」 (2.41 ページ)
- ・「マクラーレントラックテレメトリ (MTT)」 (3.12 ページ)

メニューのナビゲーション

1. コントロールレバーを上または下に動かして (+ または -) 選択する項目をハイライトさせます。
2. レバーを手前に引いて選択した項目に入ります。
3. 次に、一覧の中から見たいトピックを選び、コントロールレバーを上または下に動かして (+ または -) 目的のトピックをハイライトさせます。
4. 構造内の次のメニューに移動するには、レバーを手前に引きます。

5. 各構造の最後に情報または画面の表示があり、ここで設定の変更または情報の表示ができます。

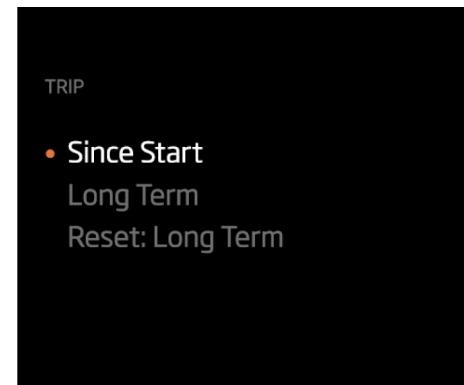


6. 必要な機能の選択または設定を行った場合、レバーを手前に引いて確定します。



注意:互換性のあるデバイスがBluetooth® またはUSB経由で接続されている場合は、レバーの端にあるボタンを押し、デバイスの音声アシスタントをアクティブにします。「音声認識」 (4.38 ページ)を参照してください。

トリップ



ドライバーディスプレイには、次のトリップデータを表示できます。

- ・ 開始後
- ・ 長期

インストルメント ドライバーディスプレイ



各トリップ画面には、その選択の距離、平均速度、車両燃費、および期間が表示されます。

「Since Start (開始後)」トリップは、エンジンのスイッチをオフにして約2時間以上経過した場合にゼロにリセットされます。

「Since Refuel (給油後)」トリップは、車両の給油が完了すると自動的にゼロにリセットされます。

「Long Term (長期)」トリップは手動でリセットする必要があります。これを行うには、メニューから「リセット:Long Term (長期)」を選択し、レバーを手前に引いて確定します。

オドメーター

オドメーターは各トリップ画面に表示され、車両が走行した合計距離を表示します。

ナビゲーション



現在のナビゲーション・ガイダンスの概要がドライバーディスプレイに表示されます。

インストルメント ドライバーディスプレイ



レバーを手前に引くと、ルート案内を停止できるオプション、または最近の目的地やお気に入りの目的地から選択した新しい目的地が表示されます。

ルートの設定およびナビゲーション機能の使用の詳細については、「ナビゲーション」(4.33 ページ)を参照してください。

ターンバイターン表示では、次の進行方向と距離が表示されます。

i 注意: 目的地をマクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) で設定していない場合、コンパスと現在の道路名のみが表示されます。

メディア



現在再生中の曲またはラジオ局の詳細が表示されます。

レバーを手前に引いてさらにオプションにアクセスします。

以下のオプションが使用可能で、現在のオーディオソースと利用可能なデバイスによって異なります。

- Play (再生)
- Pause (一時停止)
- 次へ
- Previous (前へ)

- ミュート
- ミュート解除
- ソースを変更

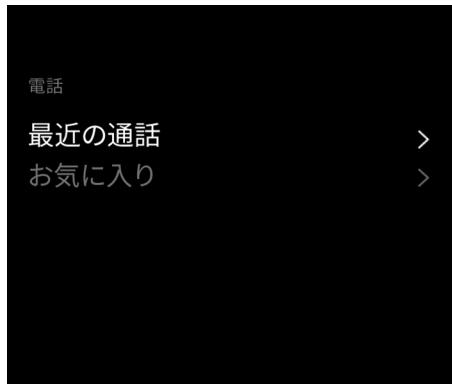
さまざまなソースのメディアにアクセスする方法の詳細については、「メディア」(4.19 ページ)を参照してください。

i 注意: メディアメニュー内で利用可能なオプションは、現在再生中のソースによって異なる場合があります。

インストルメント ドライバーディスプレイ

電話

⚠ 警告: 車両が走行中にメニューを操作・閲覧しようとすると、道路や交通状況に対する注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。



レバーを手前に引いてさらにオプションにアクセスします。

通話は以下のオプションから開始できます。

- 最近の通話
- お気に入り



さまざまなソースから電話にアクセスする方法の詳細については、「電話」(4.26 ページ)を参照してください。

i 注意: 電話メニュー内で利用可能なオプションは、電話のモデルによって、およびお客様のマクラーレンに接続中に発信または受信した通話によって異なる場合があります。

車両ステータス

概要



「車両ステータス」 ランディングページには 4 本のタイヤそれぞれの空気圧および温度が表示されます。白色で表示されている場合、何もする必要はありません。アンバー色または赤色の文字で表示されている場合、速やかにタイヤを検査し、空気圧を調整してください。

タイヤを点検し、減圧または温度上昇の原因を確認してください。

「タイヤ空気圧監視システム (TPMS)」(2.31 ページ) を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

レバーを手前に引いてさらに以下のオプションにアクセスします。

- 「メッセージ」 (3.10 ページ)
- 「パワートレイン温度」 (3.10 ページ)
- 「オイル」 (3.10 ページ)
- 「バッテリー (12 V)」 (3.11 ページ)
- 「サービス」 (3.11 ページ)

メッセージ

この画面はログに記録されたエラーメッセージがないことを確認します。

ログにエラーが記録されている場合は、この画面にエラーメッセージとメッセージをスクロールするための矢印が表示されます。考えられるメッセージの詳細については、「メッセージ」 (3.13 ページ)を参照してください。

パワートレイン温度



これにより、クーラントゲージおよびオイル温度ゲージが表示されます。

エンジンを始動すると、ゲージは最初青く表示されます。エンジンが暖まるにつれて、その色は標準温度を示す白色に変化します。

数字が赤色に変わると、高温であることが示されます。

ゲージが高温の赤色を示した場合は、標準温度になるまで減速してください。温度が上昇を続けた場合、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレン代理店にご連絡ください。

オイル

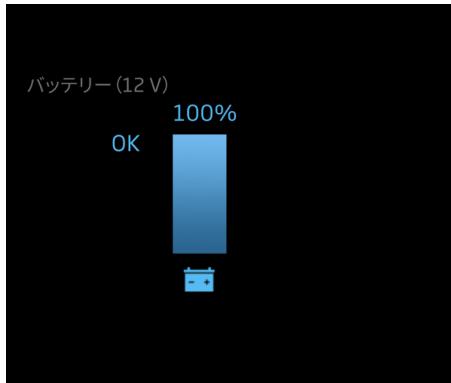


オイルレベルステータスがオイル温度とともに表示されます。

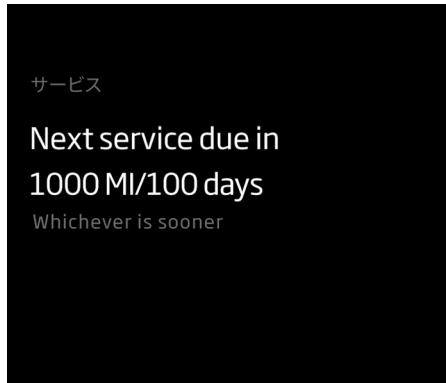
エンジンオイルレベルの点検方法については、「エンジンオイルの点検」 (6.04 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

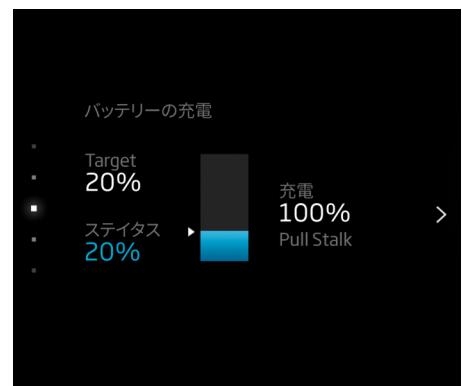
バッテリー (12 V)



サービス



ハイブリッドバッテリーの充電



パワートレインモードごとに、HV バッテリーのデフォルトの充電目標が変化します。

i 注意: 表示されるパーセント値は概算値です。

i 注意: 現在の目標充電レベルは、充電状態ゲージの ▶ アイコンで示されます。

トラックパワートレインモードでは、車両は最大のパフォーマンスを確保するために高い充電状態を目標とします。

スポーツパワートレインモードでは、車両は中間充電状態を目標とし、パフォーマンスと効率のバランスをとります。

インストルメント ドライバーディスプレイ

電動およびコンフォートパワートレインモードでは、電気での航続距離を最大化できるよう、車両は低い充電状態を目標にします。

周囲温度が低いか高い場合、キャビンの暖房と冷房用のエネルギーを確保するために、充電の目標状態が徐々に上げられます。

充電状態レベルが目標を下回ると、エンジンが始動し、充電率が自動的に増加する場合があります。

ゼロエミッションゾーンに向けて走行するときなど、電気での航続距離を最大化したい場合には、目標充電状態を 100% に設定できます。

ドライバーディスプレイメニューの「ハイブリッドバッテリーの充電」に移動します。左コントロールレバーを手前に引いて、充電目標を 100% とデフォルトのパーセンテージの間で切り替えます。

i 注意: 目標充電レベルが 100% に設定されている場合、車両がコンフォートまたはスポーツパワートレインモードにある間は維持されます。ただし、パワートレインモードが電動またはトラックに変更された場合、パワートレインモードがコンフォートまたはスポーツに戻されると、目標充電レベルはデフォルトに戻ります。

マクラーレントラックテレメトリ (MTT))



セッションを開始すると、ドライバーディスプレイとマクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) の両方で重要データを確認できます。

録画が開始される前のライブ G マップ、ブレーキ、スロットル・ポジションのデータが表示されます。

記録開始後には、レバーを手前に引くと、以下のように表示が切り替わります。

- 2D サーキット・レイアウト。
- 3D サーキット・レイアウト。

- ラップビュー（最終ラップとベンチマーク時間表示）。
- 速度の概要（GPS 速度、ラップ VMAX、および全体セッション VMAX を表示）。

マクラーレントラックテレメトリ機能の詳細については、「マクラーレントラックテレメトリ」(4.39 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ

 **警告: 警告メッセージを無視しないでください。適切な対応を怠ると、負傷や車両の損傷につながる恐れがあります。**

ドライバーディスプレイに、オーナーズ・ハンドブックを参照するように指示するメッセージが表示されることがあります。

重大度を示すメッセージとともにアイコンが表示されます。

メッセージ - Coupe および Spider

メッセージ	対処法
12Vバッテリー充電が制限されています	12Vバッテリーが消耗している可能性があります。マクラーレン代理店にお問い合わせください。
ブレーキフルードが少なくなっています	ブレーキフルードを補充してください。「ブレーキフルード」(6.07 ページ)を参照してください。
カメラの故障	アドバンストドライバーアシスタンスシステム (ADAS) フロントカメラに影響する不具合があります。マクラーレン代理店にお問い合わせください。
クラッチの温度が高すぎます	この車は極端な条件のもとで走行が行われました。このような条件は、極度の坂道発進や急加速の繰り返し、急な上り坂での長時間に渡る低速走行によって生じることができます。その結果、ギアボックスがエンジントルクを制限することがあります。車両を停止し、ニュートラルギアでエンジンを数分間アイドリングしてください。
クラッチ温度が高いです	この車は極端な条件のもとで走行が行われました。このような条件は、極度の坂道発進や急加速の繰り返し、急な上り坂での長時間に渡る低速走行によって生じることができます。その結果、ギアボックスがエンジントルクを制限することがあります。車両を停止し、ニュートラルギアでエンジンを数分間アイドリングしてください。



操作が必要ない情報。



操作が必要な情報。



低リスクの障害情報。走行終了までに、マクラーレン正規販売店にご相談ください。



高リスクの障害情報。車両を停めて車両から離れ、マクラーレン正規販売店にご連絡ください。



注意: メッセージによっては、特定の機能で障害が発生していることを示すアイコンが異なる場合があります。

メッセージによっては、オーナーズハンドブックを参照してください。以下の表は、それらのメッセージが表示されたときにどうすべきかを示します。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ	対処法
現在の走行速度ではクルーズ制御は利用できません	「クルーズコントロールの使用」(2.46 ページ)を参照してください。
ディスプレイ温度が不明です。ディスプレイはオフになります	ドライバーディスプレイ、「概要」(3.02 ページ)を参照してください。
エンジン冷却液のレベルが低下しています	エンジン冷却液を補充します。「クーラント」(6.06 ページ)を参照してください。
ESC をオフにできません	ESC の停止条件が満たされていません。「エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)」(2.29 ページ)を参照してください。
ESC を減少できません	ESC の低減条件が満たされていません。「エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)」(2.29 ページ)を参照してください。
エキゾーストフィルタークリーンドライブが必要です	ガソリン微粒子フィルター (GPF) の容量が近づいており、車両を走行させる必要があります。「ガソリン微粒子フィルター (GPF)」(6.10 ページ)を参照してください。
左前輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38 ページ)を参照してください。
左前輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38 ページ)を参照してください。
左前輪の空気圧が危険水準です	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38 ページ)を参照してください。
左前輪タイヤ圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ	対処法
右前輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38ページ)を参照してください。
右前輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38ページ)を参照してください。
右前輪の空気圧が危険水準です	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38ページ)を参照してください。
右前輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.38ページ)を参照してください。
ハイブリッド・バッテリーの温度が高すぎます 車を止めてから安全に出てください	車を止めて離れてください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。
ハイブリッド・システム接続の異常 車を止めてから安全に出てください	車を止めて離れてください。戻って車両に触れないでください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。
ハイブリッド・システムの異常 車を止めてから安全に出てください	車を止めて離れてください。戻って車両に触れないでください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。
キーバッテリー低残量	「リモコンキーの電池の交換」(6.34ページ)を参照してください。
ローンチモードが中断されました	「発進コントロールの使用」(2.42ページ)を参照してください。
ローンチモードを利用できません	発進が可能な条件が満たされていません。「発進コントロールの使用」(2.42ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ	対処法
左後輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
左後輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
左後輪の空気圧が危険水準です	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
左後輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
右後輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
右後輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
右後輪の空気圧が危険水準です	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
右後輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。 「ホイールとタイヤの点検」 (6.38 ページ) を参照してください。
ステアリングフルードが少なくなっています	パワーステアリングフルードを補充してください。 「パワーステアリングフルード」 (6.09 ページ) を参照してください。
温度が高すぎると、ディスプレイがオフになります	ドライバーディスプレイ、「概要」 (3.02 ページ) を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ	対処法
タイヤ監視機能の不具合 マクラーレン・サービスセンターにお電話ください	TPMS がタイヤを検出できていません。マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) の「タイヤ」画面に移動し、リセット・アイコンにタッチして、車両にタイヤを検出させます。「タイヤ空気圧監視システム (TPMS)」(2.31 ページ)と「タイヤ」(4.11 ページ)を参照してください。警告メッセージが消えない場合は、マクラーレン正規販売店にご連絡ください。
タイヤ未検出	TPMS がタイヤを検出できていません。マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) の「タイヤ」画面に移動し、リセット・アイコンにタッチして、車両にタイヤを検出させます。「タイヤ空気圧監視システム (TPMS)」(2.31 ページ)と「タイヤ」(4.11 ページ)を参照してください。警告メッセージが消えない場合は、マクラーレン正規販売店にご連絡ください。
左前輪タイヤ・センサーの不具合が検出されました マクラーレン・サービスセンターにお電話ください	タイヤ・センサーの不具合またはバッテリー低下が検出されました。マクラーレン正規販売店にご連絡ください。
右前輪タイヤ・センサーの不具合が検出されました マクラーレン・サービスセンターにお電話ください	タイヤ・センサーの不具合またはバッテリー低下が検出されました。マクラーレン正規販売店にご連絡ください。
左後輪タイヤ・センサーの不具合が検出されました マクラーレン・サービスセンターにお電話ください	タイヤ・センサーの不具合またはバッテリー低下が検出されました。マクラーレン正規販売店にご連絡ください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ	対処法
右後輪タイヤ・センサーの不具合が検出されました マクラーレン・サービスセンターにお電話ください	タイヤ・センサーの不具合またはバッテリー低下が検出されました。マクラーレン正規販売店にご連絡ください。
車速が速すぎる	車両が現在のタイヤ空気圧に適さない速度に達しました。車速を下げてください。「タイヤ空気圧」(7.10 ページ) を参照してください。
ガラスウォッシャー液が少なくなっています	ガラスウォッシャー液を補充してください。「フロントウィンドウウォッシャーフルード」(6.08 ページ) を参照してください。
ウィンタータイヤは高速に適していません	車両がウィンタータイヤに適していない速度に達した場合は、お客様のマクラーレンに装着されているタイヤに合わせて車の速度を下げてください。「ウィンタータイヤ」(2.62 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ - Spider のみ

メッセージ	対処法
トノーが空であることを確認します	このメッセージは、ルーフが上昇状態で、ルーフまたはバックライトスイッチが下降（開）位置に押し下げられているときに、トノーカバーを開けた場合に表示されます。スイッチを離してメニュー・コントロールレバーの「OK」を押すことにより、トノーエリアが空であることを確認し、空でない場合は、操作中にリトラクタブルルーフまたはバックライトが損傷するおそれがあることを承諾します。該当するスイッチを押すと、ルーフまたはバックライトが下降（開）を始めます。「リトラクタブル・ルーフ - Spider」(1.10 ページ)、「バックライト - Spider」(1.15 ページ)を参照してください。
ルーフ閉	このメッセージはルーフが上昇（閉）サイクルを完了したときに表示されます。「リトラクタブル・ルーフ - Spider」(1.10 ページ)を参照してください。
ルーフの不具合	このメッセージは、動作に不具合があった場合に表示されます。ルーフは操作できません。マクラン代理店にご相談ください。
ルーフ開	このメッセージは、ルーフが収納（開）サイクルを完了したときに表示されます。「リトラクタブル・ルーフ - Spider」(1.10 ページ)を参照してください。
ルーフ操作中です	このメッセージは、ルーフの開/閉サイクルの間に表示されます。「リトラクタブル・ルーフ - Spider」(1.10 ページ)を参照してください。
ルーフ操作が不完全です	このメッセージは、トノーカバーが開/閉サイクル中に、中間位置で停止した場合に表示されます。トノースイッチを、希望する方向に操作してください。「リトラクタブル・ルーフ - Spider」(1.10 ページ)を参照してください。
ルーフを操作できません 外気温が低すぎます	このメッセージは、開/閉サイクル試行時に外気温が-20°C (-4°F) を下回ると表示されます。「ルーフの動作温度」(1.11 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ	対処法
ルーフを操作できません マクラーレン・サービスセンターにお電話ください	このメッセージは、ルーフのコントロールユニットがドアの状態を確認できない場合に表示されます。ドアのステータスが確認できるまで、ルーフの操作は行えません。マクラーレン代理店にご相談ください。
ルーフを操作できません エンジン始動	このメッセージは、車両バッテリーの残量が少なくなったときに表示されます。エンジンを始動し、バッテリーを充電してください。ルーフスイッチを希望する方向に操作してください。マクラーレン代理店にご相談ください。
ルーフを操作できません 車速が速すぎる	このメッセージは、開/閉サイクル中に車速が 50 km/h (31 mph) を超えた場合に表示されます。減速して、希望する方向にルーフスイッチを操作してください。「リトラクタブル・ルーフ - Spider」(1.10 ページ) を参照してください。
ルーフシステムの温度が高すぎます	このメッセージは、ルーフの電気システムの温度が高くなり過ぎた場合に表示されます。安全に操作できるレベルにシステムの温度が下がるまで、ルーフは操作できません。マクラーレン代理店にご相談ください。
トノー閉	このメッセージは、トノーが閉サイクルを完了したときに表示されます。「トノー・カバー-Spider」(1.16 ページ) を参照してください。
トノー開	このメッセージは、トノーが開サイクルを完了したときに表示されます。「トノー・カバー-Spider」(1.16 ページ) を参照してください。
トノー操作中です	このメッセージは、トノーカバーの開/閉サイクルの間に表示されます。「トノー・カバー-Spider」(1.16 ページ) を参照してください。
トノー操作が不完全です	このメッセージは、トノーカバーが開/閉サイクル中に、中間位置で停止した場合に表示されます。トノースイッチを、希望する方向に操作してください。「トノー・カバー-Spider」(1.16 ページ) と「リトラクタブル・ルーフ - Spider」(1.10 ページ) を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

ディスプレイウィンドウ

ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。

ドライバーディスプレイの中央部分に表示される情報は、選択したモードによって異なります。

不要なコンテンツは、左側コントロールレバーを奥に押したままにしてステルスマードを有効にすることで非表示にできます。

1. 「電動モード」 (3.21 ページ)
2. 「コンフォートモード」 (3.21 ページ)
3. 「スポーツモード」 (3.22 ページ)
4. 「トラックモード」 (3.22 ページ)

ディスプレイウィンドウは、電動パワートレインモードを除き、選択した最高レベルのハンドリングまたはパワートレインモードに合わせて設定されます。電動パワートレインモードが選択されている場合、どのハンドリングモードが選択されていても、ディスプレイウィンドウは電動モードに合わせて設定されます。

「ハンドリングコントロール」 (2.22 ページ) と
「パワートレインコントロール」 (2.23 ページ)
を参照してください。

電動モード



コンフォートモード

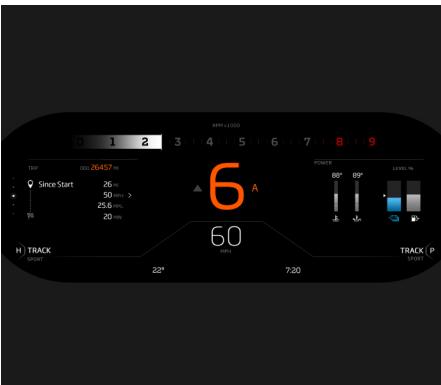


インストルメント ドライバーディスプレイ

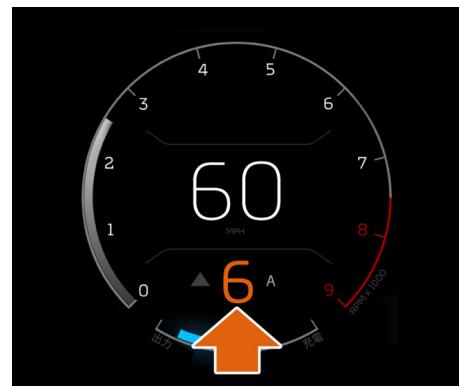
スポーツモード



トラックモード



ギア位置インジケーター



ギアインジケーターは現在選択しているギア位置を表示します。ニュートラル、ギア1～8、またはリバース (R)。インジケーターには、オートマチック、マニュアル、一時的なマニュアル、または発進モードがそれぞれ選択されているかに応じて、「A」、「M」、「A/M」、または「L」も表示されます。

車両がスポーツまたはトラックの場合、ギア位置インジケーターはドライバーディスプレイの中心に移動してスピード・メーターと位置が変わります。「スポーツモード」(3.22 ページ)と「トラックモード」(3.22 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

詳しくは、「マニュアル/オートマチックモード」(2.20 ページ)を参照してください。

車両が電動モードの場合、インジケーターにはドライブ「D」、ニュートラル「N」、またはリバース「R」のみが表示されます。「電動モード」(3.21 ページ)を参照してください。

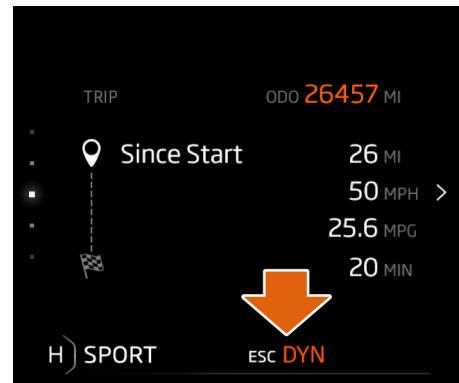
ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ



現在選択されているハンドリング・モードおよびパワートレイン・モードがドライバーディスプレイの両側に表示されます。詳しくは、「ハンドリングとパワートレインコントロール」(2.22 ページ)を参照してください。

ドライバーディスプレイのレイアウトは、選択したハンドリング・モードおよびパワートレイン・モードに応じて変わります。「ディスプレイウインドウ」(3.21 ページ)を参照してください。

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) モードの表示



選択しているエレクトロニックスタビリティコントロールモードを表示します。利用可能な各種設定に関する詳しい説明は、「エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)」(2.29 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

クーラント温度



トラックモードまたはスポーツモードが選択されている場合、クーラント温度は、ドライバーディスプレイの右側にカラーゲージ形式で表示されます。

コンフォートモードまたは電動モードが選択されている場合、温度が範囲外になるまでこのゲージは非表示のままになります。

i 注意: 選択したパワートレインモードに関係なく、このゲージはドライバーディスプレイの左側にある「車両ステータス」メニューから常にアクセスできます。

エンジンを始動すると、ゲージの数字は最初青色で表示されます。エンジンが暖まるにつれて、その色は標準温度を示す白色に変化します。

数字が赤色に変わると、高温であることが示されます。

ゲージが高温の赤色を示した場合は、標準温度になるまで減速してください。温度が上昇を続けた場合、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

安全に速やかに車両を停止し、マクラーレン代理店にご連絡ください。

オイル温度



トラックモードまたはスポーツモードが選択されている場合、オイル温度は、ドライバーディスプレイの右側にカラーゲージ形式で表示されます。

コンフォートモードまたは電動モードが選択されている場合、温度が範囲外になるまでこのゲージは非表示のままであります。

i 注意: 選択したパワートレインモードに関係なく、このゲージはドライバーディスプレイの左側にある「車両ステータス」メニューから常にアクセスできます。

インストルメント ドライバーディスプレイ

エンジンを始動すると、ゲージの数字は最初青色で表示されます。エンジンが暖まるにつれて、その色は標準温度を示す白色に変化します。

数字が赤色に変わると、高温であることが示されます。

ゲージが高温の赤色を示した場合は、標準温度になるまで減速してください。温度が上昇を続けた場合、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

HV バッテリー充電レベルおよび到達可能距離



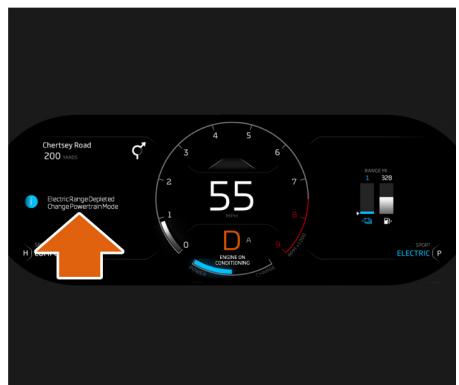
高電圧 (HV) バッテリーの充電レベルは、ドライバーディスプレイの右側に到達可能距離値と一緒にゲージの形で表示されます。現在の目標充電レベルは ▶ アイコンで示されます。「ハイブリッドバッテリーの充電」 (3.11 ページ) を参照してください。

HV システムの詳細については、「バッテリーの点検と保守」 (6.16 ページ) を参照してください。

HV バッテリーの到達可能距離

到達可能距離は、車両が電動モードで走行可能な推定距離です。

車両が電動モードになっているときに HV バッテリーの到達可能距離が極端に短くなると、エンジンが始動します。暖機されると、エンジンはホイールに駆動力を供給します。トルクは eMotor によって提供されるトルクに制限され、HV バッテリーレベルが維持されます。パワートレインモードの変更を推奨するメッセージが表示されます。

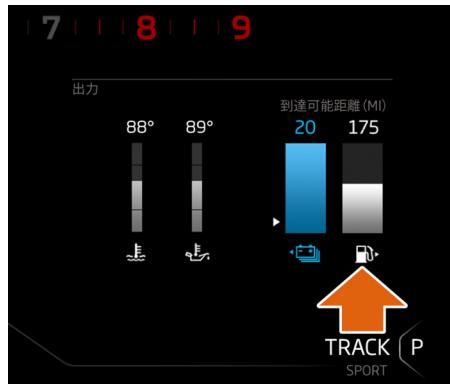


代替パワートレインモードに変更して、車両の複合ハイブリッド電源にアクセスし、HV バッテリーを充電します。

インストルメント ドライバーディスプレイ

i 注意: トラックモードを選択すると、到達可能距離の値が % で表示されます。

燃料残量および範囲



燃料残量

燃料残量は、ドライバーディスプレイの右側に到達可能距離の値とともにゲージの形で表示されます。

到達可能距離（燃料）

到達可能距離は、次回の給油が必要になるまでの予想航続距離です。

McLaren 

センターディスプレイ

はじめに	4.02	電話をかける	4.28
著作権	4.02	通話を受信	4.30
補足情報	4.02	通話中のオプション	4.31
システムコントロール	4.02	通話の終了	4.31
設定	4.06	連絡先	4.31
概要	4.06	ボイスメール	4.32
接続	4.06		
ライト	4.08		
コンビニエンス	4.08		
アシスタンス	4.10		
タイヤ	4.11		
ナビゲーション	4.12		
メディア	4.12		
セキュリティ	4.12		
時間と単位	4.14		
システム	4.17		
メディア	4.19		
概要	4.19		
メディアコントロール	4.20		
外部デバイスへの接続	4.20		
USB および iPod	4.21		
ストレージ	4.22		
Bluetooth オーディオ	4.23		
ラジオ	4.24		
ラジオコントロール	4.24		
ラジオデータシステム (RDS)	4.25		
Apple CarPlay	4.25		
電話	4.26		
概要	4.26		
デバイスのペアリング/接続	4.27		
電話をかける			
通話を受信			
通話中のオプション			
通話の終了			
連絡先			
ボイスメール			
ナビゲーション	4.33		
概要			
安全性			
ナビゲーションの使用			
目的地の設定			
オーディオ	4.36		
概要			
音声認識	4.38		
概要			
マクラーレントラックテレメトリ	4.39		
概要			
アプリケーションの起動			
設定			
ドライブ			
データの確認			
テレメトリデータのインポート			
テレメトリデータのエクスポート			
トラックの編集			
コネクテッドカー	4.45		
eCall			
HomeLink			

センターディスプレイ はじめに

著作権

McLaren Automotive は本書で取り扱われるシステムを常時更新しています。このため、いつでも予告なしに仕様を変更する権利を留保します。

本書で提供される情報はすべて正確なものとなるように最大限の努力が払われていますが、 McLaren Automotive またはその販売店は不正確な情報またはそれに生じる結果に対して、当事者の怠慢によって生じた人的傷害を除く一切の責任を負いません。

補足情報

Wi-Fi 商標の所有権は「Wi-Fi アライアンス」事業者団体に帰属します。メーカーは、自社認定製品が IEEE 802.11 規格に基づく WLAN（無線ローカルエリアネットワーク）デバイスクラスに属することを示すために、「Wi-Fi」商標を使用する場合があります。

Bluetooth® ワードマークとロゴは Bluetooth® SIG Inc. の所有物であり、McLaren Automotive Ltd. はこれらのマークをライセンスの下に使用しています。Bluetooth QDID: B019632、B017641、B017642。

Apple® および iPhone® は米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。

他の商標および商品名はそれぞれの所有者の商標および商品名です。

システムコントロール



イグニッションをオンにすると、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) が起動し、利用可能であれば、前回使用していたオーディオ・ソースを再開します。

1. ホーム（「アプリ」）(4.03 ページ)
2. 「通知と設定」(4.03 ページ)
3. ホーム（「ウィジェット」）(4.03 ページ)
4. 「ホームと音量」(4.04 ページ)
5. 「クライメートコントロール」(5.04 ページ)
6. 「アプリ」(4.03 ページ)

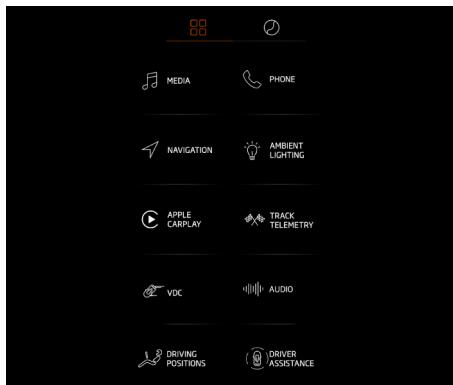
センターディスプレイ はじめに

ホーム画面

MISには2つのホーム画面があります。

- 「アプリ」 (4.03 ページ)
- 「ウィジェット」 (4.03 ページ)

アプリ



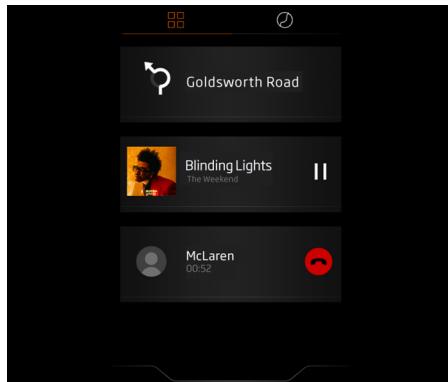
アプリ画面には、MISで使用可能なすべてのアプリケーションが表示されます。

使用可能なアプリケーションにアクセスするには、「ホーム」ボタンを押すか、「アプリ」アイコンにタッチします。

- 「メディア」 (4.19 ページ)

- 「電話」 (4.26 ページ)
- 「ナビゲーション」 (4.33 ページ)
- 「オーディオ」 (4.36 ページ)
- 「ムードライト」 (5.10 ページ)
- 「運転支援」 (2.34 ページ)
- 「可変ドリフトコントロール (VDC)」 (2.30 ページ)

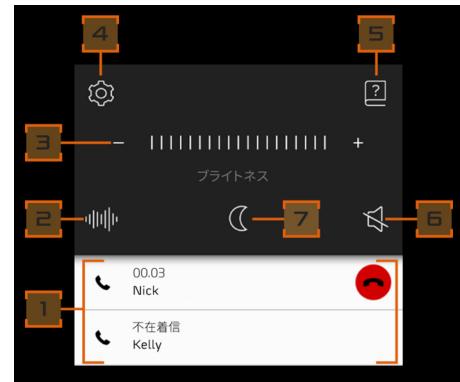
ウィジェット



ウィジェット画面には、MISで現在動作しているアプリが表示されます。これらの対話式アイコンは「ウィジェット」と呼ばれます。ウィジェットを長押ししてからドラッグし、表示順序を変更します。

ウィジェット画面にアクセスするには、「ホーム」ボタンを押して「ウィジェット」アイコンにタッチします。

通知と設定



MIS画面上部の通知バーを下にスワイプして、通知と設定のショートカットにアクセスします。

- 接続されているデバイスのステータス、通話履歴、進行中の通話などの通知が通知領域に表示されます。通知をタッチして、対応するアプリケーション（電話など）を起動します。

通知は左にスワイプすることで破棄できます。

センターディスプレイ はじめに

- タッチして、MISのオーディオ設定を表示および調整します。
「オーディオ」(4.36 ページ)を参照してください。
- MIS画面の輝度を上げるには、「+」アイコンにタッチし、下げるには「-」アイコンにタッチします。画面の輝度は、バーに沿って左右にスワイプして調整することもできます。
- タッチして車両、ドライバーディスプレイ、およびMISの使用可能な設定を表示し、調整します。
「設定」(4.06 ページ)を参照してください。
- タッチしてオーナーズハンドブックの電子版を起動します。「電子ユーザー マニュアル」(.3 ページ)を参照してください。
- タッチして、再生中のオーディオをミュート/ミュート解除します。
- タッチして、夜間モードのオンとオフを切り替えます。夜間モードが有効なときは、MIS画面のメイン部分が黒くなります。標準表示に戻るには、ディスプレイの任意の場所をタッチします。

ホームと音量



- MISをオンにするには、「ホーム」ボタンを押します。

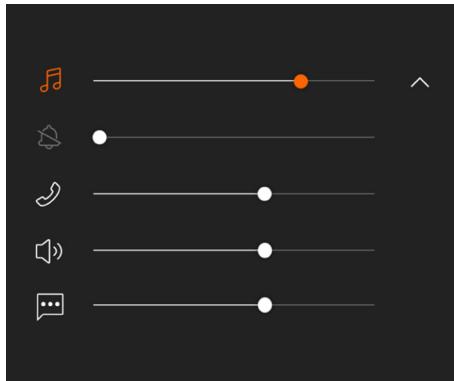
MISがアクティブになっているときに、ボタンを短く押すと、システムのどの画面からでもホーム画面に戻ります。

現在アプリのホーム画面を表示している場合は、ボタンを短く押すとウィジェットのホーム画面に移動します。

ウィジェットのホーム画面を表示している場合は、ボタンを短く押すとアプリのホーム画面に移動します。

現在別のアプリケーションを使用している場合は、ボタンを短く押すと、最近使用したアプリまたはウィジェットのホーム画面に移動します。

車両のイグニッションがオフのときにMISを使用するには、「ホーム」ボタンを1秒間押したままにして、タイマー・モードにアクセスします。このモードでは、ユーザーが延長しない限り、MISは15分後にシャット・ダウンします。



音量を上げるにはコントロールを時計回りに回し、音量を下げるには反時計回りに回します。

音量コントロールを使用して、現在アクティブなソースの音量を設定します。アクティブなソースの名前は画面に表示されます。

センターディスプレイ はじめに

設定した音量を示す水平バーが画面に短時間表示されます。黒いアイコンにタッチしてビューを展開し、使用可能な他のオーディオソースの音量にアクセスします。必要に応じてバーをタッチしてドラッグし、使用可能なオーディオソースの音量を調整します。

MISサウンドがミュートされている場合、いずれかの方向に音量コントロールを回すとサウンドは回復します。

i 注意:音量コントロールのツマミを回して、音量を調整できます。一時的なオーディオソースの場合（電話呼び出しなど）、そのソースがアクティブなときに音量を調整できます。

ステータスバー

特定のシステムが作動しているとき、または機能がアクティブになっているときに、多くのアイコンが画面上部に表示されます。

 電話の信号強度インジケーター。

 接続されているデバイスのバッテリーレベルステータス。

 Wi-Fiの信号強度インジケーター

 メディアミュート。

 Apple CarPlay がアクティブ。

 マクラーレントラックテレメトリ (MTT) の録画がアクティブ。

センターディスプレイ 設定

概要

マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) 画面上部の通知バーを下にスワイプして、設定ショートカットにアクセスするか、MISアプリのホーム画面のアイコンにタッチします。



設定画面から以下の項目を選択できます。

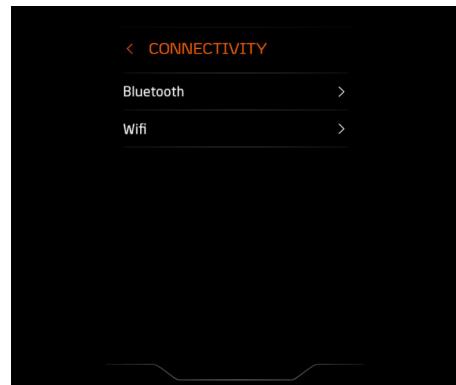
- 「接続」 (4.06 ページ)
- 「ライト」 (4.08 ページ)
- 「コンビニエンス」 (4.08 ページ)
- 「アシスタンス」 (4.10 ページ)
- 「タイヤ」 (4.11 ページ)
- 「ナビゲーション」 (4.12 ページ)

- 「メディア」 (4.12 ページ)
- 「セキュリティ」 (4.12 ページ)
- 「時間と単位」 (4.14 ページ)
- 「システム」 (4.17 ページ)



注意: 車両の仕様に応じて利用可能な設定が異なる場合があります。

接続

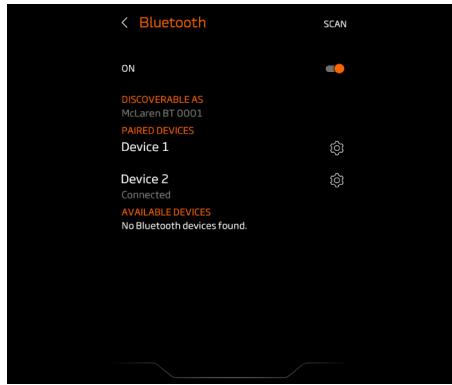


以下の接続設定を使用できます。

- 「Bluetooth」 (4.07 ページ)
- 「Wi-Fi」 (4.07 ページ)

センターディスプレイ 設定

Bluetooth



画面上のスイッチにタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

Bluetooth®をオンにすると、ペアリング済みのデバイス、現在接続されているデバイス、および範囲内で検出可能に設定されているその他の利用可能なデバイスのリストが表示されます。

「スキャン」にタッチして、利用可能なデバイスのリストを更新します。

Bluetooth®デバイスの接続に関する詳細については、「デバイスのペアリング/接続」(4.27ページ)を参照してください。

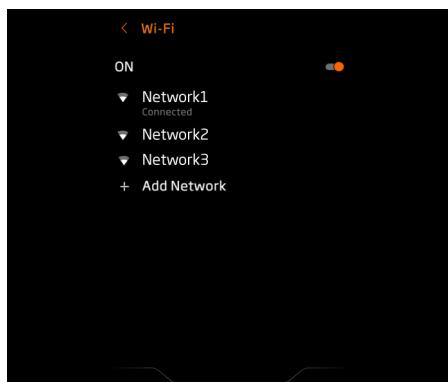
Wi-Fi

モバイル Wi-Fi は、ナビゲーションなどの機能をサポートするため、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) で使用します。

i 注意: モバイル Wi-Fi ネットワークに接続すると、ライブトラフィックのアップデートが有効になります。

i 注意: モバイル Wi-Fi ネットワークに接続している間に使用されたモバイルデータについては、お客様が契約している携帯電話会社から請求される場合があります。

「Wi-Fi」または「モバイル Wi-Fi」を選択し、適切な Wi-Fi ネットワークを選択します。



画面上のスイッチにタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

Wi-Fi をオンにすると、現在接続されているネットワークと、範囲内にあるその他の利用可能なネットワークが表示されます。

センターディスプレイ 設定

ライト



乗車および降車照明

乗車前/降車後ライトは、車両がロック解除およびロックされているときにエクステリアランプを点灯させます。これらの機能を有効にするには、それぞれの時間を 15 秒、30 秒、45 秒、または 60 秒に設定します。無効にするには、「オフ」を選択します。

スイッチ照明

この機能を使用して、スイッチ照明の輝度を調整できます。1~7 の範囲から必要なレベルを選択します。

フットウェルおよび車内灯

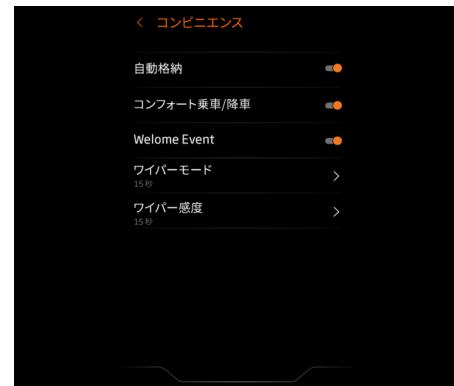
フットウェルおよび車内灯は、必要に応じて「オン」または「オフ」に設定できます。



注意:

車両にムードライトが設定されている場合、フットウェルおよび車内灯設定は使用できません。

コンビニエンス



以下のコンビニエンス設定を使用できます。

- 「自動折りたたみミラー」 (4.09 ページ)
- 「コンフォートエントリー/イグジット」 (4.09 ページ)
- 「歓迎イベント」 (4.09 ページ)
- 「ワイパーモード」 (4.09 ページ)
- 「ワイパー感度」 (4.09 ページ)

センターディスプレイ 設定

自動折りたたみミラー

「オン」を選択した場合、車両をロックすると外部ミラーが折りたたまれ、ドアを開けると展開されます。「オフ」を選択した場合、ミラーは走行位置のままとなります。

コンフォートエントリー/イグジット

自動シートスライドが「オン」のときは、エンジンをオフにして運転席ドアを開くと、運転席シートが後ろいっぱいまで移動し高さが最低位置になり、ステアリングホイールが内側に移動し最高位置になります。

自動シートスライドが「オフ」の場合、運転席シートおよびステアリングホイールの位置は移動しません。

歓迎イベント

「歓迎イベント」にタッチすると、起動アニメーションの「オン」と「オフ」が切り替わります。

ワイパーモード



「自動」または「時間指定」を選択します。

「自動」を選択すると、自動位置でのワイパーの動作は雨滴センサーによって制御されます。雨滴センサーの感度の調整方法については、「ワイパー感度」(4.09 ページ)を参照してください。

「時間指定」を選択すると、自動位置でのワイパーの動作は間欠ワイパーになります。

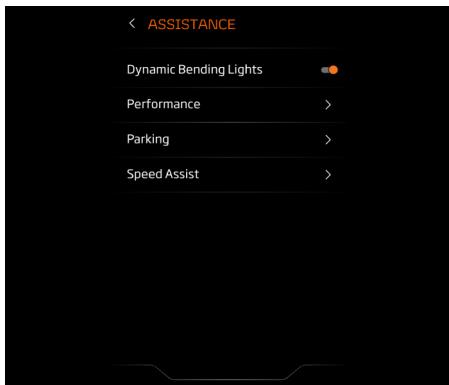
ワイパー感度



ワイパー動作の好みに合わせて感度レベルを選択します。この設定は雨滴センサーの感度レベルに適用され、断続的なワイパー作動時間の遅延には影響しません。

センターディスプレイ 設定

アシスタンス



以下のアシスタンス設定が使用できます。

- 「ダイナミックベンディングライト」 (4.10 ページ)
- 「パフォーマンス」 (4.10 ページ)
- 「駐車場」 (4.10 ページ)
- 「速度アシスト」 (4.11 ページ)

ダイナミックベンディングライト

ダイナミックベンディングライトは、コーナリング時にビームを調整し、進行方向を明るく照らします。この機能を有効にするにはダイナミックベンディングライトを「オン」に設定し、無効にするには「オフ」を選択します。

パフォーマンス

ギアシフトモード (PSC) は音が鳴るシフトインジケーターで、マニュアルギアポックスモードでフルスロットルの加速中に、最適なパフォーマンスを維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

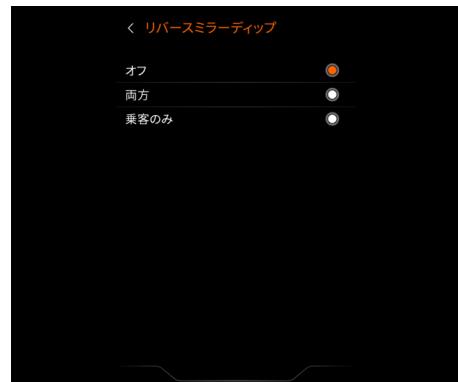
「パフォーマンスシフトキュー」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

駐車場

カメラのガイドライン

ライブビデオ画像には、ガイドラインが表示されます。このガイドラインは車両後部と障害物の距離を測るためにガイドとして使用できます。「カメラのガイドライン」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

リバースミラーディップ



「オフ」 - リバースギアにシフトしてもミラーディップは行われません。

「両側」 - リバースギアにシフトすると両方のミラーが下向きになります。

「助手席側」 - リバースギアにシフトすると助手席側のミラーが下向きになります。

リバースギアへのシフトに連動したミラーのディップ量を設定するには:

1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. クラスターのミラーディップセクションで「両側」または「助手席側」を選択します。

センターディスプレイ 設定

3. ブレーキペダルを踏んでリバースギアにシフトします。
4. 設定したい位置にミラーを調整します。「外部ミラー」(1.36ページ)を参照してください。
5. ギアをリバース以外にします。

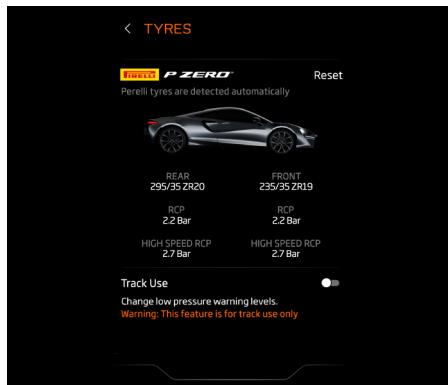
次にリバースギアにシフトしたときには、車両が自動的にミラーを事前に設定したオフセット分だけ標準位置から移動させます。

速度アシスト

「速度制限表示」を「オン」にしたときは、現在の道路の速度制限が取得できる場合は、それがドライバーディスプレイに表示されます。

「速度制限表示」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

タイヤ



これは、フロントおよびリアタイヤのサイズ、推奨冷間時空気圧 (RCP)、および高速RCPを示しています。

詳しくは、「ホイールおよびタイヤサイズ」(7.08ページ)および「タイヤ空気圧」(7.10ページ)を参照してください。

i 注意: センサー付きタイヤは自動的に検出されます。

C 新しいタイヤとセンサーを取り付けた場合は、新しいタイヤの空気圧とサイズが表示されるよう、リセット・アイコンにタッチします。



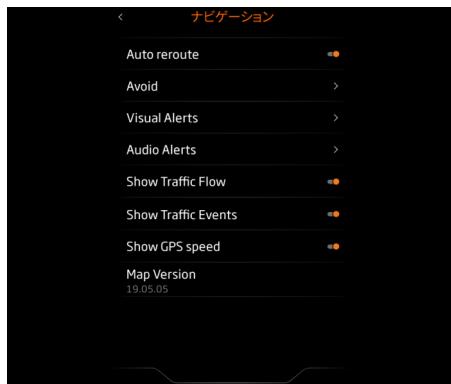
注意: タイヤ・リセット・アイコンを使用すると、関連するタイヤの空気圧の警告がすべてクリアされます。警告が引き続き表示される場合はマクラーレン代理店にご連絡ください。

マクラーレンでは、センサー付きタイヤの使用のみ推奨しています。詳細は、「ホイールおよびタイヤサイズ」(7.08ページ)を参照してください。センサー未装着のタイヤを使用すると、タイヤ空気圧監視システム (TPMS) は作動せず、警告灯が点灯します。詳細は、「インストルメントと警告灯」(2.05ページ)を参照してください。

トラックタイヤ空気圧については、「トラックモード」(2.33ページ)を参照してください。

センターディスプレイ 設定

ナビゲーション



以下のナビゲーション設定を使用できます。

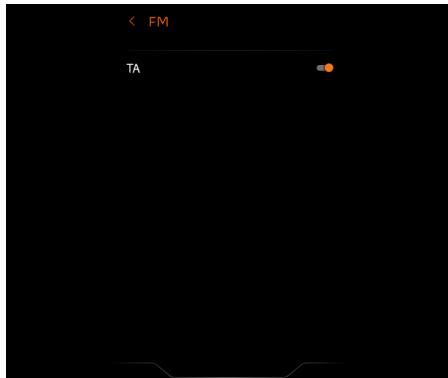
- 自動ルート再探索
- 回避
- 視覚的な警告
- トライフィックフローを表示
- トライフィックイベントを表示
- GPS速度を表示
- マップのバージョン

メディア

以下のメディア設定を使用できます。

- 「FM」 (4.12 ページ)

FM



交通アラート (TA) は、ラジオおよびメディア再生に割り込み、ドライバーに交通状況を知らせます。「交通アラート」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

セキュリティ



以下のセキュリティオプションを利用できます。

- 「キーレスエントリー」 (4.13 ページ)
- 「キーレスイグジット」 (4.13 ページ)
- 「自動ドアロック」 (4.13 ページ)
- 「ドアロック解除」 (4.13 ページ)
- 「バレットモード」 (4.14 ページ)

センターディスプレイ 設定

キーレスエントリー

キーレス・エントリーを使用すると、車両に近くだけで車両のロックを解除し、アラーム・システムを解除できます。使用者がリモコンキーを身に着ける、あるいはバッグなど非金属製のものに入れて携帯していれば、ほかに必要なものはありません。キーを外に出す必要も操作する必要もありません。リモコン・キーがドアから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) 以内にある場合、車両のロックは解除され、アラーム・システムも解除されます。

リモコン・キーがロック解除ゾーンで検出され、フラップが押されると、給油口と HV 充電ポート・フランジもロック解除されます。「燃料の給油」(2.59 ページ) および「高電圧 (HV) バッテリーの充電」(6.20 ページ) を参照してください。

「キーレスエントリー」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

キーレスイグジット

キーレス・エントリーを使用すると、車両から歩いて離れるだけで車両をロックしてアラームを設定できます。使用者がリモコンキーを身に着ける、あるいはバッグなど非金属製のものに入れて携帯していれば、ほかに必要なものはありません。キーを外に出す必要も操作する必要もありません。リモコンキーが車両から 5 m (16 フィート 5 インチ) 以上離れると、車両がロックされアラームが設定されます。「キーレスエントリー」(1.02 ページ) を参照してください。

「キーレスイグジット」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

自動ドアロック

購入時の車両は自動ドアロックが「オン」に設定されています。

この車のドアは走行を開始すると自動的にロックされます。

この機能を無効にするには、「オフ」を選択します。ドアは手動でロックしない限り走行を開始した後もロックされません。

ドアロック解除



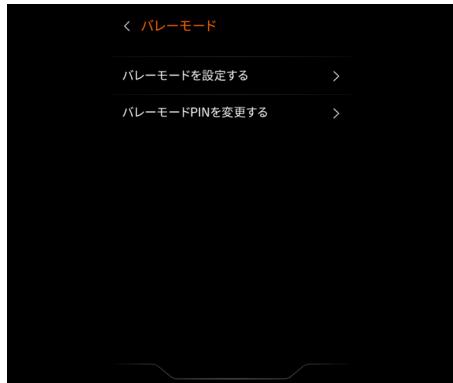
「運転席側」を選択した場合は、リモコンキーまたはドアボタンで車両のロックを解除すると、運転席ドアのロックのみが解除されます。

「両側」を選択した場合は、リモコンキーまたはドアボタンで車両のロックを解除すると、両方のドアのロックが解除されます。

「運転席側」または「両側」のどちらを選択しても、すべてのドアがロックされます。

センターディスプレイ 設定

バレットモード



バレー・モードをオンにすると、車速は55km/h (35mph) に制限され、アクティブダイナミクスパネルは無効になり、ラゲッジ・ルームはロックされたままになり、ドライバーディスプレイに確認メッセージが表示されます。

バレーモードを切り替えるには、「バレーモードを設定する」を選択した後、PINコードを入力する必要があります。

オンスクリーンキーパッドを使用して、4桁のPINコードを入力し、「決定」にタッチして確定します。番号を入力するたびに、番号がアスタリスクで表示されます。

工場で設定されたPINコードは0000です。初めてバレットモードをオンにする場合は、このPINコードを使用します。このPINコードはできるだけ早い機会に変更してください。

「PINコード変更」を選択し、オンスクリーンキーパッドを使用して古いPINコードを入力し、続けて新しいPINコードを入力し、「決定」にタッチして確定します。

バレットモードが「オン」の場合は、PINコードを入力してバレットモードをオフに切り替えます。

時間と単位



以下の時間と単位の設定を使用できます。

- ・「時刻形式」 (4.15 ページ)
- ・「時刻調整」 (4.15 ページ)
- ・「時間帯」 (4.15 ページ)
- ・「速度と距離」 (4.15 ページ)
- ・「燃料消費」 (4.16 ページ)
- ・「温度」 (4.16 ページ)
- ・「圧力」 (4.16 ページ)

センターディスプレイ 設定

時刻形式



12時間形式では「12時間」または24時間形式では「24時間」を選択します。

時刻調整



GPS同期を選択すると、GPS信号を使用して時間が自動的に調整されます。「GPS同期」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

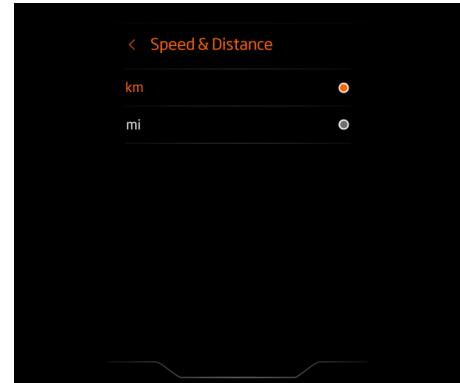
時間を手動で調整するには、「GPS同期」を「オフ」に設定する必要があります。

画面上のコントロールを使用して、時刻と日付を手動で調整します。

時間帯

地域に適したタイムゾーンを選択します。

速度と距離



「km」または「mi」を選択します。

センターディスプレイ 設定

燃料消費



「L/100km」、「km/L」、「mpg(UK)」、または「mpg(US)」を選択します。

温度



「華氏」または「摂氏」を選択します。

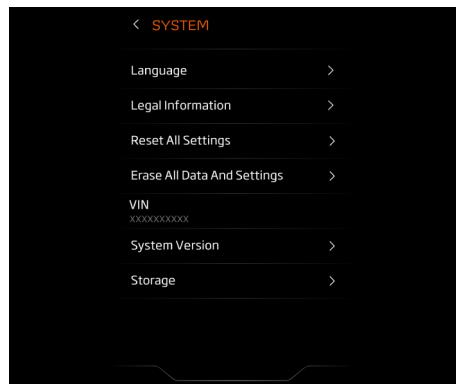
圧力



「kPa」、「PSI」、または「Bar」を選択します。

センターディスプレイ 設定

システム



以下のシステム設定を使用できます。

- 「言語」 (4.17 ページ)
- 「法律情報」 (4.17 ページ)
- 「工場出荷時の設定に復元」 (4.17 ページ)
- 「すべてのデータと設定の消去」 (4.18 ページ)
- 「VIN」 (4.18 ページ)
- 「システムバージョン」 (4.18 ページ)
- 「ストレージ」 (4.18 ページ)

言語

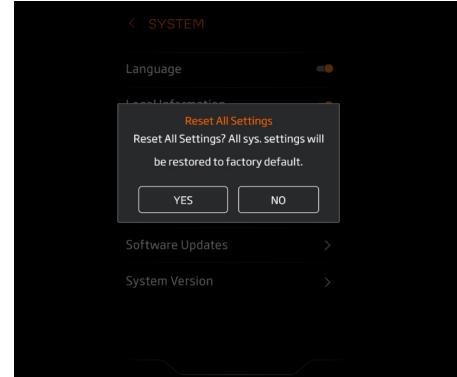


リストから使用する言語を選択します。

法律情報

このオプションを選択すると、車両やマクラレンインフォテイメントシステム (MIS) に関する使用可能な法的情報が表示されます。

工場出荷時の設定に復元



「はい」を選択すると、車両およびMIS のすべての設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

センターディスプレイ 設定

すべてのデータと設定の消去



「はい」を選択すると、すべてのユーザー・データが消去され、車両およびMISのすべての設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

VIN

車両識別番号 (VIN) を表示します。「車両識別番号 (VIN)」(7.03 ページ) を参照してください。

システムバージョン

MISにインストールされているソフトウェアのバージョンを表示します。

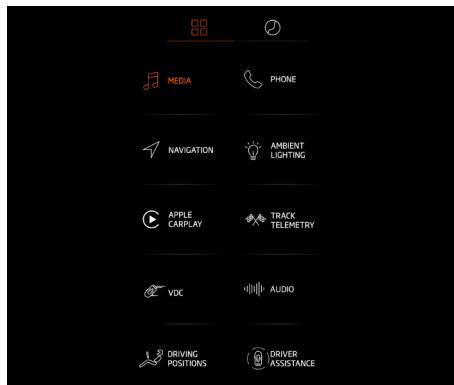
ストレージ

すべてのユーザー・データを MIS から削除するには、「ストレージの消去」を選択します。

「利用可能なストレージ」を選択すると、MIS のストレージで利用可能な空き容量と、メディアやマクラーレントラックテレメトリ (MTT) データなどのユーザー・データによって使用されている容量が表示されます。

センターディスプレイ メディア

概要



メディアプレーヤーの機能は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のアプリのホーム画面またはウィジェットのホーム画面の「メディア」アイコンにタッチするとアクセスできます。

「メディア」を選択して、使用可能なオーディオソースにアクセスします。

オーディオソース



音楽デバイスが USB ポートおよび Bluetooth® に接続されている場合、すべてのソースが画面に表示され、それぞれの記号が画面の上部に表示されます。

サポートされているメディアデバイス

現在の互換性あるメディアデバイスのリストについては、マクラーレン代理店にご相談ください。

サポートされているメディアファイル

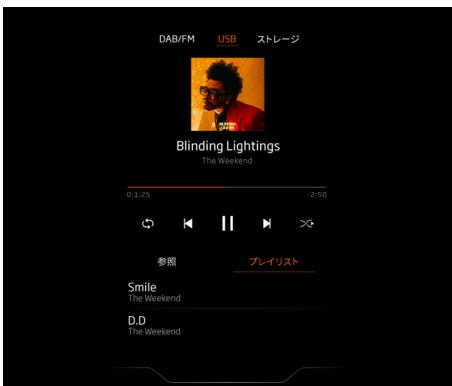
メディアシステムでは、以下の形式とエンコーディングを組み合わせたファイルを再生できます。

オーディオ:

- MP3
- AAC
- WMA
- OGG Vorbis
- AC3
- AMR
- FLAC
- WAV
- AIFF

センターディスプレイ メディア

メディアコントロール



内部ストレージまたは接続デバイスから再生される音楽は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) タッチスクリーンを使用して操作できます。

音楽の再生が始まると、アーティスト名、アルバムのタイトル、曲のタイトルが画面に表示されます。曲に関連するアートワークがあれば、それらも表示されます。アートワークがない場合は音符の画像が表示されます。

▶ を1回タッチすると、次の曲にスキップします。◀ アイコンを1回タッチすると、現在の曲の先頭にスキップします。2回タッチすると、1つ前の曲にスキップします。

曲を一時停止するには、■アイコンをタッチします。再生を再開するには、▶アイコンをタッチします。画面をタップすることで、曲を一時停止または再開することもできます。

🔀 現在選択している音楽をランダム再生するには、アイコンを押します。ランダムがアクティブの場合、アイコンはアンバー色になります。

⟳ アイコンを押して、使用可能なリピートオプションを切り替えます。

- リピートオフ。
- 1曲リピート - 現在再生中の曲を繰り返します。
- 全曲リピート - 現在のプレイリストにあるすべての曲を繰り返します。

アイコンが変化して、どのリピートオプションがアクティブであるかを表示します。

i 注意: この機能は、Bluetooth®デバイスでは使用できません。

外部デバイスへの接続



2つのUSBソケットは、センターコンソール収納ボックスの内側にあります。

センターコンソールを開き、必要に応じてUSBデバイスを接続します。

- USB-C ソケット
- USB-A ソケット

USBソケットを使用すると、USBフラッシュドライブ、iPodなどの互換性のあるMP3プレーヤーを接続できます。

i 注意: USB-C ソケット (1) は Apple CarPlay® に使用してください。

センターディスプレイ メディア

これらのソケットは、互換性のある携帯電話やメディアデバイスを充電するために使用することもできます。

走行前に、センターコンソールが閉じていることを確認します。

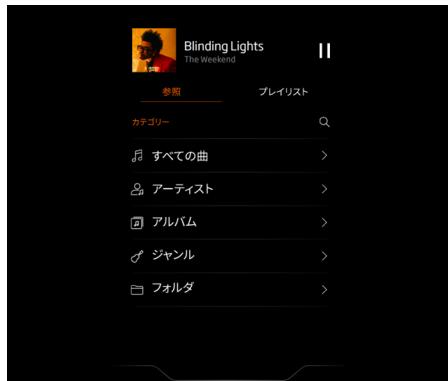
Bluetooth®デバイスの接続に関する詳細については、「デバイスのペアリング/接続」(4.27ページ)を参照してください。

USB および iPod

USBデバイスを接続します。詳しくは、「外部デバイスへの接続」(4.20ページ)を参照してください。

「メディア」画面から、USBを選択します。

 **注意:** デバイスに取り付けられた内部バッテリーはUSBポートを介して充電されます。



- すべての曲
- アーティスト
- アルバム
- ジャンル

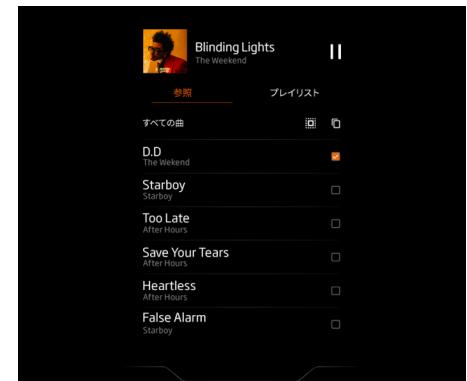
- フォルダ

聞きたいフォルダまたはプレイリストを参照し、再生を開始する曲を選択します。

 にタッチしてオンスクリーンキーボードを使用し、オーディオファイルを検索します。

ストレージへのコピー

コピー機能を使用して、音楽ファイルをUSB機器からストレージにコピーします。



1. コピーするトラックまたはフォルダを長押しします。

センターディスプレイ メディア

2. コピーする他のトラックまたはフォルダを選択するか、にタッチして現在のリストのすべてのアイテムを選択します。
3. にタッチして、選択したファイルをコピーします。
4. 目的のフォルダを選択するか、にタッチして新しいフォルダを作成します。
5. 「貼り付け」にタッチしてアイテムを貼り付けます。

ストレージ

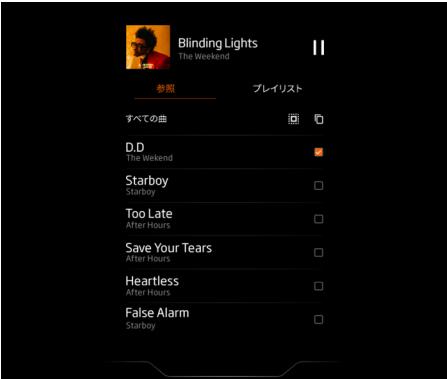
- 「Media (メディア)」画面から、ストレージを選択します。

聞きたいフォルダまたはプレイリストを参照し、再生を開始する曲を選択します。

ファイルのインポート

ファイルは接続されたUSBデバイスからインポートできます。「ストレージへのコピー」(4.21ページ)を参照してください。

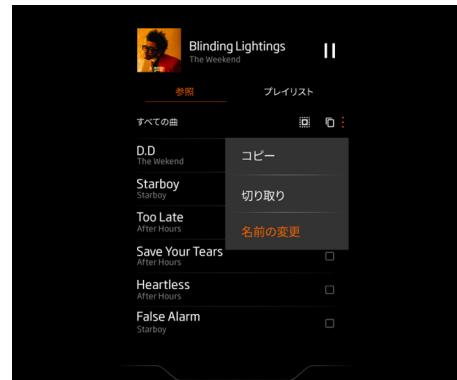
ストレージの消去



1. 消去するトラックまたはフォルダを長押しします。

2. 消去する他のトラックまたはフォルダを選択するか、にタッチして現在のリストのすべてのアイテムを選択します。
3. にタッチして選択したファイルを消去します。
4. 選択したアイテムを削除することを確定します。

名前の変更



1. 名前を変更するトラックまたはフォルダを長押しします。
2. にタッチしてメニューを開きます。

センターディスプレイ メディア

- 「名前の変更」を選択し、新しい名前を入力します。
- 「OK」にタッチして新しい名前を確定します。
- 目的のフォルダを選択するか、にタッチして新しいフォルダを作成します。
- 「貼り付け」にタッチして選択したフォルダにアイテムを移動またはコピーします。

移動またはコピー



- 別のフォルダに移動またはコピーするトラックまたはフォルダを長押しします。
- 移動またはコピーする他のトラックまたはフォルダを選択するか、にタッチして現在のリスト内のすべてのアイテムを選択します。
- にタッチしてメニューを開きます。

Bluetooth オーディオ

Bluetooth®デバイスを接続します。詳しくは、「デバイスのペアリング/接続」(4.27 ページ)を参照してください。

「メディア」画面から、Bluetooth オーディオソースを選択します。

接続されている Bluetooth®デバイスによっては、音楽の再生が自動的に開始される場合があります。

音楽の再生が自動的に開始されない場合は、デバイス本体で再生を選択します。

音楽の再生中は、Bluetooth®記号が画面の上部に表示されます。

音量は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を使用して調整できます。詳しくは、「システムコントロール」(4.02 ページ)を参照してください。

音量は取り付けられているデバイスの出力レベルと MIS レベルによって変化します。

センターディスプレイ メディア

ラジオ

マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）メディア画面でラジオ機能の1つを選択するとラジオが起動し、以前に選択したラジオ局に同調します。

- 「DAB/FM」（4.24 ページ）

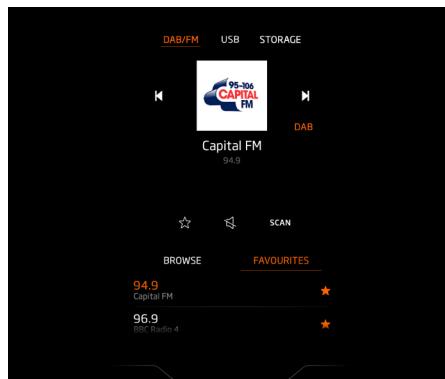
現在選択されている周波数帯は、画面上部に表示されます。

DAB/FM

このラジオでは、受信可能なラジオ局のデジタル DAB 信号とアナログ FM 信号を受信できます。

選択した局から発信されている DAB 信号の質が低下するか失われた場合、システムは DAB 信号を再び受信できるまで関連する FM 局の再生を試行します。

ラジオコントロール



放送局は、手動チューニングで選択するか、お気に入りを選択します。周波数は、可能な場合は放送局名とともに画面に表示されます。

i 注意:放送局の周波数が変更された場合は、お気に入りプリセットを再度設定する必要があります。

前または次の利用可能な局に自動的にチューニングするには、**[K]** または **[L]** アイコンをタッチします。

★ 放送局をお気に入りとして保存するには、**★** アイコンをタッチします。



アイコンにタッチすると、ラジオがミュートされます。

「スキャン」にタッチし、利用可能なラジオ局をスキャンします。

センターディスプレイ メディア

ラジオデータシステム（RDS）

RDS は、デジタルデータを FM 信号と同時にラジオ受信機に送信できるシステムです。

交通アラート（TA）

交通アラートは、ラジオおよびメディア再生に割り込み、ドライバーに交通状況を知らせます。

TAは、「設定」メニューで「オン」と「オフ」を切り替えることができます。詳しくは、「FM」(4.12 ページ)を参照してください。

Apple CarPlay

互換性のあるAppleiPhone®をお持ちの場合は、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）からApple CarPlay®を使用できます。センターコンソール収納ボックスにあるUSB-Cソケットに、互換性のあるApple製デバイスを接続します。「外部デバイスへの接続」(4.20 ページ)を参照してください。

互換性のあるデバイスが接続されている場合は、左側レバーの端にあるボタンを押し、デバイスの音声アシスタントをアクティブにします。「音声認識」(4.38 ページ)を参照してください。

Apple CarPlay®の使用法の説明については、以下を参照してください。

<https://support.apple.com/en-gb/HT205634>

Apple CarPlay®の詳細については、以下を参照してください。

<https://www.apple.com/uk/ios/carplay/>

センターディスプレイ 電話

概要

 マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を使用すると、Bluetooth®を使用して携帯電話を接続することにより、安全にハンズ・フリーで電話をかけたり受けたりすることができます。

接続すると電話に保存された連絡先や通話履歴にアクセスできます。

MISでは、電話会議を行うこともできます（接続した電話が対応している場合）。ただし、電話会議を開始することはできません。

 **警告: 運転中、電話に気を取られないよう注意してください。事故につながる恐れがあります。**

安全上の注意事項

 **警告: 車両の移動中は決して電話の操作を行わないでください。気を取られて事故につながる恐れがあります。**

 **警告: 電話は常に安全な場所に保管してください。安全な場所に保管されていない物体は、事故の際に急激に移動して危険が生じる場合があります。**



警告: 爆発の危険性が高いエリアでは、必ず電話の電源を切ってください。爆発の危険性が高いエリアには、ガソリンスタンド、燃料倉庫のエリア、化学薬品工場、また大気に燃料蒸気、化学薬品、金属粉塵などが含まれるエリアがあります。

電話の使用中は、心臓ペースメーカーや補聴器が正常に作動しない場合があります。医師または機器のメーカーに確認し、このような機器を使用している人が高周波エネルギーから十分に保護されるようにしてください。

干渉を避けるため、携帯電話と心臓ペースメーカーの間は少なくとも 15 cm (6 インチ) 空けることを推奨します。

Bluetooth®

Bluetooth®は、電子機器間でのワイヤレス通信を可能にする短距離無線周波 (RF) 技術です。

互換性のある Bluetooth® 搭載の電話を MIS と連動させて使用することができます。

MISシステムは Bluetooth® Hands-Free Profile 1.6 (HFP 1.6) に対応しています。システムに接続されている携帯電話がこのプロファイルにも対応している場合、バッテリーメーターや信号強度が画面に表示されることがあります。

携帯電話は、操作する前に MIS とペアリングして、接続する必要があります。詳しくは、「デバイスのペアリング/接続」 (4.27 ページ) や「電話の接続」 (4.27 ページ) を参照してください。

センターディスプレイ 電話

デバイスのペアリング/接続

- 初期設定では、Bluetooth®はオンになり、マクラーレンインフォテイメントシステム(MIS)は「検索可能」モードになります。Bluetooth®がオンでない場合は手動でオンにします。「Bluetooth」(4.07ページ)を参照してください。
- 携帯電話を使用するには、Bluetooth®機器の検索機能を選択します。

i 注意: 電話によっては、これを「ペアリングされた新しいデバイス」と呼ぶ場合もあります。正しい記述については、電話の操作説明書を参照してください。

- 利用可能なデバイスのリストから「MIS」を選択します。
- MISはパスキーを表示します。



- 「はい」を選択し、MISに表示されているパスキーが電話に表示されているパスキーと一致することを確認します。
- 電話で「ペアリング」を選択します。
- Bluetooth®によるインターネット接続の共有に対応しているデバイスをペアリングするときに、デバイスがインターネットアクセスに使用するアクセスポイント名(APN)を選択しなければならない場合があります。
デバイスと契約に応じてオプションを選択します。
- 電話の設定を使用すると、Bluetooth®によるインターネット共有は無効にできます。

- 一度電話をMISとペアリングして接続すると、電話が検出範囲内に入った場合は常に自動的に接続されます。
- 自動的に接続されない場合は、携帯電話のコントロールを使用して手動でMISに接続する必要があります。

追加デバイスのペアリング

追加デバイスを接続する手順は、最初の電話をペアリングしたときと同じです。「デバイスのペアリング/接続」(4.27ページ)を参照してください。

MISには最大15台のデバイスをペアリングすることができますが、一度に接続できるのは2台のみです。

i 注意: 最大数のデバイスがすでにMISに接続されている場合、追加のデバイスのペアリングはできますが、接続はできません。元のデバイスはMISに接続されたままになります。

電話の接続

ペアリングした電話がすでにある場合、その電話が検出範囲内に入ると、他のデバイスが接続されていなければMISは自動的にその電話を再接続します。

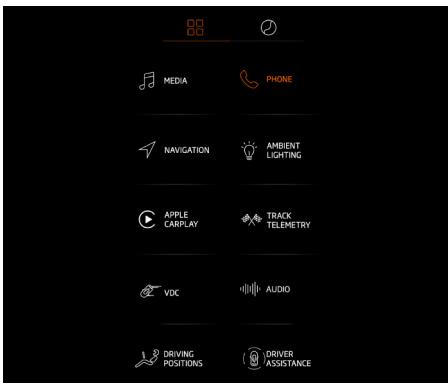
i 注意: 電話によっては、手動で接続しなければならないものもあります。

センターディスプレイ 電話

電話によっては、接続を毎回認証する必要があるものもあります。これを避けるには、電話の既知のデバイス・リストでMISを「承認済み」に設定します。

MISまたは車両の電源がオフになると電話は切断されます。車両またはMISの電源を再びオンにすると、数秒後に自動的に再接続されます。

電話をかける



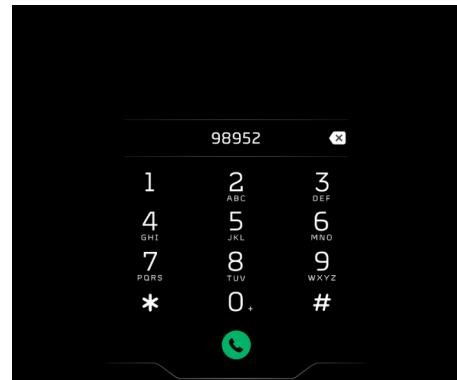
電話をかける方法は、以下のように複数あります。

電話アプリケーションに切り替えるには、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) アプリのホーム画面またはウィジェットのホーム画面の「電話」アイコンにタッチします。



注意: マクラーレントラックテlemetry (MTT) が実行中の場合、電話をかけることはできません。電話をかけるには、進行中のMTTセッションを終了してください。着信通話を受け入れると、MTTセッションの記録が停止され、電話画面に転送されます。

キーボードを使用



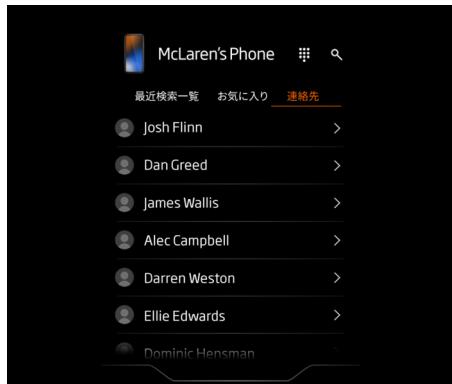
1. 電話画面で、アイコンにタッチします。
2. オンスクリーンキーパッドを使用して電話番号を入力できます。
 番号または数字の入力を間違えた場合は、アイコンにタッチすると最後に入力した数字が削除されます。
3. 画面にすべての番号が表示されたら、アイコンにタッチして通話を開始します。
 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になります。通話が接続されると緑色に変わります。

センターディスプレイ 電話

- 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

連絡先の使用



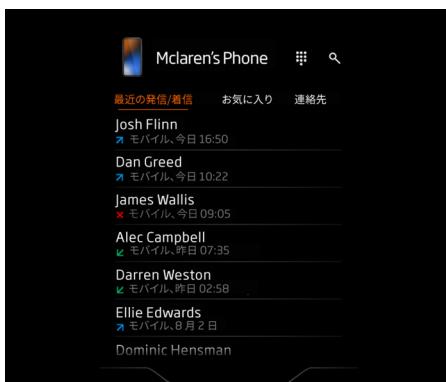
- 電話画面で、「連絡先」タブにタッチします。
- 連絡先が表示されたら、リストをスクロールして特定の人物を探すことができます。
- 連絡先を選択すると、その連絡先のすべての電話番号が表示されます。目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

- 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

通話履歴の使用



- 電話画面で、「最近の通話」タブにタッチします。

2. 通話記録のリスト（発信、不在着信、着信）が、一番新しい通話記録を一番上に日付順に表示されます。

- 目的の連絡先にタッチして通話を開始します。

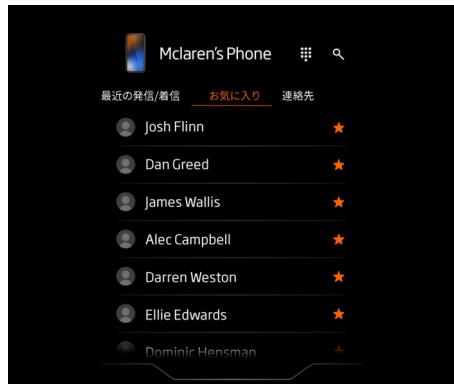
i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

- 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

センターディスプレイ 電話

お気に入り



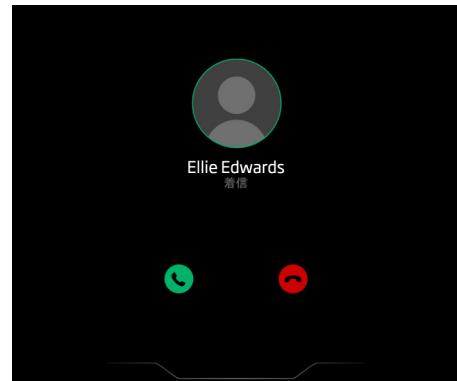
1. 電話画面で、「お気に入り」タブにタッチします。
2. お気に入りの連絡先のリストが表示されます。
3. 目的の連絡先にタッチして通話を開始します。

- i** 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になります。通話が接続されると緑色に変わります。
4. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。



注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

通話を受信



着信通話があると、電話に保存されてマクラレンインフォティメントシステム (MIS) と同期されている発信者の詳細が MIS に表示されます。



通話を受けるには、緑色のアイコンにタッチします。



通話を拒否するには、赤色のアイコンにタッチします。

センターディスプレイ 電話

通話中のオプション

 「キーパッド」アイコンにタッチすると、オンスクリーンキーボードが起動します。もう一度タッチすると無効になります。

 「ミュート」アイコンにタッチすると、マイクが無効になります。もう一度タッチすると有効になります。

 「一時停止」アイコンにタッチすると、通話が保留になります。

 「プラス」アイコンにタッチすると、通話相手が追加されます。連絡先リストから連絡先を選択し、電話会議を開始します。

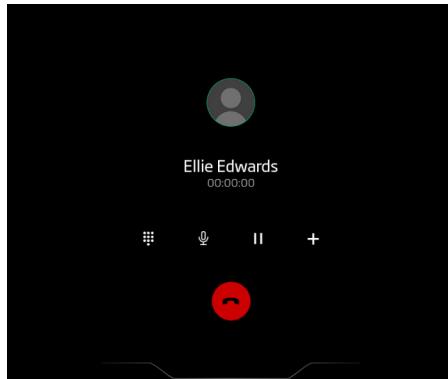
 統合アイコンにタッチすると、2つの通話が電話会議に統合されます。オプションが利用できる場合、プラスアイコンは統合アイコンになります。

 「電話に切り替え」アイコンにタッチすると、通話が電話機に切り替わります。「スピーカーに切り替え」にタッチすると、元に戻ります。

通話中にホームボタンを押すと、ホーム画面が表示されます。通話中にマクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) の他の機能にアクセスできます。現在の通話は、ディスプレイの上部に最小表示されます。

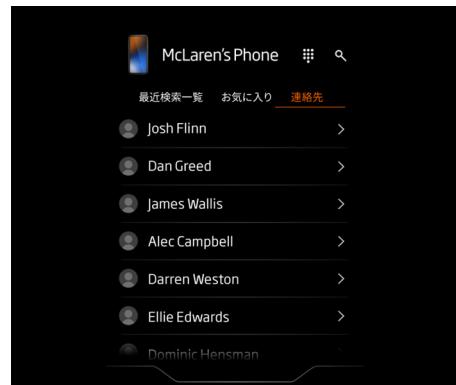
通話の終了

「通話を終了」にタッチして通話を終了します。画面が電話メニューに戻ります。



 別のシステム画面を表示中に通話を終了するには、画面の上部に表示される「通話中」アイコンの横にある赤色の「通話終了」アイコンにタッチします。

連絡先



1. 電話画面で、連絡先タブにタッチします。
2. 注意: 電話機の種類によっては、電話に保存されている連絡先の写真が連絡先の名前とともに画面に表示されます。
3. 連絡先リストが1画面の表示範囲を超える場合は、画面上で指をスワイプして上下にスクロールします。
3. あるいは、オンスクリーンキーボードで連絡先を検索することもできます。詳しくは、「検索」(4.32 ページ)を参照してください。

センターディスプレイ 電話

4. 連絡先を選択すると、連絡先に関するすべての情報が表示されます。

i 注意: 電話機の種類に応じて、連絡先の写真が電話に保存されている場合は、通話中に画面に表示されます（連絡先が MIS と同期されている場合）。

5. 目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

6. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

i 注意: 連絡先をお気に入りとしてタグ付けるには、☆にタッチします。☆にもう一度タッチすると、お気に入りから連絡先が削除されます。

検索

- 「連絡先」タブで  アイコンを押します。
- オンスクリーンキーボードを使用して少なくとも1文字を入力し、表示される連絡先をフィルター処理します。

番号または数字の入力を間違えた場合は、 アイコンにタッチすると最後に入力した数字が削除されます。

3. 連絡先を選択すると、その連絡先のすべての電話番号が表示されます。目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

i 注意: 電話機の種類に応じて、連絡先の写真が電話に保存されている場合は、通話中に画面に表示されます（連絡先が MIS と同期されている場合）。

4. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

ボイスメール



ボイスメールのショートカットを設定するには、 アイコンにタッチして、画面の指示に従います。

保存したボイスメールのショートカットを変更するには、 アイコンを長押しして、画面の指示に従います。

 アイコンにタッチしてボイスメールに接続します。

センターディスプレイ ナビゲーション

概要

本ナビゲーションシステムは、グローバルポジショニングシステム（GPS）衛星からの信号と車両センサーからの情報、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）に保存された地図データを使用して、車両の位置を正確に判断します。

システムはこのデータを使用して、設定した走行方法を考慮して目的地への最適なルートを作成します。

特定のルートは、画面のメニューと MIS コントロールを使用して選択します。作成したルートは地図上でハイライトされます。

走行を開始すると、適切な位置で曲がり角の情報がセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示され、必要に応じて音声ガイドも行われます。

予定しているルートから大きく外れた場合は、目的地までの別ルートを自動的に計算します。

安全性

⚠️ 警告: 安全のため、ナビゲーションシステムの使用に気を取られ、走行操作がおろそかにならないよう注意してください。
イグニッションをオンにした後、ナビゲーションシステムの使用を開始したときに表示される安全メッセージを読み、従ってください。

国の道路交通法と交通標識には必ず従ってください。

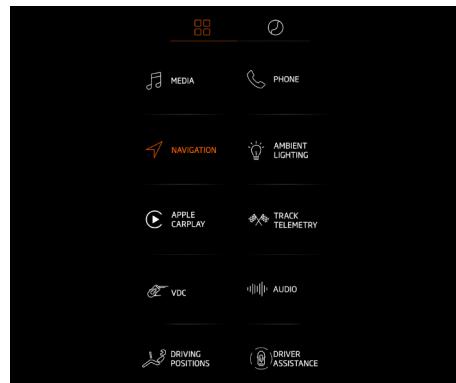
ナビゲーションシステムは最適なルートを決定する際の補助を目的とするものであり、決して視界が悪い場合の補助として考えてはなりません。

トンネル内やそれ以外のGPS信号が遮断されるような状況での走行時には、GPS信号が妨害される可能性があります。GPS信号が再取得されるまで、ナビゲーションはそのままルート案内を続けます。

車両位置のエラーは、前述した状況下や以下の状況でも起こる可能性があります。

- 立体駐車場など、建物内を走行する。
- 並行する道路が非常に近い位置にある道路を走行する。
- ターンテーブルを使用して車両を回転させる。
- 車両が異なる場所へ輸送された。

ナビゲーションの使用

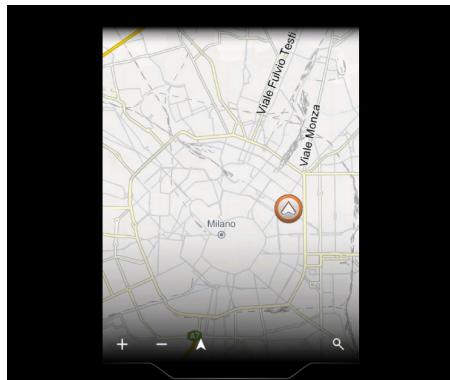


マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）のホーム画面の「ナビゲーション」アイコンにタッチします。

イグニッションをオンにした後、ナビゲーションに初めてアクセスすると、MIS に安全警告メッセージが表示されます。これらのメッセージをよくお読みください。

ナビゲーションシステムのロードが完了すると、警告メッセージは自動的に消えます。

センターディスプレイ ナビゲーション



車両の現在位置を示すマップがセンターインフォディメントタッチスクリーン画面に表示されます。

車両の位置と進行方向は、進行方向を示す矢印で表示されます。

地図の表示部分をコントロールするには、画面をタッチして、ゆっくりと指を地図内の任意の方向に動かします。

Q にタッチして目的地を設定するオプション
にアクセスします。「目的地の設定」
(4.34 ページ)を参照してください。

MIS はマルチタッチスクリーンを備えており、ピンチジェスチャーによるズームインおよびズームアウトが簡単にできます。親指と人差し指で画面をタッチし、指の間隔を狭めるようにつまむと縮小できます。指の間隔を広げると再び拡大できます。

「+」と「-」アイコンを使用して、ズームイン/ズームアウトすることもできます。

▲ にタッチして、現在の位置を画面の中央に表示します。

ズーム設定に応じて、画面の詳細度も変わります。例えば、大きくズームインすると、道路名やいくつかの施設が表示されますが、ズームアウトすると表示されなくなります。

また、車速に応じて、あらかじめ設定されたレベルまで自動的にズームインまたはズームアウトされます。

時刻に合わせて視認性を高めるために、画面カラーが昼間モードと夜間モードに自動的に切り替わります。

目的地の設定

1. 「検索または住所」 (4.34 ページ)
2. 「お気に入り」 (4.34 ページ)
3. 「連絡先」 (4.35 ページ)
4. 「マクラーレン代理店」 (4.35 ページ)
5. 「ガソリンスタンド」 (4.35 ページ)
6. 「駐車場」 (4.35 ページ)
7. 「その他の検索カテゴリー」 (4.35 ページ)
8. 「前回の目的地」 (4.35 ページ)
9. 「画面を使用」 (4.35 ページ)
10. 「ルートの概要」 (4.35 ページ)

検索または住所

Q 「検索」または「住所」にタッチして、市名、町名、または番地を入力します。

お気に入り

★ 「お気に入り」アイコンにタッチすると、お気に入りの目的地が表示されます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

センターディスプレイ ナビゲーション

連絡先

 「連絡先」アイコンにタッチして、連絡先に保存されている住所情報を表示します。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

マクラーレン代理店

 「マクラーレン」アイコンにタッチして、最寄りのマクラーレン代理店の場所を確認します。マクラーレン代理店のリストが表示され、最寄りの代理店はリストの一番上にきます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

ガソリンスタンド

 「燃料」アイコンにタッチすると、最寄りのガソリンスタンドが表示されます。ガソリンスタンドのリストが表示され、最寄りのガソリンスタンドはリストの一番上にきます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

駐車場

 「駐車場」アイコンにタッチして、最寄りの駐車場を見つけます。駐車場のリストが表示され、最寄りの駐車場はリストの一番上にきます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

その他の検索カテゴリー

 「その他」アイコンにタッチすると、他の検索カテゴリーが表示されます。この機能を使用して、空港、ATM、ホテル、病院、店などの施設を検索します。

前回の目的地

前回の目的地は、リストに日付順で表示されます。前回の目的地にタッチして、新しい目的地として設定します。

画面を使用

地図を手動で動かして、目的地の一般的なエリアを探すのに最も効果的な縮尺で地図を表示します。

地図をタッチして、希望の目的地の位置をマークします。

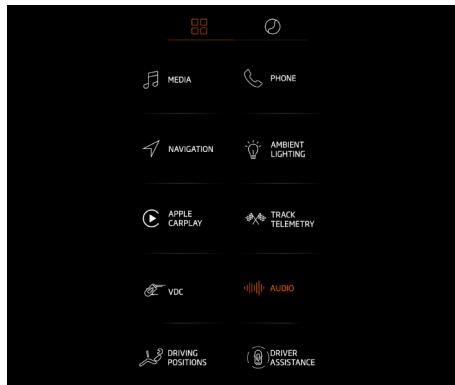
ルートの概要

目的地を選択した後、ルートの概要が表示され、ルートがハイライト表示されます。開始位置、現在の位置、中間地点、および目的地は、ハイライト表示されたルートに沿って表示されます。

目的地をお気に入りとして保存するには  を選択し、ナビゲーションを開始するには「Go! (実行)」を選択します。

センターディスプレイ オーディオ

概要



「オーディオ」アイコンにタッチすると、「オーディオ設定」画面が表示されます。

i 注意: 利用可能なオーディオ設定は、お客様の車両に装備されているオーディオオプションによって異なります。

オーディオ設定は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のすべての機能に適用されます。



画面の上からスワイプして、次のオプションから選択します。

- 「モード」 (4.36 ページ)
- 「トーン」 (4.36 ページ)
- 「バランス/フェーダ」 (4.37 ページ)

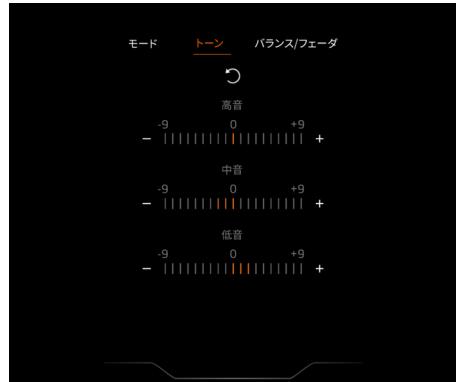
モード

3つのプリセットオーディオモードがあります。

- ドライバーフォーカス - 運転席で聞くのに最適です。
- スタジオ - 忠実なサウンド。アーティストが意図したとおりのもの。これがデフォルトのモードです。

- オンステージ - 包み込まれるサラウンドサウンド。

トーン



↻ リセットアイコンにタッチして、現在表示されている設定をデフォルト値にリセットします。

高音

「高音」の横にある「+」または「-」アイコンにタッチして、希望するサウンド再生品質を実現します。範囲は1つずつ増減させて0~+9または0~-9まで設定できます。

センターディスプレイ オーディオ

中音

「中音」の横にある「+」または「-」アイコンにタッチして、希望するスピーカーのサウンドを実現します。範囲は1ずつ増減させて0～L9または0～R9まで設定できます。

低音

「低音」の横にある「+」または「-」アイコンにタッチして、希望するサウンド再生品質を実現します。範囲は1ずつ増減させて0～+9または0～-9まで設定できます。

バランス/フェーダ



十字線にタッチしてドラッグし、バランスとフェーダーを調整します。

リセットアイコンにタッチして、現在表示されている設定をデフォルト値にリセットします。

センターディスプレイ 音声認識

概要



i 注意: 音声認識を使用する前に、すべてのコンフォート・エントリー・アクティビティを完了する必要があります。

音声認識機能を使用するには、事前に携帯電話をマクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) に接続しておく必要があります。「デバイスのペアリング/接続」(4.27 ページ)、「外部デバイスへの接続」(4.20 ページ)、および「Apple CarPlay」(4.25 ページ)を参照してください。

左コントロール・レバーの端のボタンを押して、接続されているデバイスの音声認識機能を有効にします。

i 注意: 音声認識機能によって提供される機能の水準は、接続されているデバイスによって異なります。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリ

概要

- 警告: 安全のため、これらのシステムの使用によって運転操作が散漫にならないようにしてください。**
- 警告: マクラーレントラックテレメトリはサーキットでの使用のみを目的としています。ドライバーには常に安全に運転し法令を遵守する責任があります。**
- 警告: マクラーレントラックテレメトリは公道で使用でき、追加の外部カメラが不要になるようにビデオを録画することを目的としています。ドライバーには常に安全に運転し法令を遵守する責任があります。**

マクラーレントラックテレメトリは、サーキット上または公道で走行中にタイミングデータの記録やグラフィック表示を提供します。

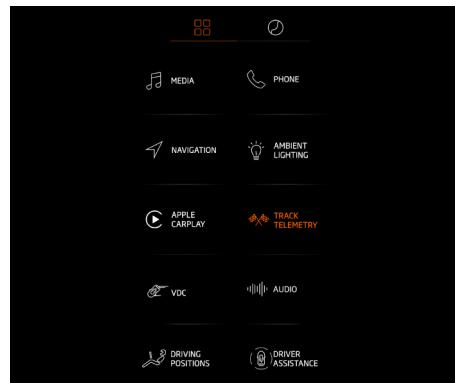
データ記録中は、タイミングデータおよびコースマップがグラフィック表示されます。

トラックパフォーマンスは、解析ビューアでビューできます。解析ビューアでは、セッションの再生、ラップタイムの表示（セクターに分割）、カメラの再生、データおよび達成状況の確認ができます。

カスタムコースマップまたは公道マップが自動的に作成され、手動で編集が可能です。場所ごとに複数のレイアウトや設定に対応しています。

それぞれの記録に別のドライバーを関連付けることができます。

アプリケーションの起動



- マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）のホーム画面から「トラックテレメトリ」を選択します。
- 免責事項をお読みになり、同意します。

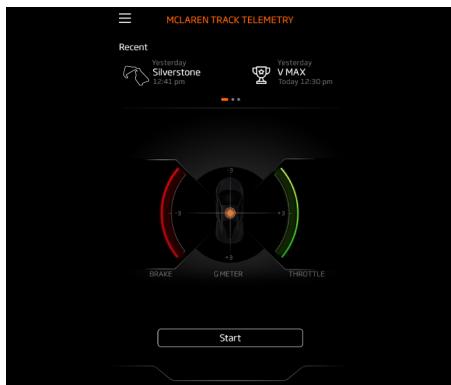
マクラーレントラックテレメトリは公道で使用できますが、サーキットでの使用を目的としています。ドライバーには常に安全に運転し法令を遵守する責任があります。

i 注意: マクラーレントラックテレメトリが使用中の場合、電話は使用できません。電話をかける前にセッションを終了する必要があります。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリー

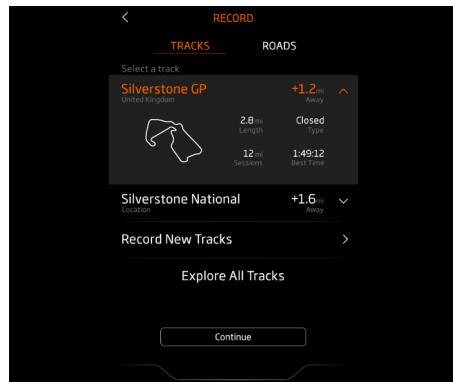
接続されている電話機が通話を受信する
と、マクラーレントラックテレメトリーは録
音を停止します。

設定



「マクラーレントラックテレメトリーを開き、「
開始」を選択してセッションを設定します。

トラック/公道の選択



1. トラックまたは公道を選択するか、新しい
トラックを記録するか、「Explore All
Tracks (すべてのトラックを探索)」を選
択して、ライブラリから新しいトラックを
選択します。

i 注意: トラックのリストは動的で、場所に
よって異なり、最も近いトラックがリスト
の一番上に表示されます。

GPS が利用できない場合、トラックはリ
ストされません。

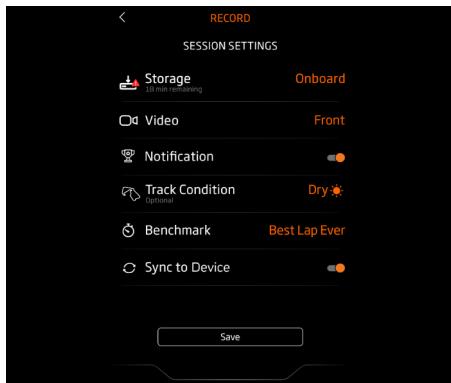
i 注意: クローズドサーキット走行とヒルク
ライム走行の両方を録画できます。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリ

i 注意: マクラーレントラックテレメトリによって認識するのは、クローズド・サーキットのみです。

2. 「Continue (続行)」を選択して、セッションをさらに設定します。

セッション設定



セッションに使用するオプションを選択します。

- 「ストレージ」 - マクラーレンインフォティメントシステム (MIS) メモリー、USB デバイスとの接続を搭載されています。詳細は、「USB ソケット」 (5.15 ページ) を参照してください。電話機を接続する場合は、「デバイスのペアリング/接続」 (4.27 ページ) を参照してください。
- 「Video (ビデオ)」 - セッションに使用するビデオカメラを選択します。
- 「Notification (通知)」 - タッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。
- 「Track Condition (トラック状態)」 - トラックの状態を説明するオプション設定です。
- 「Benchmark (ベンチマーク)」 - 現在のラップと比較するラップタイムを選択します。
- 「Sync to Device (デバイスに同期)」 - タッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。「オン」の場合、セッションデータは選択した「ストレージ」デバイスに自動的に同期されます。

「保存」を選択して設定を保存し、セッションを開始します。

ドライブ

セッションを開始すると、両方のドライバーディスプレイで重要データを確認できます。「マクラーレントラックテレメトリ (MTT)」 (3.12 ページ) およびマクラーレンインフォティメントシステム (MIS) を参照してください。

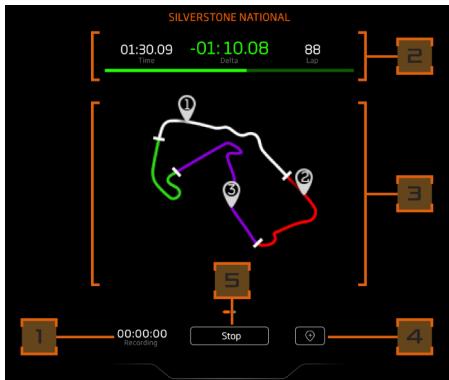
ラップタイムの表



「Live/Track recording view (ライブ/トラック記録ビュー)」からスワイプして、デルタがハイライト表示されたラップタイムを確認します。ラップタイムは、最新のものから上から順に表示されます。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリー

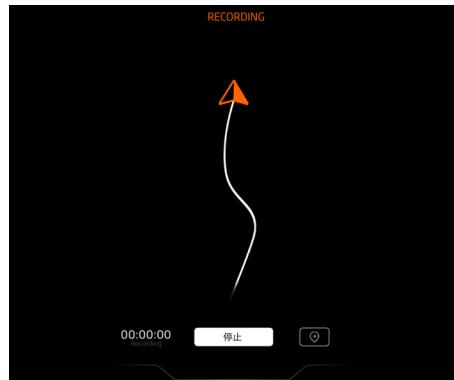
トラック記録



- セッションの合計録画時間が画面下部に表示されます。
- 現在のラップタイム、ライブデルタ、および合計ラップ数が画面の上部に表示されます。デルタは、ラップタイムが目標時間を超えたか下回ったかを示すために色分けされています。

- トラックレイアウトは画面の中央に表示され、車両のライブ位置と色分けされたトラックセクションがデルタ時間にリンクされて表示されます。画面の中央をタップして、3D ビューと 2D ビューを切り替えます。左側レバーを引くと、ドライバーディスプレイのビューを 3D から 2D に変更できます。
- 表示されたアイコンを使用してマーカーをドロップします。マーカーはデータ解析時に簡単に見つけることができます。マーカーは、左側レバーを使用してドロップすることもできます。
- 「中止」にタッチすると、セッションの概要ページに移動します。

走行記録



このビューには、車両後方の見える道路が表示されます。ラップタイムは無効になります。

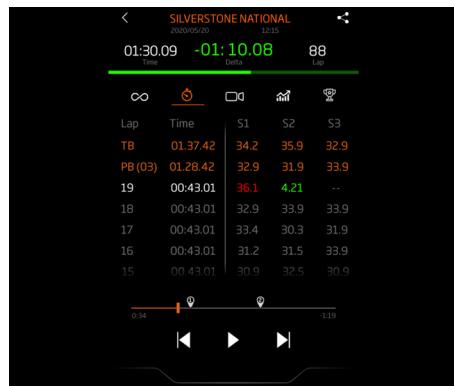
セッションの終了

「Finish (完了)」を押して録画を終了し、セッションの概要を表示します。その後、セッションを終了するか、録画を続行するかを決定できます。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリ

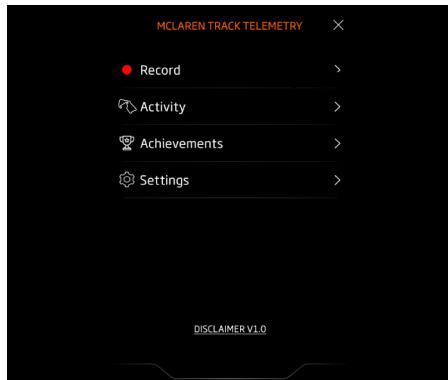
データの確認

注意: マクラーレントラックテレメトリにはパワフルな解析ツールがあります。



セッションを開いて解析するには、以下の手順を実行します。

1.  を押して解析を開きます。



2. 「Activity (アクティビティ)」を選択します。
3. 特定のセッションを検索し、記録されたセッションを並べ替えることができます。トラックとセッションを選択します。
4. タブとコントロールを使ってデータやビデオ映像を確認します。

セッション内を移動するには、画面上のコントロールを使用します。

ラップ内をスクロールするには、トラックの該当部分を押すか、 または  を押してラップを前後に動かします。

テレメトリデータのインポート

注意: セッションデータとユーザーが作成したトラックは、車両間で共有できます。

USB デバイスからのインポート

1. 車両のいずれかの USB ポートに USB ストレージデバイスを挿入します。「USB ソケット」(5.15 ページ)を参照してください。
2. アプリケーションによってセッションデータが検出され、画面の上部に通知が表示されます。

インポートするトラックまたはセッションデータを選択します。

注意: マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) の空き容量に対して、大きすぎるデータは選択できません。

3. 「インポート」を押して、USB ストレージデバイスからデータをインポートします。

Wi-Fi 経由でのインポート

1. データをインポートするデバイスを接続します。「Wi-Fi」(4.07 ページ)を参照してください。
2. 接続されているデバイスの指示に従います。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリー

テレメトリーデータのエクスポート

i 注意: セッションデータとユーザーが作成したトラックは、車両間で共有できます。

- 車両のいずれかの USB ポートに USB ストレージデバイスを挿します。「USB ソケット」(5.15 ページ) を参照してください。
- または、Wi-Fi 経由でデバイスを接続します。「Wi-Fi」(4.07 ページ) を参照してください。
- エクスポートするセッションデータに移動します。「データの確認」(4.43 ページ) を参照してください。
-  アイコンにタッチします。
- データをエクスポートするデバイスを選択し、画面の指示に従います。

トラックの編集

保存されているトラックは、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を使って編集できます。 を押してから、編集するトラックを選択します。

以下の項目を編集できます。

- トラックの名前
- スタート/フィニッシュの位置
- トラックの方向
- セクター (番号と位置)

センターディスプレイ コネクテッドカー

eCall

i 注意:eCallは、サポートされている市場でのみ機能します。

eCallは112ベースのSOS緊急通話システムで、自動および手動の両方で作動できます。

「自動 SOS 緊急通報」(4.45 ページ)を参照してください。

「手動 SOS 緊急通報」(4.45 ページ)を参照してください。

どちらの場合も、システムによって収集および処理された以下の情報に基づいて、適切な緊急サービスが車両の停車場所に派遣されます。

- 車両の最新の 3 箇所と走行方向。
- システムの自動アクティベーションのログファイルとそのタイムスタンプ。
- VIN、推進のタイプ、色などの車両情報。
- その他のデータ。

eCall システムに不具合が発生した場合、SOS コールボタンにあるアンバー色のライトが点灯したままになります。ドライバーディスプレイにも警告メッセージが表示されます。

自動 SOS 緊急通報

エアバッグが展開される事故が発生した場合、緊急サービスに自動的に電話がかかります。

i 注意: SOS 緊急通報が接続されると、接続を終了できるのは緊急サービスオペレータのみです。

手動 SOS 緊急通報



SOS 緊急通話ボタンを 2 秒間長押しして、手動で緊急通話を開始します。

オペレータに接続する前に、SOS コールボタンをもう一度押すと、コールをキャンセルできます。

i 注意: SOS 緊急通報が接続されると、接続を終了できるのは緊急サービスオペレータのみです。

i 注意: 手動 SOS コールは、緊急時にのみ行う必要があります。

eCall バックアップバッテリー

バックアップバッテリーは、車両の 12V バッテリーの接続が解除されたり、無効になった場合に、eCall システムのフル作動を維持します。eCall バックアップバッテリーの交換が必要な場合は、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。バッテリーの交換については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

EU 112 eCall 情報

112 ベースの eCall サービスは一般的な公共サービスであり、無料で利用できます。

112 ベースの eCall 車載システムを介した個人データの処理は、欧州議会および理事会の指令 2002/58/EC および規制 (EU) 2016/679 に規定されている個人データ保護規則に準拠し、特に、規制 (EU) 2016/679 に従って、個人の重要な利益を保護する必要性に基づいています。

このようなデータの処理は、単一の欧州緊急番号 112 に対する緊急 eCall を処理する目的に限定されています。

112 ベースの eCall システムによって処理されるデータの受信者は、地域が所在する国の各公共機関によって指定された該当する公衆安全応答ポイントであり、欧州緊急番号 112 への eCall を最初に受信して処理します。

センターディスプレイ コネクテッドカー

112 ベースの eCall システムは、eCall が起動される前に、システムのメモリーに含まれるデータがシステム外で利用できないように設計されています。

112 ベースの eCall システムは、通常操作時に追跡できず、常時追跡されないように設計されています。

112 ベースの eCall システムは、システムの内部メモリー内のデータが自動的かつ継続的に削除されるように設計されています。

車両位置データは、システムの内部メモリー内で常に上書きされるため、システムの正常な機能に必要な車両を最後に停車した場所を常に最大 3箇所維持できます。

112 ベースの eCall 車載システムのアクティビティデータのログは、非常事態の処理目的を達成に必要な所要時間以上に保持され、いかなる場合も緊急通報が開始された時点から 13 時間を超えないように保持されます。

データ主体（車両の所有者）は、データにアクセスする権利、また必要に応じて、そのデータ主体に関するデータの修正、消去、またはブロックを要求する権利を有します。これらの処理は、規制 (EU) 2016/679 の規定に準拠していません。データが開示された第三者には、この規則に従って実施された修正、消去、またはブロックについて通知する必要があります。ただし、不可能であることが証明された場合や、過度な努力が必要な場合を除きます。

データ主体は、個人データの処理の結果、権利が侵害されたと判断した場合に、権限のあるデータ保護機関に苦情を申し立てる権利を有します。

HomeLink

 **警告:** 安全停止および反転機能のないガレージドアオープナーでは、HomeLink® を使用しないでください。

 **警告:** 1982 年 4 月より前に製造されたガレージドアオープナーでは、HomeLink® を使用しないでください。

 **警告:** HomeLink® をガレージドアオープナーまたは入り口ゲートに合わせてプログラミングするときは、作業場所に人や物がないことを確認してください。プログラミングの最中に門やガレージドアが作動すると、怪我や損傷が発生するおそれがあります。

 **警告:** HomeLink® をプログラミングする前に、人や物が作業の邪魔にならないことを確認して、車両をガレージの外に駐車してください。

 **警告:** 車両のエキゾーストには、危険ガスである一酸化炭素が含まれています。HomeLink のプログラミング中は、車両のエンジンをかけないでください。排気ガスは重傷や死亡につながるおそれがあります。ガレージドアオープナーをプログラミングする場合は、ガレージの外に駐車することをお勧めします。

 **注意:** より正確なプログラミングのために、ガレージドアリモートに新しいバッテリーを取り付けることをお勧めします。

センターディスプレイ コネクテッドカー

i 注意: ガレージドアオープナーがローリングコードを使用している場合は、後でプログラミング時に「学習」、「スマート」、または「Program (プログラム)」ボタンに手が届くよう、踏み台またはその他の頑丈で安全な道具が必要になる場合があります。

詳細およびデバイス固有のプログラミング手順については、HomeLink.com または youtube.com/user/HomeLinkGentex をご覧ください。

HomeLink®ワイヤレス制御システムは、最大で3つのリモコンの役割を担います。HomeLink®を使って、ゲートオペレーターやガレージドアオープナー、出入り口ロックなどのデバイス、セキュリティシステム、そして家庭用照明を作動させることができます。

单一のHomeLinkボタンのプログラミング

! 警告: ガレージドアオープナーまたはゲートオペレーターをプログラミングするときは、プログラミング手順の最中はデバイスのプラグを抜くことをお勧めします。プラグを抜くことで、繰り返し操作によるガレージドアオープナーやゲートオペレーターへの損傷を予防できます。

i 注意: 下記の手順は、ほとんどのHomeLink®対応デバイスに該当します。HomeLink®のアプリケーションやHomeLink®対応システムによっては、手順が若干異なる場合があります。対応デバイスの情報および操作手順のビデオについては、www.homelink.comをご確認ください。

i 注意: 1995年以降に製造されたガレージドアオープナーには、ローリングコード保護が装備されている場合があります。その場合は、メーカーの説明書を参照してください。



1. プログラミングを開始する前に、HomeLink®をクリアします。「HomeLinkのクリア」(4.49ページ)を参照してください。
2. プログラミングする HomeLink®ボタン、(1)、(2)、または(3)を押します。HomeLink®インジケーターライト (4) がゆっくり点滅し始めます。
3. ガレージドアオープナーのリモコンを、インテリアミラーから2~8cm (1~3インチ) の距離に置きます。
4. HomeLink®インジケーターライト (4) がゆっくりした点滅から点灯または素早い点滅に変化するまで、ガレージドアオープナーのリモコンのボタンを長押ししてください。

i 注意: 点滅の変化は、周波数信号が学習されたことを示します。

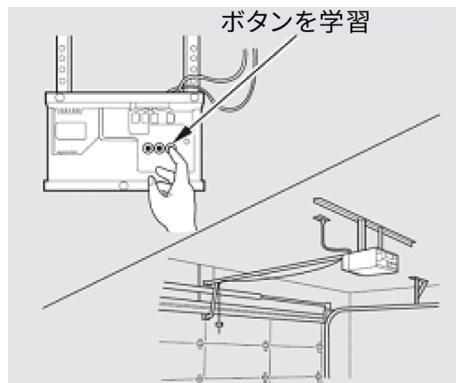
i 注意: リモートデバイスのシステムによっては、プログラミングの最中、ガレージドアオープナーのリモコンボタンを2~10秒ごとに押して放さなければならない場合があります。

5. プログラミングされた HomeLink®ボタンを2~3回押します。固定コードデバイスを使用している場合、HomeLink®インジケーターライト (4) が点灯し、プログラミングが完了し、ガレージドアが作動します。

センターディスプレイ コネクテッドカー

ガレージドアが機能せず、インジケーターイトが素早く点滅している場合は、ローリングコードデバイスが使用されている可能性があり、「ローリングコードデバイスのプログラミング」(4.48 ページ)に進む必要があります。

ローリングコードデバイスのプログラミング



i 注意: もうひとり作業者がいると、以下の手順をより迅速かつ簡単に行うことができます。
次の手順は時間に制約があるため、複数回試してみなければならぬ場合があります。

1. ガレージドアオーブナーのレシーバにある、モーター ヘッドユニットの「学習」、「スマート」、または「Program (プログラム)」ボタンの位置を確認します。ボタンの位置については、ガレージドアオーブナーのマニュアルを参照してください。
2. 「学習」、「スマート」、または「Program (プログラム)」ボタンを押して放します。次の手順を開始するには通常 20 秒かかります。
3. 20 秒以内に車両に戻り、プログラミングされた HomeLink® ボタンを最大 3 回押して放すと、デバイスが作動します。デバイスが作動した場合、プログラミングは完了です。

追加の HomeLink ボタンのプログラミング

手順 2 から 5 を「単一の HomeLink ボタンのプログラミング」(4.47 ページ)から繰り返します。

単一の HomeLink ボタンの再プログラミング

以下の手順を実行すると、すでにデバイスがプログラミングされているボタンを上書きできます。



1. 再プログラミングする HomeLink® ボタン、(1)、(2)、または(3)を長押しします。HomeLink® インジケーター ライト (4) がゆっくり点滅し始めます。
2. HomeLink® ボタンを押し続けながら、ガレージドアオーブナーのリモコンを、インテリアミラーから 2 ~ 8 cm (1 ~ 3 インチ) の距離に置き、HomeLink® インジケーター ライト (4) がゆっくりした点滅から点灯または素早く点滅に変化するまで、ガレージドアオーブナーのリモコンのボタンを長押ししてください。

i 注意: 点滅の変化は、周波数信号が学習されたことを示します。

センターディスプレイ コネクテッドカー

i 注意: リモートデバイスのシステムによつては、プログラミングの最中、ガレージドアオープナーのリモコンボタンを2~10秒ごとに押して放さなければならない場合があります。

3. プログラミングされた HomeLink® ボタンを押して、HomeLink® インジケーターライト (4) を観察します。

インジケーターライト (4) が点灯している場合、プログラミングは完了しており、HomeLink® ボタンを押して放すとデバイスが作動します。

インジケーターライト (4) が素早く点滅している場合は、ローリングコードデバイスが使用されている可能性があり、「ローリングコードデバイスのプログラミング」(4.48 ページ)に進む必要があります。

i 注意: 新しいデバイスをボタンにプログラミングしていない場合、既に保持されているプログラミングに戻ります。

HomeLink のクリア



リース車を返却するか、お客様の車を売却する場合はその前に必ずプログラミングされた HomeLink® ボタンをすべてクリアしてください。これを行うには、HomeLink® インジケーターライト (4) が点灯から点滅に変化するまで、外側の2個の HomeLink® ボタン (1) と (3) を10秒間長押しします。

McLaren 

快適機能と便利機能

ウィンドウ	5.02
安全性.....	5.02
開閉.....	5.02
クライメートコントロール	5.04
概要.....	5.04
調節ダイヤル.....	5.04
動作モード.....	5.05
「エアコン (A/C) 」ボタン.....	5.07
曇り取り/デフロスト.....	5.07
温度調整ダイヤル.....	5.08
内気循環モード.....	5.08
オートヒートシート.....	5.09
熱線入りリアウインドウ.....	5.09
インテリア機能	5.10
ムードライト.....	5.10
乗車照明.....	5.11
降車照明.....	5.11
収納ボックス.....	5.11
カップ・ホルダー.....	5.13
オーナー文書.....	5.14
サンバイザー.....	5.14
ワイヤレス充電器.....	5.14
USB ソケット.....	5.15
アクセサリー電源ソケット.....	5.16

快適機能と便利機能 ウィンドウ

安全性

⚠ 警告: ウィンドウの開閉時は手などを挟まれることがないように注意してください。体の一部をウィンドウに触れたまま操作しないでください。ウィンドウの動きによって挟まれるおそれがあります。挟み込みの危険がある場合はウィンドウの動作を止めてください。「挟み込み防止機能」(5.03ページ)を参照してください。

開閉



警告: リモコンキーはエンジンを始動可能にする他、車両のその他の機能を有効にする場合も使用します。車両を離れる際は、気づかぬうちにウィンドウが作動して怪我の原因になるのを防止するため、リモコンキーを携帯してください。

運転席ドアコンソールには両側のウィンドウのスイッチがあります。助手席ドアコンソールには助手席ウィンドウのスイッチがあります。



1. 運転席ウィンドウスイッチ。
2. 助手席ウィンドウスイッチ。

スイッチ (1) または (2) を押します。ウィンドウはスイッチを押している間だけ開きます。

スイッチ (1) または (2) を引きます。スイッチを引いている間はウィンドウが閉じ続けます。

ウィンドウを完全に開いたり閉じたりするには、スイッチ (1) または (2) をいっぱいに押すかまたは引いて離します。

i 注意: ウィンドウの開閉操作を停止するには、該当するスイッチを押すか引きます。

i 注意: 車両がアウェイクモードの場合、ウィンドウコントロールは使用できません。

ウィンドウのリセット

バッテリーが放電してしまった場合や取り外した場合、あるいは挟み込み防止機能が作動した後ではウィンドウをリセットする必要があります。

両方のドアが閉じており、イグニッションスイッチがオンになっていることを確認します。

快適機能と便利機能 ウィンドウ



挟み込み防止機能は障害物や抵抗を検出すると、ウィンドウを閉じる動作を停止します。

挟み込み防止機能が作動した場合は、再び操作を行う前にウィンドウとウィンドウ開口部を点検し、障害物があれば取り除いてください。ドアを閉じる際に挟み込み防止機能が作動した場合は「ドアを閉じる」(1.04 ページ)を参照してください。

スイッチ (1) および (2) をウィンドウが開くまで下に押し、全開後さらに 5 秒間スイッチを押し続けます。

ウィンドウが完全に閉じるまで両方のスイッチを上に引き、完全に閉じた後さらに 5 秒間引き続けます。

ウィンドウのリセットが完了しました。

この方法で問題が解決しない場合は、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

挟み込み防止機能

⚠ 警告: 車内にお子様だけを残さないでください。ウィンドウが作動し、怪我を負うおそれがあります。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

概要

! **警告: 空調システムが正しく作動していない場合は、車両をマクラーレンの代理店で点検する必要があります。システムには、健康と環境に有害な冷媒漏れが発生する可能性があります。**

! **警告: 暖房や冷房の推奨設定に従ってください。ウィンドウが曇ると道路や交通状況を確認できなくなり、事故につながるおそれがあります。**

i **注意: クライメートコントロールシステムはドアやウィンドウを閉じた方が効率良く動作します。ただし、暑い場所に長時間駐車した場合は、短時間ウィンドウを開けて換気を行ってください。**

i **注意: 室温センサーはステアリングホイールとセンターコンソールの間に設置されています。このセンサーへの空気の流れを妨げないでください。妨げた場合、クライメートコントロールシステムのパフォーマンスが低下します。**

i **注意: 車両のイグニッションスイッチをオフにしても、現在の室内温度制御設定は保持されます。**

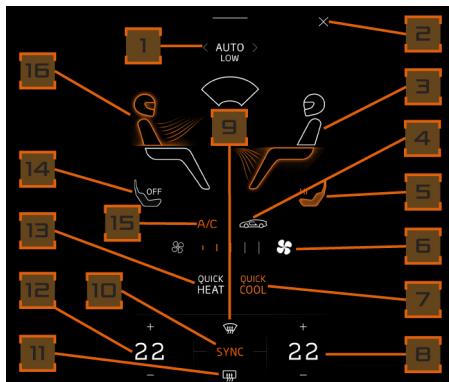
このシステムはオートマチックモードによる動作と、マニュアルによる設定の調節ができます。

コンビネーションフィルターによって車内に侵入する粉塵や汚染の量を低減しています。

調節ダイヤル

クライメートコントロールシステムは、センターアンフォティメントタッチスクリーンを使用して操作します。ボタンを押すと、室内温度制御画面がオンになります。

クライメートコントロール



1. 「AUTO (オート)」ボタン
2. 室内温度制御メニューを閉じる
3. エアディストリビューションボタン-右側
4. 「内気循環」ボタン
5. 「ヒートシート」ボタン-右側
6. プロアー速度調節ダイヤル

7. 「QUICK COOL (クイッククール)」ボタン
8. 温度調節 - 右側
9. 「曇り取り」ボタン
10. 「SYNC (同期)」ボタン
11. 熱線入りアーウィンドウ/ミラー
12. 温度調節 - 左側
13. 「QUICK HEAT (クイックヒート)」ボタン
14. 「ヒートシート」ボタン-左側
15. 「エアコン (A/C)」ボタン
16. エアディストリビューションボタン-左側

快適機能と便利機能

クライメートコントロール

動作モード

オートマチックモード

オートマチックモードでは、クライメートコントロールシステムは様々なプロアーモードと内気循環およびエアディストリビューションを組み合わせ、設定された室温を維持します。

クライメートコントロールシステムは、フロントウィンドウへのエアフローを自動的に調節して内部の曇りを防ぎ、車内の湿度を調整して乗員の快適性を向上させます。

コントロールパネルでは、色によって動作状態が示されます。

- アンバー色はオンを示しています。
- 白はオフになっているが、使用可能であることを示します。
- グレーは、使用できないことを示します。

自動モードには以下の3種類があります。

- 「AUTO LO」は、キャビン内に拡散エアフローを送風するようにシステムを設定し、乗員への直接エアフローは少なくなります。
- 「AUTO」は、通常のバランス設定です。
- 「AUTO HI」は、キャビン内に集中エアフローを提供するようにシステムを設定し、乗員への直接の送風は多くなります。

オートマチックモードを選択にするには「AUTO」ボタンをタッチします。

ボタンが点灯し、車両の左右両側のエアディストリビューション、温度およびプロアーモードが自動的に調節されます。

オートマチックモードでは、プロアーモードやエアディストリビューションを調節する必要はありません。設定された温度を維持するために必要な調節ならすべて行われます。

それでもクライメートコントロールシステムのエアディストリビューションを変更したい場合は、希望するボタンをタッチしてください。これでシステムはオートマチックファンモードになります。

オートマチックモード作動中にプロアーモードを調整すると、デフォルトでマニュアルモードが選択されます。「AUTO」ボタンを再度タップすると、オートマチックモードが作動します。

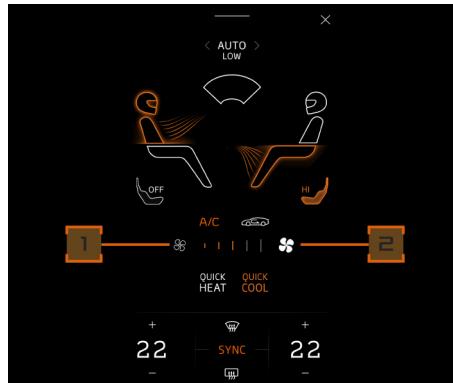
必要に応じ、システム設定をマニュアルで調節できます。「マニュアルモード」(5.05ページ)を参照してください。

マニュアルモード

プロアーモードをマニュアルで調節するには、「プロアーモード調節ダイヤル」(5.05ページ)を参照してください。

エアディストリビューションをマニュアルで調節するには、「エアディストリビューション設定」(5.06ページ)を参照してください。

プロアーモード調節ダイヤル



プロアーモードを手動で調節すると、システムはマニュアルモードになります。プロアーモードが設定されます。ただし、温度とエアディストリビューションは自動的に制御されます。

ファンアイコン(1)にタッチするとファン速度が下がり、(2)にタッチすると希望の設定に上がります。

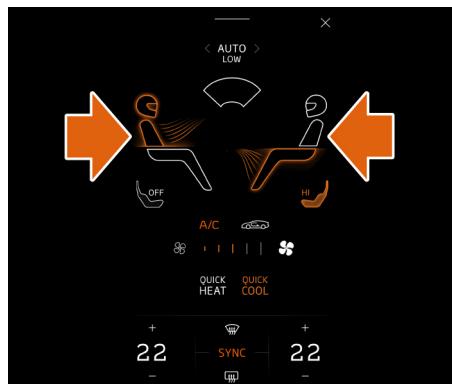
i 注意: ファンアイコン(1)にもう一度タッチすると、ファン速度がすでに最小に設定されている場合は、クライメートコントロールシステムがオフになります。ファンアイコン(2)にタッチして、オンに戻します。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

オートマチックモードになっている場合にブロアー速度を調節すると、「AUTO」ボタンが消えます。

オートマチックモードに戻るには、「AUTO」ボタンを押します。

エアディストリビューション設定



マニュアルディストリビューションモードを選択すると、システムはマニュアルモードになります。エアディストリビューションが設定されます。ただし、温度とブロアー速度は自動的に制御されます。

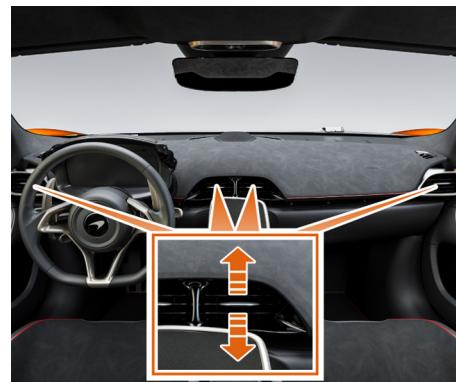
デュアルゾーンエアディストリビューションは、運転席と助手席で独立して、エアディストリビューションコントロールを使用して設定できます。

エアをフロントウィンドウから送風するには画面上部を押します。顔の高さで拡散エアベントから送風するには画面中央部を押します。フットウェルベントから吹き出すには画面下部を押します。

3つのすべての領域、任意の2つの領域の組み合わせ、あるいは1つの領域をいつでも選択できます。

エアディストリビューション領域を押すと、画面のアイコンが点灯します。

ダッシュボードエアベント



ベントコントロールを左右いっぱいに動かして、ベントを開閉します。

SYNC モード

SYNC モードにより、運転席側で行った室温設定またはディストリビューション設定の変更を、自動的に助手席側に適用することができます。

画面上の「同期」ボタンにタッチすると、ボタンが点灯し、運転席側の室温設定およびディストリビューション設定が自動的に助手席側に適用されます。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

ドライバーは「同期」ボタンに1回タッチすることで随時 SYNC モードを終了できます。その後、画面上の「同期」ボタンが消えます。

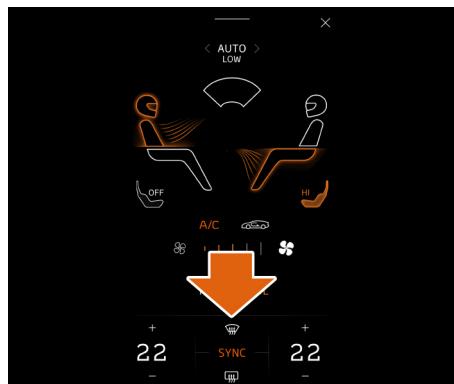
助手席側の設定が調整されると、SYNCモードも無効になります。

「エアコン (A/C)」ボタン

A/C により、さらに温度を下げたり除湿効果を高めることができます。これは最大冷却およびデフロストモードで使用されます。

「A/C」ボタンを使用して、A/C コンプレッサを作動/作動停止にします。

曇り取り/デフロスト



画面の曇り取り機能をアクティブにするには、「曇り取り」ボタンをタッチします。機能がアクティブになると、ボタンが点灯し、画面の上部にアイコンが表示されます。エアコンのスイッチがオフになっていた場合はオンになります。プロアーが設定速度で動作し、吸気温が「HI」に設定されます。

i 注意: 曇り取りモードを選択しているとき、内気循環は使用できません。

曇り取りモードを終了するには、もう一度「曇り取り」ボタンをタッチします。ボタンのアイコンが消灯し、温度とプロアー速度が元の設定に戻ります。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

温度調整ダイヤル

温度を上げるには **+** にタッチし、下げるには **-** にタッチします。

- i** 注意: 温度は 16°C~28°C (61°F~83°F) の範囲内で、0.5°C (1°F) 刻みで調節できます。
温度を 22°C (72°F) に設定することをお勧めします。

最高温度に設定するには、「HI」と表示されるまで、**+** にタッチします。AUTO モードでは、クライメートコントロールシステムによって吸気温が最高に設定され、プロアーが設定速度に調整され、フットウェルに送風されます。

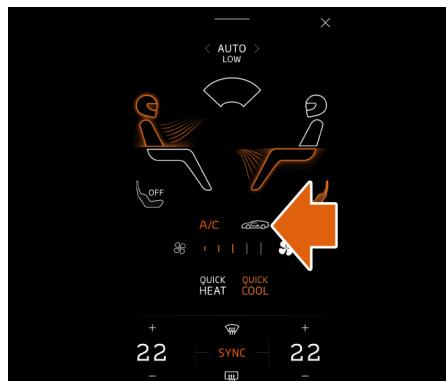
最低温度に設定するには、「LO」と表示されるまで、**-** にタッチします。AUTO モードでは、クライメートコントロールシステムによって吸気温が最低設定に、プロアーが設定速度に調整され、空気がセンターエアベントに吹き出されます。

設定された温度がセンターインフォディスプレイタッチスクリーンに表示されます。

運転席と助手席の温度を同時に調整するには、「同期」にタッチして温度を調整します。温度コントロールは、「同期」に再度タッチするまで同期されたままになります。

- i** 注意: 「LO」が選択された状態で、エアコンをオフにすることはできません。

内気循環モード



不快な臭いやガスが車内に入ってきたときは内気循環を選択します。外気が車内に取り込まれなくなります。

- ⚠** **警告: 外気温が低いときに内気循環モード**を選択すると、ウィンドウの曇りが発生し、視界が損なわれるおそれがあります。
結果として、道路や交通状況への注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

- i** 注意: ウィンドウの曇りを防止するため、エアコンをオンにしてください。

内気循環をアクティブにするには、「内気循環」ボタンをタッチします。ボタンが点灯します。内気循環をオフにするには、再度ボタンをタッチします。ボタンが消灯します。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

オートヒートシート

- 警告: 負傷の危険性を防止するために、シート温度を隨時確認してください。**
- 警告: オートヒートシートは選択したレベルに応じた最適の温度になっても、自動的に電源が切れるようにはなっていません。好みの温度/加温時間に達したら、必ずオートヒートシート機能のスイッチを切ってください。**



ボタンを1回押すとシートヒーターが高温設定に切り替わり、もう一度スイッチを押すと低温設定に切り替わります。

スイッチをオフにするには、ボタンを再度タッチします。ボタンのアイコンが消灯します。

シートヒーターはスイッチを切らない限り作動し続けます。

熱線入りリアウィンドウ



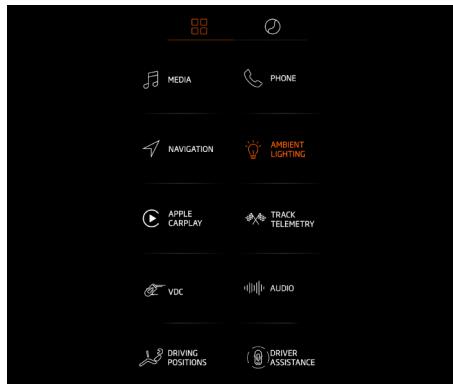
警告: 热線を作動させる前に、ミラーやウインドウに付着した氷や雪を取り除いてください。視界が遮られるとドライバーや周囲の者にとって危険です。

ボタンにタッチしてリアウィンドウと外部ミラーを加熱します。ボタンのアイコンが点灯します。スイッチをオフにするには、ボタンを再度タッチします。ボタンのアイコンが消灯します。

熱線入りリアウィンドウは、外気温に応じて設定時間が経過すると自動的にオフになります。

快適機能と便利機能 インテリア機能

ムードライト



マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）ホーム画面の「アンビエンス」アイコンにタッチします。



ムードライトの色と明るさは、MIS画面コントロールを使用して調整できます。

「スイッチ」アイコンにタッチすると、ムードライトの「オン」と「オフ」が切り替わります。ムードライトがオフの場合、ムードライトメニューの選択肢はグレー表示され、選択できません。

カラーバーにタッチしてムードライトの色を選択します。選択した色が展開され、他の色よりも大きく表示されます。

「リセット」にタッチすると、ムードライトがデフォルト設定に戻ります。

フットウェルおよびドアのムードライトのオンとオフを切り替えるには、「フットウェルおよびドア」にタッチします。

フットウェルのムードライトのオンとオフを切り替えるには、「フットウェル」にタッチします。

ドアのムードライトのオンとオフを切り替えるには、「ドア」にタッチします。

「+」または「-」記号にタッチすると、ムードライトの明るさが調整されます。あるいは、明るさバーをスワイプします。

快適機能と便利機能 インテリア機能

乗車照明

乗車照明は、車両に近づいたときの視界と安全性を改善します。

車両のロックを解除すると、ヘッドライトとテールランプが一定時間、またはイグニッションスイッチをオンにするまで点灯します。

乗車照明の点灯時間の設定方法は「乗車および降車照明」(4.08 ページ)を参照してください。

降車照明

降車照明は、ヘッドライトとテールランプを一定時間点灯し、車両を離れる際の視界と安全性を改善します。

降車照明の点灯時間の設定方法は「乗車および降車照明」(4.08 ページ)を参照してください。

降車照明は、方向指示器レバーを手前に3回瞬間に引くことによっても作動させることができます。車両はアウェイク状態で、イグニッションがオフである必要があります。

降車照明が作動中に方向指示器レバーを引くと、1回引く度に15秒ずつ時間が延長されます。

車両から降車してロックし、設定した作動時間が過ぎると、降車照明が消灯してこの機能は使用できなくなります。再度作動させるにはマクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) でオンにするか、方向指示器レバーを使用して手動で作動させます。

収納ボックス

センターコンソール収納ボックス



小物を収納するために、コンソールに収納ボックスが設けられています。

リッドの下側にある「リリース」ボタンを押し、持ち上げて開きます。閉じるには、しっかりとリッドを押し下げ、確実にラッチされています。

 **警告:** 収納ボックスは中に物品を収納しているときは閉じておく必要があります。急ブレーキや急な進路変更時、事故発生時に乗員が飛び出した物品により怪我を負うことがあります。

快適機能と便利機能 インテリア機能



収納ボックス内に2つのUSBソケットがあります。「外部デバイスへの接続」(4.20ページ)を参照してください。

ワイヤレス充電器が装備されていない場合、室内アクセサリーの12Vソケットは収納ボックスにあります。「インテリアアクセサリー12Vソケット」(5.16ページ)を参照してください。

i 注意: 車両を離れる際には必ず収納ボックスを閉じてください。開けたままにした場合、インテリアモーションセンサー（搭載されている場合）が機能しません。

i 注意: シート後部はラゲッジやその他の個人的物品を収納するようには設計されていません。



注意: リモコン・キーをセンター・コントロールの収納ボックスに保管しないでください。「シート収納ポケット」(5.12ページ)を参照してください。

シート収納ポケット

リモコンキーなど小物を収納するために、運転席前面の端にポケットが取り付けられています。

ドア収納ボックス



小物を収納するために、各ドアに収納ボックスが取り付けられています。



警告: ここに収納する物品については、十分に注意を払ってください。急ブレーキや急な進路変更時、事故発生時に乗員が飛び出した物品により怪我を負うおそれがあります。



警告: ドアを開ける際には、物が落下する危険性があるため、注意が必要です。

快適機能と便利機能 インテリア機能

カップ・ホルダー



ワイヤレス充電器が装備されていない車両



ワイヤレス充電器が装備されている車両

ドライブの際は、ふたの付いている飲み物の容器を安全で便利に収納できるカップ・ホルダーを利用してください。

警告: 車両走行中に飲み物を飲むと注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

警告: 車両が動いている間は、カップホルダーに温かい飲み物を入れないでください。高温の飲料がこぼれ、負傷するおそれがあります。

警告: 壊れやすい飲料用容器（ガラスや磁器製など）は使用しないでください。事故が発生した場合、負傷するおそれがあります。



注意: カップ・ホルダー内の飲料容器には、常にふたを付けている必要があります。そうでない場合、飲み物がこぼれ、電子機器やシートカバーなどの車両機器が損傷するおそれがあります。

快適機能と便利機能 インテリア機能

オーナー文書

マクラーレン車には以下の文書が備え付けられています:

- サービスおよび保証ガイド - 問題発生時の対処方法と連絡先が記載されています。
- オーナーズハンドブック - マクラーレンの操作方法について説明します。



サービスおよび保証ガイドは、フロントラゲッジルームに収納できます。

サンバイザー



運転の際に直射日光から目を守るために、サンバイザーを下ろしてください。

バニティミラー

この個人用ミラーを使用するには、サンバイザーのパネルを持ち上げます。

ワイヤレス充電器

 **警告:** ワイヤレス充電器の使用中は、心臓ペース・メーカーや補聴器が正常に作動しない場合があります。医師または機器のメーカーに確認し、このような機器を使用している人が高周波エネルギーから十分に保護されるようにしてください。



ワイヤレス充電器はセンター・コンソールの前面にあり、電話などのQi対応デバイスの充電に使用できます。

快適機能と便利機能

インテリア機能

ワイヤレス充電器の使用

⚠ 警告: ワイヤレス充電器の中にカードや NFC (近距離無線通信) 機能付きのもの、金属製のものを入れないでください。これらは充電プロセスの妨げとなるほか、物体、デバイス、ワイヤレス充電器が損傷する可能性があります。

i 注意: ワイヤレス充電器は 15W で充電できます。デバイスの充電時間はデバイスの仕様によって異なります。

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。
2. デバイスを充電器の中央に置くと、自動的に充電を開始します。

USB ソケット



2つの USB ソケットは、センターコンソール収納ボックスの内側にあります。

1. USB-C ソケット
2. USB-A ソケット

USB ソケットを使用すると、USB フラッシュドライブ、iPod などの互換性のある MP3 プレーヤーを接続できます。

i 注意: USB-C ソケット (1) は Apple CarPlay® に使用してください。

これらのソケットは、互換性のある携帯電話やメディアデバイスを充電するために使用することができます。

走行前に、センターコンソールが閉じていることを確認します。

Bluetooth® デバイスの接続に関する詳細については、「デバイスのペアリング/接続」 (4.27 ページ) を参照してください。

快適機能と便利機能 インテリア機能

アクセサリー電源ソケット

フロントラゲッジルームソケット



フロント・ラゲッジ・ルームにあるアクセサリー・ソケットの定格負荷電流は 20 アンペアです。

i 注意: エンジンをかけずに、車両から電源を供給する機器を長時間ソケットに接続したままにしないでください。バッテリーの過放電の原因となります。

インテリアアクセサリー 12V ソケット



インテリアアクセサリー 12V ソケットはセンターコンソールのフロントカップホルダーの横にあり、定格負荷は最大 6 アンペアです。

i 注意: 室内アクセサリー 12V ソケットは、ワイヤレス充電器が装備されていない車両にのみ取り付けられます。

i 注意: バッテリーチャージャーをインテリアアクセサリーソケットに接続しないでください。

McLaren 

メンテナンス

フルードの補充	6.04
エンジンオイル.....	6.04
クーラント.....	6.06
ギアボックスオイルレベル.....	6.07
ブレーキフルード.....	6.07
フロントウィンドウウォッシャーフルード.....	6.08
パワーステアリングフルード.....	6.09
エキゾーストフィルター	6.10
ガソリン微粒子フィルター (GPF)	6.10
非常用装備	6.12
非常用装備の安全性.....	6.12
フロントラゲッジルーム装備.....	6.12
三角表示板.....	6.12
サービスカバー取り外しツール.....	6.13
救急キット.....	6.13
タイヤシーラント.....	6.14
けん引フック.....	6.14
燃料フィラーパイプ.....	6.14
消火器.....	6.15
輪止め.....	6.15
バッテリーの点検と保守	6.16
12V バッテリーまたはHV バッテリーが放電した車両を回収する方法.....	6.16
12V バッテリー充電の安全性.....	6.16
12V バッテリーの充電.....	6.17
高電圧 (HV) バッテリー充電の安全性.....	6.18
高電圧 (HV) バッテリーの充電.....	6.20
ヒューズ	6.22
ヒューズの交換.....	6.22

メインヒューズボックス.....	6.22
セカンダリヒューズボックス.....	6.25
バッテリーヒューズボックス.....	6.26
照明	6.29
車両のランプ.....	6.29
手動ロック解除および開放	6.30
ロック解除 - 放電したバッテリー.....	6.30
車両の始動.....	6.31
車内からドアを開ける - 放電したバッテリー.....	6.32
フロントラゲッジルームを開ける - 放電したバッテリー.....	6.32
リモコンキーの電池の交換.....	6.34
ウォッシャーとワイパー	6.35
ワイパークリードの交換.....	6.35
ホイールとタイヤ	6.36
ホイールとタイヤ.....	6.36
タイヤがパンクした場合.....	6.40
車両のお手入れ	6.42
マクラーレン車の洗車.....	6.42
インテリアのクリーニング.....	6.43
車両カバー.....	6.44
車両のリフト	6.45
車両のリフトポイント.....	6.45
McLaren アシスタンス	6.46
McLaren アシスタンス.....	6.46
12V バッテリーの交換.....	6.46
故障時.....	6.46
回収のためのけん引.....	6.47

メンテナンス

海外での走行.....6.48
海外での走行.....6.48

メンテナンス フルードの補充

エンジンオイル

エンジンがオイルを消費するのは正常であり、消費率は多くの要因によって変化します。車両が新しい場合、または高回転で走行することが多い場合、オイルの消費量は多くなることがあります。

オイルおよびフィルター変更のサービススケジュールに沿って実施し、その間にオイルのレベルを定期的に点検することが重要です。

オイルの消費量は、数千マイルあるいは数千キロメートルを走行した後でないと、測定することはできません。

i 注意: 潤滑油添加剤はエンジンやギアボックスを損傷するおそれがあります。添加剤によって生じた損傷は車両の保証の範囲外となります。詳しい情報はマクラレン代理店から入手できます。

i 注意: オイル圧力警告灯は、オイルレベル低下インジケーターではありません。

エンジンオイルの点検

1. 以下の条件を満たしていることを確認します。

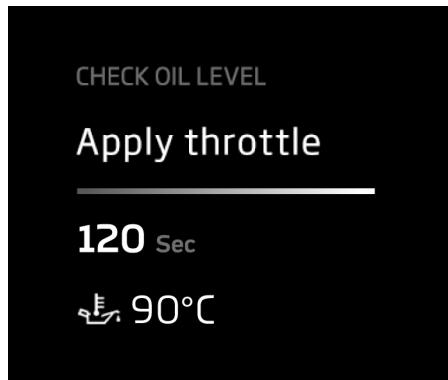
- 車両が静止状態で、水平な地面に置かれている。
- パーキングブレーキがかかっています。

- スポーツまたはサーキット走行パワートレイン・モードが選択されています。
- エンジンが作動している。
- ニュートラルを選択し、フットブレーキを（左足で）踏んでいる。



注意: オイルレベル点検中は常にフットブレーキを踏んでいる必要があります。

2. ドライバーディスプレイの「車両ステータス」セクションから「オイル」を選択して、オイル・レベル・チェックにアクセスします。詳細は、「オイル」(3.10ページ)を参照してください。



3. ドライバーディスプレイに示されている手順に従います。

スロットルを全開にすると、エンジン回転数は2,900rpmに保たれます。エンジンオイル温度が90°C (194°F) になるまで待ちます。



注意: スロットルペダルを完全に踏み込んで、電子制御によりエンジン回転数は2,900 rpmに抑制されます。

4. オイル温度が90°C (194°F) を超えると、120秒のタイマーが始動します。

タイマーが「0」になると、オイル・レベルが説明とともにドライバーディスプレイに表示されます。



メンテナンス フルードの補充

- エンジン・オイルが目標レベルより低い場合、必要な補充量がドライバーディスプレイに表示されます。

エンジンを停止し、以下の手順に従ってオイルを補充します。

- i** 注意: オイルレベル点検が完了して結果が表示されたら、システムのテストを終了してください。そのままテストを続けると、オイルに空気が混入し、誤った値が返される可能性があります。オイルレベル点検を終了するには、スロットルペダルを放し、メニュー・レバーを後ろに動かして車両情報メニューに戻ります。

エンジンオイルの補充

- !** 警告: イグニッションをオンにすると、警告なしでエンジンが再始動する可能性があることに注意してください。

- !** 警告: エンジンオイルの補充を行う前には、必ずイグニッションをオフにしてください。

- !** 警告: 給油中は、オイルがフィラー・チューブ外にこぼれないよう注意してください。過度にこぼれた場合は、エンジンを停止しマクラーレン正規販売店にご連絡ください。

- Coupe モデル - サービス・カバーを開けます。

「サービスカバー - Coupe」(1.09 ページ)を参照してください。

- Spider モデル - トノー・カバーを開けます。

「トノー・カバー - Spider」(1.16 ページ)を参照してください。



クーペ

2. エンジンオイルフィラーキャップを取り外します。

! 環境: オイルを補充する際は、オイルをこぼさないように注意してください。オイルを地面や水路に流してはなりません。

i 注意: 給油時には、オイルがこぼれないよう少しづつ給油してください。

3. 指定量のエンジンオイルを補充します。「エンジンオイル」(7.11 ページ)を参照してください。

メンテナンス フルードの補充

i 注意: オイルは過剰に給油しないでください。オイルを 9.3 L 以上給油してもドライバーディスプレイにオイル・レベルが低いと表示される場合は、それ以上オイルは給油せず最寄りのマクラーレン正規販売店にご連絡ください。

i 注意: 2 分間待って、フィラーチューブからタンクにオイルが流れるようにします。これにより、オイルレベルの読み取り値が正確になります。

4. ドライバーディスプレイでレベルが適正であることを確認します。

i 注意: 誤ってエンジンオイルを入れ過ぎてしまった場合は、マクラーレン代理店に入れ過ぎたオイルの抜き取りを依頼する必要があります。エンジンや触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

5. エンジンオイルフィラーキャップを取り付けます。

i 注意: オイルフィラーキャップが正しく取り付けられていることを確認してください。

- Coupe モデル - サービス・カバーを閉じます。

「サービスカバー - Coupe」(1.09 ページ) を参照してください。

- Spider モデル - トノー・カバーを閉じます。

「トノー・カバー - Spider」(1.16 ページ) を参照してください。

オイル温度

オイル温度が高すぎる場合、ドライバーディスプレイに警告が表示されます。警告メッセージが消えるまで、車速とエンジン回転数を下げます。

クーラント

! 警告: クーラントは高い引火性があります。クーラントを取り扱う際には火気、裸火、喫煙は厳禁です。

! 警告: クーラントは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。クーラントを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

クーラント・レベルを点検し、補充する必要がある場合は、マクラーレン正規販売店にお問い合わせください。

メンテナンス フルードの補充

ギアボックスオイルレベル

オイルの減少、あるいはギアシフトの問題が生じた場合は、マクラーレン代理店にギアボックスの点検を依頼してください。

i 注意: クラッチオイルとギアボックスオイルの整備間隔は走行距離によって決まります。このメンテナンスは、マクラーレン代理店のみが行えます。

ブレーキフルード

! 警告: ブレーキフルードは高い引火性があります。ブレーキフルードを取り扱う際には、火気や裸火には決して近づけず、喫煙は決してしないでください。

! 警告: ブレーキフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

! 警告: 必ず密封された容器に入った新品のフルードを使用してください。

! 警告: ブレーキフルードのチェックと補充を行う前には、必ずエンジンを停止してください。

i 注意: ブレーキフルードは塗装面に有害であるため、こぼさないように注意してください。こぼしてしまったときはすぐにカーシャンプーの水溶液で洗い落してください。



右ハンドルモデル

メンテナンス フルードの補充



左ハンドルモデル

フルードレベルの点検

1. ラゲッジルームを開けます。「ラゲッジルーム」(1.07ページ)を参照してください。
2. アクセスカバーを取り外し、その後キャップを反時計回りに緩めて取り外します。
3. ブレーキフルードは、フィラーネック内のフィルターのベースがちょうど浸る程度であれば適正レベルです。
4. 必要に応じて、新品のブレーキフルードを補充します。「ブレーキフルード」(7.13ページ)を参照してください。



環境: ブレーキフルードを補充する場合は、こぼさないように注意してください。ブレーキフルードを地面や水路に流さないでください。

5. キャップとアクセスカバーを交換します。
6. ラゲッジルームを閉じます。「ラゲッジルーム」(1.07ページ)を参照してください。

フロントウィンドウウォッシャーフルード

 **警告:** 一部のウォッシャーフルードは高い引火性があります。ウォッシャーフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

 **警告:** ウォッシャーフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。



注意: 一年間を通じてウォッシャーフルードをリザーバーに補充してください。



左ハンドルモデル

メンテナンス フルードの補充



右ハンドルモデル

フロントウィンドウウォッシャーフルードの補充

1. ラゲッジルームを開けます。「ラゲッジルーム」(1.07ページ)を参照してください。
2. リザーバーに補充する前に、フロントウィンドウウォッシャーフルード濃縮液と水を容器で混合します。フロントウィンドウウォッシャーフルードは気温に適した濃度になるように混合する必要があります。「フロントウィンドウウォッシャーフルード」(7.13ページ)を参照してください。
3. アクセスカバーを取り外し、リザーバーキャップを開きます。

4. フロントウィンドウウォッシャーフルードを補充します。
5. キャップを閉じて、アクセスカバーを交換します。
6. ラゲッジルームを閉じます。「ラゲッジルーム」(1.07ページ)を参照してください。

パワーステアリングフルード

 **警告:** パワーステアリングフルードは高い引火性があります。パワーステアリングフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

 **警告:** パワーステアリングフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

パワーステアリングフルードレベルを点検し、補充する必要がある場合は、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

メンテナンス エキゾーストフィルター

ガソリン微粒子フィルター (GPF)

ガソリン微粒子フィルター (GPF) は、ガソリンダイレクトインジェクション (GDI) エンジンによって生成される排気ガスから粒子状物質を収集するために使用されます。

GPFに堆積した微粒子は、エンジンが通常の動作温度になっているときに燃焼（再生）され、ドライバーはエンジン回転数が 2,500 rpm を超えてからアクセルペダルを数秒間放します。この操作により、エキゾーストシステムに微粒子を再生するための十分な酸素が供給されます。

冷間始動を頻繁に行う、短距離走行を繰り返す、低エンジン回転数（2,500 rpm 未満）での走行を繰り返す、市街地走行時にコンフォートパワートレインモードを使用するといった運用を行うと、GPFに微粒子が堆積し始める場合があります。GPFの微粒子堆積量を低く保つには、時折、マニュアルギアを用い、エンジン回転数を変えて、スポーツモードまたはサーキット走行パワートレインモードで走行する（アクセス操作を増やして惰性走行は極力避けることを含みます）よう努めます。

微粒子堆積量が危険な水準に達すると、以下のメッセージがドライバーディスプレイ：

 「排気フィルターのクリーンドライブが至急必要です-オーナーズマニュアルをご覧ください」 (6.10 ページ)



「排気フィルターのクリーンドライブが至急必要です。エンジンが制限されています。オーナーズマニュアルをご覧ください」 (6.10 ページ)



「エキゾーストフィルターサービスは重要です。エンジンが制限されています-McLaren サービスセンターにお問い合わせください」 (6.11 ページ)

排気フィルターのクリーンドライブが至急必要です - オーナーズマニュアルをご覧ください

GPFの濾過能力が限界に近づいているため、車両を特定の方法で運転してGPFを再生する必要があります。直近に整備機会に「GPF ドライブサイクル」 (6.10 ページ) に従ってください。

排気フィルターのクリーンドライブが至急必要です。エンジンが制限されています。オーナーズマニュアルをご覧ください

GPFの濾過能力が限界に近づいているため、車両を特定の方法で運転してGPFを再生する必要があります。直近に整備機会に「GPF ドライブサイクル」 (6.10 ページ) に従ってください。

GPF ドライブサイクル



警告:すべての地域の道路交通法および規則を遵守してください。



警告:このドライブサイクルは、交通状況が許し、安全かつすべての地域の道路交通法および規則に従って実施できる場合のみ実施してください。



注意: 再生手順に従わないと、GPF にすぐ堆積し、エンジン性能が制限されるおそれがあります。

- このドライブサイクルを開始する前に、ハイブリッドバッテリーが 90 %以上充電されていて、エンジンが冷えていることを確認してください。
- トラックパワートレインモードを選択し、エンジンを始動して、暖機するまで 5 分間アイドリングさせます。
- 準備ができたら、電動パワートレインモードを選択し（エキゾーストシステムを過熱しすぎず、GPFをさらに塞がないようにするため）、市街地から離れます。最高速度 95 km/h (60 mph) で 20 分以内に安全に走行できる場所まで運転します。
- （エンジンを始動する）スポーツパワートレインモードを選択し、オートマチックギアを選択して、緩やかに最高速度 95 km/h (60 mph) まで加速します。
- 速度 95 km/h (60 mph) になり、安全に実施できるようになったら、アクセルペダルを完全に放し、速度が 70 km/h (40 mph) に低下するまで車両を惰性走行させます。

メンテナンス エキゾーストフィルター

i 注意: GPF のクリーニングは減速中に行われます。

- 95km/h (60mph) になるまで緩やかに加速を繰り返し、安全に実施できるようになつたら、アクセルペダルを完全に放し、速度が 70 km/h (40 mph) に低下するまで車両を惰性走行させます。この操作を、メッセージ「排気フィルターの清掃が完了しました」がドライブディスプレイに表示には最大 20 分かかる場合があります。

20 分経過してもメッセージ「排気フィルターの清掃が完了しました」が表示されない場合は、ドライブサイクルを繰り返すことができます。ドライブサイクルを繰り返す前に、エンジンを 10 分以上アイドリングさせてシステムを冷却してください。

i 注意: このドライブサイクルを完了しても走行に支障があり、「排気フィルターの清掃が完了しました」というメッセージが表示される場合は、マクラーレン代理店にご連絡ください。

エキゾーストフィルターサービスは重要です。エンジンが制限されています - McLaren サービスセンターにお問い合わせください

GPF の容量を超えたため、車両を McLaren サービスセンターに移動して GPF を再生する必要があります。ドライバーは走行中に GPF 自体を再生できなくなります。エンジンの性能が制限されます。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

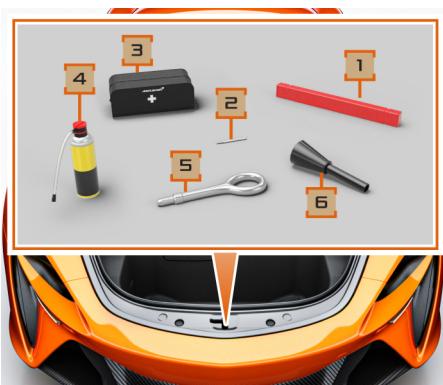
メンテナンス 非常用装備

非常用装備の安全性

非常用装備を使用する前に、以下の安全情報を良くお読みください。

⚠️ 警告: 非常用装備を使用する際には必ず、適切な使用法を確認し、本来の目的にのみ使用してください。非常用装備は必ず、安全かつ責任ある方法により、他の交通に注意して使用してください。

フロントラゲッジルーム装備



非常用装備は、フロントラゲッジルームの側壁に収納されています。

1. 「三角表示板」 (6.12 ページ)
2. 「サービスカバー取り外しツール」 (6.13 ページ)
3. 「救急キット」 (6.13 ページ)
4. 「タイヤシーラント」 (6.14 ページ)
5. 「けん引フック」 (6.14 ページ)
6. 「燃料フィラーパイプ」 (6.14 ページ)

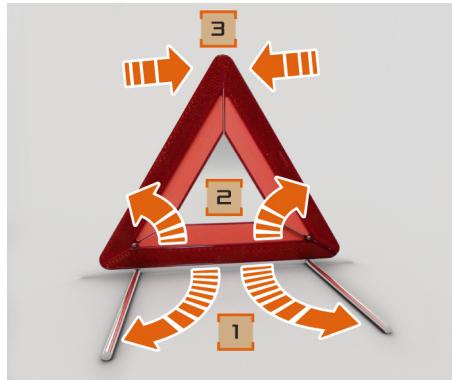
三角表示板



三角表示板はフロントラゲッジルームのリア、赤いケースの中に入っています。2本のストラップを外して、三角表示板を取り出します。

メンテナンス 非常用装備

三角表示板の立て方

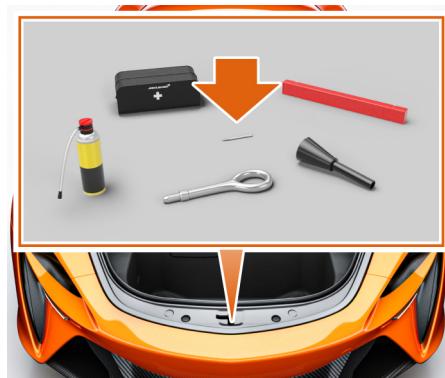


脚 (1) を底部から横に広げます。

サイドリフレクター (2) を上に引き上げて三角表示板を作り、スナップボタン (3) で頂点を固定します。

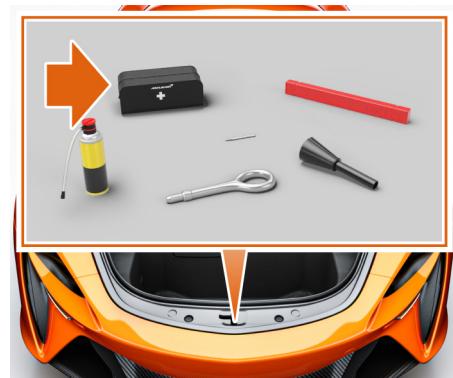
他の交通に故障車の存在を警告するために、車両から適切な距離に三角表示板を置きます。

サービスカバー取り外しツール



サービスカバー取り外しツールは、フロントラゲッジルームの横にあるアクセサリーバッグ内にあります。

救急キット

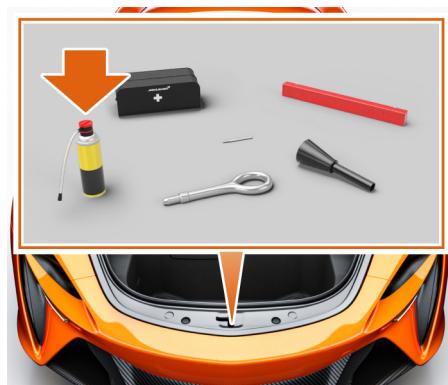


救急キットはフロントラゲッジルームの横にあるアクセサリーバッグ内にあります。

i 注意: 救急キット用品の使用期限を 12か月ごとに確認し、必要に応じて交換してください。

メンテナンス 非常用装備

タイヤシーラント

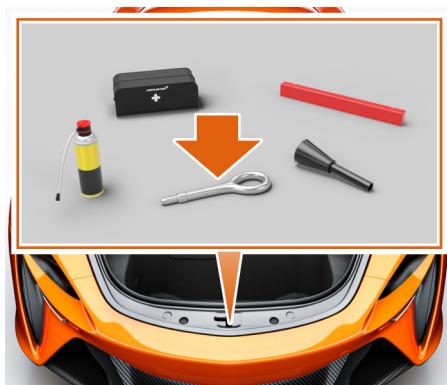


タイヤシーラントは、フロントラゲッジルームの横にあるアクセサリーバッグ内にあります。アクセサリーバッグを取り出し、ストラップ2本を外してタイヤシーラントを取り出します。

タイヤシーラントの使用法の説明は「タイヤがパンクした場合」(6.40 ページ)を参照してください。

i 注意: タイヤシーラントの使用期限を12か月ごとに確認し、必要に応じて交換してください。

けん引フック



けん引フックはフロントラゲッジルームの横にあるアクセサリーバッグ内にあります。

i 注意: お客様のMcLarenは、フロントけん引フックマウントのみが装備されています。他の車両をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方法については「けん引フックとマウント」(6.47 ページ)を参照してください。

燃料フィラーパイプ



フィラーパイプはフロント・ラゲッジ・ルームの横にあるアクセサリー・バッグ内にあります。

i 注意: 燃料フィラーパイプはガソリンスタンドの給油機以外から燃料を給油する際にのみ使用してください。

クーラント、エンジンオイル、その他のフルードの補充に燃料フィラーパイプを使用しないでください。

フューエルフィラーパイプの使用方法については、「燃料フィラーパイプを使用した給油」(2.60 ページ)を参照してください。

メンテナンス 非常用装備

消火器



消火器は、フロントラゲッジルームの側壁に収納されています。

固定ストラップを外し、消火器を取り出します。

使用方法は、消火器側面に記載されているメーカーの説明に従ってください。

i 注意: 消火器は12か月ごとに点検する必要があります。点検を怠ると、緊急時に使用できないおそれがあります。消火器を使用した場合は交換してください。

輪止め



輪止めはフロントラゲッジルームにあります。

メンテナンス

バッテリーの点検と保守

12 V バッテリーまたは HV バッテリーが放電した車両を回収する方法

12V バッテリーが充電状態の 5% を下回るまで放電すると、定電圧保護 (UVP) モードに入ります。12V バッテリーが UVP モードの場合、パーキング・ブレーキは解除できません。

車両を牽引するには、パーキング・ブレーキを解除する必要があります。これは、12V バッテリーを回復させてから行うことができます。12V バッテリーを回復させるには、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

警告: 12V バッテリーが放電している場合 (UVP モード) は、12V スレーブ・バッテリーのみを使用してシステムに通電し、パーキング・ブレーキを解除してください。他の電源は、車両に重大な損傷を与えるおそれがあります。

警告: 使用する前にすべてのケーブルが正常な状態であることを確認してください。損傷したケーブルは使用しないでください。

パーキングブレーキを解除してみてください（「パーキングブレーキ」(2.07 ページ) 参照）。ブレーキが解除されない場合は、最寄りのマクラーレン代理店にお問い合わせください。

お客様のマクラーレンの回収に関する第三者にこの情報を提供してください。

他車両からのブースト始動

マクラーレン代理店にお問い合わせください。

12 V バッテリー充電の安全性

12V バッテリーチャージャーを使用する前に、以下の安全情報をよくお読みください。

警告: お客様のマクラーレンにはリチウムイオンバッテリーが搭載されています。12V バッテリーおよび高電圧 (HV) バッテリー。12V バッテリーは HV バッテリーによって充電されます。HV 充電ケーブルにアクセスできない場合は、12V バッテリーチャージャーのみを使用して、12V バッテリーを充電する必要があります。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

警告: お客様のマクラーレン車両に搭載されているリチウムイオンバッテリーはシールドタイプです。バッテリーセルの点検のためにバッテリーシールを破壊してはなりません。

警告: 12V バッテリーは、1 年に 1 回または 10,000 km (6,000 マイル) 走行した後に、マクラーレン代理店でテストし、必要に応じて交換してください。12V バッテリーの交換が必要な場合は、マクラーレン代理店からお知らせします。

警告: 車両が定期的に使用されていない期間中、常時 HV 充電ケーブルを車両に接続したままにしてください。これにより、HV バッテリーと 12V バッテリーの寿命を保つことができます。

メンテナンス

バッテリーの点検と保守

⚠ 警告: 使用する前にすべてのケーブルが正常な状態であることを確認してください。傷んだケーブルは使用しないでください。すべてのケーブルが鋭利なものに触れたり、何かに挟まったり、高温の部分に触れたり水に浸かったりしていないことを確認してください。バッテリーの充電は必ず風通しの良い場所で行ってください。決してチャージャーに覆いをかけたり、チャージャーをバッテリーの上に置いたりしてはなりません。バッテリーの上に金属製のものを置かないでください。バッテリーがショートし、発火するおそれがあります。チャージャーは常にお子様の手の届かない場所に保管してください。

12 V バッテリーの充電

⚠ 警告: 車両に乗車する前に、必ず 12 V バッテリーチャージャーの接続を外してください。

i 注意: 高電圧 (HV) 充電ケーブルと車両の運転は、12 V バッテリーと HV バッテリーをメンテナンスするうえで最良の方法です。マクラーレンでは、車両を運転しないときに最適なバッテリー状態を維持するために HV 充電ケーブルを使用することをお勧めします。

バッテリーチャージャーの取扱説明書を参照してください。チャージャーはラゲッジルームのアクセサリーソケットに接続します。

i 注意: HV バッテリーの充電状態は、周囲の状況の影響を受けます。HV バッテリーは、0°C (32°F) ~ 25°C (77°F) の温度に維持された保管環境に置かれた場合、使用可能な容量の大部分を保持する可能性があります。



メンテナンス バッテリーの点検と保守

高電圧 (HV) バッテリー充電の安全性

車両に付属の高電圧 (HV) 充電ケーブルを使用する前に、以下の安全情報をよくお読みください。



お客様のマクラーレン車両には高電圧 (HV) 充電ケーブルが付属しています。HV 充電ケーブルのユーザーマニュアルが用意されていますので、マクラーレン車両を充電する前に、必ずこのマニュアルをお読みになりご理解ください。ユーザーマニュアルにアクセスするには、上記の QR コードをスキヤンするか、以下のサイトにアクセスしてください。

<https://www.aptiv.com/user-manual>

警告: お客様のマクラーレン車両に搭載されている高電圧 (HV) バッテリーは危険電圧バッテリーであり、バッテリー、電動モーター、モーターコントロールユニット、または関連する配線の誤用または乱用は、重大なけがや死亡事故につながるおそれがあります。

警告: お客様のマクラーレン車両に搭載されているリチウムイオンバッテリーはシールドタイプです。バッテリーセルの点検のためにバッテリーシールを破壊してはなりません。

警告: 車両が定期的に使用されていない期間中、常時 HV 充電ケーブルを車両に接続したままにしてください。これにより、HV バッテリーと 12V バッテリーの寿命を保つことができます。

警告: HV 充電ケーブルと電源コンセントの間には、延長ケーブルを使用しないでください。付属の適切な認定 HV 充電ケーブルのみを使用し、ケーブルを家庭用電源ソケットに直接差し込んでください。ソケットアダプターは使用しないでください。ケーブルが鋭利なものに触れたり、何かに挟まったり、高温の部分に触れたり水に浸かったりしていないことを確認してください。損傷したケーブルは使用しないでください。

警告: 損傷または故障したバッテリーには決して充電しないでください。車両バッテリーの上に金属製のものを置かないでください。バッテリーがショートし、発火するおそれがあります。HV 充電ケーブルは常にお子様の手の届かない場所に保管してください。

警告: お客様のマクラーレン車両の高電圧 (HV) 回路に関するすべてのケーブルは、オレンジ色で色分けされています。これらのケーブルは、重大なけがや死亡事故につながるおそれがあるため、取り外しや修理はしないでください。

警告: HV 充電ケーブルには、許可されていない変更や修正は行わないでください。

警告: HV 充電ケーブルはサービス製品ではないため、修理作業は許可されていません。故障した場合は、マクラーレン代理店に連絡して交換の手配をしてください。

警告: HV 充電ケーブルのラベルは剥がさないでください。

警告: HV 充電ケーブルには主電源スイッチはありません。デバイスの電源は、コンセントまたはプラグを抜くことでオフにすることができます。

警告: HV 充電ケーブル内に指を入れないでください。

警告: 液漏れや HV バッテリー周辺の損傷の兆候を発見した場合は、充電を中止し、安全であれば建物や他の車両から遠ざけ、直ちにマクラーレン販売店に連絡してください。

警告: HV システムは常に通電していると想定し、HV コンポーネントの修理は絶対に行わず、必ずマクラーレン代理店に連絡してください。

メンテナンス

バッテリーの点検と保守

- 警告: 充電装置に衝撃を与えないでください。**
 - 警告: HV 充電ケーブルを引っ張ったりねじったりしないでください。**
 - 警告: 充電中は充電装置に直射日光を当てないでください。充電時間が長くなる可能性があります。**
 - 警告: HV 充電ケーブル上を車両で走行しないでください。**
 - 警告: 充電装置をヒーターやその他の熱源の近くに置かないでください。**
 - 警告: 充電中は、12V バッテリーでジャンピングスタートを行わないでください。これを守らないと、車両に重大な損傷を与えるそれがあります。**
 - 警告: 家庭の電気配線が関連する電気仕様に指定されていることを確認してください。**
 - 警告: HV 充電ケーブルを使用していない場合は、定期的に車両を始動して車両の充電を維持してください。**
- i** 注意: 通常の充電では、12V バッテリーが正常な充電状態にあり、バッテリーセルのバランスがとれており、HV バッテリーは充電の最も低い使用可能な状態、25°C (77°F) の気温にあります。
- マクラーレンが提供する HV 充電ケーブルを使用する場合、充電には 240V で約 3.5 時間かかります

- マクラーレンが提供する HV 充電ケーブルを使用する場合、充電には 110V で約 7.5 時間かかります
 - 3.6 KW のウォールボックスまたは充電ステーションを使用する場合は、充電には約 2.5 時間かかります
- i** 注意: 外気温が 0°C (32°F) 未満、または 45°C (113°F) を超えると、充電時間が通常より長くなり、HV バッテリーを充電できるレベルが室温よりも低くなる場合があります。
- i** 注意: 充電中に車両を使用すると充電時間に影響します。たとえば、クライメートコントロールを使用すると充電時間が通常より長くなる場合があります。
- i** 注意: 車両は、該当する市場で認定された適正な HV 充電ケーブルを使用してのみ充電できます。充電ケーブルの互換性の詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。
- i** 注意: 定期的に充電すると、バッテリーの寿命を最大限に延ばすことができます。
- i** 注意: 充電を開始するには、次の基準を満たす必要があります。
- HV 充電ケーブルが主電源に接続され、電源が入っている。
 - ニュートラルギアが選択され、パーキングブレーキがかかっている。
- i** 注意: 車両を長期間保管する場合、車載チャージャーはバッテリー充電を維持します。HV 充電ケーブルは、車両が電源コンセントに接続されている間中、電流を流します。
- 注意: 充電関連情報はドライバーディスプレイに表示されます。
- 注意: HV 充電ケーブルとケーブル内コントロールボックス (ICCB) が暖まり、熱くなつて通常の動作中に触れることができなくなることがあります。効果的な作動を確保するには、ICCB を覆わないでください。
- 注意: HV 充電ケーブルの詳細および手順については、以下のサイトを参照してください。
<https://www.aptiv.com/user-manual>

メンテナンス バッテリーの点検と保守

高電圧 (HV) バッテリーの充電

長期間運転せずにマクラーレンを保管している場合、保管中は高電圧 (HV) バッテリーを3~4週間ごとに充電する必要があります。これを怠ると、バッテリーが回復不能な状態にまで損傷したり、寿命が短くなったり、作動効率が低下します。この結果、交換用バッテリーが必要になることがあります。この交換費用は保証条件ではカバーされません。

i 注意: 電気駆動システムの最適なパフォーマンスは、通常の HV 充電で維持できます。これにより HV バッテリーは長期の充電およびコンディショニング期間を経て、容量とパフォーマンスを維持できます。

i 注意: HV バッテリーの充電が低い状態で、長期間にわたって車両を放置しないでください。可能な場合は、HV 充電ケーブルを使用するか、エンジンがオンの状態でトラックモードを車両に使用してバッテリーを充電します。

i 注意: 車両を4週間以上使用しない場合は、0°C (32°F) ~25°C (77°F) の温度制御環境に保管し、車両を HV 充電ケーブルに接続したままにしておくことをお勧めします。

HV バッテリーの寿命と容量を最大化するために、車両を長期間使用しない場合は、直射日光を避けて 0°C (32°F) ~25°C (77°F) の温度で保管することをマクラーレンでは推奨します。

i 注意: HV バッテリーは、極端に高温または低温の環境におくと、劣化します。

高電圧 (HV) 充電ケーブルの接続

HV 充電ケーブルはラゲッジルームに収納されています。「ラゲッジルーム」(1.07 ページ)を参照してください。

1. エンジンを停止します。



2. HV 充電ポートフラップの後端を押します。ラッチが解除されます。
3. フラップを開けます。
4. HV 充電ケーブルをラゲッジルームから取り出し、ケーブルを完全に解きます。

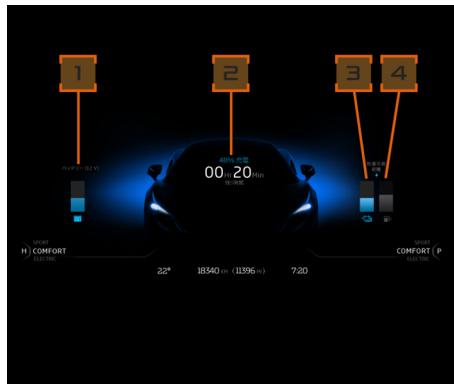
! 警告: つまずく危険があるのでこれを避けるために、必ず HV 充電ケーブルが全長にわたって正しく配線してください。

5. HV 充電ケーブルを電源コンセントに接続します。ケーブル内コントロールボックス (ICCB) の電源インジケーターが点灯している必要があります。
6. HV 充電ケーブルを車両の HV 充電ポートに接続すると、充電プロセスが自動的に開始されます。「高電圧 (HV) の充電ステータス」(6.21 ページ)を参照してください。

i 注意: 車両がロックされている間、HV 充電ケーブルは車両の HV 充電ポートにロックされます。「高電圧 (HV) 充電ケーブルの接続解除」(6.21 ページ)を参照してください。

メンテナンス バッテリーの点検と保守

高電圧 (HV) の充電ステータス



HV バッテリーの充電中は、ステータスがドライバーディスプレイに表示されます。

- 12V バッテリー充電ステータスインジケーター。
「バッテリー (12V)」(3.11 ページ) を参照してください。
- ディスプレイの青色の点灯は、HV バッテリーが充電中であることを示します。現在の充電状態と 100 % 充電までの残り時間も表示されます。

HV バッテリーが完全に充電されると、青色の点灯は消え、これを確認するメッセージが表示されます。

ディスプレイの赤色の点灯は充電エラーを示し、これを確認するメッセージが表示されます。

- HV バッテリー充電ステータスインジケーター。
「HV バッテリー充電レベルおよび到達可能距離」(3.25 ページ) を参照してください。
- 燃料残量インジケーター。
「燃料残量および範囲」(3.26 ページ) を参照してください。

高電圧 (HV) 充電ケーブルの接続解除



- 車両がロックされている間、HV 充電ケーブルは車両の HV 充電ポートにロックされています。リモコンキーまたはダッシュボードの「ロック解除」ボタンを押して、ケーブルの接続を外します。
- HV 充電ケーブルの接続を外します。
- HV 充電ポートフラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。
- HV 充電ケーブルをラゲッジルームに戻し、安全に保管します。

メンテナンス ヒューズ

ヒューズの交換

警告: ヒューズは車両の電気システムを保護しています。ヒューズが故障すると、各ヒューズが保護しているシステムが動作不能になります。

同一の定格と種類の交換用ヒューズを使用してください。誤った定格のヒューズを使用するとシステムに過負荷がかかり、火災や故障の原因になります。切れたヒューズは必ず交換し、決して修理して使用しないでください。

i 注意: ヒューズを取り外す前にすべての電装品のスイッチを切り、イグニッションスイッチをオフにしてください。

この車両には、以下の3つのヒューズボックスがあります。

ヒューズボックス	場所
メインヒューズボックス	左シート後部のリアバルクヘッド内のパネルの裏側
セカンダリヒューズボックス	助手席側ダッシュボードの下
バッテリーヒューズボックス	バッテリーの上、ラゲッジルーム内、ラゲッジルームカバーの下

メインヒューズボックス

メインヒューズボックスへのアクセス



1. メインヒューズボックスにアクセスするには、次の手順に従います。

- マニュアルシートが装着されている場合、チルトリリースレバーを持ち上げ、左側シートのバックレストを前方に傾けます
- 電動シートが装備されている場合、リリースストラップを引き、左側シートのバックレストを前方に傾けます

2. パネルをバルクヘッドに固定している2つの下側クリップを外し、パネルを取り外します。

3. 作動しなくなった電気システムを保護しているヒューズを判別するには、ヒューズ規格一覧表を参照してください（「メインヒューズボックスヒューズ規格一覧表」(6.23ページ)を参照）。

i 注意: アクセスパネルの内側に、ヒューズを識別するラベルが貼付されています。

4. 該当するヒューズを取り外し、同じ値のヒューズに交換します。不確実な場合はヒューズ規格一覧表で確認してください。

5. アクセスパネルの2つの上部保持クリップをバルクヘッドに挿入して取り付け、2つの下部クリップで固定します。

i 注意: ヒューズを交換しても電気系統の問題が解決しない、またはすぐに切れてしまう場合は、マクラーレン代理店にご相談ください。

メンテナンス ヒューズ

メインヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	60	ドメインコントローラー ZB2
F2	60	ドメインコントローラー ZC1
F3	30	ルーフセンターECU (Spiderのみ)
F4	30	右側トノーモーター (Spiderのみ)
F5	30	左側ルーフメインモーター (Spiderのみ)
F6	-	-
F7	30	スターター
F8	20	熱線入りリアウィンドウ
F9	20	オーディオアンプ
F10	-	-
F11	-	-
F12	30	HYCU

No.	アンペア	保護対象回路
F13	3	HV BMS
F14	5	パーマネントバッテリー
F15	15	リレー
F16	3	Pyro フィードイン
F17	10	MCU
F18	50	ECU メインリレーフィード
F19	40	フューエル PEM リレー 1
F20	20	運転席シート
F21	20	パッセンジャーシート
F22	20	eMotor クーリングポンプ
F23	15	eMotor クーリングファン
F24	10	インフォテイメント ECU
F25	2	インフォテイメント ECU 安全
F26	7.5	補助 USB ボード

No.	アンペア	保護対象回路
F27	2	SVCC/RVC
F28	50	eDiff コントローラー
F29	-	-
F30	-	-
F31	40	クーリングファン LH
F32	40	クーリングファン RH
F33	30	ルーフセンターECU (Spiderのみ)
F34	30	左側トノーモーター (Spiderのみ)
F35	30	右側ルーフメインモーター (Spiderのみ)
F36	20	ECU メインリレー
F37	-	-
F38	2	DMTL + パージバルブ

メンテナンス ヒューズ

No.	アンペア	保護対象回路
F39	5	左カムアクチュエーター、ダンプバルブ
F40	7.5	右カムアクチュエーター、クランクポジション、ダンプバルブ、ターボクーリングポンプ、オイルレベルセンサー
F45	30	左イグニッションアンプ
F46	30	右イグニッションアンプ
F47	5	左ラムダ、MAF、エキゾースト、ESG
F48	5	左ラムダ、MAF、エキゾースト、ESG
F49	5	スターター
F59	15	ドメインコントローラー ZC1
F60	15	ドメインコントローラー ZC1
F61	15	ドメインコントローラー ZC1
F62	15	ドメインコントローラー ZC1

No.	アンペア	保護対象回路
F63	15	ドメインコントローラー ZB2
F64	15	ドメインコントローラー ZB2
F65	15	ドメインコントローラー ZB2
F66	15	ドメインコントローラー ZB2
F67	-	-
F68	-	-
F69	-	-
F70	-	-
F71	-	-
F72	-	-
F73	-	-
F74	-	-
R41	-	-
R42	-	-

No.	アンペア	保護対象回路
R43	-	-
R44	-	-
R50	-	ファン eMotor クーリングリレー
R51	-	熱線入りリアウィンドウ
R52	-	フェューエル PEM リレー
R53	-	HTR ファン低速リレー
R54	-	HTR ファン高速リレー
R55	-	スターターリレー
R56	-	-
R57	-	切替えリレー
R58	-	ECU メインリレー

メンテナンス ヒューズ

セカンダリヒューズボックス

セカンダリヒューズボックスへのアクセス

1. セカンダリヒューズボックスは、助手席側ダッシュボード下のクロージングパネルを下げることによりアクセスが得られます。



2. 正面の2本のねじ（1）を取り外します。
3. 側面固定クリップ（3）を取り外します。

- i** 注意: クロージングパネルを完全に下げるには、さらに背面のクリップ（2）2個を取り外します。

4. ヒューズボックスにアクセスできるように、クロージングパネルを十分に下げます。

- i** 注意: クロージングパネルが傷つかないように、必要以上には下げないでください。
5. 該当するヒューズを取り外し、同じ値のヒューズに交換します。不確実な場合はヒューズ規格一覧表で確認してください（「セカンダリヒューズボックスヒューズ規格一覧表」（6.25 ページ）を参照）。
 6. クロージングパネルを元の位置に戻してクリップを取り付け、正面の2つのねじを締め付けます。

セカンダリヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	15	ドメインコントローラー ZB1
F2	15	ドメインコントローラー ZB1
F3	15	ドメインコントローラー ZB1
F4	15	ドメインコントローラー ZB1
F5	20	右ドアモジュール

No.	アンペア	保護対象回路
F6	20	左ドアモジュール
F7	5	右ドアラッチ
F8	5	左ドアラッチ
F9	-	-
F10	5	アラーム
F11	-	-
F12	-	-
F13	20	右 LTR ファン
F14	20	左 LTR ファン
F15	-	-
F16	-	-
F17	-	-
F18	5	PTC ヒーター
F19	20	HVAC プロアー

メンテナンス ヒューズ

No.	アンペア	保護対象回路
F20	10	OBD
F21	5	イーサネットスイッチ
F22	5	PEPS ECU
F23	5	TCU
F24	-	-
F25	4	ADI センターディスプレイ
F26	4	ADI ドライバー・ディスプレイ
F27	3	ラジオアンテナモジュール
F28	10	ルーフランプモジュール
F29	20	HVAC プロアー
F30	10	ホーン
F31	-	-
F32	-	-

No.	アンペア	保護対象回路
R1	-	ホーン
R2	-	LTR ファン

バッテリーヒューズボックス

バッテリーヒューズボックスへのアクセス

- ラゲッジルームリッドを開け、入っているものをすべて取り出します。



- バッテリーアクセスカバーの上部を固定しているネジを2分の1回転させて取り外します。

メンテナンス ヒューズ



3. バッテリーアクセスカバーの上部を開き、カバー背面にある2個の電気コネクターを外します。
4. その位置決めペグから上向きにバッテリーアクセスカバーを持ち上げ、取り外します。



5. 図に示すキャッチを外し、ヒューズボックスからカバーを取り外します。
6. ヒューズ識別ラベルを参照し、該当するヒューズを取り外して、値がオリジナルと同じヒューズに交換します。不明な場合は、「バッテリーヒューズボックスヒューズ規格一覧表」(6.27ページ)を参照してください。
7. カバーの左側をヒューズボックスにはめ込み、右側をいっぱいに押し込んでクリップを完全にかみ合わせます。
8. バッテリーアクセスカバーを再び取り付け、2個の電気コネクターを接続して、2本のネジで固定します。

9. ラゲッジルームから取り出したものを収納します。

バッテリーヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	300	12V バッテリー
F2	300	キャビン
F3	100	EPHS
F4	40	エレクトロニックスタビリティコントロールバルブ
F5	40	エレクトロニックスタビリティコントロールモーター
F6	20	コンデンサファンコントローラー
F7	20	LTR クーラントポンプ
F8	20	ヘッドランプ (リレー)
F9	15	ドメインコントローラ ZA1
F10	15	ドメインコントローラ ZA1

メンテナンス ヒューズ

No.	アンペア	保護対象回路
F11	15	ドメインコントローラー ZA1
F12	15	ドメインコントローラー ZA1
F13	25	ワイパーモーター
F14	10	IPU
F15	15	補助電源ソケット
F16	-	-
F17	20	eVac (リレー)
F18	-	-
F19	-	-
R1	-	真空ポンプ
R2	-	ヘッドラムプ

メンテナンス

照明

車両のランプ

照明は車両の安全上重要な局面です。すべてのライトがいつでも点灯することを保証する必要があります。

マクラーレン車のすべての外部ランプは最新の発光ダイオード (LED) 技術を使用しています。

従来のフィラメント式電球とは異なりLEDランプは寿命が長く、低消費電力でありながら同等の照度を実現できます。

ヘッドライト

お客様のマクラーレンには発光ダイオードのヘッドライトが装備されています。これらのランプは、特に悪天候時や走行条件の悪いときに、ロービームでもハイビームでもより広い視界を提供します。

i 注意: 発光ダイオードをご自分で交換しないでください。車両の照明システムを損傷するおそれがあります。故障の場合は、最寄りのマクラーレン代理店にお問い合わせください。

メンテナンス

手動ロック解除および開放

ロック解除 - 放電したバッテリー

車両のバッテリーが放電した場合、またはリモコンキーの電池の放電によって車両をロックまたはロック解除できなくなった場合は、機械式キーを使用してください。

ロックを解除しドアを開ける手順



1. リリースボタン (1) を押して、リモコンキーから機械式キー (2) を外します。



2. 機械式キーをロックに挿入し、機械的な抵抗によってドアの完全な解除が妨げられている位置までキーを反時計回りに回します。
3. ドアのラッチ部分に圧力をかけ（ドアシールの圧力に対抗するため）、さらにキーを回してドアをリリースします。

i 注意: 電池が放電すると、ウインドウガシールからわずかでも下がることはあります。ドア、ウインドウまたはドアシールを開ける際には、損傷するおそれがあるので注意してください。

4. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。

i 注意: 機械式キーを用いて車両のロックを解除すると盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ることがあります。

5. リモコンキーの電池が放電している場合は、できるだけ早い機会にバッテリーを交換してください（「リモコンキーの電池の交換」(6.34 ページ) を参照）。

メンテナンス

手動ロック解除および開放

車両の始動

リモコン・キーのバッテリーが放電し、エンジンが始動しない場合は、車両の仕様に応じて、リモコン・キーを以下に説明する位置に保持してください。

「ワイヤレス充電器未装着」 (6.31 ページ)

「ワイヤレス充電器装着」 (6.31 ページ)

できるだけ早い機会にリモコンキーの電池を交換してください。「リモコンキーの電池の交換」 (6.34 ページ) を参照してください。

ワイヤレス充電器未装着



カップ・ホルダーの前にリモコン・キーを置きます。

START/STOPボタンを3秒間押し続けると、車両は有効なリモコン・キーの存在を感知できるようになります。その後、車両を始動して運転できます。

ワイヤレス充電器装着



左ハンドルモデル



右ハンドルモデル

リモコン・キーをセンター・コンソールの助手席側に近づけます。

START/STOPボタンを3秒間押し続けると、車両は有効なリモコン・キーの存在を感知できるようになります。その後、車両を始動して運転できます。

メンテナンス

手動ロック解除および開放

車内からドアを開ける - 放電したバッテリー



車内からドアをリリースするには、マニュアルドアリリースストラップリテーナを外し、ストラップを引きます。

ドアラッチが外れると、ドアが少し持ち上がり、外側上方に自動的に回転します。

i 注意: 電池が放電すると、ウィンドウガシールからわずかでも下がることはあります。ドア、ウィンドウまたはドアシールを開ける際には、損傷するおそれがあるので注意してください。

リリースストラップを取り付けるには、ストラップをホルダー内に入れ、リテーナを元の場所にはめ込みます。

i 注意: このストラップは、バッテリーが放電したとき以外は使用しないでください。

フロントラゲッジルームを開ける - 放電したバッテリー

i 注意: バッテリーが放電してしまった場合、または接続されていない場合、リモコンキーまたはセンターコンソール上の「ラゲッジルーム」ボタンでラゲッジルームを解除できません。その場合はマニュアルリリースメカニズムを使用してください。

ラゲッジルームを開ける手順



1. リリースボタン (1) を押して、リモコンキーから機械式キー (2) を外します。

メンテナンス

手動ロック解除および開放

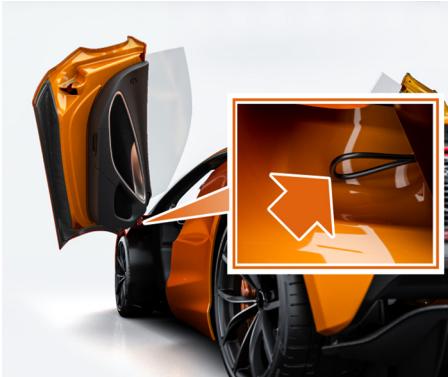


2. 機械式キーをロックに挿入し、機械的な抵抗によってドアの完全な解除が妨げられている位置までキーを反時計回りに回します。
3. ドアのラッチ部分に圧力をかけ（ドアシールの圧力に対抗するため）、さらにキーを回してドアをリリースします。

i 注意: 電池が放電すると、ウィンドウガシールからわずかでも下がることはあります。ドア、ウィンドウまたはドアシールを開ける際には、損傷するおそれがあるので注意してください。

4. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。

i 注意: 機械式キーを用いて車両のロックを解除すると盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ることがあります。



5. 左側ドア開口部のケーブルを引きます。
6. ラゲッジルームのロックが完全に解除され、少し開きます。



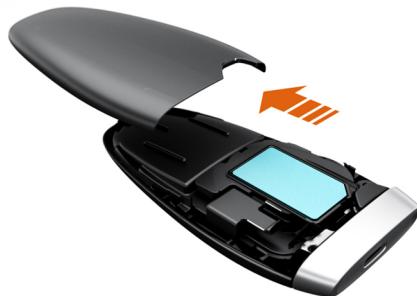
7. ラゲッジルームリッドを持ち上げて、安全ラッチを解除します。
8. ラゲッジルームリッドを開けると、ガスストラットにより完全に開いた位置で支持されます。
9. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。
10. リモコンキーの電池が放電している場合は、できるだけ早い機会にバッテリーを交換してください（「リモコンキーの電池の交換」(6.34 ページ) を参照）。

メンテナンス

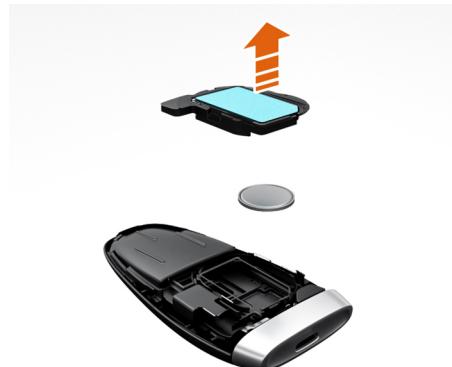
手動ロック解除および開放

リモコンキーの電池の交換

- i** 注意: リモコンキーの電池が放電した場合でも、カップホルダーの前にリモコンキーを置き、「始動/停止」を押して車両を始動できます。「車両の始動」(6.31 ページ)を参照してください。



1. リモコンキーから背面カバーをスライドさせて外します。



2. バッテリーカバーを持ち上げて外し、放電した電池を取り出します。
3. 極性が正しいことを確認し、新しいバッテリーを取り付けます。

i 注意: マクラーレンはバッテリーの寿命を最大限に延ばすために、高品質の産業用 CR2032 バッテリーを使用することを推奨しています。低品質のバッテリーを使用すると、バッテリーの寿命が短くなる場合があります。

i 注意: 電池にはできるだけ触れないでください。指の水分と油分によって電池の寿命が縮んだり、接点が腐食したりするおそれがあります。電池を持つ場合は、端のみを持ってください。

4. バッテリーカバーを取り付け、しっかりとはめて、密閉されていることを確認します。
5. リモコンキーにバックカバーを取り付けます。

メンテナンス ウォッシャーとワイパー

ワイパークリーナーの交換

警告: ワイパークリーナーを交換する際は、イグニッションスイッチがオフになっていることを確認してください。フロントウィンドウワイパーが作動した場合、負傷するおそれがあります。

警告: ワイパークリーナーは 12か月ごとに交換してください。そうしないと、フロントウィンドウを十分に拭き取ることができなくなります。その結果、道路や交通状況が十分に把握できず、事故につながるおそれがあります。

ワイパークリーナーの停止

- 「STOP/START (始動/停止)」ボタンを1回押してイグニッションをオンにします。ブレーキペダルは踏まないでください。
- ワイパークリオールストロークを手前に2回引くと、ワイパーは冬季用停止位置に移動し、その後サービス停止位置に向かいます。

冬季用停止位置では、ワイパーアームが垂直になります、水はけを良くして雪が積もらないようにします。

サービス停止位置では、ワイパーアームがワイパークリーナーの交換に便利な位置になります。

ワイパークリーナーの取り外し方



- ワイパークリーナーをフロントウィンドウのサービス停止位置に合わせます。「ワイパークリーナーの停止」(6.35ページ)を参照してください。

- ワイドウからワイパークリーナーを持ち上げます。

注意: ワイパークリーナーをフロントウィンドウから上げているときは、決してラゲッジルームリッドを開けないでください。ラゲッジルームリッドやワイパークリーナーを損傷するおそれがあります。

- ワイパークリーナーを90度回転させ、矢印の方向に取り外します。

注意: ワイパークリーナーとワイパークリーナーを通るウォッシャーフルードチューブを損傷しないように注意してください。

注意: ワイパークリーナーを装着せずにワイパークリーナーをフロントウィンドウに下ろさないでください。

新しいワイパークリーナーの装着方法

- ワイパークリーナーにワイパークリーナーをスライドさせ、90度回転させます。

注意: ワイパークリーナーとワイパークリーナーを通るウォッシャーフルードチューブを損傷しないように注意してください。

注意: ワイパークリーナーが確実にワイパークリーナーに装着されていることを確認します。

- ワイパークリーナーをフロントウィンドウに下ろします。
- ワイパークリオールストロークを手前に1回引くと、ワイパーは通常の停止位置に戻ります。

メンテナンス ホイールとタイヤ

ホイールとタイヤ

警告: すり減ったタイヤはアクスルごとに一対で交換し、タイヤが指定通りに取り付けられていることを確認してください。すり減ったタイヤで走行すると、特に高速走行時に車両の安定性に悪影響が生じます。新しいタイヤを装着した場合は、運転スタイルに合わせた適切なベディングについて、マクラーレン代理店にご相談ください。

- 新品タイヤの装着後は、高速でのコーナリングやスピードの出し過ぎは避けてください。
- 必ず同一タイプおよびメーカーのホイールとタイヤを装着してください。
- パンクを修理したタイヤは決して使用しないでください。
- 必ず正しいサイズのタイヤを装着してください。
- タイヤは紫外線、極度の高温や低温、高荷重、環境条件の影響により経時で劣化するため、定期的に点検する必要があります。「ホイールとタイヤの点検」(6.38ページ)を参照してください。
- 走行距離や残りのトレッドの深さに関係なく、タイヤの専門家に定期的にすべてのタイヤを点検してもらい、必要に応じてタイヤの交換を検討することをお勧めします。

マクラーレンでは、センサー付きタイヤの使用のみ推奨しています。詳細は、「ホイールおよびタイヤサイズ」(7.08ページ)を参照してください。センサー未装着のタイヤを使用すると、タイヤ空気圧監視システム (TPMS) は作動せず、警告灯が点灯します。詳細は、「インストルメントと警告灯」(2.05ページ)を参照してください。

これらのタイヤはマクラーレンが特別に認定したタイヤであり、車両の安全システムとの組み合わせによって最高のパフォーマンスを最大限に提供します。

マクラーレンは他のタイヤおよびホイールの使用によって生じた損傷については責任を負いません。ホイールおよびタイヤに関する詳しい情報は、マクラーレン代理店から入手できます。

警告: McLaren の推奨タイヤ以外を使用した場合、タイヤが車体に接触して、ハンドリングに悪影響が生じる可能性があります。その結果、車両をコントロールできなくなり、死亡または重傷を負う可能性があります。騒音レベルおよび燃費にも悪影響が生じる可能性があります。さらに、荷物を積載した場合、またはスノートラクションデバイスを使用した場合、走行中にそれらが車体やアクスルコンポーネントに接触する可能性があります。その結果、タイヤもしくは車両が損傷するおそれがあります。

i 注意: 更正タイヤは決して使用してはなりません。中古タイヤは以前の使用状況に関する情報がない限り装着しないでください。

i 注意: ブレーキシステムおよびホイールの改造は認められていません。スペーサープレートやブレーキダストシールドの使用についても同様です。こうした改造を行った場合は、改造箇所に関する車両保証は無効となります。

i 注意: ホイールの交換は、必ずマクラーレン代理店で行ってください。ジャッキを不適切に使用した場合、車両を損傷するおそれがあります。

i 注意: タイヤは涼しく乾燥した、できれば光の当たらない場所に保管してください。タイヤにオイル、グリス、ガソリンが付着しないように保護してください。

メンテナンス ホイールとタイヤ

タイヤのマーク



1. ミリメートル単位のタイヤの幅。
2. タイヤ幅のパーセンテージで示されたタイヤの扁平率。
3. ラジアルタイヤであることを示します。
4. ホイールリムの直径をインチで示します。
5. 数字はロードインデックスを、文字は速度規格を示します。タイヤの実際の荷重および速度の規格は、タイヤ・メーカーによって宣言および認定されており、メーカーにより異なる場合があります。

マクラーレンでは、センサー付きタイヤの使用のみ推奨しています。詳細は、「ホイールおよびタイヤサイズ」(7.08 ページ)を参照してください。センサー未装着のタイヤを使用すると、タイヤ空気圧監視システム (TPMS) は作動せず、警告灯が点灯します。詳細は、「インストルメントと警告灯」(2.05 ページ)を参照してください。

6. タイヤの最大耐荷重を示します。
7. トレッド摩耗等級番号。数字が大きいほどタイヤの耐久性が高いことを示します。
8. 英字は耐熱規格を示します。「A」規格タイヤの耐熱性は最高です。
9. タイヤの製造に関する情報。製造場所と製造日を表示しています。

DOT コードの最後の 4 衝は、タイヤの製造日を表しています (例: 5220)。日付コードの最初の 2 つ番号 (例: 52) は、カレンダーの週番号を表しています。日付コードの 2 番目の 2 つの数字 (20) は、年の最後の 2 つの数字 (例: 2020) を表しています。

タイヤ

警告: タイヤはタイヤウォールの標示に従って取り付けてください。ホイールに装着する際、タイヤ外縁の「OUTSIDE」の文字が外側に表示されるようにしなければなりません。そうしないと、特に高速走行時に車両の走行安定性が損なわれます。

非対称タイヤ



非対称タイヤはトレッドの片側が反対側とは違うパターンになっています。このトレッドの組み合わせによって、濡れた路面と乾燥した路面のどちらでも高いグリップ性能を発揮します。

外側のトレッドはより大きく固いトレッドパターンとなっており、高いコーナリング安定性を実現します。内側のトレッドパターンは濡れた路面での安定性を高めます。タイヤの一部の溝は直進安定性に寄与します。

警告: 本車両にはマクラーレン推奨タイヤ以外は装着しないでください。

メンテナンス ホイールとタイヤ

⚠️ 警告: タイヤはタイヤウォールの標示に従って取り付けてください。非対称タイヤのメリットを得るためにには、タイヤを正しく装着してください。

ホイールとタイヤの点検

少なくとも 7 日ごとにタイヤに切れ目、パンク、亀裂、瘤、変形、ひび割れなどがないか確認してください。ホイールに著しい腐食がないか確認してください。ホイールが損傷していると空気圧低下の原因になります。

定期的にタイヤトレッドの深さとタイヤ全体のトレッドの状態を点検してください。ハンドルをいっぱいに切り、内側のトレッドまで点検してください。



トレッドが 1.6 mm まで摩耗すると、トレッドパターンの表面にスリップマークが現れ、タイヤ幅に渡ってゴムの帯ができます。スリップマークが現れたときはすぐに、(あるいは法によりこれより深いトレッドが必要な場合はその前に) タイヤを交換してください。

ℹ️ 注意: タイヤは必ずマクラーレン代理店で交換することを推奨します。

⚠️ 警告: 濡れた路面や凍結路では、特にトレッドの深さが最低限に近いときはタイヤのグリップ力が急激に低下します。タイヤグリップの低下のため車両のコントロールを失い、事故に至るおそれがあります。速度を落とし、いつも以上に注意深く運転してください。

ℹ️ 注意: トレッドの摩耗がタイヤ全体で偏りがある場合や異常に摩耗している場合は、ホイールアライメントを検査する必要があります。

すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて調整してください。「タイヤ空気圧」(7.10 ページ) を参照してください。

バルブを泥や水分から守るために、すべてのホイールにバルブキャップを装着する必要があります。

走行時の注意事項

車両を駐車する際には、タイヤが縁石や他の障害物に触れていないことを確認してください。縁石や減速ブロック、窪みを乗り越える必要がある場合は減速し、浅い角度で障害物に接近してください。そうしないと、タイヤを損傷するおそれがあります。

走行中は振動、異音、ハンドルが取られるなどの異常がないか注意してください。もしそのような異常がある場合は、タイヤもしくはホイールが損傷している可能性があります。異常を感じた場合は、安全に速やかに減速して停車し、タイヤやホイールが損傷していないか点検してください。損傷が見られない場合でも、マクラーレン代理店に点検を依頼してください。

タイヤ空気圧

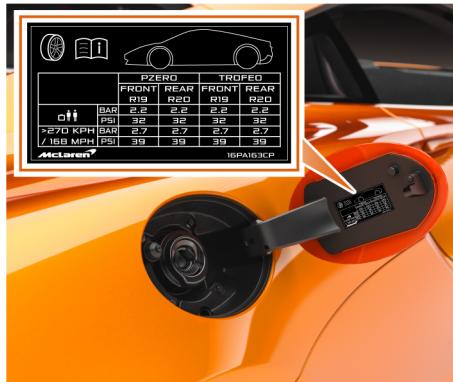
⚠️ 警告: タイヤ空気圧が高過ぎたり低過ぎたりすると車両のアクティブセーフティに悪影響が生じ、事故につながるおそれがあります。すべてのタイヤの空気圧を高い頻度で、特に長距離ドライブに出かける際などに点検し、必要に応じて調整してください。

⚠️ 警告: タイヤの空気圧が繰り返し低下する場合は、タイヤに異物やパンクの兆候がないか、バルブにエア漏れがないか点検してください。

メンテナンス ホイールとタイヤ

異なる運転条件でのタイヤの空気圧について
は、「タイヤ空気圧」(7.10 ページ)を参照して
ください。

市場によっては、タイヤの空気圧はフューエル
フィラーフラップ内側または運転席側ドア開口
部の内側のラベルにも記載されています。

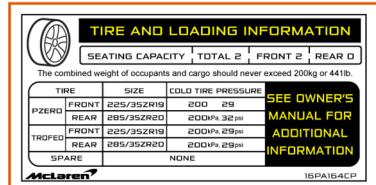


高速走行する際は必ずタイヤの空気圧を点検し、必要に応じて調整する必要があります。

i 注意: 一部の市場では、タイヤ空気圧ラベルは運転席側ドア下部に貼付されています。

i 注意: 低負荷走行用に指定されているタイヤ空気圧は、最適な乗り心地が得られるよう最低限の値となっています。

負荷が大きいときは空気圧を上げても車両の走行に悪影響を与えることはありませんが、乗り心地は悪くなります。



空気圧の点検はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤが暖まっているときに点検する必要がある場合は、より高い空気圧が必要です。タイヤが暖まっているときに、タイヤが冷えた状態のときの推奨空気圧に合わせてタイヤの空気を抜かないでください。

! **警告:** タイヤの空気圧が高過ぎたり低過ぎたりすると以下の不具合が生じるおそれがあります。

- タイヤが破損し、死傷事故につながる。
- タイヤの寿命が縮まる。
- タイヤの損傷が増大する。
- ハンドリング特性に悪影響が生じる（ハイドロプレーニング現象などが起こる）。

! **環境:** 少なくとも週に1回はタイヤ空気圧を点検してください。

ホイールの相互交換

! **警告:** マクラーレン車に代替として装着できるのは、ウィンタータイヤを装着した認定ホイールのみです。

メンテナンス ホイールとタイヤ

タイヤがパンクした場合

マクラーレン車はラゲッジルームにタイヤシーラントのコンテナを備えています。

パンクの際は以下の手順に従ってご自身、他の乗員および他の通行者の安全を確保してください。

パンクの修理

- 他の交通からできる限り離れた、固く水平な場所に車両を停止します。
- 高速道路の場合はハザード警告灯を点灯してください。「ハザード警告灯」(1.43ページ)を参照してください。
- パーキングブレーキをかけ、ニュートラルを選択します。
- 乗員は安全に注意しながら車両を降り、車両や他の交通から離れた安全な場所に待避する必要があります。
- 車両から適切な距離に三角表示板を設置し、他の交通に故障車の存在を警告します。「三角表示板」(6.12ページ)を参照してください。

タイヤシーラントの使用法



タイヤシーラントは、特にタイヤトレッドの小さなパンクを密閉するために使用することができます。タイヤシーラントは気温が最低 -20°C (-4°F) 以上のときに使用できます。



警告: タイヤシーラントは次のようなパンクに使用することはできません。

- タイヤに 4 mm 以上の切れ目や刺し傷がある場合
 - ホイールリムが損傷している場合
 - タイヤの空気圧が低過ぎる状態やパンクした状態で走行した場合
- 直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。

ラゲッジルームからタイヤシーラントを取り出し、容器に記載されている説明に従ってください。

i 注意: 可能であればパンクの原因を突き止め、シーラントの効果を高めるためにパンクした箇所が一番下の位置になるようにホイールを配置してください。

パンクしたタイヤは速やかに交換を依頼してください。

! 警告: パンクしたタイヤは交換を依頼してください。McLaren はパンクしたタイヤの修理は推奨しません。

! 警告: タイヤシーラントが目や皮膚に付いた場合はただちにきれいな水で完全に洗い流し、タイヤシーラントが付着した衣服は交換してください。アレルギー反応が出た場合はただちに医師の診察を受けてください。

! 警告: タイヤシーラントはお子様の手の届かない場所に保管してください。タイヤシーラントを誤飲した場合はただちに口を十分にすすぎ、大量の水を飲んでください。無理に吐こうとしないでください。ただちに医師の診察を受けてください。タイヤシーラントの蒸気を吸い込まないでください。

i 注意: タイヤシーラントにより、誤った圧力がドライバーディスプレイに表示される可能性があります。

メンテナンス ホイールとタイヤ

タイヤシーラントを使用した場合、タイヤ
空気圧モニタリングシステムが組み込まれ
たタイヤは交換する必要があります。

メンテナンス

車両のお手入れ

マクラーレン車の洗車

 環境: 一部の洗剤には環境に有害な化学物質が含まれています。フルードをこぼさないように常に注意し、必要以上には使用しないでください。

手洗いによる洗車

- はじめにホースパイプを用いて浅い角度でボディ全体に水をかけ、泥などを浮かせてから、塗装面を濡らして洗車の準備をします。エンジンカバーベントには直接水をかけないでください。
- バケツ一杯のお湯と良質のカーシャンプーを用意します。希釀率はシャンプーメーカーの説明書を参照してください。
- 車両の上から下に、できればスポンジではなくウールの洗車ミットを使用して洗車します。特に泥がたまりやすい場所に注意し、多量の水を使用して洗います。車両の上部（ルーフ、ラゲッジルームおよびホイールアーチラインより上の部分）に1つの洗車ミット、ホイールアーチラインより下の部分に別のミットを使用してください。

i 注意: マクラーレンの車両を洗浄する際には、高圧洗浄機は一切使用しないでください。

i 注意: これらの洗車ミットでホイールを洗わないでください。

i 注意: シャンプーを乾燥させないでください。塗装面に色むらが生じる原因になります。

- タールスポットやしつこいグリスの付着は、揮発油もしくは変性アルコールを使用すると取り除くことができます。取り除くことができたらすぐに石けん水で洗い、すべての揮発油またはアルコールを取り除いてください。
- 車両のクリーニングが終わったら、上部から下に向かってホースパイプにより浅い角度で完全にすすいでください。エンジンカバーベントには直接水をかけないでください。
- セーム皮または乾燥用タオルを用いて車両を乾かします。

i 注意: エンジンベイに水が残っていると思われる場合は、車両を運転して動作温度までエンジンを暖めて、エンジンに残った水分を乾燥させることをお勧めします。

ホイールの洗浄

i 注意: ホイールは頻繁に洗浄してください。ブレーキダストがホイールリムの塗膜に深く染み込まないようにしてください。

お湯、良質のカーシャンプーおよびホイールブラシまたはホイール専用の洗浄用ミットを使用してホイールを洗浄します。無塗装仕上げのホイールには、ホイールをきれいに保つためにや出しを行います。

i 注意: 塗装仕上げのホイールには決してつや出しを行わないでください。つや出しを行うと、ホイールの表面に光沢のある部分とない部分の斑模様が生じてしまいます。

i 注意: 酸ベースのホイールクリーナーはホイールリムの仕上げを損傷し、腐食の原因になるため使用しないでください。

i 注意: ホイールのクリーニングを行った後、車両を車庫に入れる前に、ブレーキが完全に乾いていることを確認してください。

ワイパー・ブレードとラバーシール

ワイパー・ブレードやラバーシールは、お湯と良質のカーシャンプーのみでクリーニングします。石油系またはアルコールベースのクリーナーは使用しないでください。

フロントウィンドウ、ウィンドウ、ミラー

すべてのウィンドウの内外面を、ウィンドウ用洗浄液を用いて定期的にクリーニングしてください。自動車用ガラスクリーナーを推奨します。ワックスを含有するカーシャンプーで車両を洗車した後は、フロントウィンドウ外面をガラスクリーナーでクリーニングしてください。研磨剤入りクリーニングコンパウンドは使用しないでください。ミラーガラスは特に傷つきやすくなっています。

メンテナンス

車両のお手入れ

アンダーボディのクリーニング

冬季に道路の融雪や凍結防止に使われる塩分は車両のアンダーボディに蓄積します。これを放置すると腐食が発生します。冬季は特にホイールアーチや泥がたまりやすい場所に注意しながら、ホースを用いてアンダーボディを定期的に水洗いしてください。

つや出し

ときどき、良質のつや出し剤を用いて塗装のつや出しを行い、その後に保護用ワックスをかけてください。

i 注意: カッティングコンパウンド、カラーリジン、強力な研磨剤を含むつや出し剤は使用しないでください。これらの製品は塗装に傷をつけ、回復不可能な損傷を与えるおそれがあります。

塗装の損傷と修正

塗装に損傷がないか、定期的に点検してください。跳ね石による傷や深い擦り傷は速やかに修理する必要があります。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

インテリアのクリーニング

i 注意: マクラーレン代理店は、お客様の車両のインテリアクリーニングに合った製品を推奨できます。

カーペットとファブリック

シート表皮をクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。希釈した表皮クリーナーと清潔な布でクリーニングします。

レザー

レザーをクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。お湯と天然石けんまたは専売特許のレザクリーナーを用いてクリーニングしてください。乾いた、清浄なリントフリークロスで乾燥させます。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

ダッショードの表面はつや出しをしないでください。つや出しを行った表面は光を反射し、ドライバーの視界を遮るおそれがあります。希釈した表皮クリーナーでクリーニングした後、固く絞った布で拭きます。

カーボンファイバー

カーボンファイバー部分をクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。適切なつや消しダッシュボードクリーナーでクリーニングしてください。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

Alcantara®

注意して埃を払います。柔らかい布またはスポンジを水で湿らせ、完全に水を絞り、Alcantara®素材全体を拭きます。湿らせ過ぎないように注意してください。布またはスポンジをすぎ、必要に応じて繰り返し拭きます。

一晩放置して素材を乾かします。

素材が乾いたら、元の風合いになるように柔らかい短毛ブラシで軽くブラッシングします。

シートベルト

ベルトを伸ばし、お湯に溶かした石けん水のみでクリーニングします。合成洗剤や化学洗浄剤は種類にかかわらず使用しないでください。ベルトを伸ばしたまま、できれば直射日光を避けて自然乾燥させます。

メンテナンス

車両のお手入れ

インストルメントとディスプレイ画面

ドライバーディスプレイおよびセンターアンフォディメントタッチスクリーンのクリーニングには湿った布を使用してください。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

車両カバー

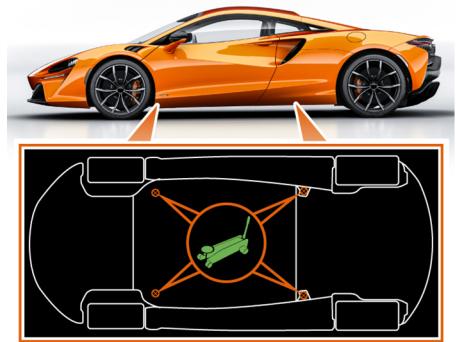
マクラーレン代理店では、ガレージ内での使用に適した車両カバーを販売しています。

マクラーレンでは、車両を2週間以上使用しない場合、カバーをかけておくことを推奨しています。カバーをかける前に車両の内外を清掃し、十分に乾かしてください。

 **注意:** 車のカバーを取り付ける前に、車が冷えるまで待ってください。冷却前に取り付けると、車両やカバーが損傷する可能性があります。

メンテナンス 車両のリフト

車両のリフトポイント



正しいリフト位置は図と車両に貼付されているラベルを参照してください。

お客様のマクラーレンの回収に関する第三者にこの情報を提供してください。

- i** 注意: これ以外のポイントで車両をリフトした場合、車両が損傷します。
- i** 注意: ジャッキを使用する場合は、平らなリフト用プラットフォームとシャシー表面の損傷を防止するラバーパッドとともに使用してください。ボディパネルの下はリフトしないでください。



警告: 車両を作業が可能な高さまでリフトする前に、車両がジャッキまたは車両リフトの上に正しく配置されていることを確認してください。車両の下で作業する場合は必ず車両リフト安全ロックをかけるか、適切なスタンドを使用して安全を確保してください。

メンテナンス

McLaren アシスタンス

McLaren アシスタンス

お客様のマクラーレンが動かなくなった場合は、ご自分で解決しようとしてください。サービスおよび保証ガイドを参照してください。必要なすべての情報が記載されています。

12 V バッテリーの交換

マクラーレンが車両バッテリーの不具合で動かなくなった場合、マクラーレン代理店による正しい仕様のリチウムイオン電池と交換する必要があります。

故障時

車両が故障した場合は、マクラーレン代理店にご連絡ください。近くにマクラーレン代理店がない場合は、年中無休、24時間対応のロードサイドアシスタンス業者にご連絡ください。

 **注意:** ロードサイドアシスタンス業者の詳しい連絡先は、サービスおよび保証ガイドに記載されています。

マクラーレン代理店またはロードサイドアシスタンス業者は、お客様およびお客様の車両IDを確認して、お客様の正確な現在地を判断します。

その後に、お客様と問題について話し合い、お客様の承諾のもとで最良の解決策を決定します。

メンテナンス

McLaren アシスタンス

回収のためのけん引

お客様のマクラーレンには、フロントけん引フックマウントのみが装備されています。

i 注意: 車両をけん引しないでください。けん引した場合、ギアボックスを損傷するおそれがあります。けん引フックは回収の目的で車両をトレーラーまたは輸送車に積載する場合以外には使用してはなりません。リジッドバーを使用して車両をけん引してはなりません。

けん引フックとマウント

1. フロントバンパー内のけん引フックマウントのカバーを取り外します。



2. けん引フックを時計方向に回し、ねじ山の根元まで完全にマウントホールに取り付けます。
- i** 注意: けん引フックと車両の損傷を防止するため、けん引フックがフロント構造の対応する構造に完全に密着したことを確認することが重要です。
- i** 注意: ウィンチケーブル/ストラップはけん引フック以外の場所に固定してはなりません。車両が損傷するおそれがあります。
3. 車両を回収したらすぐにけん引フックを取り外してラゲッジルームに収納し、けん引フックマウントにカバーを取り付けます。

メンテナンス

海外での走行

海外での走行

マクラーレン代理店は、海外を旅行する際にもご利用いただけます。

海外で走行する際の法的要件は国によって異なり、また常に変動しています。旅行先の国の法律に準拠するためには何が必要となるか、必ずマクラーレン代理店にお問い合わせください。

一部の国では低オクタン燃料以外は入手できません。燃料グレードについての詳細は、「推奨燃料」(2.61 ページ)を参照してください。

i 注意:ヘッドランプの非対称ロービームは、路肩に近い側を明るく照らすように設計されています。お客様のマクラーレンは、道路の左側または右側のどちらを走行しても同一のロービームヘッドランプ設定が適用されます。

McLaren 

車両データおよび用語集

純正マクラーレン部品およびアクセサリー.....	7.02
概要.....	7.02
車両識別.....	7.03
車両識別番号 (VIN)	7.03
データ.....	7.04
概要.....	7.04
車両動作温度.....	7.04
パワートレイン.....	7.04
各ギアの最大速度.....	7.05
ギアレシオ	7.06
車体寸法.....	7.06
車両重量.....	7.07
ホイールおよびタイヤサイズ.....	7.08
旋回半径.....	7.09
タイヤ空気圧.....	7.10
サービス製品、フルードと容量.....	7.11
サービス製品.....	7.11
エンジンオイル.....	7.11
ガソリンスタンド.....	7.12
クーラント	7.12
ブレーキフルード	7.13
フロントウインドウォッシャーフルード.....	7.13
技術用語集.....	7.14
技術用語集.....	7.14

車両データおよび用語集

純正マクラーレン部品およびアクセサリー

概要

マクラーレンはマクラーレンの純正交換部品およびアクセサリー以外は使用しないことを推奨します。非純正部品を使用した場合、車両の動作や安全に悪影響を及ぼす可能性があります。McLarenは交換部品およびアクセサリーの信頼性、安全性および適合性をテストしています。McLaren車における非純正部品の使用については、たとえ当該部品が単独では認定品であったとしても、McLarenは責任を負いません。

多くの国では、交換部品およびアクセサリーは、当該製品が法的要件に適合している場合にのみ取り付けることが公式に認められています。McLarenのすべての純正交換部品およびアクセサリーは、これらの要件に適合しています。

McLarenの純正部品およびアクセサリーは、専門技師が部品を取り付けるマクラーレン代理店から入手できます。

アクセサリーを使用する際は、お客様のMcLarenに適合したものであることを確認してください。車両の改造に当たるアクセサリーを使用した場合、車両の保証が無効になることがあります。以下の場合がこれに該当します:

- 保証書で承認されている車種に変更が生じる場合。
- 道路使用者に危険を及ぼす可能性がある場合。

- 車両の排出ガスおよび騒音レベルが悪化する場合。

部品またはアクセサリーを注文する場合は、必ず車両識別番号をお知らせください。「車両識別番号 (VIN)」(7.03 ページ) を参照してください。

オーナーズハンドブックに記載されている一部の技術仕様情報は、印刷時に入手できいか、印刷後に更新される場合があります。お客様の車両の最新情報は、以下の Web サイトでも参照できます。

cars.mclaren.com/en/ownership/service-and-maintenance/owners-handbook

車両データおよび用語集

車両識別

車両識別番号 (VIN)

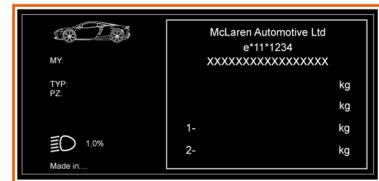


車両識別番号はフロントウィンドウの左下隅に記載されています。



また、この番号は右側シート下のボディに刻印され、運転席側ドア開口部下部のVINプレートに表示されており、ドライバーディスプレイのシステム・セクションにも表示されます。詳細は、「VIN」(4.18ページ)を参照してください。

VIN プレート



車両識別番号プレートには以下の情報も記載されています:

- 最大許容積載量
- トレーラーを含めた最大許容積載量
- 最大許容フロントアクスル荷重
- 最大許容リアアクスル荷重

車両データおよび用語集

データ

概要

本節にはお客様の車両に関して必要な技術データをすべて記載します。このデータは車両の標準装備に適用されます。したがって、オプション装備を装着した車両ではデータが異なる場合があります。マクラーレン代理店から詳細な情報を入手できます。

車両動作温度

最低動作気温	-20 °C (-4 °F)
最高動作気温	+50°C (+122°F)



注意: 最低気温から最高気温までの範囲外で車両を使用した場合、性能が低下することがあります。マクラーレンは車両を標準温度範囲外で使用した場合、もしくは高地において使用した場合、表示エンジン出力を達成できなかったとしても責任を負いません。

パワートレイン

エンジン - Coupe	
定格出力 (kW) @rpm	445 @ 7,500 (氷) 70 @ 2,511 - 8,300 (eMotor)
定格出力 (PS) @rpm	605 @ 7,500 (氷) 95 @ 2,511 - 8,300 (eMotor)
定格トルク (Nm) @rpm	585 @ 2,250 - 7,000 (ICE) 270 @ 1,000 (eMotor) 720 (最大の組み合わせ)
定格トルク (lb·ft) @rpm	431 @ 2,250 - 7,000 (ICE) 199 @ 1,000 (eMotor) 531 (最大の組み合わせ)
気筒数	6

車両データおよび用語集 データ

排気量 (cm ³)	2,993
最大回転数 (rpm)	8,500
パワーウェイトレシオ (PS/トン)	502

エンジン - スパイダー	
定格出力 (kW) @rpm	445 @ 7,500 (氷) 70 @ 2,511 - 8,300 (eMotor)
定格出力 (PS) @rpm	605 @ 7,500 (氷) 95 @ 2,511 - 8,300 (eMotor)
定格トルク (Nm) @rpm	585 @ 2,250 - 7,000 (ICE) 270 @ 1,000 (eMotor) 720 (最大の組み合わせ)

定格トルク (lb-ft) @rpm	431 @ 2,250 - 7,000 (ICE) 199 @ 1,000 (eMotor) 531 (最大の組み合わせ)
気筒数	6
排気量 (cm ³)	2,993
最大回転数 (rpm)	8,500
パワーウェイトレシオ (PS/トン)	480

各ギアの最大速度

クーペヒスパイダー	
ギア	mph (km/h)
1速ギア	52 (83)
2速ギア	75 (121)
3速ギア	104 (168)
4速ギア	134 (216)
5速ギア	164 (264)
6速ギア	198 (318)
7速ギア	205 (330)
8速ギア	204 (329)

車両データおよび用語集

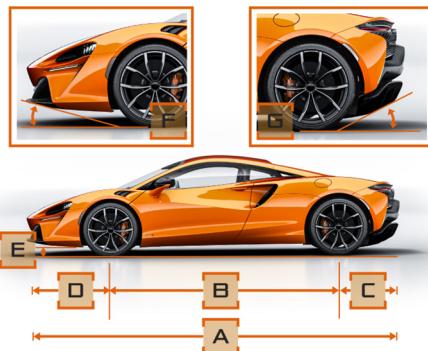
データ

ギアレシオ

クーペとスパイダー	
1速ギア	12.92:1
2速ギア	8.85:1
3速ギア	6.46:1
4速ギア	5.05:1
5速ギア	4.12:1
6速ギア	3.42:1
7速ギア	2.85:1
8速ギア	2.33:1
ファイナルドライブ	3.58:1

車体寸法

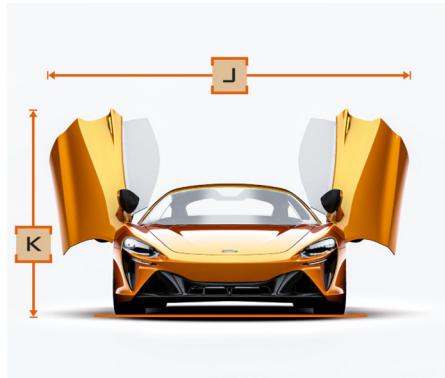
寸法 - Coupe および Spider



E	地上高（通常） 地上高（ノーズリフト）	91 mm (4インチ) 139 mm (5インチ)
F	アプローチアンダーグル（通常） アプローチアンダーグル（ノーズリフト）	8.1° 10.3°
G	デパートチャーアングル（通常） 脱出角度（ノーズリフト）	16.7° 15.8°

A	全長	4,539 mm (14 フィート 11 インチ)
B	ホイールベース	2,640 mm (8 フィート 8 インチ)
C	リアオーバーハンギング	804 mm (2 フィート 8 インチ)
D	フロントオーバーハンギング	1,095 mm (3 フィート 7 インチ)

車両データおよび用語集 データ



H	全幅 (ドア閉、ミラー折りたたみ)	1,976 mm (6 フィート 6 インチ)
I	全高 (ドア閉、通常)	1,193 mm (3 フィート 11 インチ)
	全高 (ドア閉、ノーズリフト)	1,215 mm (4 フィート)

J	全幅 (ドア開、最大幅)	2,871 mm (9 フィート 5 インチ)
K	全高 (ドア開)	1,954 mm (6 フィート 5 インチ)

i 注意: 尺寸はすべて近似値です。

車両重量

Coupe	
重量	Kg (lb)
乾燥重量	1,395 (3,075)
空車重量 (すべてのフルードと 90% の燃料)	1,498 (3,303)
車両重量 (+ 75 kg のドライバー)	1,578 (3,479)
車両重量配分-フロントアクスル	671 (1,479)
車両重量配分-リアアクスル	907 (2,000)
最大車両総重量 (GVW)	1,756 (3,871)
最大車両総重量配分-フロントアクスル	802 (1,768)
最大車両総重量配分-リアアクスル	954 (2,103)

車両データおよび用語集

データ

最大荷物積載量-フロントラゲッジルーム	50 (110)
---------------------	----------

最大車両総重量配分-リアアクスル	1,022 (2,253)
最大荷物積載量-フロントラゲッジルーム	50 (110)

Spider	
重量	Kg (lb)
乾燥重量	1,457 (3,212)
空車重量 (すべてのフルードと90%の燃料)	1,560 (3,439)
車両重量 (+ 75 kg のドライバー)	1,640 (3,616)
車両重量配分-フロントアクスル	671 (1,479)
車両重量配分-リアアクスル	969 (2,136)
最大車両総重量 (GVW)	1,810 (3,990)
最大車両総重量配分-フロントアクスル	788 (1,737)

ホイールおよびタイヤサイズ

ホイールサイズ

フロントホイール	8.5J x 19
リアホイール	10.5J x 20

車両データおよび用語集 データ

サマータイヤ

フロントタイヤ	
Pirelli P ZERO™ (MC-C)	235/35 ZR19 (91Y) XL
Pirelli P ZERO™ Corsa (MC-C)	235/35 ZR19 (91Y) XL

リアタイヤ	
Pirelli P ZERO™ (MC-C)	295/35 ZR20 (105Y) XL
Pirelli P ZERO™ Corsa (MC-C)	295/35 ZR20 (105Y) XL

ウィンタータイヤ

フロントタイヤ	
Pirelli P ZERO™ Winter (MC-C)	235/35 R19 91W XL M+S

リアタイヤ

Pirelli P ZERO™ Winter (MC-C)	295/35 R20 105W XL M+S
-------------------------------	------------------------

旋回半径

最小回転直径 (タイヤ外縁)	12 m (39 フィート 4 インチ)
----------------	----------------------

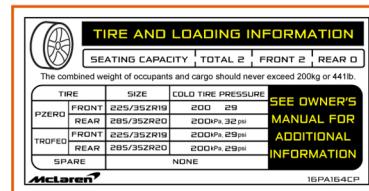
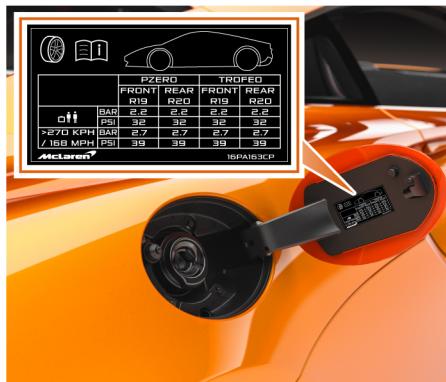
車両データおよび用語集

データ

タイヤ空気圧

荷重条件	フロントホイール		リアホイール	
	Bar	Psi	Bar	Psi
通常使用時	2.2	32	2.2	32
270 km/h (165 mph) を超える速度	2.7	39	2.7	39

市場によっては、タイヤの空気圧はフューエルフィラーフラップ内側または運転席側ドア開口部の内側のラベルにも記載されています。



車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

サービス製品

サービス製品には燃料、エンジンオイル、クーラント、ブレーキフルードがあります。マクラーレンはテスト済みのマクラーレン用に認定された製品のみの使用を推奨します。未認定サービス製品を使用した結果生じた損害は、材料欠陥に関する保証責任の対象外となります。

⚠️ 警告: サービス製品の取り扱い、保管および処分を行う際は、関連する法規を遵守してください。これを怠った場合、人や環境に危険を生じるおそれがあります。サービス製品が目や傷口に直接触れることがないようにしてください。サービス製品を誤飲した場合はただちに医師の診察を受けてください。

⌚ 環境: サービス製品は環境に責任ある方法で処分してください。

エンジンオイル



エンジンオイル容量	9.3 リッター
-----------	----------

マクラーレンでは、Gulf Formula Elite 5W-40 (APISp、ACEAC3) の使用を推奨しています。

Gulf Formula Elite は、最先端の完全合成オイルで、堆積物や摩耗からの高度な保護を実現するほか、最新の過給直噴ガソリン (TGDI) エンジンにて起こり得る低速早期着火 (LSPI) からの保護も実現します。

業界標準の試験によると、このオイルを使うと、最大で、

堆積物を 40% 多くコントロールできます¹

摩耗を 37% 減らせます²

煤処理能力を 90% 向上できます³

1 API SP オイルについては、業界標準の試験であるシーケンス IIIH に基づく試験

2 ACEA C3 オイルについては、業界標準の試験である OM646LA 試験

3 ACEA C3 オイルについては、業界標準の試験である DV6C 試験

マクラーレン代理店から詳細な情報を入手できます。

ℹ️ 注意: 潤滑油添加剤は使用しないでください。使用すると機械アセンブリの摩耗や損傷を増大させるおそれがあります。未認定添加剤が原因で生じた損害は、McLaren の保証の対象外となります。

車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

ガソリンスタンド

警告: 燃料は高い引火性があります。燃料を取り扱う際には火気、裸火、喫煙は厳禁です。

給油の前にエンジンを停止してください。

警告: 燃料が皮膚や衣服に付着しないようしてください。

皮膚が直接燃料に触れたり燃料蒸気を吸い込むと健康に害を及ぼすことになります。

燃料の詳細については「推奨燃料」(2.61 ページ)。

燃料タンク

総容量	66 L (14.5 英ガロン)
燃料警告灯アンバー点灯時の燃料残量	11 リットル (2.4 UK ガロン)
燃料警告灯赤色点灯時の燃料残量	5 L (1.1 英ガロン)

クーラント

警告: 以下に説明するG64©エチレンギリコールベースのクーラント製品以外のクーラントは使用しないでください。

警告: 不適切なクーラント混合液を使用すると、オーバーヒート、凍結、腐食作用により、エンジンや他のコンポーネントに重大かつ高価な損傷を与える恐れがあります。このような損傷は車両の保証の範囲外となります。

クーリングシステムの容量	28 L (6.2 英ガロン)
-20°C (-4°F) までの保護用不凍液容量	14 L (3.1 英ガロン)

クーラントは水、不凍液、防錆剤の混合液です。クーラントはクーリングシステム内で以下の役割を果たします:

- ・ 凍結防止保護
- ・ クーリングシステムの効率改善
- ・ 腐食防止保護

冷却装置は、G64©エチレンギリコールベースのクーラント製品とのみ使用するよう設計されています。水と50:50の割合で混合します。

i 注意: クーラントは、気候にかかわらず年中使用します。クーラントを使用しなかった場合、クーリングシステムは腐食に対する十分な保護が得られず、冷却効率が低下します。

i 注意: エンジンの損傷を防ぐには、事前に混合したG64©エチレンギリコールベースのクーラント製品のみを補充してください。

不凍液/防錆剤が正しい濃度で入っていれば、クーラントの沸点は約 130 °C (266 °F) となります。クーリングシステム内の不凍液と防錆剤の濃度は、約 50% ± 5% とする必要があります。それによって、クーリングシステムは -40°C (-40°F) まで凍結から保護されます。

クーリングシステム内の不凍液と防錆剤の濃度は、-45 °C (-49 °F) まで凍結を防止できる 55 % を超えてはなりません。なぜなら、それ以上の濃度では放熱効果が低下するためです。

車両のクーラントが減っているときは、運転を止め、マクラーレン代理店にご連絡ください。

車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

ブレーキフルード

必ず Pentosin DoT 5.1 ブレーキフルードを使用してください。

ブレーキフルードは時間とともに空気中の水分を吸収し、その結果沸点が下がります。

⚠️ 警告: ブレーキフルードの沸点が下がり過ぎると、ブレーキを強くかけたとき（長い下り坂やサーキット走行時など）にブレーキシステム内にベーパーポケットができ、ブレーキ効率が低下します。そのため、推奨するサービス間隔でブレーキフルードを交換してください。

⚠️ 警告: 必ず密封された容器に入った新品のフルードを使用してください。

フロントウィンドウウォッシャーフルード

⚠️ 警告: 一部のウォッシャーフルードは高い引火性があります。ウォッシャーフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

⚠️ 警告: ウォッシャーフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

リザーバーの容量は約 3 リットルです。

ウォッシャーフルードの濃縮液は、ウォッシャーフルードメーカーの指示に従って希釈してください。

ℹ️ 注意: 必要なウォッシャーフルードの濃度は、季節によって異なることがあります。

車両データおよび用語集

技術用語集

技術用語集

アクティブダイナミクスコントロール

ドライバーが車両のハンドリング特性やパフォーマンス特性を切り替え可能にするシステムです。

アダプティブクルーズコントロール (ACC)

アダプティブクルーズコントロール (ACC) は、車速を自動的に調整して、車線前方にある車両との設定距離を維持します。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

ABSは、ブレーキングによるホイールのロックを防止します。これによって、ブレーキをかけながら車両を操舵することができます。

オートハイビームアシスト

オートハイビームアシスト機能は、交通状況や環境条件に応じて、ハイビーム・ヘッドライトを自動的に作動させます。この機能は、環境条件により必要に応じてメインビームヘッドライトを自動的に解除し、他の道路利用者に対する眩惑を防止します。

ドライバー自動認証カード

車両に乗車する人が所持している必要があるカード、または車両が許可無く動かされていることを知らせるトラッカーシステム信号です。

ブレーキアシストシステム

ブレーキアシストシステムは、急ブレーキを踏んだ状況で作動します。急ブレーキを踏むと、ブレーキアシストシステムによりブレーキの踏力が自動的に増大し、停止距離が短縮されます。

ブレーキディスクワイピング

ブレーキディスクワイピングは、フロントワイドウワイパーのスイッチをオンになると作動します。パッドがディスクに触れるように瞬間にブレーキをかけることによって、強雨時にブレーキディスクに水分が付着するのを防止します。

シリンドーカット

シリンドーカットは、スポーツおよびトラックパワートレインモードのオートマチックアップシフトおよびコンフォートパワートレインモードのマニュアルアップシフトで作動します。

急加速時にシフトアップが必要なときに、指定された数のエンジンシリnderで燃料供給が中断（カット）されます。こうすることで、エンジントルクおよびエンジン回転数が急速に減少して、よりすばやくアップシフトを達成できます。この結果、通常のシフトアップより、シフトアップ時の音が明確になります。

電子制御ブレーキ予備充填

アクセルペダルを急に離すと電子制御ブレーキ予備充填機能が即座にブレーキパッドをディスクに接触させ、より素早いブレーキの作動を可能にします。

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)

ESCは走行安定性と、タイヤと路面間のトラクションを監視します。

グローバルポジショニングシステム (GPS)

適切なレシーバにより、衛星信号から車両の地理的位置情報を取得します。これらの信号をデジタルマップと照合し、車両の位置判定とルート案内に利用します。

ハンドリングコントロール

ハンドリング・コントロール・スイッチは、プロアクティブシャシーコントロールIIシステムに影響を与えます。

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、坂道発進時に車両が後退するのを防ぎます。アクセルペダルが踏まれるまで、ブレーキシステムが自動的にブレーキをかけます。

車両データおよび用語集

技術用語集

慣性プッシュ

トラックパワートレインモードで急加速時に、エンジン回転数が高い状態でシフトアップ操作を行うと、慣性プッシュによって加速力が上がります。通常の走行条件で、最大のパフォーマンスを必要としない慣性プッシュの範囲外であれば、エンジンとトランスミッションの回転数を合わせてスムーズでシームレスなシフトアップを行います。一方、慣性プッシュの場合は、次のギアを保持しているクラッチがより強い力でつながり、エンジン回転数が完全には落ちないので、内部回転マスの慣性を利用できます。この場合、ギアがつながるときにトルク衝撃が発生しますが、加速性能が向上し、最大のパフォーマンスが得られます。

キーレスエントリー

キーレスエントリーを使用すると、リモコンキーがドアセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) 以内にあれば、ドアを開けるだけでロックを解除し、アラームシステムを停止させることができます。

発進コントロール

発進コントロールは、スタンディングスタート時に最大加速が得られるように設計されています。

高速道路ファンクションライティング

高速道路ファンクションライティングは、車速が事前設定したしきい値を超える場合に、ヘッドライト照明を強くします。

パーキングセンサー

パーキングセンサーシステムは、フロントバンパー内の 4 個の超音波センサー、リアバンパー内の 4 個の超音波センサー、2 個の音響器で構成されています。運転操作時にパーキングセンサーが障害物を検知すると、音響器が警告音を鳴らします。

ギアシフトモード (PSC)

PSCは音が鳴るシフトインジケーターで、最適な性能を維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

リアビューカメラ (RVC)

RVCは、リアバンパーの中央に取り付けられています。この機能をアクティブにすると、ライブ映像がドライバーディスプレイまたはセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。

道路標識の認識 (RSR)

道路標識の認識 (RSR) システムは、ドライバーに新しい速度制限や道路標識から読み取られたその他の重要な情報を通知します。この情報は、アダブティブクルーズコントロール (ACC) などの他のアドバンストドライバーアシスタンスシステム (ADAS) 機能でも使用できます。

シームレスシフトギアボックス

シームレスシフトギアボックスは、8速のデュアルクラッチギアボックスです。ギアチェンジをフルオートマチックで行ったり、ドライバーが操作したりすることができます。ギアチェンジはほとんど一瞬で行われます。エンジンと切れ目のない加速を提供する eMotor を組み合わせた、ハイブリッドパワートレインからの連続したトルク伝達と組み合わせられています。

スタティックアダブティブヘッドライト

スタティックアダブティブヘッドライトは、ヘッドライトを点灯しながら旋回するとき、進行方向を強く照らします。

補助拘束装置 (SRS)

SRSは、事故の際に自動的に展開して付加的な乗員保護を提供する多数のエアバッグで構成されています。

車両データおよび用語集

技術用語集

タイヤ空気圧監視システム (TPMS)

TPMSは常に4本のタイヤの空気圧と温度を監視しています。1本または複数のタイヤの空気圧が下がったり温度が上昇したりすると警告を行います。

車両識別番号 (VIN)

VINは一意の17桁の数字で、車両に関する情報や製造日、製造場所を示します。

McLaren 

適合性に関する情報

法令遵守.....	8.02
マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS)	8.02
運転支援レーダー.....	8.03
HomeLink.....	8.03
トランスミッションコントロールユニット (TCU)	8.04

適合性に関する情報

法令遵守

マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS)

すべての地域/市場

製品:ADI GEN 2.0

モデル:ICU

日本



202 SMH046

D190021202

電波について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています（受けた部品を使用しています）。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。日本国内のみで使用してください。日本国外以外で使用すると各国の電波法に抵触する可能性があります。また、本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと、法律で罰せられことがあります。

- 分解 / 改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

● 本機は2.4GHz帯の周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。ほかの無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

使用上のご注意

本機の使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、当社カスタマーサポートセンターにご連絡頂き、混信回避の処置等についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、当社カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

製品に表示している周波数表示の意味は下記の通りです。

- Bluetooth



2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線機器です。

FH : FH-SS 変調方式を表します。

1 : 電波与干渉距離は10m です。

■■■ : 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能です。

- Wi-Fi



2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線機器です。

DS/OF : DS-SS、OFDM 変調方式を表します。

4 : 電波与干渉距離は40m です。

■■■ : 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能です。

適合性に関する情報

法令遵守

●使用可能距離は見通し距離約10m（Bluetooth）、約40m（Wi-Fi）です。鉄筋コンクリート

や金属の壁等をはさんでトランスマッターとレシーバーを設置すると電波を遮ってしまい、音楽が途切れたり、出なくなったりする場合があります。本機を使用する環境により伝送距離が短くなります。

●下記の電子機器と本機との距離が近いと電波干渉により、正常に動作しない、雑音が発生するなどの不具合が生じことがあります。

- 2.4GHzの周波数帯域を利用する無線LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話などの機器の近く。電波が干渉して音が途切れることができます。
- ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CSチューナー、VICSなどのアンテナ入力

端子を持つAV機器の近く。音声や映像にノイズがのことがあります。

●本機は電波を使用しているため、第3者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。

運転支援レーダー

MRRe14FCR レーダーセンサーに関する情報は以下のとおりです。

この無線機器はEU内で制限なく操作できます。

この無線機器は、無線スペクトルの使用に関する要件に関して適用される要件を侵害することなく、すべてのEU加盟国で操作できるように構築されています。

周波数帯	76-77 GHz
公称放射電力: e.i.r.p. (ピーク検出器)	29,92 dBm
公称放射電力: e.i.r.p. (RMS 検出器)	18 dBm

HomeLink

すべての地域/市場

モデル: UAHL5B

日本

本装置には、無線法の技術規制適合性認定を得た特定の無線装置が含まれています。

この無線デバイスに改造を行なわないでください（改造した場合、付与された指定番号は無効になります）

適合性に関する情報 法令遵守

トランスマッisionコントロールユニット
(TCU)

McLaren 

索引

1

- 12 V バッテリーステータス 3.11
12 V バッテリーの充電 6.17

3

- 360 パーキングアシスト 2.16

A

- Apple CarPlay 4.25

E

- eCall 4.45
eMotor
　パワー出力 7.04
eMotor
　技術データ 7.04
E デフ 2.28

G

- GPF 6.10

H

- HomeLink 4.46

- HomeLink 4.46
　プログラミング 4.47
HV バッテリーの到達可能距離表示 3.25
HV バッテリー充電レベル表示 3.25

M

- McLaren アシスタンス 6.46
McLaren アシスタンス
　故障時 6.46

S

- SYNC モード - 室内温度制御 5.06

U

- USB ソケット 5.15

- アクセサリー 7.02
アクセルペダル位置 2.19
アクティブスピードリミッター
　上限速度のキャンセル 2.56
　速度上限の設定 2.55
アシスタンス
　設定 4.10
アダプティブクルーズコントロール (ACC)
　設定 2.50

- アラーム 1.18
　パニック 1.20
解除 1.18
有効化 1.18
アンチロックブレーキシステム 2.26
イグニッション-スイッチをオンにする 2.05
イグニッションのスイッチをオンにする 2.05
イモビライザー 1.18
インストルメント 3.21
HV バッテリーの到達可能距離表示 3.25
HV バッテリー充電レベル表示 3.25
エレクトロニックスタビリティコントロール
モードの表示 3.23
オイル温度表示 3.24
ギア位置インジケーター 3.22
クリーニング 6.44
コンフォートモード 3.21
シフトライト 3.02
スピードメーター 3.03
スポーツモード 3.22
タコメーター 3.02
ディスプレイ 3.21
ディスプレイウインドウ 3.21
ドライバーディスプレイの概要 2.07
トラックモード 3.22
トリップコンピューター 3.06
ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ 3.23
メッセージの表示 3.13
概要 3.02
車両ステータス 3.09
水温表示 3.24

電動モード	3.21
電力計	3.03
到達可能距離表示	3.26
燃料残量表示	3.26
インストルメントクラスターディスプレイ	3.05
インテリアミラー	1.36
インテリアモーションセンサー	1.19
ウィンタータイヤ	7.09
ウインドウ	
安全性	5.02
開閉	5.02
挟み込み防止機能	5.03
ウインドウの曇り取り - クライメートコントロール	5.07
ウインドウを開ける	5.02
ウインドウを閉じる	5.02
ウォッシャーフルード	
フロントウインドウ	6.08, 7.13
エアコンのオン/オフの切り替え	5.07
エアディストリビューション - クライメートコントロール	5.06
エアバッグ	1.31
サイドヘッドエアバッグ	1.32
システムの修正	1.31
チャイルドパッセンジャー	1.34
フロントエアバッグ	1.31
交換	1.31
乗員分類システム	1.32
正規外着座 (OOP) テスト	1.34
展開	1.33

エアベント	
ダッシュボード	5.06
エキゾーストフィルター	6.10
エラーメッセージ	3.10
エレクトロニックスタビリティコントロール	2.29
ダイナミックモード	2.29
再開	2.30
非アクティブにする	2.29
エンジン	2.09
イモビライザー	1.18
パワー出力	7.04
慣らし運転	2.57
技術データ	7.04
警告灯	2.12
始動	2.09
停止	2.11
エンジンオイル	6.04
レベルの警告	6.04
温度警告	6.06
仕様	7.11
使用状況	6.04
点検	6.04
補充	6.05
容量	7.11
エンジンオイルの点検	6.04
エンジンの始動	2.09
リモコンキーの電池が切れた場合	6.31
エンジンの停止	2.11
エンジン回転計	3.02
オイル - エンジン	3.10, 6.04
レベル	6.04
レベルの警告	6.04
温度警告	6.06
温度表示	3.24
仕様	7.11
点検	6.04
補充	6.05
容量	7.11
オイル - ギアボックス	6.07
オイル温度	3.10
オドメーター	3.07
オーディオ	
概要	4.36
オートハイビームアシスト	1.40
オートヒートシート	5.09
オートマチックモード - クライメートコントロール	5.05
オートマチックモード - トランスマッision	2.20
オートマチックランプコントロール	1.39
オーナー文書	5.14
ガソリンスタンド	2.59
タンク	7.12
フィラーパイプ	6.14
安全性	7.12
品質	2.61
ガソリン微粒子フィルター (GPF)	6.10
カップ・ホルダー	5.13
カバー - サービス	1.09
取り外し	1.09
取り付け	1.09
カメラ	2.15
360 パーキングアシスト	2.16

索引

サラウンドビュー	2.16	サラウンドビューカメラ	2.16
リアビュー	2.15	サンバイザー	5.14
ガレージドアオープナー	4.46	サーキットでの使用	2.58
プログラミング	4.47	サーキット走行	5
ギアシフトインジケーター	2.12	サービスカバー - Coupe	1.09
ギアシフトモード		サービスカバー - Coupe	1.09
設定	4.10	開放	1.09
ギアでの速度	7.05	サービスカバー - Coupe	1.09
ギアボックス	2.18	閉鎖	1.09
オイルの補充	6.07	サービスカバー取り外しツール	6.13
ギアシフトパドル	2.21	サービス・カバーを取り外す - Coupe	1.09
ギア位置	2.18	サービス・カバーを閉じる - Coupe	1.09
キックダウン	2.19	サービス製品	7.11
マニュアル/オートマチックモード	2.20	システム	
ギアレシオ	7.06	設定	4.17
ギア位置	2.07	システムコントロール	4.02
ギア位置インジケーター	3.22	シフトライト	3.02
キックダウン	2.19	シート	
キット - タイヤリペア	6.40	バックレスト - 電動でのリクライニング調整	1.23
キット - 救急	6.13	ヒーティング	1.24, 5.09
キーレスエントリー	1.02	マニュアルでのシートのランバー調整	1.22
クライメートコントロール	5.04	マニュアルでのバックレストのリクライニング調整	1.22
SYNC モード	5.06	マニュアルでの高さ調整	1.22
エアコンのオン/オフ	5.07	マニュアル前後位置調整	1.21
エアコン調節ダイヤル	5.04	マニュアル調整	1.21
エアディストリビューション	5.06	安全性	1.21
エアベント	5.06	収納ポケット	5.12
オートヒートシート	5.09	電動シートおよびミラーメモリー	1.23
オートマチックモード	5.05	電動シートのランバーサポート調整	1.23
ブロアー速度	5.05		
マニュアルモード	5.05		
温度	5.08		
サマータイヤ	7.09		

電動でのバックレストのリクライニング調整	1.23
電動高さ調節	1.23
電動前後位置調整	1.22
電動調整	1.22, 1.22
シートベルト	1.29
テンショナー	1.30
フォースリミッター	1.30
安全性	1.29
装着	1.30
シートベルトの装着	1.30
シートベルト警告灯	1.30
シート収納ポケット	5.12
シームレスシフトギアボックス	2.18
ギアシフトパドル	2.21
ギア位置	2.18
キックダウン	2.19
マニュアル/オートマチックモード	2.20
シーラント - タイヤ	6.14
スイッチ - 照明	1.39
ステアリングコラム	
調整	1.25
ステアリングホイール	
ホーン	1.26
調整	1.25
スノーソックス	2.62
スピードメーター	3.03
セカンダリヒューズボックス	6.25
ヒューズ	6.25
セキュリティ	
設定	4.12

センサー	
インテリアモーション	1.19
パーキング	2.14
センターコンソール収納ボックス	5.11
センターディスプレイ	
Apple CarPlay	4.25
Bluetooth オーディオ	4.23
USB および iPod	4.21
アシスタンス設定	4.10
コンビニエンス	4.08
システムコントロール	4.02
システム設定	4.17
ストレージ	4.22
セキュリティ設定	4.12
デバイスのペアリング/接続	4.27
ナビゲーション	4.12
ナビゲーションの使用	4.33
ボイスメール	4.32
マクラーレントラックテレメトリ	4.39
メディアコントロール	4.20
メディア設定	4.12
ラジオコントロール	4.24
ラジオデータシステム	4.25
安全性	4.33
音声認識	4.38
外部デバイスへの接続	4.20
概要	4.02
概要 - オーディオ	4.36
概要 - ナビゲーション	4.33
概要 - メディア	4.19
概要 - ラジオ	4.24
概要 - 電話	4.26
時間と単位の設定	4.14
照明設定	4.08
接続設定	4.06
設定	4.06
著作権	4.02
通話の終了	4.31
通話を受信	4.30
通話中のオプション	4.31
電話をかける	4.28
補足情報	4.02
目的地の設定	4.34
連絡先	4.31
ダイナミック ESC モード	2.29
ダイナミックヘッドライト	1.41
タイヤ	6.37
ウィンター	7.09
サマー	7.09
シーラント	6.14
マーク	6.37
温度監視	2.33
監視システム	2.31
空気圧	6.38, 7.10
空気圧監視	2.32
検査	6.38
修理キット	6.40
設定	4.11
非対称	6.37
タイヤの点検	6.38
タイヤ空気圧	6.38, 7.10
タコメーター	3.02
チャイルドシートシステム	1.34
KISI チャイルドシート機能	1.35

索引

チャイルドパスセンジャー	1.34	概要	2.07, 3.02
ディスプレイ	3.21	車両ステータス	3.09
HV バッテリーの到達可能距離	3.25	水温	3.24
HV バッテリー充電レベル	3.25	電動モード	3.21
インストルメントクラスター	3.05	電力計	3.03
エレクトロニクススタビリティコントロール		電話	3.09
モード	3.23	燃料残量	3.26
オイル温度	3.24	ドライバーディスプレイの概要	2.07
ギア位置インジケーター	3.22	トラクションコントロールシステム	2.29
コンフォートモード	3.21	ドリンク・ホルダー	5.13
スポーツモード	3.22	ナビゲーション	3.07, 4.12
トラックモード	3.22	ナビゲーションの使用	4.33
トリップコンピューター	3.06	安全性	4.33
ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ	3.23	概要	4.33
メッセージ	3.13	目的地の設定	4.34
車両ステータス	3.09	ノーズの下降	1.47
水温	3.24	ノーズの上昇	1.47
電動モード	3.21	ノーズリフト	1.47
到達可能距離 (燃料)	3.26	下降	1.48
燃料残量	3.26	上昇	1.47
ディスプレイ画面のクリーニング	6.44	ハイビーム	1.40, 1.40
デイタイムランニングランプ	1.42	ハイブリッドバッテリーの充電	3.11
デフロスト・クライメートコントロール	5.07	安全性	6.18
テンショナー - シートベルト	1.30	ハザード警告灯	1.43
データ		はじめに	2
概要	7.04	保存データ	5
ドア		バックライト	1.15
ロック	1.05	開ける	1.15
自動ロック	1.10	操作	1.15
社内から開ける - 放電したバッテリー	6.32	閉じる	1.15
車外から開ける	1.04	バックライトを開ける	1.15
		バックライトを閉じる	1.15

パッセンジャー - チャイルド	1.34
バッテリー	
12 V 充電	6.17
最適化	6.20
バッテリーの安全性	6.16
バッテリーの充電	
ハイブリッド	3.11
バッテリーヒューズボックス	6.26
ヒューズ	6.26
パニックアラーム	1.20
バニティミラー	5.14
バルブの交換	6.29
パワーステアリングフルード	
補充	6.09
パワートレインコントロール	2.23
パワートレインモード	
モード復元	2.25
パワートレイン温度	3.10
パワー出力	7.04
eMotor	7.04
エンジン	7.04
パンクリペアキット	6.40
ハンドリングコントロール	2.22
モード復元	2.25
パーキングセンサー	2.14
パーキングブレーキ	2.07
パーキングランプ	1.44
ヒューズ	
セカンダリヒューズボックス	6.25
バッテリーヒューズボックス	6.26
メインヒューズボックス	6.22
交換	6.22

ヒューズボックス	
セカンダリ	6.25
バッテリー	6.26
メイン	6.22
ヒルホールドコントロール	2.28
フィラーパイプ - 燃料	6.14
フェイルセーフ	2.12
フォースリミッター - シートベルト	1.30
フック - けん引	6.14
フットブレーキ	2.09
フルード - パワーステアリング	
補充	6.09
フルード - ブレーキ	7.13
補充	6.07
ブレーキ	
アンチロックブレーキシステム	2.26
アンチロックブレーキシステム警告灯	2.27
パーキング	2.07
ヒルホールドコントロール	2.28
フット	2.09
ブレーキアシストシステム	2.27
ブレーキディスクワイピング	2.27
ペダル	2.09
警告灯	2.09
摺り合わせ	2.57
電子制御ブレーキ予備充填	2.28
ブレーキアシストシステム	2.27
ブレーキディスクワイピング	2.27
ブレーキフルード	7.13
補充	6.07
ブレーキペダル	2.09

プロアー速度 - クライメートコントロール	5.05
フロントウィンドウウォッシャーフルード	
.....	6.08, 7.13
フロントウィンドウワイパー	1.45
ウォッシャー/ワイパー	1.46
ワイパー/ブレードの交換	6.35
ワイパー/モード	4.09
ワイパー/感度	4.09
一回拭き取り	1.45
雨滴センサー	1.45
フロントエアバッグ	1.31
フロントラゲッジルーム	1.07
ロック解除および開操作	1.07
開ける - バッテリーが放電した場合	6.32
手動で開ける	6.32
装備	6.12
フロントラゲッジルームのロック解除および開操作	1.07
ブーストスタート	6.16
ヘッドランプ	1.39
オートハイビームアシスト	1.40
ダイナミックヘッドランプ	1.41
ハイビーム	1.40, 1.40
パッシング	1.40
ベルト - シート	1.29
ベント	
ダッシュボード	5.06
ベントの開閉	
ダッシュボードエベント	5.06
ホイール	6.36
検査	6.38

索引

交換	6.39
ホイールおよびタイヤサイズ	7.08
ホイールサイズ	7.08
ホイール - ステアリング 調整	1.25
ホイールスピンドル	2.45, 2.45
ホイールとタイヤ	6.36
ホイールの交換	6.39
ホイールの相互交換	6.39
ホイールの点検	6.38
ボリュメトリックアラーム	1.19
ホーン	1.26
マクラーレンインフォテイメントシステム Apple CarPlay	4.25
Bluetooth オーディオ	4.23
USB および iPod	4.21
アシスタンス設定	4.10
コンビニエンス	4.08
システムコントロール	4.02
システム設定	4.17
ストレージ	4.22
セキュリティ設定	4.12
デバイスのペアリング/接続	4.27
ナビゲーション	4.12
ナビゲーションの使用	4.33
ボイスメール	4.32
メディアコントロール	4.20
メディア設定	4.12
ラジオコントロール	4.24
ラジオデータシステム	4.25
安全性	4.33
音声認識	4.38

外部デバイスへの接続	4.20
概要	4.02
概要 - オーディオ	4.36
概要 - ナビゲーション	4.33
概要 - メディア	4.19
概要 - ラジオ	4.24
概要 - 電話	4.26
時間と単位の設定	4.14
照明設定	4.08
接続設定	4.06
設定	4.06
著作権	4.02
通話の終了	4.31
通話を受信	4.30
通話中のオプション	4.31
電話をかける	4.28
補足情報	4.02
目的地の設定	4.34
連絡先	4.31
マクラーレントラックテレメトリ アプリケーションの起動	4.39
セッションの終了	4.42
テレメトリデータのインポート	4.43
テレメトリデータのエクスポート	4.44
データの確認	4.43
ドライブ	4.41
トラックの編集	4.44
概要	4.39
設定	4.40
マクラーレントラックテレメトリ (MTT)	3.12
マニュアルシート	1.21
バックレストのリクライニング調整	1.22
ランバーサポート調整	1.22
高さ調整	1.22
前後位置調整	1.21
マニュアルモード - クライメートコントロール	5.05
マニュアルモード - トランスマッision	2.20
マニュアルロック解除	6.30
ミスロック	1.06
ミラー インテリア	1.36
エクステリア	1.36
バニティ	5.14
ヒーティング	1.37, 5.09
メモリー	1.23
リバースディップ	1.37
外部ミラーを折りたたむ	1.37
自動外部ミラー折りたたみ	1.37
ムードライト	5.10
メインインストルメントの概要	2.07
メインヒューズボックス	6.22
ヒューズ	6.22
メッセージ	3.10
メッセージの表示	3.13
メディア	3.08
Bluetooth オーディオ	4.23
USB および iPod	4.21
ストレージ	4.22
メディアコントロール	4.20
外部デバイスへの接続	4.20
概要	4.19
メディア設定	4.12

モーションセンサー - インテリア	1.19
モード復元	2.25
ライト	
ダイナミックヘッドライト	1.41
ハザード警告灯	1.43
リアフォグランプ	1.42
設定	4.08
ラゲッジルーム	
フロント	1.07
閉じる	1.08
ラゲッジルームを閉じる	1.08
ラジオ	
ラジオコントロール	4.24
ラジオデータシステム	4.25
概要	4.24
ランプ - サイド	1.39
ランプスイッチ	1.39
リアウインドウ	
ヒーティング	5.09
リアビューカメラ	2.15
リアフォグランプ	1.42
リトラクタブルルーフ	1.10
リフトポイント - 車両	6.45
リモコンキー	1.02
エントリー	1.02
バッテリーの交換	6.34
収納	1.03
放電したバッテリー	1.03
リモコンキーでルーフを開く	1.13
リモコンキーでルーフを閉める	1.14
リモコンキーの収納	1.03
リモコンキーの電池が切れた場合	6.34

エンジンの始動	6.31
ロック解除	6.30
ルーフ	1.10
リモコンキーで開く	1.13
リモコンキーで閉める	1.14
開ける	1.11
閉じる	1.12
ルーフを開ける	1.11
ルーフを閉じる	1.12
レシオ - ギア	7.06
ロック	1.05
ミスロック	1.06
自動	1.10
車外から	1.05
車内から	1.06
ロック解除 - 放電したバッテリー	6.30
ロービームヘッドライト	1.39
ワイパー/ブレードの交換	6.35
ワイパーモード	4.09
ワイパー感度	4.09
ワイヤレス充電器	5.14

「

「START/STOP」ボタン	2.05
-----------------	------

安全性	1.29
エアバッグ	1.31
エアバッグシステムの修正	1.31
エアバッグの交換	1.31

シート	1.21
シートベルト	1.29
バッテリー	6.16
ミラー	1.36
正規外着座 (OOP) 対応エアバッグ	1.34
電動式ウィンドウ	5.02
燃料	7.12
一般	2.26
雨滴センサー	1.45
運転位置	1.27
運転支援	
設定	2.34
温度 - クライメートコントロール	5.08
温度表示	3.05
音声認識	4.38
可変ドリフトコントロール	2.29, 2.30
海外での走行	6.48
外気温表示	3.05
外部からのロック解除	
キーレス	1.04
リモコンキー	1.02
外部ミラー	1.36
ヒーティング	1.37
ミラーの自動折りたたみ	1.37
ミラー折りたたみ	1.37
メモリー	1.23
リバースディップ	1.37
外部照明	1.38
慣らし運転	2.57
歓迎イベント	4.09
機能	
12V ソケット	5.16

索引

USB ソケット	5.15	警告灯	2.05	始動および走行	
カップ・ホルダー	5.13	アンチロックブレーキシステム	2.27	イグニッションのスイッチをオンにする	2.05
サンバイザー	5.14	エンジン	2.12	インストルメントと警告灯	2.05
ワイヤレス充電器	5.14	シートベルト	1.30	エンジンの始動	2.09
運転位置	1.27	ブレーキ	2.09	ギア位置	2.07
携帯電話充電器	5.14	補助拘束装置	1.34	パーキングブレーキ	2.07
降車照明	5.11	個人用アンロック設定	1.06	フットブレーキ	2.09
室内照明	5.10	故障	6.46	メインインストルメント	2.07
収納ボックス	5.11	交換		警告灯	2.05
乗車照明	5.11	バルブ	6.29	通知灯	2.06
記号	4	ヒューズ	6.22	時計	3.05
技術データ	7.04	リモコンキーの電池	6.34	自動ミラー開閉	
eMotor	7.04	ワイパー/ブレード	6.35	設定	4.09
エンジン	7.04	車両バッテリー	6.46	自動ロック	1.10
ギアレシオ	7.06	工具	6.13	自動ワイパー	1.45
タイヤ空気圧	7.10	拘束装置	1.31	識別番号 - 車両	7.03
ホイールおよびタイヤサイズ	7.08	KISI チャイルドシート機能	1.35	室内照明	5.10
車体寸法	7.06	チャイルド	1.34	車速	7.05
車両重量	7.07	補助	1.31	車体寸法	7.06
車両動作温度	7.04	降車照明	5.11	車内からロック解除	1.06
旋回半径	7.09	高電圧 (HV) バッテリーの最適化	6.20	車両カバー	6.44
速度 - ギア	7.05	高電圧 (HV) 充電		車両ステータス	3.09
技術用語集	7.14	安全性	6.18	12 V バッテリーステータス	3.11
救急キット	6.13	最低地上高	5	エラーメッセージ	3.10
給油	2.59	三角形 - 警告	6.12	オイル温度	3.10
挟み込み防止機能 - ウィンドウ	5.03	三角表示板	6.12	クーラント温度	3.10
緊急給油フィラーパイプ	6.14	三角表示板の設定	6.13	パワートレイン温度	3.10
空気圧 - タイヤ	6.38, 7.10	仕様	7.04	車両のジャッキアップ	6.45
携帯電話充電器	5.14	仕様 - エンジンオイル	7.11	車両のリフトポイント	6.45
経済走行	2.12			車両の移送	6.47
警告 - エンジンオイルのレベル	6.04			車両の回収	6.16, 6.46, 6.46
警告 - エンジンオイルの温度	6.06				

ブーストスタート	6.16	パッシングランプ	1.40	設定 - 個人用アンロック	1.06
車両の使用	2.57	パーキングランプ	1.44	洗車	6.42, 6.42
車両の始動	2.09	ロービーム	1.39	エクステリア	6.42
リモコンキーの電池が切れた場合	6.31	方向指示器	1.43	ホイール	6.42
車両の電気的状態	2.04	乗車照明	5.11	旋回半径	7.09
車両識別番号	7.03	触媒コンバーター	2.13	装備	6.12
車両重量	7.07	高温	2.13	フロントラゲッジルーム	6.12
車両情報		推奨燃料品質	2.61	走行安全システム	
オイル	3.10	水温表示	3.24	一般	2.26
整備間隔	3.11	寸法	7.06	走行時の注意事項	6.38
収納ボックス	5.11	整備間隔	3.11	速度 - ギア	7.05
シート	5.12	製品 - サービス	7.11	速度上限	
センターコンソール	5.11	設定		キャンセル	2.56
ドア	5.12	Bluetooth	4.06	設定	2.55
充電の安全性		Wi-Fi	4.06	速度制限の表示	
ハイブリッドバッテリー	6.18	アシスタンス	4.10	設定	4.11
高電圧 (HV)	6.18	ギアシフトモード	4.10	注意事項 - 走行	6.38
充電メーター	3.03	コンビニエンス	4.08	著作権	3, 4.02
重量	7.07	コンフォートエントリー/イグジット	4.09	通知灯	2.06
循環モード - クライメートコントロール	5.08	システム	4.17	展開 - エアバッグ	1.33
純正マクラーレン部品およびアクセサリー		セキュリティ	4.12	電気的状態	2.04
	7.02	タイヤ	4.11	電子ユーザーインターフェース	3
消火器	6.15, 6.15	ライト	4.08	電子制御ブレーキ予備充填	2.28
消耗した電池	1.03	ワイパー	4.09	電池の交換 - リモコンキー	6.34
照明		ワイパー感度	4.09	電動シート	1.22
インテリア	5.10	運転支援	2.34	バックレストのリクライニング調整	1.23
エクステリア	1.38	概要	4.06	ランバーサポート調整	1.23
オートマチックコントロール	1.39	歓迎イベント	4.09	高さ調整	1.23
サイドランプ	1.39	時間と単位	4.14	前後位置調整	1.22
スイッチ	1.39	自動ミラー開閉	4.09	電動シートおよびミラーメモリー	1.23
デイタイムランニングランプ	1.42	接続	4.06	電動式ウィンドウ	
ハイビーム	1.40, 1.40	速度制限	4.11	安全性	5.02

索引

電力計	3.03	燃料フィラーパイプ	6.14
電話	3.09	輪止め	6.15
デバイスのペアリング/接続	4.27	部品	7.02
ボイスメール	4.32	部品およびアクセサリー	7.02
概要	4.26	保存データ	5
通話の終了	4.31	補充	6.04
通話を受信	4.30	エンジンオイル	6.05
通話中のオプション	4.31	ギアボックスオイル	6.07
電話をかける	4.28	クーラント	6.06
連絡先	4.31	パワーステアリングフルード	6.09
冬季の走行	2.62, 2.62	ブレーキフルード	6.07
到達可能距離表示	3.26	フロントウィンドウウォッシャーフルード	6.08
動作温度 - 車両	7.04	補助拘束装置	1.31
曇り取り - クライメートコントロール	5.07	補足情報	4.02
内気循環モード - クライメートコントロール	5.08	方向指示器	1.43
熱線入りミラー	1.37	容量	7.11
熱線入りリアウインドウ	5.09	エンジンオイル	7.11
燃料の給油	2.59	クーリングシステム	7.12
燃料残量表示	3.26	燃料タンク	7.12
排気ガス	2.13	用語集 - 技術	7.14
温度監視	2.13	輪止め	6.15, 6.15
発進	2.12		
発進コントロール	2.41, 2.42		
非常用装備	6.12		
けん引フック	6.14		
サービスカバー取り外しツール	6.13		
タイヤシーラント	6.14		
安全性	6.12		
救急キット	6.13		
三角表示板	6.12		
消火器	6.15		

cars.mclaren.com